えびの市埋蔵文化財調査報告書　第39集

草刈田遺跡

県営経営体育成基盤整備事業末永地区草刈田団地に伴う発掘調査報告書

２００４

宮崎県えびの市教育委員会

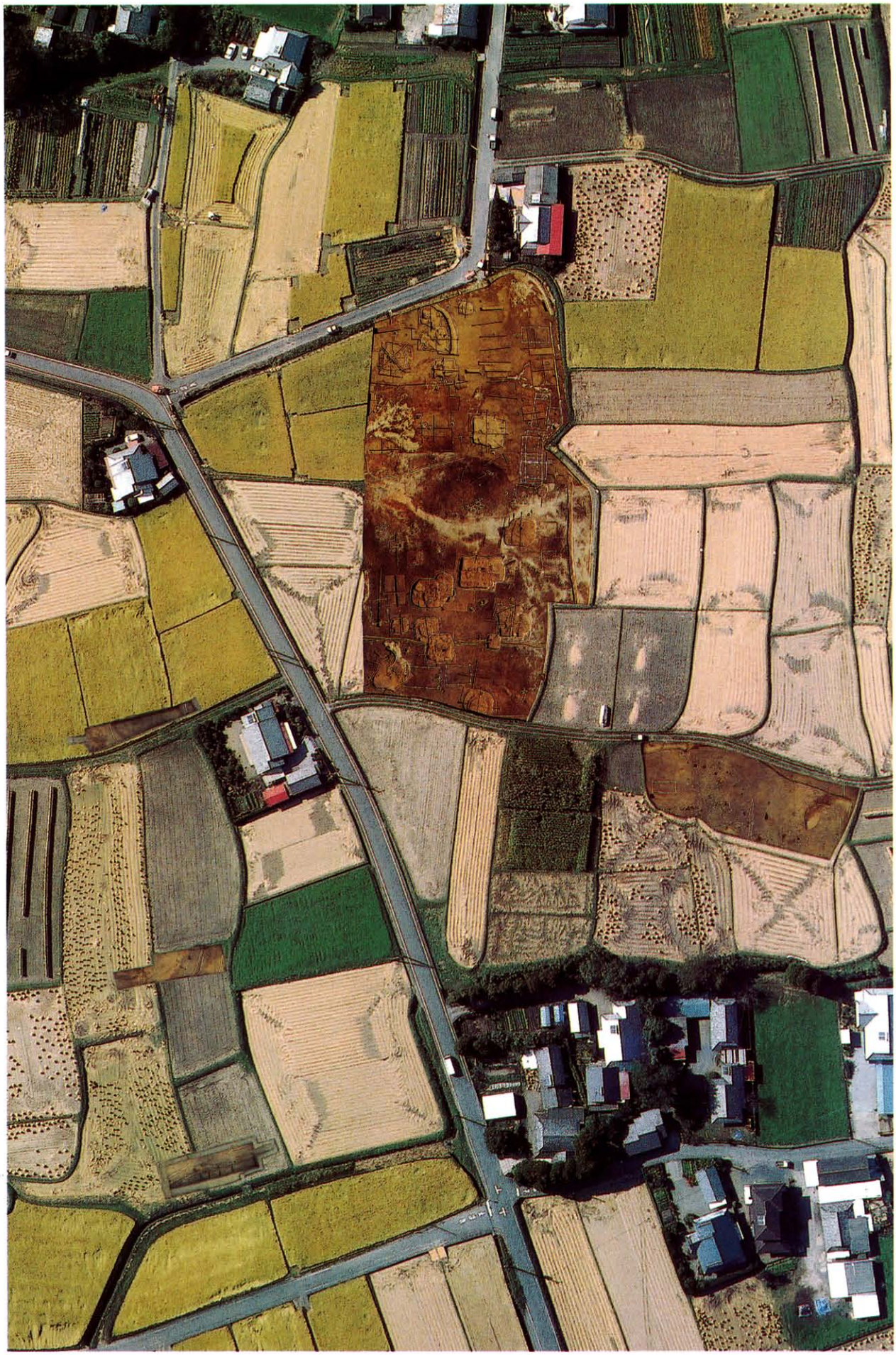
えびの市埋蔵文化財調査報告書　第39集

草刈田遺跡

県営経営体育成基盤整備事業末永地区草刈田団地に伴う発掘調査報告書

２００４

宮崎県えびの市教育委員会



草刈田遺跡　全景（俯瞰，集合写真，右が北）

序

えびの市は、宮崎県の西南端に位置し、日向・肥後・薩摩の分岐点にあたり、古くから交通の要衝として栄え、必然的に様々な文化や文物が混合した、独特の地域であります。

本市は、北の急峻な九州山地と南のなだらかな霧島山系に挟まれた狭長な盆地で、年間降雨量も多く湧水に恵まれています。大小20余の小河川は盆地中央を西流する川内川へ注ぎ、肥沃な土壌を運んでいます。沖積地は良好な耕作地として重要視され、中世には丘陵突端部に続々と山城が築かれ、重要性を物語っています。

本市の盆地南縁に位置する県道小林－京町線は、古代の官道を一部踏襲していることが近年想定されておりますが、このたびの圃場整備事業に伴う発掘調査において、そのルートを確認する機会を得ることができました。

本書は、平成14年度に実施した草刈田遺跡発掘調査の報告書であります。官道は典型的な構造ではありませんでしたが、今後の研究の一助となりました。また、弥生時代後期～古墳時代前期と古代末～近世の集落跡も存在した複合遺跡であります。当遺跡の調査によって、低地や微高地にも相当数の遺跡が包蔵していることをあらためて認識させられる契機になりました。

本書が学術資料としてだけでなく、生涯学習や学校教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

本遺跡の調査にあたりご指導・ご協力いただいた諸先生方や県文化課諸氏、調査に対してご理解ご協力いただいた西諸県農林振興局・県土地改良・工事関係者ならびに地権者・耕作者の諸氏、発掘作業・整理作業に従事していただいた作業員の方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

えびの市教育委員会

教育長　松　田　忠　信

例　言

1．本書は、平成14年度に実施した、県営担い手育成基盤整備事業末永地区に伴う草刈田遺跡発掘調査の報告書である。

2．調査はえびの市教育委員会が主体となり、平成14年10月28日から平成15年２月17日まで実施した。

3．本報告書作成のための整理作業は、平成15年度に実施した。

4．遺構の全体図は、九州航空株式会社に委託し、1/50・1/200図を作成した。

5．出土人骨の分析については、鹿児島大学の竹中正巳氏に依頼し、玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。

6．出土陶磁器については、佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二副館長に鑑定して頂いた。

7．遺構および出土遺物の写真撮影は中野がおこなった。

8．本文の執筆は中野が、浄書は入木がおこなった。

9．調査の関連資料および出土遺物は、えびの市歴史民俗資料館に保管している。

凡　例

1．本書掲載の遺構は、ＳＡ：竪穴住居、ＳＢ：掘立柱建物跡、ＳＫ：土坑・土壙墓、ＳＤ：溝状遺構、ＳＲ：道路状遺構、ＳＸ：自然流路、ＳＺ：用途不明　として略している。

2．挿図記載の方位は、国土座標軸の北を示す。

3．遺構番号は、Ⅰ～Ⅲ区・Ⅳ～Ⅵ区で各々連続している。

4．出土遺物観察表の胎土欄に記載した砂粒は、目測ではあるが、微砂：概ね直径0.5㎜未満、細砂：0.5～1.5㎜位、粗砂：1.5～2.5㎜位とし、３㎜以上を小礫としている。この基準は、断面層序図の土層注記にもほぼ対応する。

5．同表の調整欄に記載した「工具ナデ」は、「ハケ」でも良いのであるが、ハケ目が明瞭でないことから区別している。また、「半ミガキ」とは、ハケ状工具で調整しているもののミガキ状に仕上がっている状態を表わす。

6．写真図版の個別遺構と土層断面写真に写っているピンポールの長さは、すべて１ｍである。

7．Ⅳ・Ⅴ区の航空写真の一部は、概要報告とは若干異なり、最終的な遺構ラインに加筆修正している。

調　査　組　織

特別調査員　佐賀県立九州陶磁文化館　副館長　大　橋　康　二
古代交通研究会　会長　木　下　　良

調査協力・助言　鹿児島地名研究会　世話役　平　田　信　芳
佐賀大学　教育学部　教授　日　野　尚　志
長崎外国語短期大学　国際文化学科　助教授　木　本　雅　康
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
先進治療学専攻神経病学講座歯科応用解剖学分野　助手　竹　中　正　巳
宮崎産業経営大学　法学部　講師　柴　田　博　子
鹿児島ラ・サール高校　教諭　永　山　修　一
鹿児島県姶良町歴史民俗資料館　下　鶴　　弘・深　野　信　之
都城市教育委員会　文化課　栗　畑　光　博　（以上　敬称略）

調査主体　えびの市教育委員会
教育長　松　田　忠　信
社会教育課長　馬越脇　泰　二
文化係長　上加世田たず子
事務　下　東　嘉　也
技師　中　野　和　浩

平成14年度

発掘作業員　有馬セツ、有村ナナ子、今村ヒトエ、岩本優、榎園スミ子、大木場登美子、上水流百合子、柿木照子、川畑フジ子、木原典子、草野徳、楠元よし子、黒木ナミ子、黒木博鎮、源嶋ミエ、里岡カズ子、白宮和幸、新原敏子、園田菊野、園田重義、大王サツミ、竹本キクエ、竹本文江、谷之木ミコ、出水一美、中川四四三、永田美智子、原内アヤ子、原内ツルエ、原口キミ子、東田幸子、東田政子、福山シズエ、渕脇テツ、星指利江子、前田正治、益山政子、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松元一、水無口勝、宮崎みどり、宮原ミヨ、本坊福子、森政宏、山口清子、山崎フジ子、山下一男、山之口三子、山宮ミエ、山元洋子、米倉利子

整理作業員　入木和代、山内ミホ子

平成15年度

整理作業員　安藤紀代、入木和代、上水由喜子、大重泉、大田由美子、芝原由喜、末継さおり、野田幸子、原山征子、米倉千春

目　次

第Ⅰ章　はじめに……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境……2
第Ⅲ章　発掘調査
　第１節　はじめに……4
　第２節　基本的層序……4
　第３節　Ⅰ区の調査……6
　第４節　Ⅱ区……9
　第５節　Ⅲ区……15
　第６節　Ⅳ区……16
　第７節　Ⅴ・Ⅵ区……27
第Ⅳ章　総括……144
付篇　宮崎県えびの市草刈田遺跡出土の中世人骨……149

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の地形位置図……1
第２図　Ａ地点模式図……4
第３図　調査区の位置と官道推定図……5
第４図　Ⅰ区遺構実測図、西壁層序図…7・8
第５図　Ⅰ区ＳＲ-01　１層出土遺物実測図…9
第６図　Ⅰ区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器
　実測図……9
第７図　Ⅱ区出土土師器・土師質土器
　実測図……10
第８図　Ⅱ区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器
　実測図……10
第９図　Ⅱ区遺構実測図、西壁・東壁
　層序図……11・12
第10図　Ⅲ区遺構実測図、西・北・南壁
　層序図……13・14
第11図　Ⅲ区ＳＤ-01出土遺物実測図……15
第12図　Ⅲ区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器
　実測図……15
第13図　Ⅳ区遺構分布図……17
第14図　ＳＢ-01遺構実測図……18
第15図　ＰＰ-264・265・303ほか
　遺構実測図……18
第16図　ＳＫ-01・02・06・09・11・14
　遺構実測図……19
第17図　ＳＫ-16・18・19・20・22・23
　遺構実測図……20
第18図　ＳＫ-03・04・07・08・10・21
　遺構実測図……21
第19図　ＳＫ-13遺構実測図……22
第20図　ＳＤ-01・02・ＳＺ-01遺構実測図…22
第21図　ＳＲ-01遺構実測図……23
第22図　Ⅳ区南壁西端部断面層序図……24
第23図　ＳＺ-02遺構実測図……25
第24図　ＳＤ-02・ＳＺ-03断面層序図……25

第25図　Ⅳ区出土遺物実測図……26
第26図　Ⅳ区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図……26
第27図　Ⅴ・Ⅵ区遺構分布図……29・30
第28図　ＳＢ-02遺構実測図……31
第29図　ＳＢ-03遺構実測図……32
第30図　ＳＢ-04・05遺構実測図……33
第31図　ＳＢ-06遺構実測図……34
第32図　ＳＢ-07遺構実測図……35
第33図　ＳＢ-08遺構実測図……35
第34図　ＳＢ-09・10遺構実測図……36
第35図　ＳＢ-11遺構実測図……37
第36図　ＳＢ-12遺構実測図……38
第37図　ＳＢ-13遺構実測図……39
第38図　ＳＫ-61～67遺構実測図……39
第39図　ＳＫ-55・56・71～79遺構実測図……40
第40図　ＳＲ-02遺構実測図……41
第41図　Ⅴ・Ⅵ区出土土師器・土師質土器・黒色土器・中世国産陶器実測図……42
第42図　Ⅴ・Ⅵ区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図……42
第43図　ＳＤ-07出土銭貨実測図……42
第44図　ＳＡ-01遺構分布図……45・46
第45図　ＳＡ-01出土遺物実測図（１）……47
第46図　ＳＡ-01出土遺物実測図（２）……48
第47図　ＳＡ-01出土遺物実測図（３）……49
第48図　ＳＡ-01出土遺物実測図（４）……50
第49図　ＳＡ-01出土遺物実測図（５）……51
第50図　ＳＡ-01出土遺物実測図（６）……52
第51図　ＳＡ-01出土遺物実測図（７）……53
第52図　ＳＡ-01出土遺物実測図（８）……54
第53図　ＳＡ-02・03遺構実測図……55・56
第54図　ＳＡ-02出土遺物実測図（１）……57
第55図　ＳＡ-02出土遺物実測図（２）……58
第56図　ＳＡ-03出土遺物実測図……60
第57図　ＳＡ-04遺構実測図……61・62
第58図　ＳＡ-04出土遺物実測図（１）……63
第59図　ＳＡ-04出土遺物実測図（２）……64
第60図　ＳＡ-04出土遺物実測図（３）……65
第61図　ＳＡ-05・06遺構実測図……67・68
第62図　ＳＡ-05出土遺物実測図（１）……69
第63図　ＳＡ-05出土遺物実測図（２）……70
第64図　ＳＡ-05出土遺物実測図（３）……71
第65図　ＳＡ-06出土遺物実測図、ＳＡ-07出土遺物実測図（１）……74
第66図　ＳＡ-07・08遺構実測図……75・76
第67図　ＳＡ-07出土遺物実測図（２）……77
第68図　ＳＡ-08出土遺物実測図……77
第69図　ＳＡ-09遺構実測図……79・80
第70図　ＳＡ-09出土遺物実測図……81
第71図　ＳＡ-10遺構実測図……82
第72図　ＳＡ-10出土遺物実測図……83
第73図　ＳＡ-11遺構実測図……85
第74図　ＳＡ-11出土遺物実測図……86
第75図　ＳＡ-12遺構実測図……87
第76図　ＳＡ-12出土遺物実測図……88
第77図　ＳＡ-13遺構実測図……91・92
第78図　ＳＡ-13出土遺物実測図……93
第79図　ＳＡ-14遺構実測図……94
第80図　ＳＡ-14出土遺物実測図（１）……94
第81図　ＳＡ-14出土遺物実測図（２）……95
第82図　ＳＡ-15遺構実測図……97・98
第83図　ＳＡ-16遺構実測図……99
第84図　ＳＡ-17遺構実測図……99
第85図　ＳＡ-18遺構実測図……100
第86図　ＳＡ-19遺構実測図……101・102
第87図　ＳＡ-20遺構実測図……103・104
第88図　ＳＡ-15～18出土遺物実測図……105

第89図　ＳＡ-19・20出土遺物実測図……105
第90図　ＳＡ-21遺構実測図……106
第91図　ＳＡ-21出土遺物実測図……107
第92図　調査区出土鉄器実測図……107
第93図　ＳＫ-28遺構実測図……108
第94図　ＳＫ-28出土遺物実測図（１）……109
第95図　ＳＫ-28出土遺物実測図（２）……110
第96図　ＳＫ-29遺構実測図……111
第97図　ＳＫ-29出土遺物実測図……112
第98図　ＳＫ-39遺構実測図……113
第99図　ＳＫ-39出土遺物実測図（１）……114
第100図　ＳＫ-39出土遺物実測図（２）……115
第101図　ＳＫ-39出土遺物実測図（３）……116
第102図　ＳＫ-39出土遺物実測図（４）……117
第103図　ＳＫ-41遺構実測図……118
第104図　ＳＫ-41出土遺物実測図……119
第105図　ＳＫ-47遺物出土状態・
遺構実測図……120
第106図　ＳＫ-80遺物出土状態・
遺構実測図……121
第107図　ＳＫ-80出土遺物実測図（１）……122
第108図　ＳＫ-80出土遺物実測図（２）……123
第109図　ＳＫ-80出土遺物実測図（３）……124
第110図　ＳＫ-33・40・42・44・45・59・82～84
遺構実測図……125
第111図　ＳＫ-32・33・34・38
出土遺物実測図……126
第112図　ＳＫ-40出土遺物実測図……126
第113図　ＳＫ-42～45出土遺物実測図……124
第114図　ＳＫ-47～49・55・57
出土遺物実測図……128
第115図　ＳＫ-85・96～98・118遺構実測図、
ＳＤ-06断面層序図……129
第116図　ＳＫ-81～85出土遺物実測図……130
第117図　ＳＫ-101・118・119
出土遺物実測図……131
第118図　ＳＫ-54遺構実測図……131
第119図　深掘坑断面層序実測図……132
第120図　Ⅵ区Ⅲｂ～Ⅳ層出土遺物実測図‥133
第121図　Ⅴ区Ⅱ～Ⅲｃ層出土遺物実測図‥134
第122図　Ⅴ区Ⅲｃ層出土遺物実測図（１）‥135
第123図　Ⅴ区Ⅲｃ層出土遺物実測図（２）‥136
第124図　Ⅴ区Ⅲｃ～Ⅳａ層
出土遺物実測図……137
第125図　調査区出土石器実測図（１）……138
第126図　調査区出土石器実測図（２）……139
第127図　調査区出土石器実測図（３）……140
第128図　調査区出土石器実測図（４）……141
第129図　遺構変遷図……145・146
第130図　官道と駅推定図（１）……147
第131図　官道と駅推定図（２）……147

図　版　目　次

図版１　調査前　調査地とその周辺
図版２　調査地近景（東から）
図版３　調査地近景（西から）
図版４　Ⅰ～Ⅲ区　完掘全景
図版５　Ａ地点官道痕跡推定地現況、Ⅰ区完掘、官道２次面遺物出土状態

図版６　Ⅰ区ＳＲ-01北側２次面上面・遺物出土状態、底面検出・西壁層序
図版７　Ⅰ区ＳＲ-01西壁沿いサブトレンチ掘込　西壁層序（南東から）、（北東から）
図版８　Ⅰ区ＳＲ-01西壁北部断面層序、中央部、南側
図版９　Ⅱ区完掘俯瞰、上層（ＳＲ-01埋没後）遺物出土状態、南西壁断面層序・遺物出土状態
図版10　Ⅱ区ＳＲ-01完掘全景（北から）、（北西から）
図版11　Ⅱ区北半部・東壁層序、ＳＲ-01最深部西壁層序、東壁層序
図版12　Ⅲ区完掘俯瞰、全景、東半部全景
図版13　Ⅲ区北壁層序、ＳＤ-01底面遺物出土状態、南壁層序、ＳＤ-01底面中央付近サブトレンチ断面層序
図版14　Ⅳ区　完掘　俯瞰
図版15　Ⅳ区ＳＫ-01断面層序、完掘・人骨出土状態、接写
図版16　Ⅳ区ＳＫ-02断面層序、完掘・遺物出土状態、ＳＫ-06断面層序
図版17　Ⅳ区ＳＫ-09断面層序、完掘・遺物出土状態
図版18　Ⅳ区ＳＫ-11断面層序、ＳＫ-14断面層序・完掘全景、ＳＫ-16断面層序
図版19　Ⅳ区ＳＫ-17断面層序、ＳＫ-18断面層序、ＳＫ-19断面層序・完掘全景
図版20　Ⅳ区ＳＫ-20断面層序、ＳＫ-22断面層序、ＳＫ-23断面層序、ＳＫ-13断面層序・遺物出土状態
図版21　Ⅳ区ＳＤ-02断面層序・遺物出土状態、ＳＤ-02・ＳＺ-01断面層序、ＳＺ-02断面層序・遺物出土状態
図版22　Ⅳ区ＳＤ-04遺物出土状態・南～西壁断面層序、南壁層序
図版23　Ⅴ・Ⅵ区完掘俯瞰（合成写真）
図版24　Ⅴ区全景　俯瞰
図版25　Ⅴ区ＳＡ-01ほか完掘全景、ＳＡ-04・07・08・14ほか完掘全景
図版26　Ⅴ区南東部遺構分布状態
図版27　Ⅴ区北西部遺構分布状態
図版28　Ⅵ区全景　俯瞰、ＳＡ-17・ＳＢ-12ほか遺構分布状態
図版29　Ⅴ区ＳＡ-15と掘立柱建物群ほか遺構分布状態
図版30　Ⅵ区南半部遺構分布状態
図版31　Ⅴ区中央～東部近景、北半部近景
図版32　Ⅴ区南半部近景、ＳＡ-13・04ほか近景
図版33　Ⅴ区中央部近景、西端部近景
図版34　Ⅵ区西半部近景、東半部近景
図版35　ＳＡ-15完掘全景、ＳＡ-18完掘全景、ＳＡ-19ほか近景
図版36　ＳＡ-20・21ほか近景、ＳＡ-21ほか完掘全景、ＳＢ-09ほか近景

図版37　ＳＢ-09・10周辺近景、ＳＢ-09～13周辺近景、ＳＢ-13周辺近景
図版38　Ⅵ区深掘坑１北壁層序、深堀坑２南側東壁層序
図版39　Ⅵ区深掘坑３東壁層序、深掘坑４東壁層序
図版40　ＳＡ-01上層遺物出土状態、南半部
図版41　ＳＡ-01中～下層遺物出土状態（西から）、南半部
図版42　ＳＡ-01中～下層遺物出土状態（東から）、南半部
図版43　ＳＡ-01断面層序、南北セクション南半東壁層序
図版44　ＳＡ-01東西セクション南壁断面層序、東半部、完掘全景
図版45　ＳＡ-02・03遺物出土状態、ＳＡ-02遺物出土状態、ＳＡ-02・03南北セクション東壁層序
図版46　ＳＡ-01東西セクション南壁層序、ＳＡ-02遺物出土状態
図版47　ＳＡ-04上面遺物出土状態
図版48　ＳＡ-04南東部遺物・炭化材出土状態、断面層序、東西セクション中央部断面層序
図版49　ＳＡ-04断面層序、完掘全景、ＳＡ-05遺物出土状態
図版50　ＳＡ-05遺物出土状態、断面層序、中央部断面層序
図版51　ＳＡ-05底面遺物出土状態、ＳＡ-05底面・ＳＡ-06遺物出土状態
図版52　ＳＡ-07遺物出土状態、中央南東部
図版53　ＳＡ-07断面層序、南北セクション南半部東壁層序
図版54　ＳＡ-09遺物出土状態、断面層序、東西断面層序
図版55　ＳＡ-10遺物出土状態、完掘・断面層序
図版56　ＳＡ-11遺物出土状態、断面層序
図版57　ＳＡ-12遺物出土状態、断面層序、航空写真後再検出・掘込後断面層序・遺物出土状態
図版58　ＳＡ-12再調査遺物出土状態・断面層序、完掘全景
図版59　ＳＡ-13遺物出土状態、東西断面層序、南北断面層序
図版60　ＳＡ-14遺物出土状態、断面層序
図版61　ＳＡ-15遺物出土状態・断面層序、中央部断面層序
図版62　ＳＡ-15断面層序・実測風景、ＳＡ-16遺物出土状態、完掘全景
図版63　ＳＡ-17遺物出土状態・断面層序、完掘全景、ＳＡ-18遺物出土状態・断面層序
図版64　ＳＡ-18東南部南北セクション断面層序、ＳＡ-19遺物出土状態、断面層序
図版65　ＳＡ-19中央部断面層序
図版66　ＳＡ-20遺物出土状態、断面層序、中央部
図版67　ＳＡ-20中央底面遺物出土状態、ＳＡ-20・ＳＤ-09断面層序・遺物出土状態、ＳＡ-21断面層序
図版68　ＳＡ-21中央部遺物出土状態、ＳＡ-21・深掘坑５南壁・ＳＤ-09西壁層序
図版69　ＳＫ-28検出・東半部掘り下げ状況、上層遺物出土状態

図版70　ＳＫ-28中層遺物出土状態、下層遺物出土状態
図版71　ＳＫ-29上面遺物出土状態、上層遺物出土状態
図版72　ＳＫ-29中層遺物出土状態、ＳＫ-33完掘全景
図版73　ＳＫ-39上層遺物出土状態、中層遺物出土状態
図版74　ＳＫ-39南半部下層遺物出土状態、断面層序、完掘全景
図版75　ＳＫ-40遺物出土状態・断面層序、完掘全景、ＳＫ-41検出・上面遺物出土状態
図版76　ＳＫ-41遺物出土状態、ＳＫ-47断面層序・遺物出土状態
図版77　ＳＫ-47遺物出土状態、中央部高坏ほか南西部遺物出土状態
図版78　ＳＫ-42遺物出土状態、ＳＫ-44遺物出土状態、ＳＫ-45遺物出土状態、ＳＫ-59遺物出土状態
図版79　ＳＫ-61～67完掘全景、ＳＫ-70～78完掘全景、ＳＫ-80上～中層遺物出土状態
図版80　ＳＫ-80遺物出土状態、東半部下層遺物出土状態、断面層序
図版81　ＳＫ-82遺物出土状態、ＳＫ-83遺物出土状態、断面層序、ＳＫ-84遺物出土状態、ＳＫ-85遺物出土状態・断面層序
図版82　ＳＫ-95・96検出状態、ＳＫ-96遺物出土状態・断面層序、ＳＫ-97・98検出状態、断面層序
図版83　ＳＤ-06ほか遺構検出状態、ＳＤ-06断面層序・遺物出土状態
図版84　ＳＲ-02東端壁断面層序、中央西寄りセクション西壁断面層序
図版85　Ⅰ区ＳＲ-01出土遺物、Ⅱ～Ⅲ層出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、Ⅱ区ＳＲ-01上層出土遺物
図版86　Ⅱ区自然流路出土遺物、Ⅱ～Ⅲ層出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、Ⅲ区ＳＤ-01出土土師器（１）、（２）、須恵器
図版87　Ⅲ区ＳＤ-01出土中世国産陶器、Ⅲ区出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、Ⅰ～Ⅲ区出土近世国産陶磁器（外面）、（内面）
図版88　Ⅳ区Ⅲ層出土弥生土器、ＳＺ-01出土弥生土器、ＳＫ-02出土土師質土器、ＳＫ-09出土土師質土器、ＳＫ-09・13・16・19、ＳＺ-03出土土師器・土師質土器、ＳＫ-13出土中世国産陶器（外面）、（内面）
図版89　Ⅳ区出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、ＳＺ-01～03出土近世国産陶磁器（外面）、（内面）、Ⅴ区ＳＡ-01出土遺物（１）
図版90　Ⅴ区ＳＡ-01出土遺物（２）～（５）
図版91　ＳＡ-01出土遺物（６）、（７）
図版92　ＳＡ-01出土遺物（８）～（13）
図版93　ＳＡ-01出土遺物（14）～（16）
図版94　ＳＡ-01出土遺物（17）、（18）

図版95　ＳＡ-01出土遺物（19）～（24）
図版96　ＳＡ-01出土遺物（25）～（28）
図版97　ＳＡ-02出土遺物（１）～（３）
図版98　ＳＡ-03出土遺物（１）～（４）
図版99　ＳＡ-04出土遺物（１）、（２）
図版100　ＳＡ-04出土遺物（３）～（６）
図版101　ＳＢ-04上面出土遺物、ＳＡ-05出土遺物（１）
図版102　ＳＡ-05出土遺物（２）、（３）
図版103　ＳＡ-05出土遺物（４）～（６）
図版104　ＳＡ-05出土遺物（７）～（９）、ＳＡ-06出土遺物（１）、（２）
図版105　ＳＡ-07出土遺物（１）、（２）
図版106　ＳＡ-07出土遺物（３）、（４）、ＳＡ-08出土遺物
図版107　ＳＡ-09出土遺物（１）、（２）
図版108　ＳＡ-09出土遺物（３）、（４）、ＳＡ-10出土遺物（１）
図版109　ＳＡ-10出土遺物（２）、ＳＡ-11出土遺物（１）、（２）
図版110　ＳＡ-12出土遺物（１）、（２）
図版111　ＳＡ-11・12出土遺物、ＳＡ-13出土遺物（１）、（２）
図版112　ＳＡ-14出土遺物（１）～（４）
図版113　ＳＡ-14出土遺物（５）、ＳＡ-15出土遺物、ＳＡ-16出土遺物（１）、（２）、ＳＡ-17出土遺物（１）
図版114　ＳＡ-17出土遺物（２）、ＳＡ-18出土遺物、ＳＡ-19出土遺物、ＳＡ-20出土遺物、ＳＡ-21出土遺物
図版115　ＳＫ-28出土遺物（１）、（２）
図版116　ＳＫ-28出土遺物（３）～（７）
図版117　ＳＫ-29出土遺物、ＳＫ-32出土遺物、ＳＫ-33出土遺物
図版118　ＳＫ-39出土遺物（１）～（４）
図版119　ＳＫ-39出土遺物（５）～（７）
図版120　ＳＫ-39出土遺物（８）～（10）
図版121　ＳＫ-39出土遺物（11）～（17）、ＳＫ-82出土遺物
図版122　ＳＫ-44出土遺物（１）
図版123　ＳＫ-40出土遺物、ＳＫ-41出土遺物（１）、（２）
図版124　ＳＫ-41出土遺物（３）～（５）
図版125　ＳＫ-41出土遺物（６）、ＳＫ-34・38・40・42～44（２）出土遺物
図版126　ＳＫ-47出土遺物、ＳＫ-48出土遺物、ＳＫ-45・47～49出土遺物

図版127　ＳＫ-80出土遺物（１）、（２）
図版128　ＳＫ-80出土遺物（３）～（５）
図版129　ＳＫ-80出土遺物（６）～（８）、ＳＫ-83出土遺物
図版130　ＳＫ-119出土遺物、ＳＫ-84出土遺物、ＳＫ-55・57・81・85・101・118出土遺物
図版131　Ｖ・Ⅵ区Ⅲｃ層出土遺物、Ｖ区Ⅲｃ層出土彩文土器（外面）、（内面）、Ｖ区Ⅱ～Ⅲ層出土遺物
図版132　Ｖ～Ⅵ区Ⅲｃ層出土遺物（１）、（２）
図版133　Ｖ～Ⅵ区Ⅲｃ層出土遺物（３）～（５）、Ⅵ区Ⅲｃ・Ⅳａ層出土遺物
図版134　Ｖ～Ⅵ区Ⅲｃ層出土遺物（６）～（８）、Ｖ区Ⅳａ層出土遺物、Ⅵ区Ⅳｃ層出土遺物、ＳＤ-09出土遺物
図版135　ＰＰ-403出土土師質土器、ＳＤ-06出土土師器、ＰＰ-326・374・405・410出土土師器・土師質土器、Ｖ～Ⅵ区出土黒色土器、中世国産陶器（外面）、（内面）
図版136　Ｖ～Ⅵ区出土輸入陶磁器（外面）、（内面）、Ｖ区ＳＲ-03・Ⅱ層出土近世国産陶器（外面）、（内面）
図版137　Ⅳ～Ⅵ区出土磨製石鏃、Ｖ～Ⅵ区出土器面調整具、刃器（Ａ面）、（Ｂ面）
図版138　Ⅳ～Ⅵ区出土滑石製石鍋片・石鍋片再加工品、ＳＫ-41出土砥石兼敲き石、Ⅳ～Ⅵ区出土砥石
図版139　ＳＡ-09・11・13出土台石、ＳＡ-01出土台石、ＳＡ-05出土台石、Ｖ区Ⅲｂ・ｃ層出土すり石・敲き石
図版140　Ｖ区ＳＤ-07出土銭貨、Ｖ～Ⅵ区ＳＡほか出土鉄器

表　目　次

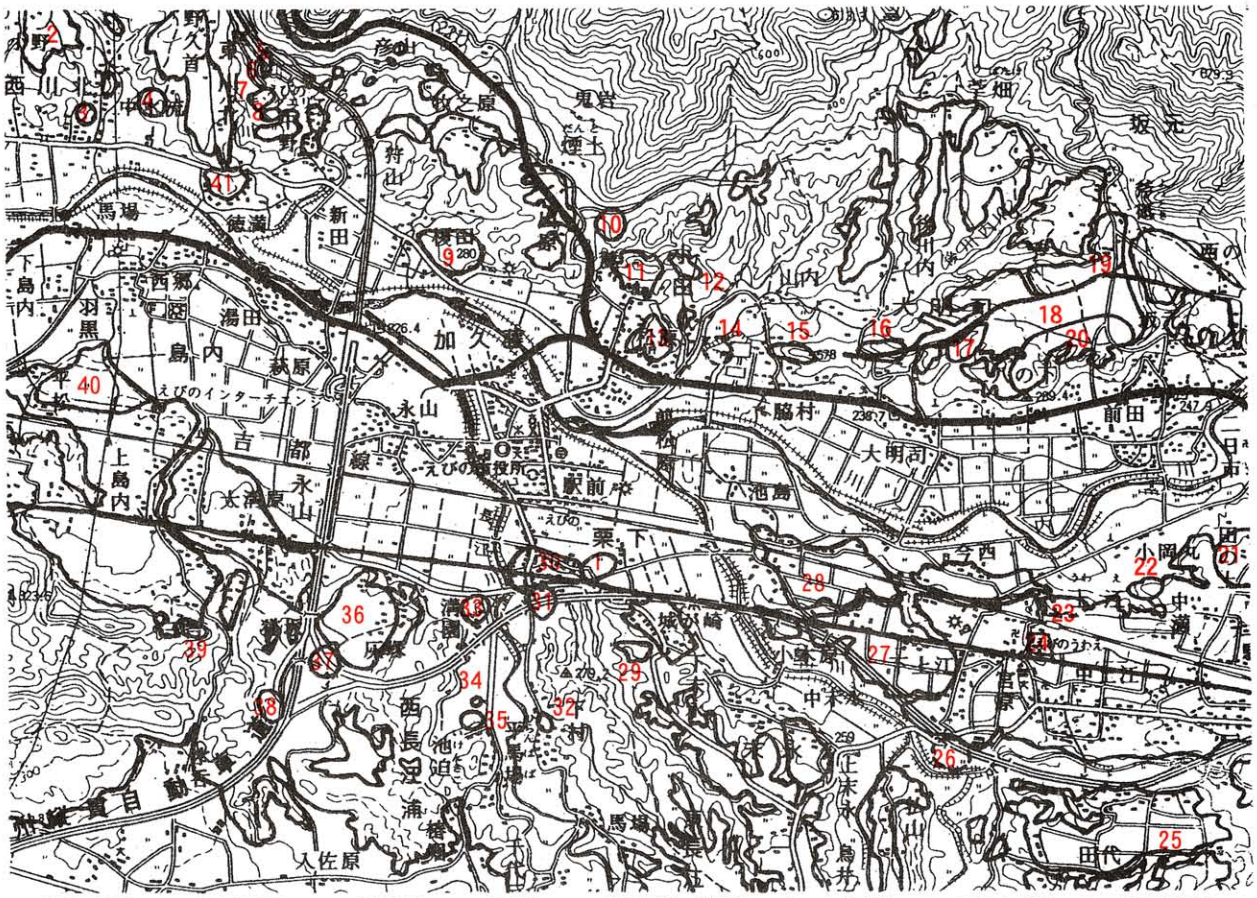
表１．Ⅰ区出土遺物観察表（１）土器……9
表２．Ⅰ区出土遺物観察表（２）陶磁器……9
表３．Ⅱ区出土遺物観察表（１）土師器・土師質土器……10
表４．Ⅱ区出土遺物観察表（２）陶磁器……15
表５．Ⅲ区出土遺物観察表（１）土器……15
表６．Ⅲ区出土遺物観察表（２）陶磁器……16
表７．Ⅳ区出土遺物観察表（１）土器……27
表８．Ⅳ区出土遺物観察表（２）陶磁器……27
表９．Ｖ・Ⅵ区出土遺物観察表（１）土器……43
表10．Ｖ・Ⅵ区出土遺物観察表（２）陶磁器……43
表11．ＳＡ-01出土遺物観察表（１）……58
表12．ＳＡ-01出土遺物観察表（２）……59
表13．ＳＡ-02出土遺物観察表（１）……59
表14．ＳＡ-02出土遺物観察表（２）……66
表15．ＳＡ-03出土遺物観察表……66
表16．ＳＡ-04出土遺物観察表……72
表17．ＳＡ-05出土遺物観察表（１）……72
表18．ＳＡ-05出土遺物観察表（２）……73
表19．ＳＡ-06出土遺物観察表……73

表20. ＳＡ-07出土遺物観察表……78
表21. ＳＡ-08出土遺物観察表……78
表22. ＳＡ-09出土遺物観察表……84
表23. ＳＡ-10出土遺物観察表……84
表24. ＳＡ-11出土遺物観察表……89
表25. ＳＡ-12出土遺物観察表……89
表26. ＳＡ-13出土遺物観察表……90
表27. ＳＡ-14出土遺物観察表……96
表28. ＳＡ-15・16出土遺物観察表……105
表29. ＳＡ-17～21出土遺物観察表……105
表30. 調査区出土鉄器観察表……107
表31. ＳＫ-28出土遺物観察表（１）……110
表32. ＳＫ-28出土遺物観察表（２）……111
表33. ＳＫ-28出土遺物観察表（３）……112
表34. ＳＫ-29出土遺物観察表……117
表35. ＳＫ-39出土遺物観察表（１）……117
表36. ＳＫ-39出土遺物観察表（２）……118
表37. ＳＫ-41出土遺物観察表……120
表38. ＳＫ-80出土遺物観察表……124
表39. ＳＫ-32～34・38・40・42・43
出土遺物観察表……129
表40. ＳＫ-44・45・47・48
出土遺物観察表……130
表41. ＳＫ-49・55・57・81・82
出土遺物観察表……131
表42. ＳＫ-83～85・101・118・119出土遺物観
察表……132
表43. Ⅱ～Ⅲ層出土遺物観察表（１）……141
表44. Ⅱ～Ⅲ層出土遺物観察表（２）……142
表45. 調査区出土石器観察表……143
表46. 掘立柱建物跡一覧……143

第Ⅰ章　はじめに

平成12年10月12日、本市の中央南側に位置する栗下地区字草刈田地内において、圃場4.5haを整備する計画（事業名は末永地区）に伴う遺跡の照会があった。調査対象地域は周知の遺跡ではなかったが、西隣の水田には官道の痕跡（Ａ地点[1]）が遺存していると推定されていることや、最低位段丘や微高地にも遺跡が包蔵している事例があることも判明しつつある。さらに西方100ｍの地点（Ｂ地点）において、中世の土師質土器や陶磁器片を採集している[2]ことから、古代～中世の集落跡の存在を留意していた。調査対象地域は、同一面の最低位段丘に立地し、当然のごとく遺跡の包蔵が予測された。

平成14年３月22日、県文化課と西諸県農林振興局・市耕地課・当局の４者で協議した結果、埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を県文化課が実施することになった。同年４月９日～11日、試掘溝23ヶ所を設定・調査した結果、柱穴や溝状遺構の検出とともに、土師器や土師質土器・輸入陶磁器等の土器片が相当量出土した。同月30日、４者と地元土地改良の委員とで協議をして、工事計画図を照合し、発掘調査の必要地区を決定した。５月13日、地元地権者の方々を交えて協議し、発掘調査の具体的な計画を決めた。



1：草刈田遺跡　2：内小野遺跡　3：東福城跡　4：新城跡　5：妙見遺跡（消滅）　6：内牧遺跡　7：手仕山遺跡　8：古屋敷遺跡　9：園田城跡　10：浄慶城跡　11：加久藤城跡　12：新城跡　13：小城跡　14：平城跡　15：小城跡　16：掃部城跡　17：宮之城跡　18：野谷筋　19：二本杉遺跡　20：苧畑地下式横穴墓群　21：田之上城跡　22：古城跡　23：上江城跡　24：法光寺跡　25：上田代遺跡　26：桑田遺跡　27：小木原地下式横穴墓群　28：永田原遺跡　29：柿ノ木城跡　30：谷川遺跡　31：稲荷城跡　32：古屋敷城跡　33：溝園城跡　34：役所田遺跡　35：小路下遺跡　36：灰塚地下式横穴墓群　37：西矢倉城跡　38：池山城跡　39：三吉城跡　40：島内地下式横穴墓群　41：徳満城跡

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡位置図（１：50,000）

遺跡を分断する県道の南側においては工事の切り盛りが殆ど無いが、埋没しているであろう官道の確認のため、工事計画道路・水路部分で実施することとし（Ⅰ～Ⅲ区）、北側においては、削平される地点（Ⅳ～Ⅵ区）約6,150m²を調査対象とした。

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

草刈田遺跡は、えびの市大字栗下字草刈田に所在する。本市の盆地中央を西流する川内川の２大支流である長江川と池島川に挟まれた丘陵の先端、東西700ｍの自然堤防～最低位段丘の北東部分に立地し、標高は234～237ｍ程である。北側は広大な氾濫原へと移行する。

背後の丘陵は、標高1,700ｍの韓国岳を主峰とする霧島山系から派生するもので、末端部には中世の山城が占地する。

旧石器時代

遺跡周辺では遺構・遺物は発見されていないが、４㎞北東に位置する東川北地区の３遺跡で若干の遺物が出土している。妙見遺跡（５、消滅）では、縄文時代早期の遺物と共に、ナイフ型石器12点のほか、剥片尖頭器１点、台形石器１点、三稜尖頭器１点、細石刃核４点、細石刃13点が出土している。[3] 妙見遺跡の南側直下に位置する内牧遺跡（６）では、古墳時代～古代の地層から、ナイフ型石器１点と細石刃１点が出土している。[4] 隣接する古屋敷遺跡（８）においても剥片尖頭器未製品１点と細石刃１点が出土している。[5] 九州山地を越えた熊本県球磨盆地では遺跡が散見されるため、将来的には増加するものと期待している。

縄文時代

早期の遺跡は、川内川左岸では極めて少なく、小木原地区遺跡群久見迫Ｂ地区の微高地で押型文土器片等数点が出土した[6]にすぎない。反面、右岸では増加しつつあり、二本杉遺跡（19）では若干の遺物のほか、20基余の集石遺構を検出している。[7] 妙見遺跡では13基の集石遺構のほか、数万点の遺物が出土している。手仕山遺跡（７）では、約5,000点の土器片等が出土している。[8]

前期、確実な遺構は未発見であるが、内小野遺跡[9]（３）等で若干の轟式・曽畑式土器が出土している。

中期の遺構も無いに等しく、遺物として阿高式土器等が若干出土しているにすぎない。

後期の遺跡は爆発的に増加し、上田代遺跡では円形の竪穴式住居10棟のほか数万点の土器片が、役所田遺跡[10]（34）では不要品廃棄土坑数基のほか晩期前半にかけて８万点以上の土器片が出土している。市内における定住化は後期以降と言える。

晩期の遺構は少ないが、桑田遺跡（26）では円形土坑と溝状遺構を検出し、後者の覆土から熱帯性ジャポニカのプラント・オパールが検出されている。[11]

弥生時代

前期の遺構は未発見であり、上田代遺跡（25）で壷形土器片が、永田原遺跡（28）で抉入柱状片刃石斧が各々１点出土したにすぎない[12]。中期末、黒髪式土器が広く分布しているが、確実な遺構は未発見である。

後期の遺跡は急増し、竪穴住居は日向型間仕切り住居が主流となる。主として円形基調であり、二本杉遺跡で多く検出されたほか、内小野遺跡と古屋敷遺跡などで若干検出している。

古墳時代

前期の集落は方形基調の日向型間仕切り住居が主流で、中期頃から隅丸方形住居へと転換する。

墳墓群は多数発見されており、２～2.5kmの間隔で地下式横穴墓群が分布している。それらを造営した集団の集落は同一段丘面には無いことまではわかっているが、位置は殆ど特定できていない。

７世紀代の遺構・遺物は皆無に等しく、今後の発見が待たれる。

古代

８～９世紀前半の遺構・遺物も皆無に等しい。

９世紀後半、遺跡は爆発的に増加し、低位～高位段丘面の殆どに何らかの痕跡がある。最低位段丘の調査例としては永田原・口ノ坪遺跡の集落（中世～近世まで存続）がある[13]。上田代・馬場田遺跡[14]では、箱掘りの灌漑用水路を掘削するなど、大規模な開発が行なわれる時期である。住居は掘立柱建物へと変わるが、一部竪穴住居が残る遺跡もある。

中世

古代から継続する集落遺跡が多く、遺構・遺物は豊富である。

丘陵突端は山城が占地し、肥沃な盆地の争奪戦が繰り広げられる。飯野城と加久藤城（11）との連絡道[15]（野谷筋）や小木原遺跡群蕨Ｃ地区[16]で中世後半の道路跡も検出されている。

註

(1) 木下良先生は、平成３年頃から当地の存在を確認されているらしい。
(2) 平成８年、８月11日、木下先生ほか、木本・柴田・永山先生等と共に現地とその周辺を踏査した。
(3) 宮崎県教育委員会　『野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡』　1994　所収
(4) えびの市教育委員会　『東川北地区遺跡群』概報Ⅱ　2002　に写真のみ掲載している。
(5) 同　上
(6) えびの市教育委員会　『小木原遺跡群、原田・上江遺跡群』　1996　所収
(7) 未報告である。
(8) えびの市教育委員会　『東川北地区遺跡群』概報Ⅰ　2001　所収
(9) えびの市教育委員会　『内小野遺跡』　2000　所収
(10) えびの市教育委員会　『長江浦地区遺跡群』　2002　所収
(11) 中野和浩「宮崎県えびの市桑田遺跡」『日本考古学年報43』日本考古学協会　1992
(12) えびの市教育委員会　『田代地区遺跡群・妙見原遺跡』　1997　所収
(13) えびの市教育委員会　『永田原遺跡・小木原遺跡群蕨地区・口ノ坪遺跡』　1990
(14) 前出（10）文献所収
(15) えびの市教育委員会　『稲荷下遺跡』　1997　所収
(16) 前出（６）文献所収

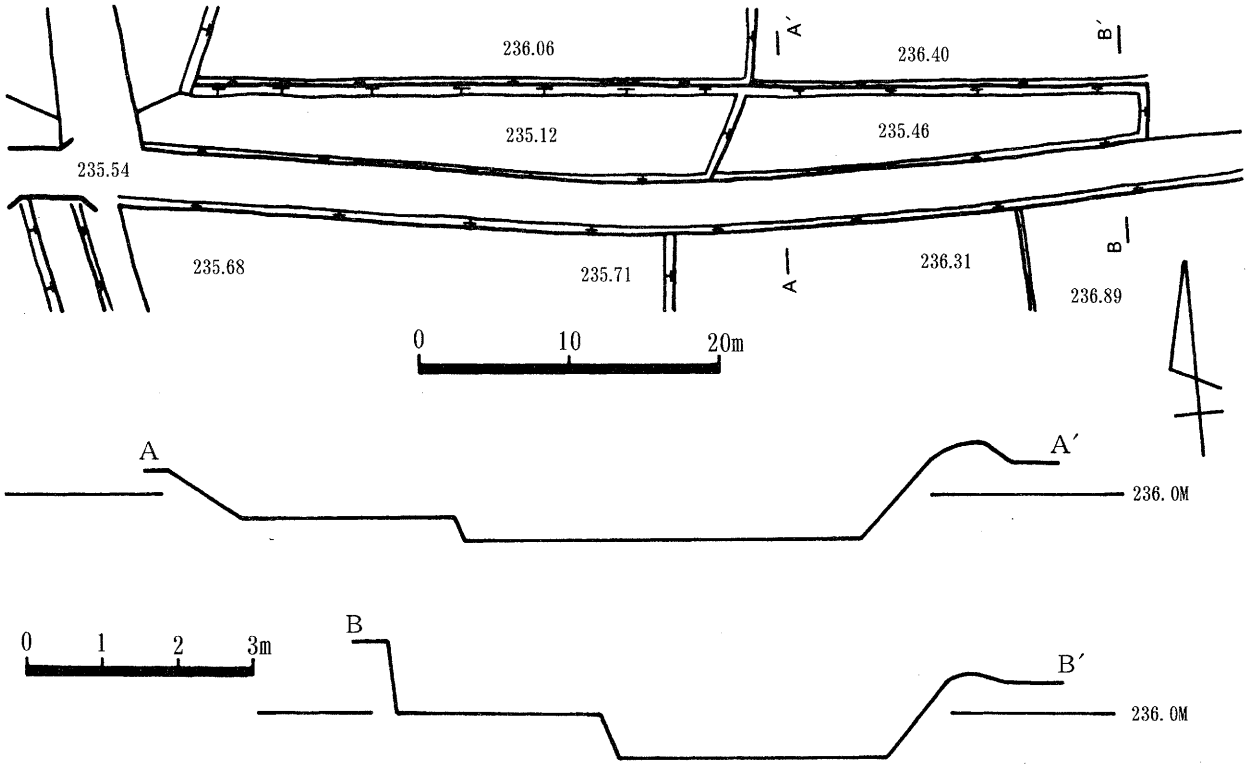
第Ⅲ章　発掘調査

第１節　はじめに

調査は、稲刈り・藁入れ後に重機を導入し、県道以南の西側から開始することにした。Ａ地点の凹地（第２図）は水田２枚と農道であり、西の水田は標高235.12ｍ・長さ約40ｍ・幅3.4～5.2ｍを測り、北接する水田との比高は94㎝を測る。

東の水田は34㎝高く、長さ23ｍ、幅2.5～5.2ｍを測り、北接する水田との比高は94㎝を測る。

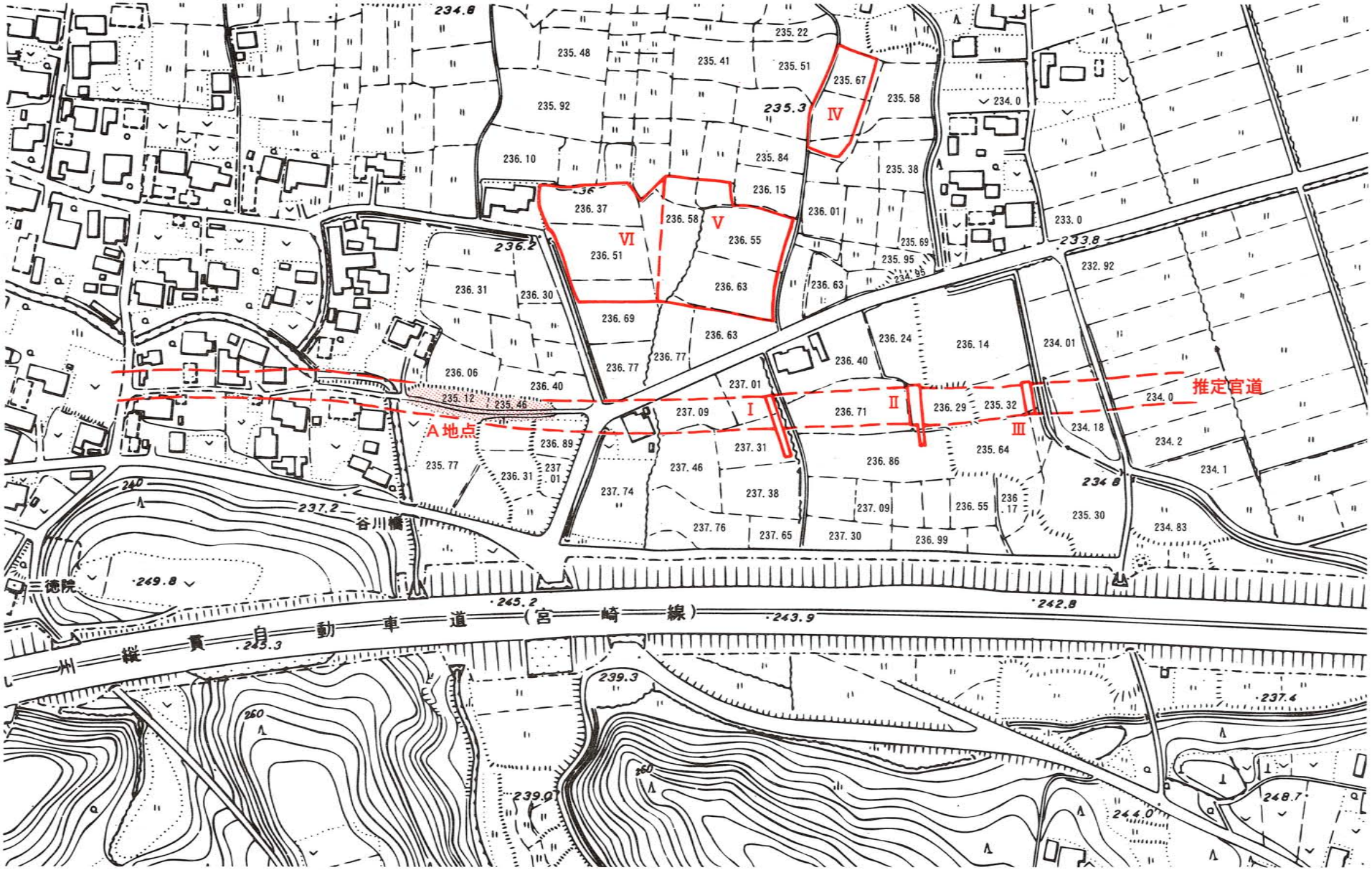
道路（市道）幅は2.7ｍ前後で、市道を含む最大幅は約10.3ｍであり、埋没官道の掘り方の幅は12ｍ程度と推定される。さらに両側に側溝を付設しているとすると、道路幅（側溝の芯々距離）は８～10ｍ位と推定される。工事予定の第２号支線道路予定地とＡ地点延長線との交点をＩ区とし、第２号小排水路予定地をⅡ区、第３号支線道路予定地をⅢ区とした（第３図）。



第２図　Ａ地点　模式図

第２節　基本的層序

層序は上から、Ⅰ層：水田耕作土、Ⅱ層：床土・近世以降の客土や旧耕作土・旧床土・自然堆積土、Ⅲ層：中世以前の遺物包含層で、ａ～ｃ層に細分、Ⅳ層：主として弥生～古墳時代の遺構面形成層であり、段丘面に一般的なアカホヤ火山灰の２次堆積層に近似する、淡黄褐色微砂質土を主とし、ａ～ｄ層に細分。弥生時代後期の遺物を含む。Ⅴ・Ⅵ層：沖積土層で、砂質土と粘質土の互層である。Ⅶ層：礫層に分別した。Ⅶ層は最低位段丘堆積層であり、Ⅲ区の一部でのみ確認している。



第３図　調査区の位置と官道推定地

地元古老の話では、昭和29（1954）年の井戸掘りの際、粘土を９尺掘ると礫層になって、さらに９尺３寸でシラスになったということである。

なお、基本的層序は、遺跡を形成する土壌であることからローマ数字で表わし、遺構の覆土は、２次的土壌であることから算用数字で表わしている。

第３節　Ⅰ区の調査（第４図）

Ⅰ区は、Ａ地点東端から東へ105～110ｍの地点に位置した、長さ27.5ｍ・幅2.9～5.8ｍの狭長な調査区である。北端の近世以降の撹乱以外は、Ⅳ層上面における幅20ｍほどの掘削道路跡として検出し、手掘りによる掘り下げを行なった。第１層を掘り下げるとⅣ層近似の層（第２層）が表われ、仮の底面としたが、精査するうちに第３層が露出したため、第２層上面は２次面であると断定した。調査区の南側～南端部のⅣ層は若干削られており、掘り方も判然としないが、第２層への供給の結果と推定される。

第３～４層を掘り下げた後、底面の確定の為のサブトレンチを西壁沿いに設け、断面観察による官道跡の構築および使用状況を確認した。第２層が中央部で３ｍ程途切れることや底面の状況から概ね北半部と南半部に分けられる。初期の掘削は、北半部で側溝のない掘り方の幅12～13ｍ、深さ80㎝、底面の道路幅5.4～6.7ｍのものが掘削される。北端は２～３㎝低いが、明瞭な側溝は持たない。

硬化面が形成されぬまま初期の道路面は12～20㎝埋没し、第２期の道路として、南側に幅11～12ｍ・深さ75㎝内外で掘削されるが平坦な底面は湾曲する溝状遺構のようになり、道路面は定かでない。北側西寄りには幅１ｍ前後・深さ20㎝内外の側溝状掘り込みがあるが、検出範囲の制約から、側溝であるかどうかは不明である。

初期と同様、底面が12～18㎝埋没すると、Ⅳ層土による客土（２層）が幅4.4ｍ・厚さ４～16㎝盛られ、２次面（第３期）となる。客土によって道路幅は７ｍ程の平坦面となるが、側溝は構築されない。

第３期の面も硬化面が形成されぬままほどなく埋没し、北半部に幅７ｍ・厚さ８～15㎝のⅣ層土が盛られ、２次面（第４期）となる。この時、南半部が幅７ｍの余乗帯となっている。第４期の上面も硬化面が形成されぬまま埋没し、廃絶される。

出土遺物は１層と３・４層から土師器片が若干出土している（第５図）が、第１～４期にわたる道路の掘削から廃絶まで、極く短期間の使用と推定される。なお、記者発表および概要報告の段階では、南半部が初期で、北半部が再整備と言明したが、その可能性は薄れた。反面、南半部が完全に埋没した後に北半部を新たに掘り込んだ状況ではないので、埋没過程の地層の解釈によっては、当初から幅広く掘削していた可能性も残る。

Ⅰ：暗灰色土（水田耕作土）
Ⅱa：灰色砂質土（床土）
　b1：淡灰色土（粘質、黄褐色酸化鉄顕著）
　b2：同上（やや粘質、茶褐色糸根状酸化鉄少量）
　b3：淡灰色～灰色土（粘質、同上）
　c1：淡灰色土（粘質、茶褐色～黄褐色糸根状酸化鉄多量）
　c2：淡灰色～灰色土（やや粘質）
Ⅲa1：灰色＋茶褐色微砂質土（やや粘質）
　a2：灰色微砂質土

SR-01
1a：暗茶褐色＋灰色微砂質土
　b：暗茶褐色微砂質土
2a：黄褐色～淡黄灰色粘質微砂（Ⅳ層客土、上面が２次面）
　b：2a＋1a
3：暗灰色～淡黒褐色粘質微砂
4a：3＋Ⅳa
　b：Ⅳa＋3
　c：茶褐色＋灰色微砂
　d：暗灰褐色～淡茶褐色微砂質土（やや粘質）
　e：Ⅳ＋d

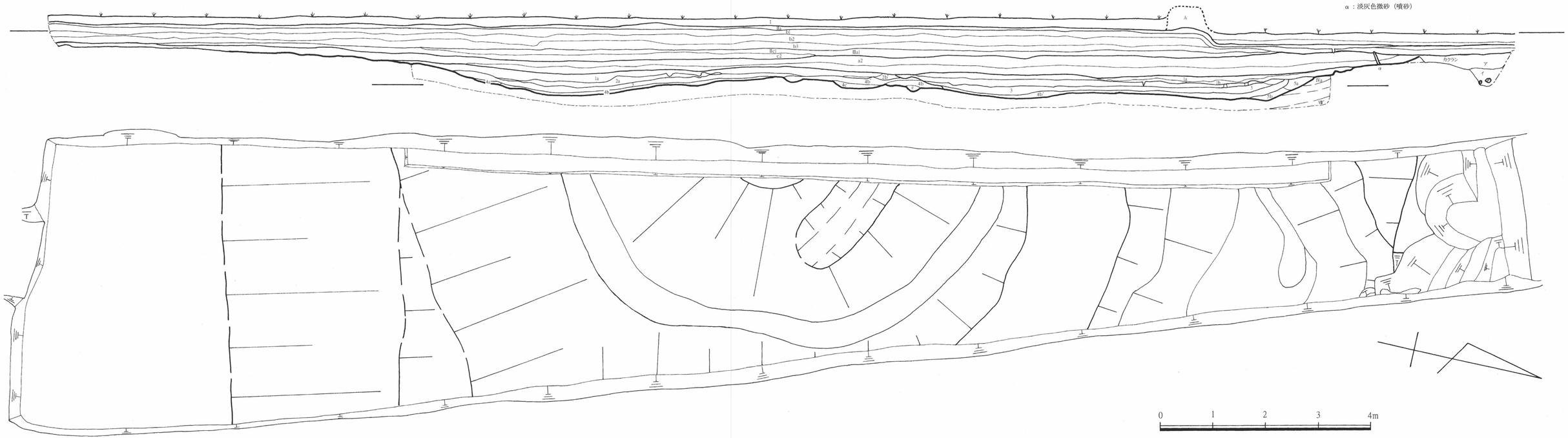
5a：淡灰色＋茶褐色粘質微砂
　b：暗茶褐色＋淡灰色粘質微砂

2b′：Ⅲa2＋2a
3′：暗灰色～淡灰色粘質微砂
4b′：暗灰色＋灰色粘質微砂

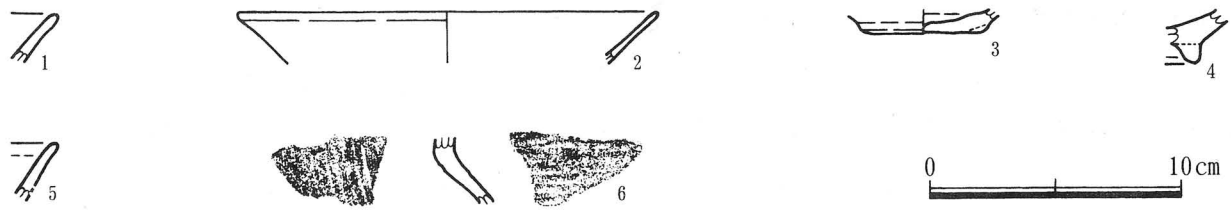
A：暗灰色土（現代畦畔）

ア：淡灰色微砂質土（混細砂）
イ：淡灰色～灰色微細砂質土（混粗砂・小礫）

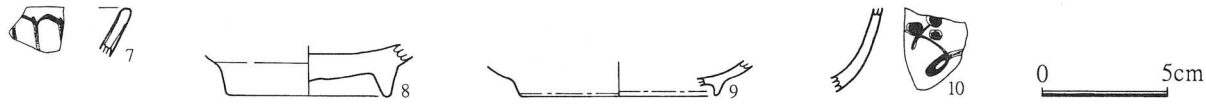
α：淡灰色微砂（噴砂）



第４図　Ⅰ区　遺構実測図・西壁断面層序図



第５図　Ⅰ区　ＳＲ-01　１層出土遺物実測図



第６図　Ⅰ区出土輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図

表１　Ⅰ区出土遺物観察表（１）　土器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調　整		胎　土	焼　成	色　調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第５図 1	ＳＲ-01上層	土師器	坏か	—	—	—	ナデ	ナデ	赤褐色粒少量	良	黄褐	淡橙黄	
2	ＳＲ-01上層	土師器	坏	169	—	—	ナデ	ナデ	精良	あまい	淡橙白	淡黄白	両面：マメツ
3	ＳＲ-01上層	土師器	皿	—	52	—	ナデ	ナデ	赤褐色粒少量	良	淡橙黄	淡橙黄	
4	ＳＲ-01上層	土師器	埦	—	—	—	ハケ～ナデ	ナデ	赤褐色粒少量	良	黄褐	淡黄	
5	ＳＲ-01下層	土師器	坏か	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙黄	淡茶橙	
6	ＳＲ-01下層	土師器	甕	—	—	—	ヨコタタキ	タテタタキ	微砂少量	良	暗茶褐	淡褐	

表２　Ⅰ区出土遺物観察表（２）　陶磁器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露　胎	胎土色	釉　調		産　地	年代・備考
				口径	底径	器高				外　面	内　面		
第６図 7	Ⅱ層	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15ｃ中～16ｃ前
8	Ⅱ層	白磁	碗	—	66	—	—	外底	乳白	乳白	乳白	中国	12～13ｃ
9	Ⅱ層	白磁	皿	—	78	—	—	畳付き	白	乳白	乳白	景徳鎮	16ｃ
10	Ⅱ層	染付	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	紺	紺	肥前	18ｃ

第４節　Ⅱ区（第９図）

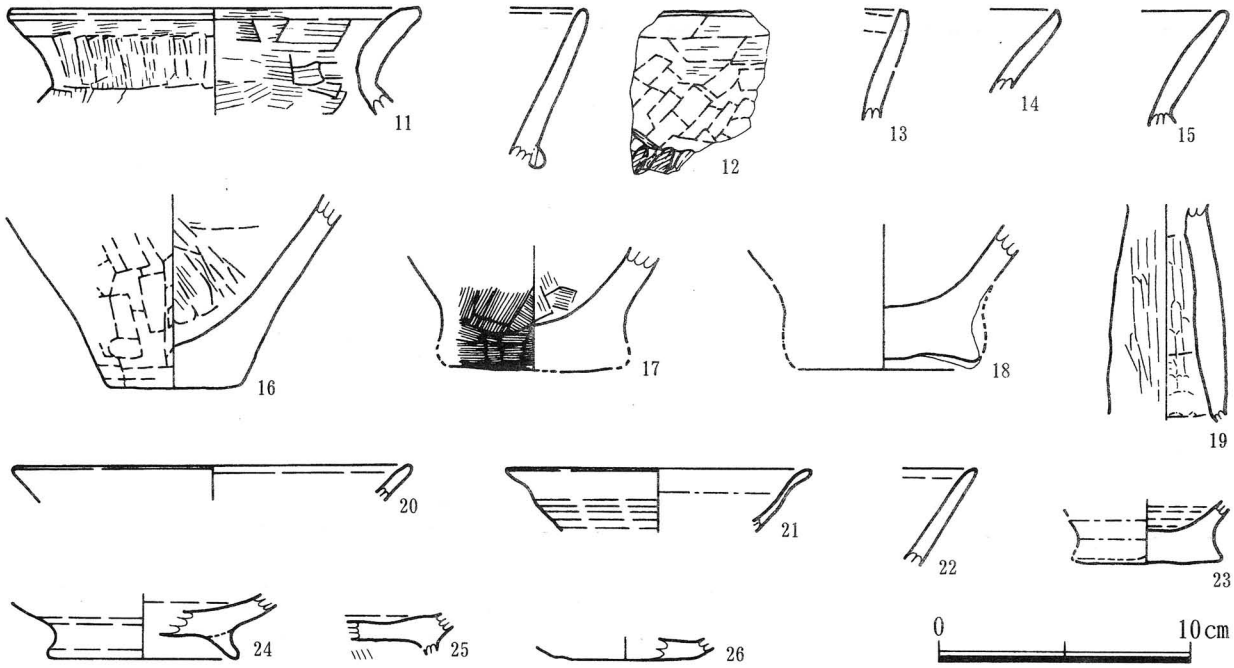
Ⅰ区の東約60ｍに位置する。当地区は周囲よりも１段（西の水田との比高差42㎝、南の水田とは57㎝）低い部分とその南側を４ｍ幅で表土剥ぎを行い、Ⅳ層上面の低い部分で幅20ｍの埋積土を確認した。また、北西側は耕作土直下がⅣ層もしくは官道覆土であり、工事施工時に影響があると考え、2.6ｍ程を拡幅した。官道跡以南は、自然流路のみで、人為的遺構は未検出である。

初期の掘削は幅20ｍ・深さ80㎝程で極めて緩やかな傾斜である。北の肩部から５ｍ南に側溝が設けられている。側溝の幅は0.6～1.1ｍ、深さ12～20㎝を測り、東側が低い。道路面は幅1.7～2.7ｍ、側溝の芯から計測しても2.14～2.64ｍしか無く、極めて狭い。硬化面は形成されないが、側溝の北肩部の長さ３ｍ・幅58～86㎝のテラスの部分と西端部には硬化が認められた。

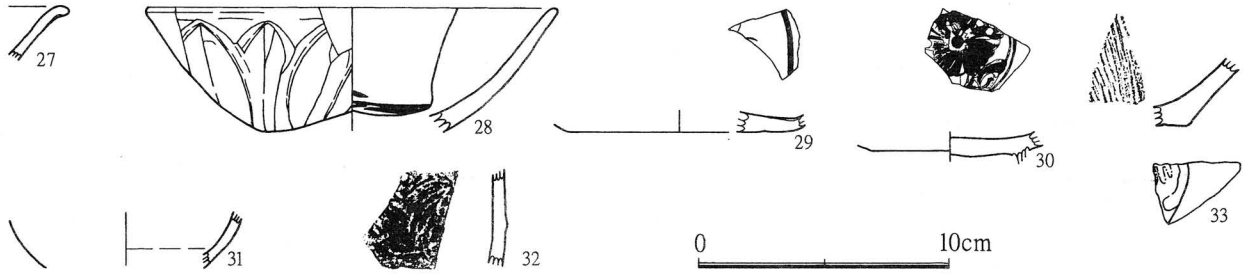
側溝が埋没し、底面も６～15㎝埋没した段階で、Ⅰ区と同様、Ⅳ層土が客土として、幅3.2ｍ・厚さ８～16㎝盛られる（第２面）。この時、平坦面は５ｍ程に広がる。第２面上面はⅠ区と同様、硬化面も無く、短期間に埋没する。南肩法面には、幅10～20㎝・深さ２～４㎝の狭長な轍状凹みが２～３条断続的に並行する。

出土遺物は土師器片等が若干ある（第７図）が、Ⅰ区と同様、極く短期間の使用と考えられる。

なお、見かけ上の掘削幅はⅠ区検出側と殆ど同じであり、当地区では、初期の官道は北寄りに側溝を伴って掘削され、再整備の官道は、南半部に浅く掘削されたと想定すれば、Ⅰ区の調査結果と連続する構造になる[(1)]ことも１つの解釈である。



第７図　Ⅱ区出土　土師器・土師質土器実測図　10：ＳＸ-01　11・12・14～17・19～26：ＳＲ-01１層　13：Ⅱ層　18：北寄り底面



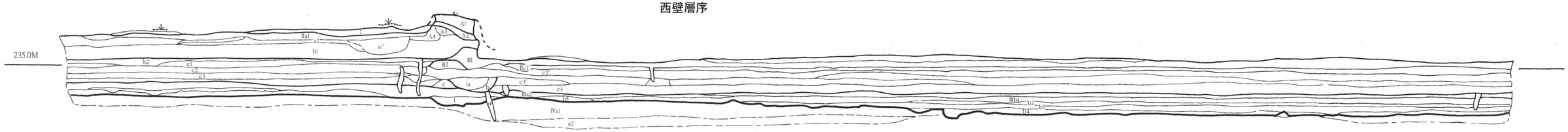
第８図　Ⅱ区出土　輸入陶磁器・近世国産陶磁器

表３　Ⅱ区出土遺物観察表（１）　土師器・土師質土器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調　整		胎　土	焼　成	色　調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第７図 11	ＳＸ-01	土師器	甕	165	—	—	ヨコハケ～タテ工具ナデ	ヨコハケ	粗細砂・赤褐色粒少量	良	暗茶灰～暗灰褐	暗茶褐～淡褐	
12	ＳＲ-01１層	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハケ	微細砂多量	良	淡褐～淡橙褐	暗茶褐～茶褐	外面：ややマメツ
13	ＳＲ-01１層	土師器	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	良	淡茶褐	淡灰褐～暗灰褐	
14	Ⅱ層	土師器	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	茶褐～暗茶褐	茶～灰褐	
15	ＳＲ-01１層	土師器	甕	—	—	—	ヨコハケ	ヨコハケ	粗細砂少量	良	淡灰褐	淡黄褐～淡灰褐	
16	ＳＲ-01１層	弥生土器	甕	—	53	—	工具ナデ	粗ハケ	微細砂多量 角閃石微量	良	淡茶褐～淡灰	暗褐～桃黄	
17	ＳＲ-01１層	弥生土器	甕	—	76	—	タテハケ	ヨコハケ	微細砂多量	ややあまい	淡黄～淡橙黄	暗茶褐～淡黄褐	両面：マメツ
18	ＳＲ-01１層	弥生土器	甕	—	(68)	—	—	—	粗細砂多量	ややあまい	黄褐～桃褐	黄褐底：暗褐灰	両面：マメツ
19	北寄り底面	土師器	高坏	—	—	—	ミガキ	ナデ	赤褐色粒やや多い	良	褐	淡灰褐～暗灰褐	
20	ＳＲ-01１層	土師器	坏	160	—	—	ナデ	半ミガキ	精良	良	黄褐	黄褐	
21	ＳＲ-01１層	土師器	椀	122	—	—	ナデ～工具ナデ	ナデ	精良	ややあまい	暗灰～淡褐	淡黄褐～淡灰褐	
22	ＳＲ-01１層	土師器	椀	—	—	—	—	ナデ	白色粘土粒やや多い	良	淡褐	淡橙黄	外面：マメツ 23と同一個体か
23	ＳＲ-01１層	土師器	坏	—	61	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐	淡黄褐	
24	ＳＲ-01１層	土師器	椀	—	76	—	ハケ高台：ナデ	ナデ	赤褐色粒少量 白色粘土粒多量	良	淡黄白～淡褐	淡橙	
25	ＳＲ-01１層	土師器	椀	—	—	—	ナデ	ナデ	赤褐色粒微量	良	淡黄褐	淡橙黄	
26	ＳＲ-01１層	土師質土器	皿	—	57	—	ナデ	ナデ	良	良	淡橙褐	淡橙	糸切り

第９図　Ⅱ区　遺構実測図，西壁・東壁層序図

西壁層序



0 1 2 3m

1：暗灰色土（水田耕作土）　　α：淡灰色粘質土

IIa1：淡灰色～淡緑灰色微砂質土
　a2：灰色微砂質土＋IVa層塊～粗粒（客土）
　a2'：暗茶褐色微砂質土＋灰色微砂質土
　b1：灰色微砂質土
　b2：灰色～淡茶灰色微砂質土
　c1：淡灰色微砂質土（やや粘質、黄褐色酸化鉄多量）
　c2：淡灰色～淡茶灰色微砂質土（混粗細砂少量）
　c3：淡灰色～灰色微砂質土
IIa1～c3には文明ボラ粒を少量含む

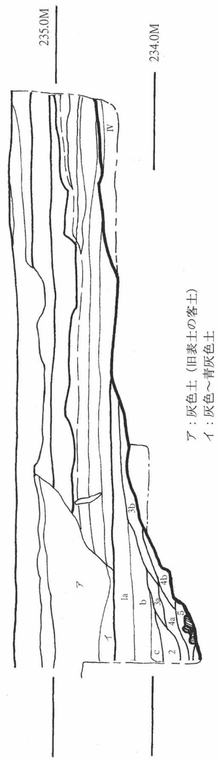
A1：暗茶灰色土
　2：灰色砂質土＋IVa
　3：2＋淡黒褐色微砂質土塊
　4：2と同じ（IVa層粒が多い）
B1：A2と同じ
　2：B1＋暗茶褐色細砂
C　：淡灰色微砂質土

IIIb1：灰色微砂質土
　b2：同上（上面に黄褐色酸化鉄）
　b3：灰色＋茶褐色微砂質土
　b4：灰色～淡灰色微砂質土＋IV層粗細粒～塊
　b5：IV層＋暗灰色微砂質土
b4までは暗茶褐色マンガン粒を含む

IVa1：淡黄色～淡黄褐色粘質土
　a2：a1＋茶褐色粘質土

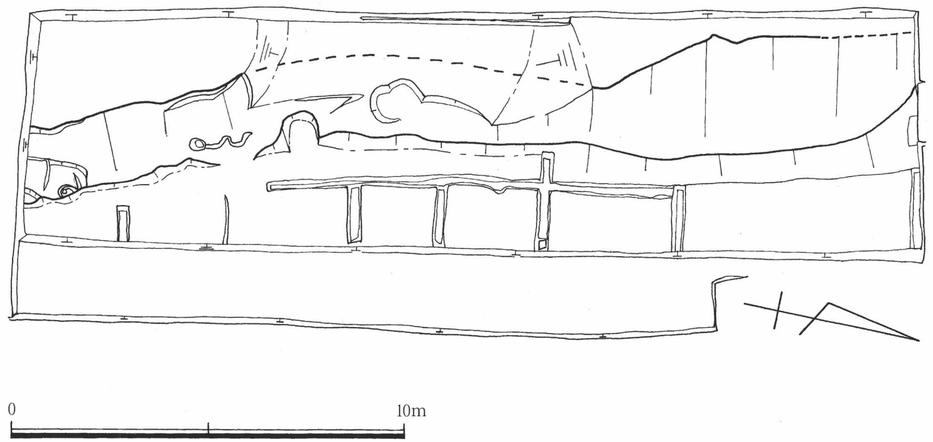
1a：淡灰色微砂質土
　b：a＋橙黄色酸化鉄

南壁層序

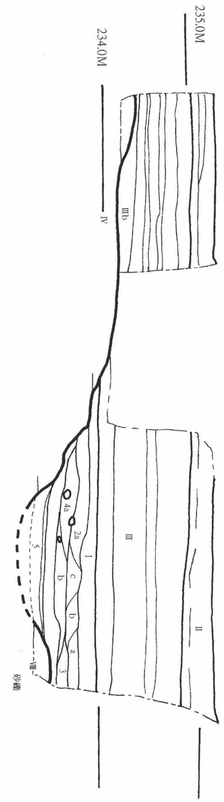


ア：灰色土（旧表土の客土）
イ：灰色～青灰色土

SD-01
1a：淡灰色微砂質粘土
　b：淡灰色～茶褐色微砂質粘土
　c：淡灰色～灰色微砂質粘土
2：砂礫＋1c
3a：淡灰色＋褐灰色微砂質粘土
　b：淡灰色＋茶褐色微砂質粘土＋IV層粗細粒
4a：淡灰色＋茶褐色微砂質粘土
　b：茶褐色＋淡灰色微砂質粘土（混IV層粗粒少量）
5：淡灰色＋茶褐色微砂質粘土
6：灰色～暗灰色砂礫（上面は硬い）



北壁層序



SD-01
1：淡灰色～淡灰褐色微砂
2a：同上　微細砂
　b：淡黄白色粘質土＋2a
　c：淡灰色微砂（やや粘質）
3：淡灰色＋褐色粗細砂
4a：淡灰色＋淡黄灰色粘質微砂
　b：淡灰色＋淡褐色微細砂
5：灰色粘質微砂・暗茶褐色粗細砂・礫・淡黄灰色粗細砂の五層

第10図　Ⅲ区　遺構実測図，西・北・南壁層序図

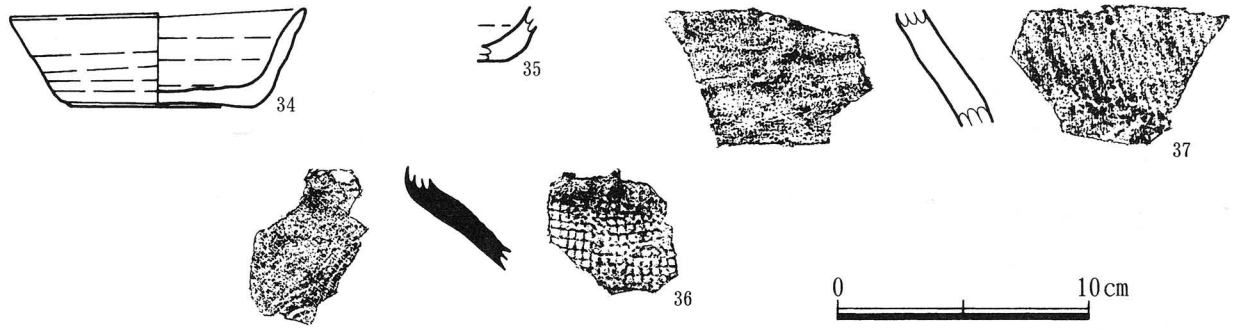
表４　Ⅱ区出土遺物観察表（２）　陶磁器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露　胎	胎土色	釉　調		産　地	年代・備考
				口径	底径	器高				外　面	内　面		
第８図 27	Ⅱ～Ⅲa層	白磁	碗	—	—	—	—	—	暗灰＋淡黒灰	乳白	乳白	中国	12～13ｃ
28	Ⅲｂ2層	青磁	碗	164	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14ｃ前
29	Ⅱ層	青磁	碗	—	87	—	—	—	淡灰白	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	12～13ｃ
30	Ⅱ層	青花	碗か皿	—	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	福建省か	16ｃ後
31	Ⅱ層	緑釉陶器か三彩	袋物	—	—	—	—	—	淡褐	緑	緑	中国南部	明代
32	Ⅱ～Ⅲa層	鉄釉陶器	袋物	—	—	—	内面：タタキ	外面下半：暗桃褐	淡灰～淡黄灰	暗褐	—	肥前	16ｃ末～17ｃ初
33	Ⅱ～Ⅲa層	陶器	擂鉢	—	—	—	貝目痕	—	暗紫灰	暗褐	暗褐	薩摩	17ｃ後～18ｃ前

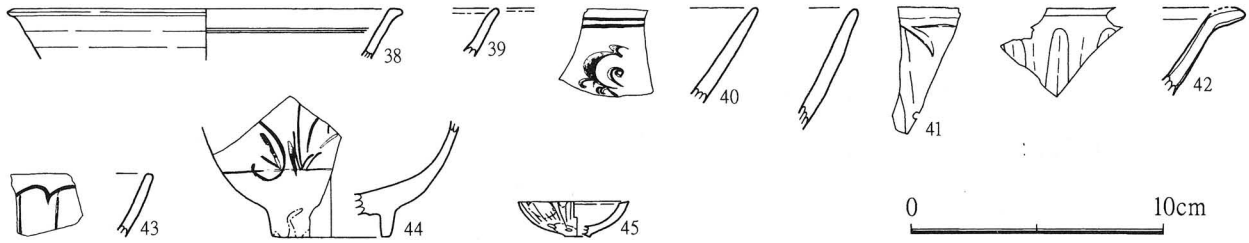
第５節　Ⅲ区（第10図）

Ⅱ区の東43ｍの位置で、Ⅱ区の水田よりも97cm低い水田に位置する。事前に検土杖で南北の広範囲を探査した結果、古代の土壌は削失もしくは流失していることが判明した。ダメ押しのつもりで重機のバケット幅で長さ３ｍ程深掘し精査したところ、中近世の還元土壌や粘土化したⅣ層と溝状落ち込みを検出した（第９図-ＳＤ-01）。そこで急遽拡張し、正式な調査区を設定した。

01号溝は調査区の大部分を占め、主軸は15°西へ傾く。推定幅は上面で８ｍ、底面で１ｍ、深さ１ｍ以上を測り、東沿いの現代用排水路と並行する[(2)]。最下層は砂と粘土、微砂質土の互層が20～30cm堆積し、その上面は硬い砂礫面であった。出土遺物は少ないが、土師質土器の坏の完形品（第11図-34）や、白磁（第12図-38・39）青磁（41・42）等が出土している。



第11図　Ⅲ区　ＳＤ-01　出土遺物実測図



第12図　Ⅲ区出土　輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図　38・39・41・42：ＳＤ-01

表５　Ⅲ区出土遺物観察表（１）　土器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調　整		胎　土	焼　成	色　調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第11図 34	ＳＤ-01	土師質土器	坏	118	74	39	—	—	精良	あまい	淡褐～淡黄褐	淡褐～淡黄褐	両面：マメツ 糸切り
35	ＳＤ-01	土師質土器	皿	—	—	—	—	—	赤褐色 微粒子少量	ややあまい	淡褐～淡灰	淡灰褐～灰褐	両面：マメツ 糸切り
36	ＳＤ-01	須恵器	甕	—	—	—	格子目タタキ	タタキ→粗ナデ	微砂少量	良好	淡褐	淡褐	芯は黒褐色
37	ＳＤ-01	常滑か	壷甕類	—	—	—	ナデ	ナデ	淡黒褐色粒 やや多い	良	暗褐	茶褐	外面：淡灰色自然釉 12～13ｃ

表６　Ⅲ区出土遺物観察表（２）　陶磁器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露　胎	胎土色	釉　調		産　地	年代・備考
				口径	底径	器高				外　面	内　面		
第12図 38	ＳＤ-01	白磁	碗	156	—	—	沈線	—	乳白	乳白～淡灰乳	乳白～淡灰乳	中国	12～13ｃ
39	ＳＤ-01下層	白磁	口禿げ皿	—	—	—	—	口唇	乳白	乳白	乳白	中国	13～14ｃ前
40	Ⅱ～Ⅲa層	青磁	碗	—	—	—	劃花文	—	淡灰～灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	12～13ｃ
41	ＳＤ-01	青磁	碗	—	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13～14ｃ前
42	ＳＤ-01	青磁	鉢か盤	—	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	上質14ｃ
43	Ⅱ～Ⅲa層	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰～淡灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15ｃ中～16ｃ前
44	Ⅱ層	染付	碗	—	47	—	—	畳付き～外底	淡灰白	暗紺	暗紺	肥前	1630～50年代
45	Ⅱ層	白磁	紅皿	44	10	14	—	—	白	乳白	乳白	肥前	外面：半露胎 江戸後期(19c中)

第６節　Ⅳ区（第13図）

１．はじめに

最低位段丘の北東縁付近に位置した地区で、中世の黒灰色土（Ⅲ層）が20～30㎝遺存し、Ⅳ層上面が遺構検出面である。Ⅲ～Ⅳa層および遺構覆土から若干の弥生～古墳時代の遺物が出土しているが、当該期の遺構は無い。

２．中世の遺構と遺物

検出した遺構は様々で、柱穴が約300基のほか、円形～楕円形の土坑・土壙墓が19基、大型土坑１基、溝状遺構３条があり、覆土は全てⅢ層の淡黒灰色土系である。

ＳＢ-01（第14図）　調査区の南端に位置した、梁行２間（2.82～2.91ｍ）・桁行３間（5.95ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～34㎝・深さ18～32㎝を測る。主軸方位は、Ｎ５°Ｅである。

ＰＰ-264・265・303～320（第15図）　調査区の南東部・01号建物の北東部に位置する。柱穴20基余りが重複した状態の遺構で、直径40～80㎝・深さ45～78㎝の大型柱穴が集中している。４～５ｍ南の一群と関連した、大型建物が建っていた可能性がある。

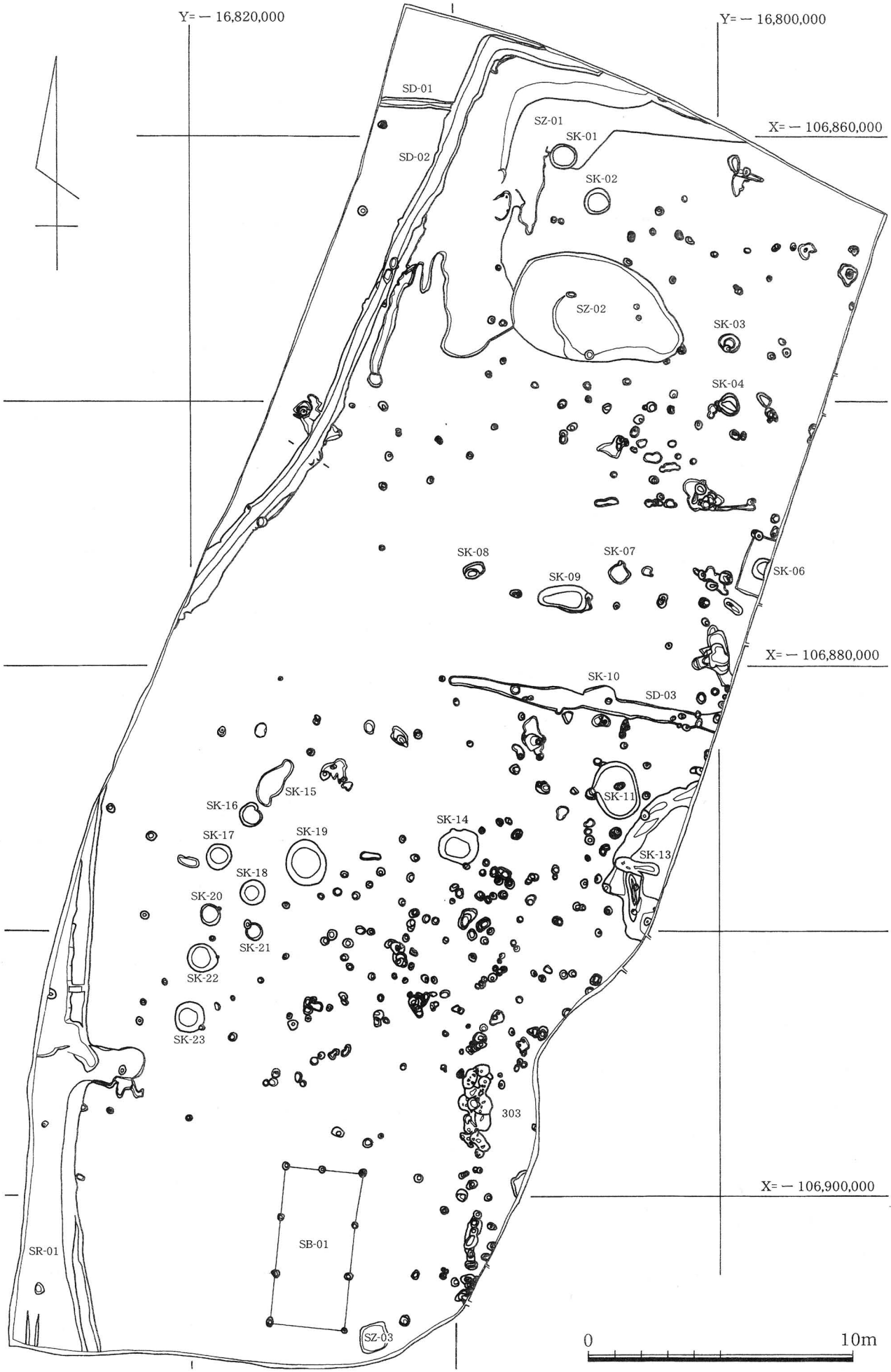
ＳＫ-01（第16図）　調査区の北端付近に位置した、直径90～100㎝の円形を呈する土壙墓で、深さは21～29㎝を測る。中央部で、頭骨や四肢骨等の一部が遺存している。副葬品は無い。北頭位の横臥屈葬と思われる。人骨については付篇を参照されたい。

ＳＫ-02（第16図）　01号土坑の南東1.5ｍに位置した、直径92～94㎝の円形を呈する土壙墓で、深さは38㎝を測る。人骨は遺存していないが、西端中位において２片に割れた土師質土器皿（51）を検出した。

ＳＫ-03（第18図）　調査区の北東部に位置した、長径82㎝・短径71㎝の楕円形を呈する土坑で、深さは10㎝前後である。２段目の穴は別遺構である。

ＳＫ-04（第18図）　03号土坑の南２ｍに位置した、長径87㎝・短径75㎝の楕円形を呈する土坑で最深部の深さは56㎝である。

ＳＫ-06（第16図）　調査区の東端北寄りに位置した、直径78㎝の円形土坑であり、深さは26～30㎝

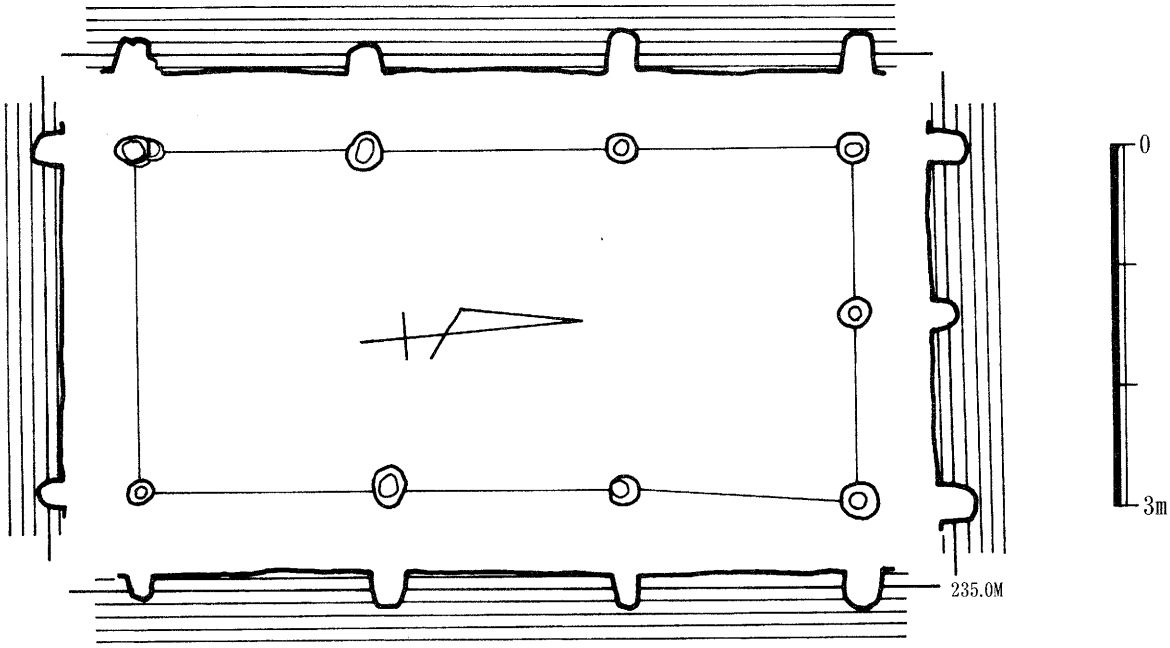


第13図　Ⅳ区　遺構分布図

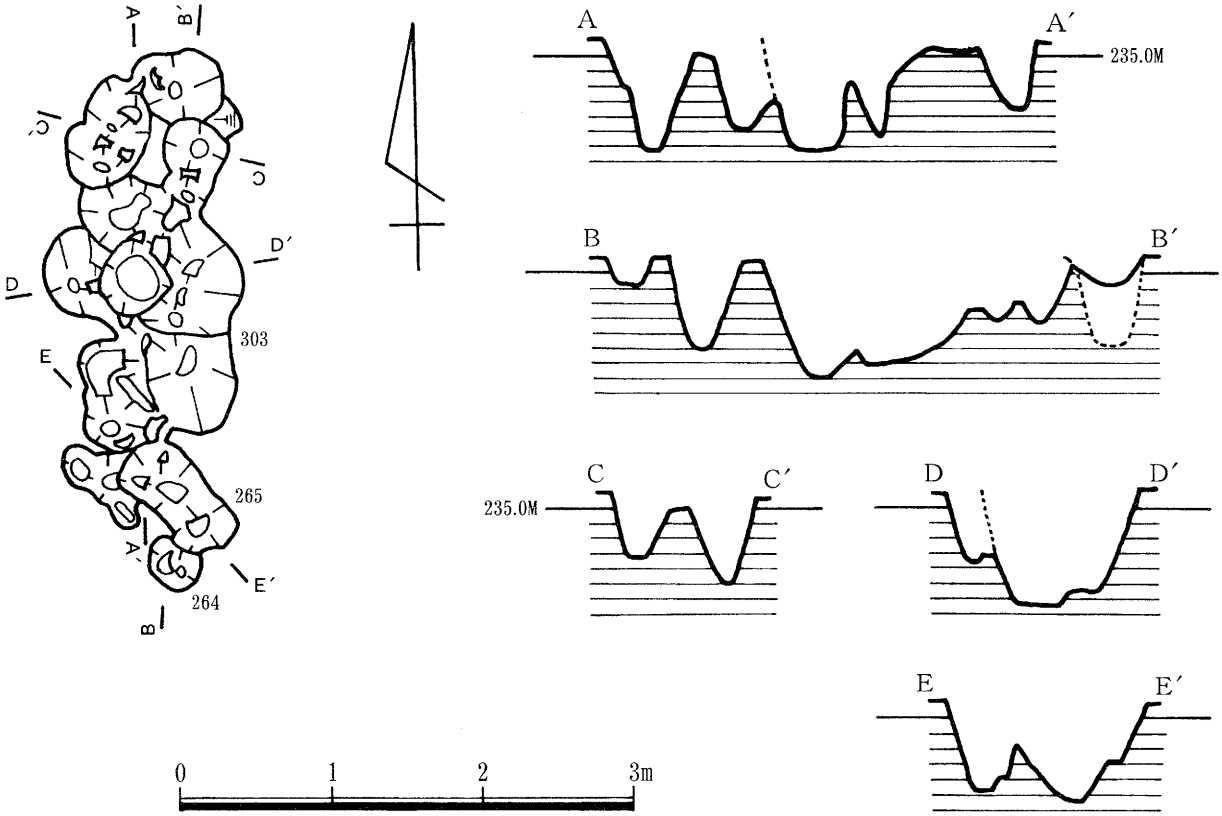
である。遺構面はⅣ層上面であり、覆土の１層はⅢｂ層と同質である。

ＳＫ-07（第18図）　06号土坑の西4.5ｍに位置した、直径68～73㎝の円形土坑である。深さは、７～８㎝である。

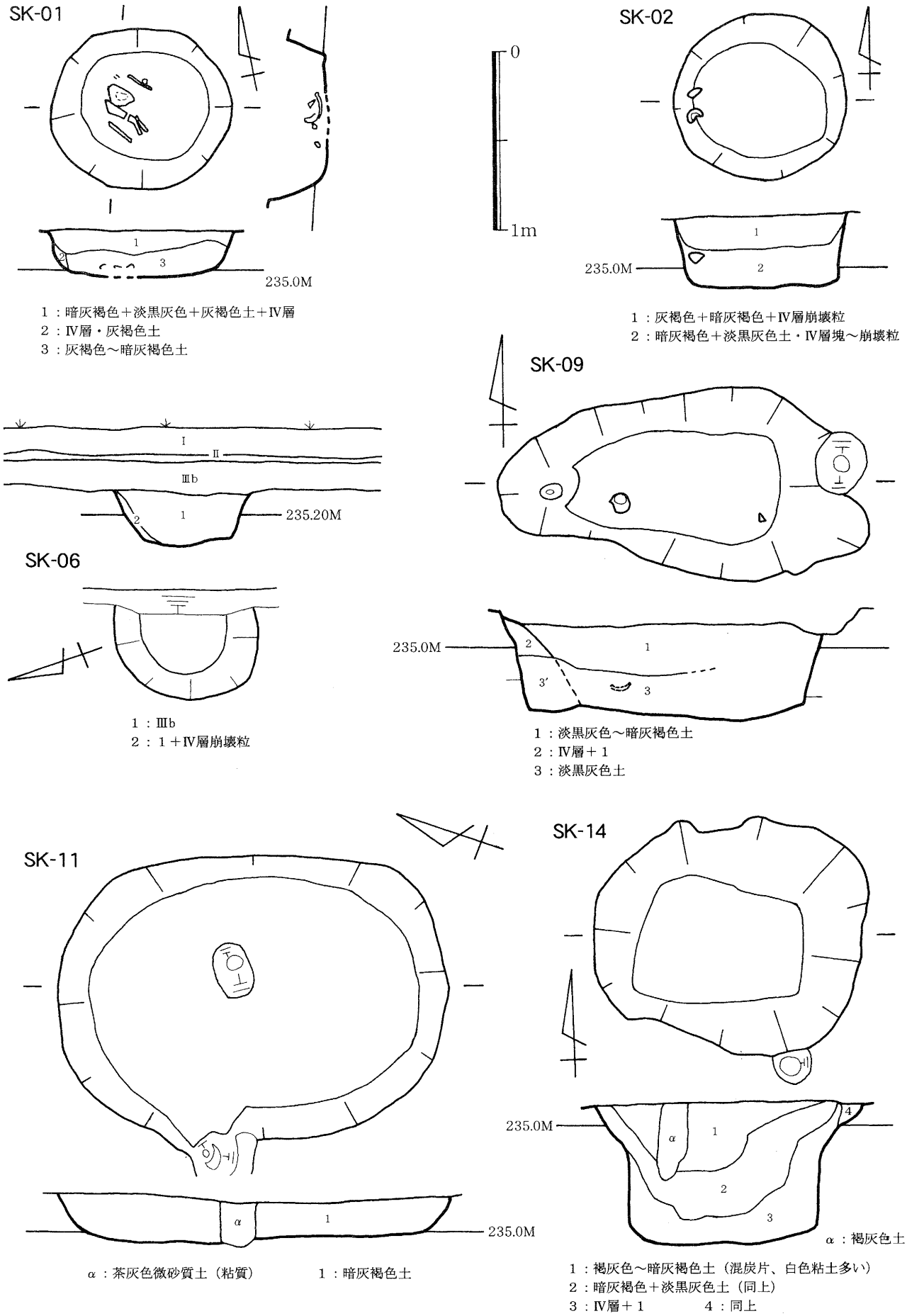
ＳＫ-08（第18図）　07号土坑の西約５ｍに位置した、長径83㎝・短径54㎝の楕円形土坑である。深さは、９㎝である。



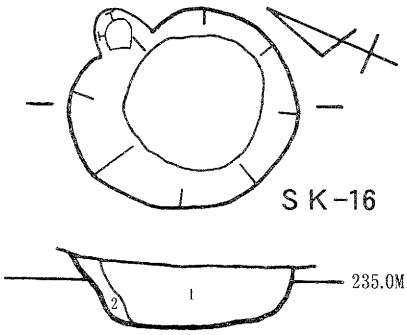
第14図　ＳＢ-01　遺構実測図



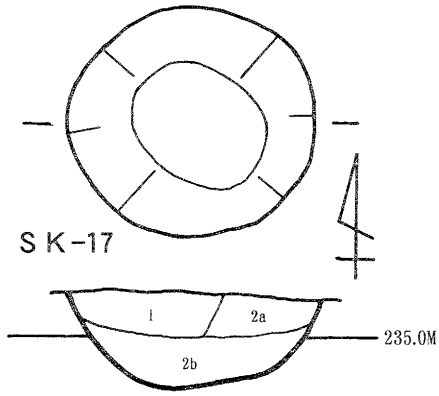
第15図　ＰＰ-264・265・303ほか　遺構実測図



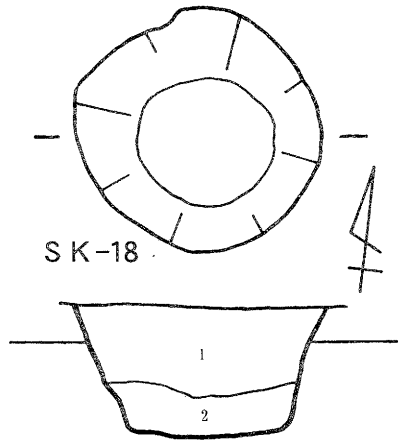
第16図　ＳＫ-01・02・06・09・11・14　遺構実測図



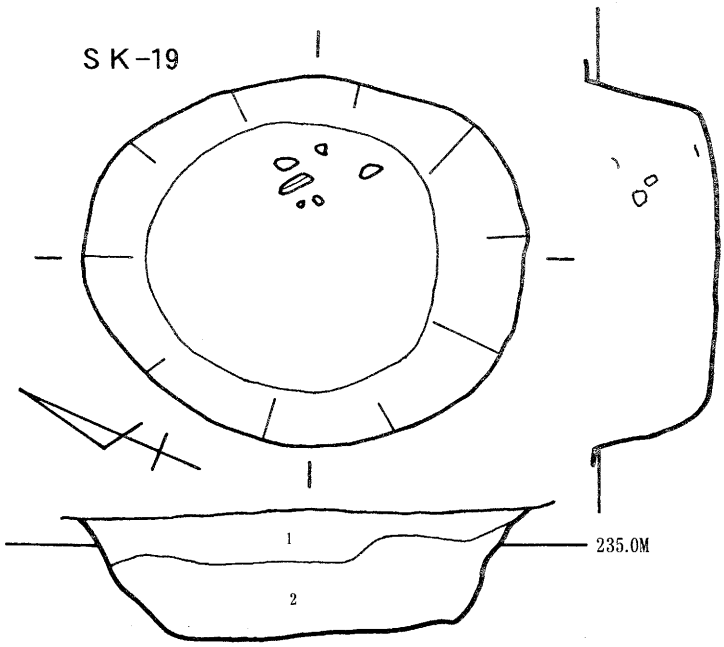
1：淡黒灰色土＋暗灰褐色土
2：1＋Ⅳ層粗粒



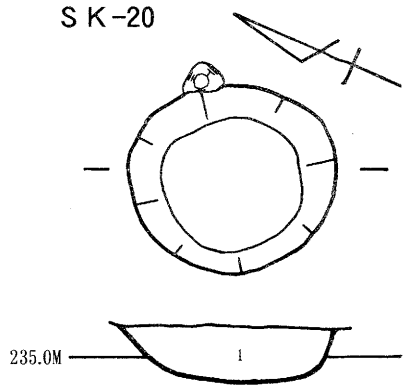
1：暗灰褐色土＋暗茶灰色土
2a：1＋Ⅳ層粗細粒＋淡黒灰色土
b：Ⅳ層粗細粒＋淡黒灰色土＋暗灰褐色土



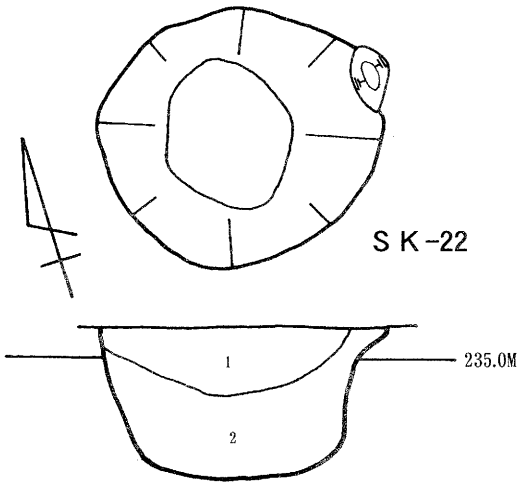
1：暗灰褐色＋褐灰色土＋Ⅳ層塊～粗細粒
2：淡黒灰色土＋暗灰褐色土（混Ⅳ層粗細粒少量）



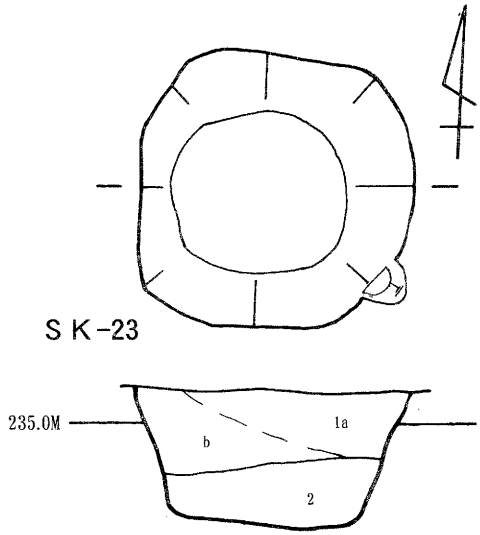
1：暗茶灰色土＋暗灰褐色土（混Ⅳ層粗細粒少量）
2：1＋淡黒灰色土＋Ⅳ層塊～崩壊粒



1：暗茶灰色＋暗灰褐色土＋Ⅳ層崩壊粒



1：暗灰褐色土
2：1＋淡黒灰色土＋Ⅳ層塊～粗細粒



1a：暗灰褐色土（混Ⅳ層粗細粒少量）
b：暗灰褐色土（混Ⅳ層粗細粒斑点状）
2：暗灰褐色土＋淡黒灰色土（混Ⅳ層粗細粒）

第17図　SK-16・18・19・20・22・23　遺構実測図

ＳＫ-09（第16図）　07号と08号土坑の間に位置し、長径1.81ｍ・短径1.07ｍの不整楕円形を呈する土壙墓である。深さは53～61㎝を測り、西南寄りに土師質土器皿が副葬されている。幅広い東側が頭位と推定される。

ＳＫ-10（第18図）　調査区の中央やや東寄り、03号溝に切られた、残存長1.23ｍの楕円形土坑である。深さは、８～10㎝である。

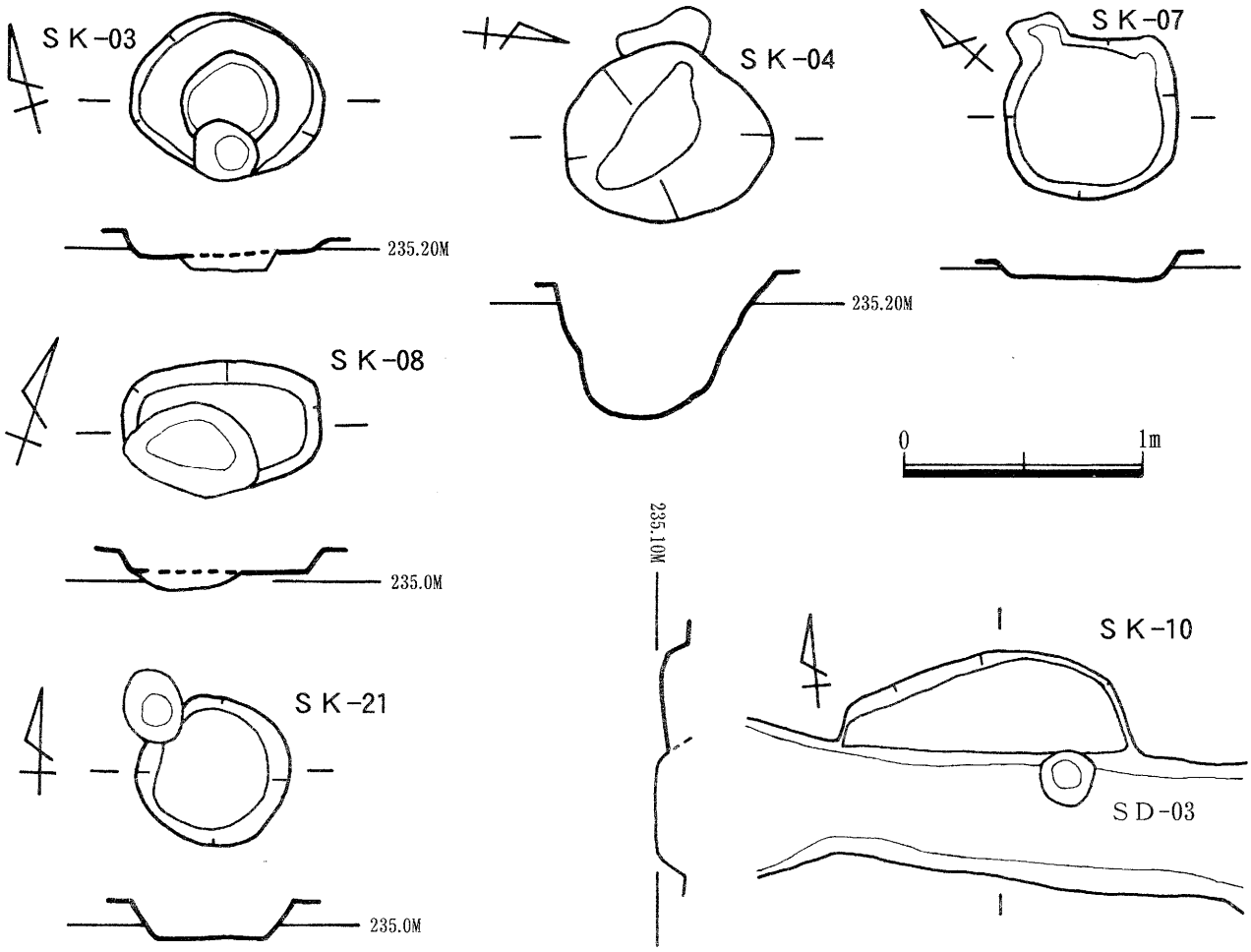
ＳＫ-11（第16図）　10号土坑の南東２ｍに位置した、長径2.14ｍ・短径1.58ｍの楕円形を呈する土坑である。深さは、22～28㎝である。

ＳＫ-14（第16図）　調査区の中央寄り、11号土坑の南西６ｍに位置した、長径1.48ｍ・短径1.30ｍの不整楕円形を呈する。深さは、68～76㎝を測る。底面は台形を呈し、西側が広い。覆土の埋積状況から、木蓋土壙墓の可能性がある。

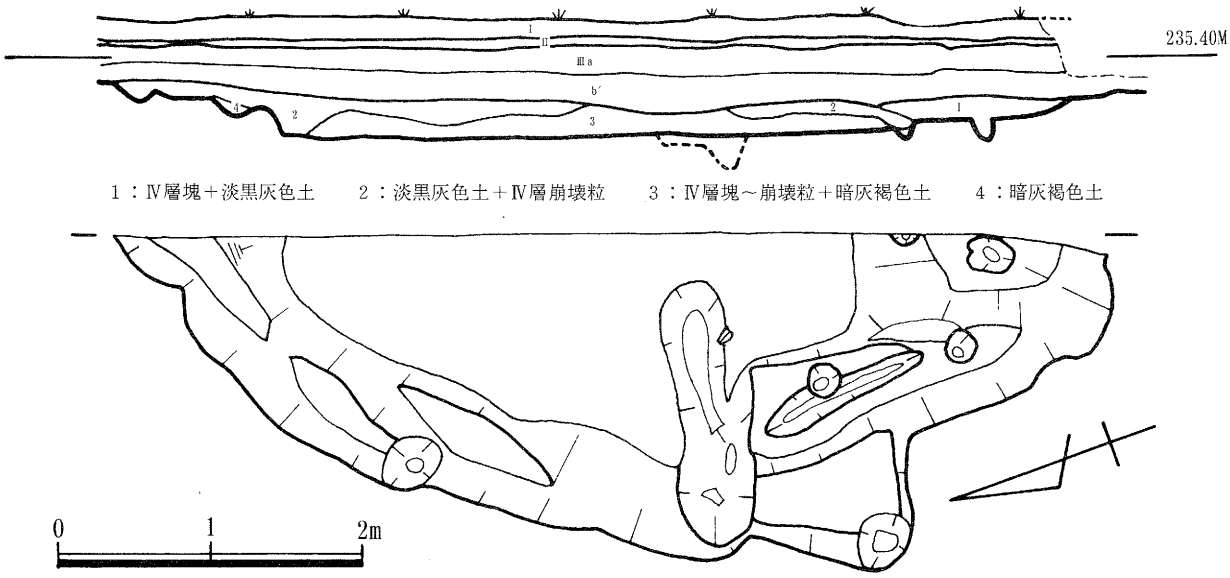
ＳＫ-16（第17図）　調査区の南西部の土壙墓群の北端に位置した、長径88㎝・短径79㎝の円形を呈する土坑である。深さは20～27㎝を測る。

ＳＫ-17　16号土坑の南１ｍに位置した、直径92～97㎝の円形土坑である。深さは、32～39㎝を測る。

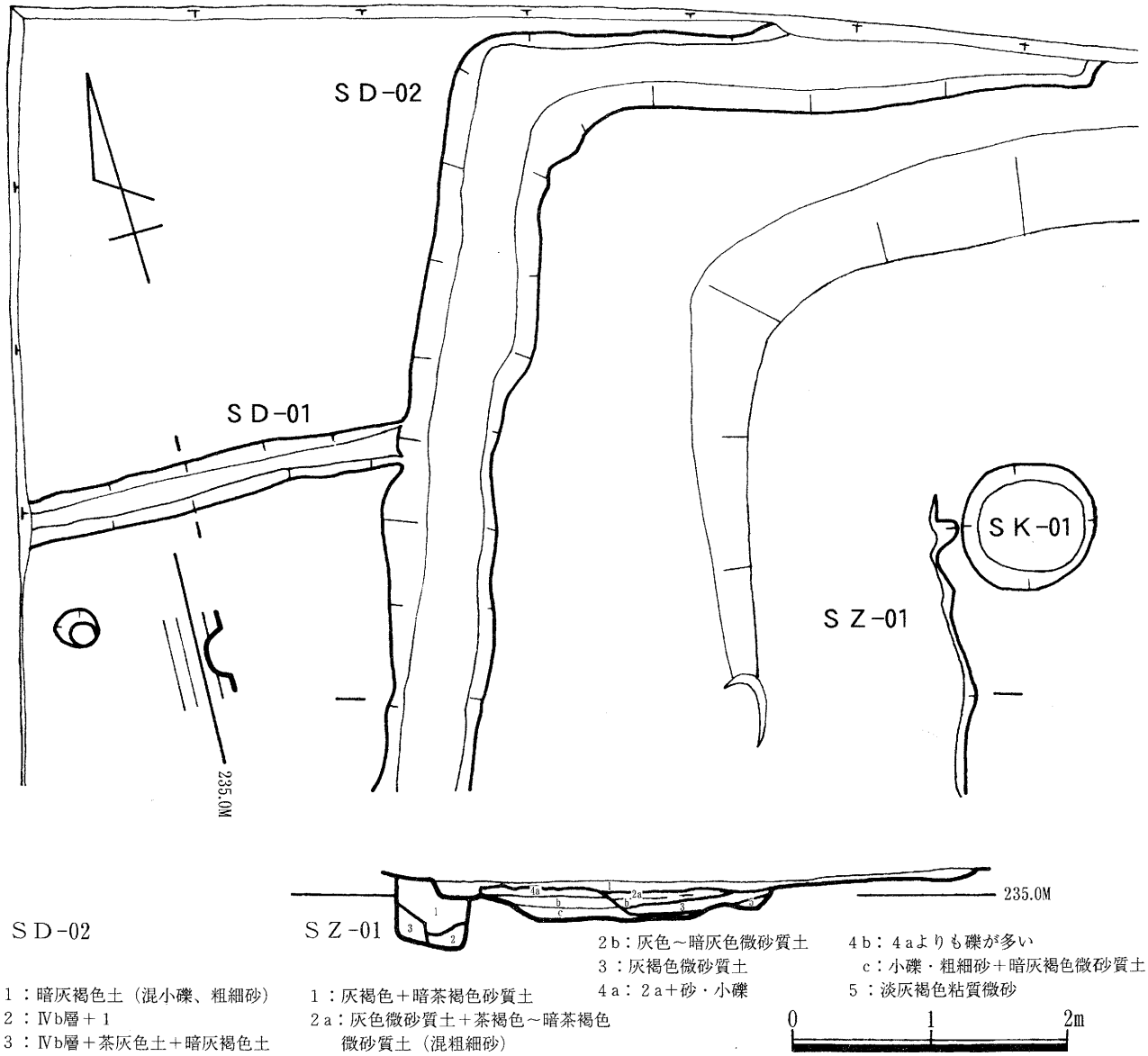
ＳＫ-18（第17図）　17号土坑の南東１ｍに位置した、長径99㎝・短径92㎝の円形土坑である。深



第18図　ＳＫ-03・04・07・08・10・21　遺構実測図



第19図　ＳＫ-13　遺構実測図



第20図　ＳＤ-01・02・ＳＺ-01　遺構実測図

さは、50～52cmを測る。

ＳＫ-19（第17図）　18号土坑の北東１ｍに位置した、長径1.72ｍ・短径1.36ｍの楕円形土坑である。深さは、46～50cmを測る。中央西寄りの中位で、土師質土器片と石鍋片が出土している。

ＳＫ-20（第17図）　18号土坑の南西１ｍに位置した、長径81cm・短径74cmの略円形土坑である。深さは、22cmを測る。

ＳＫ-21（第18図）　18号土坑の南70cmに位置した、直径63～65cmの円形土坑である。深さは、16～18cmを測る。

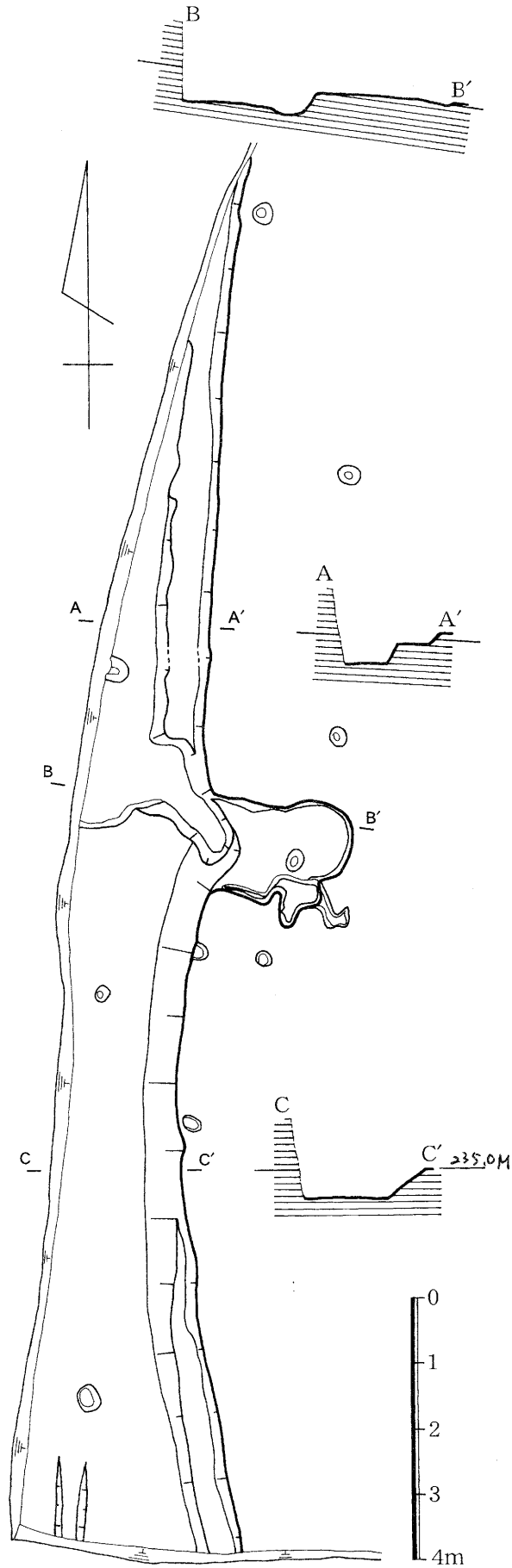
ＳＫ-22（第17図）　20号土坑の南75cmに位置した、長径1.10ｍ・短径0.98ｍの、ほぼ円形を呈する土坑である。深さは、55～61cmである。

ＳＫ-23（第17図）　土壙墓群の最南端、22号土坑の南1.2ｍに位置した、直径1.08ｍの略円形を呈する土坑である。深さは、1.0～1.05ｍを測り、東側が若干低い。

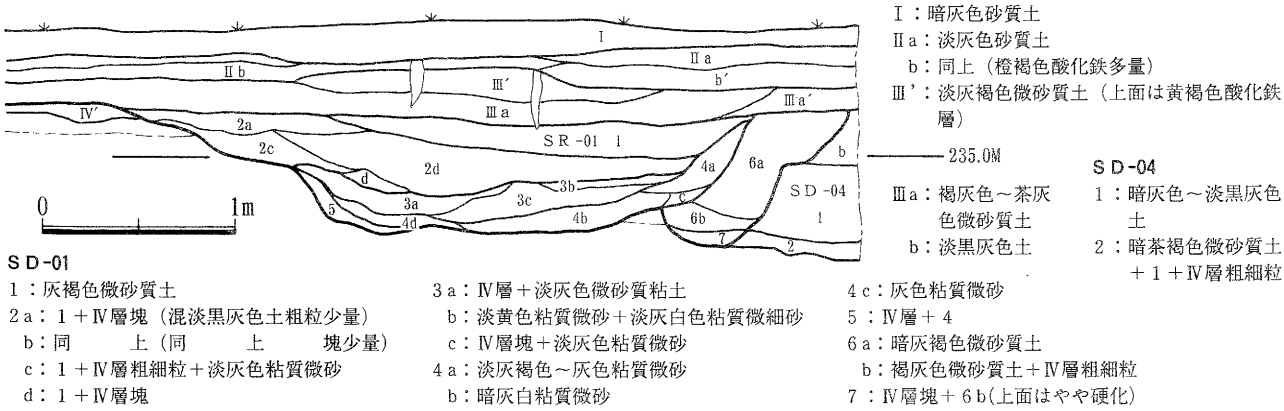
ＳＫ-13（第19図）　調査区の中央東端に位置した、検出長6.5ｍ・幅2.2ｍ以上の楕円形もしくは円形を呈する大型土坑である。周壁には断続的にテラスがあり、南に小pitが集中する。出土遺物は少ないが、常滑（60）や青磁（65）から、14世紀代の遺構と推定される。機能を推定する土質変化や特殊遺物は出土していない。

ＳＤ-01（第20図）　調査区の北西端寄りの、02号溝に合流する東西方向の溝状遺構で、幅30～40cm・深さ11～23cmを測る。出土遺物は無いが、01号溝と切り合っていないことから、同時期と思われる。

ＳＤ-02（第20図）　調査区北西部から直角に曲がり、南西方向へ流れ、調査区中央部で西へ突出し南に方向転換して南西端に至る溝状遺構である。幅は0.35～1.0ｍ、深さは50～68cmを



第21図　ＳＲ-01　遺構実測図



第22図　Ⅳ区南壁西端部　断面層序図

測り、南の方が若干低い。出土遺物は少ないが、13～14世紀代の区画溝と推定される。

ＳＤ-03　調査区の中央付近に東西方向に延びる溝状遺構で、幅30～88cm・深さ５～13cmを測る。覆土には砂粒を含まず、区画・境界溝と思われる。出土遺物は少ない。

ＳＲ-01（第21・22図）　調査区の南西部から西壁沿い中央付近にかけて検出した道路状遺構である。南壁でのみ規模が確認できた。上面の掘削幅は3.88ｍで、東壁はテラスを１段有し、底面へ至る。道路面までの深さは66cmである。平坦な道路面の幅は１ｍ程度で、西側に側溝を設けている。側溝は道路面よりも８cm深く、長さ1.25ｍのみ遺存する。また最下層（７層）の上面はやや硬化しており、一時的に側溝を歩いたことが窺える。出土遺物は若干あるが、下層の色調が16世紀末～17世紀前半の特徴である青灰色系に近い反面、Ⅲｂ'層上面から掘り込んでおり、Ⅲａ層に被覆されていることから、15世紀後半～16世紀前半頃の年代が推定される。覆土の３ａ・ｃ層はⅣ層塊を含んでおり、東側を削って埋めて２次面とした可能性が高い。

３．近世

近世では大型土坑１基のほか、流路状遺構１条、道路跡１条があり、覆土は淡灰色～灰色系である。

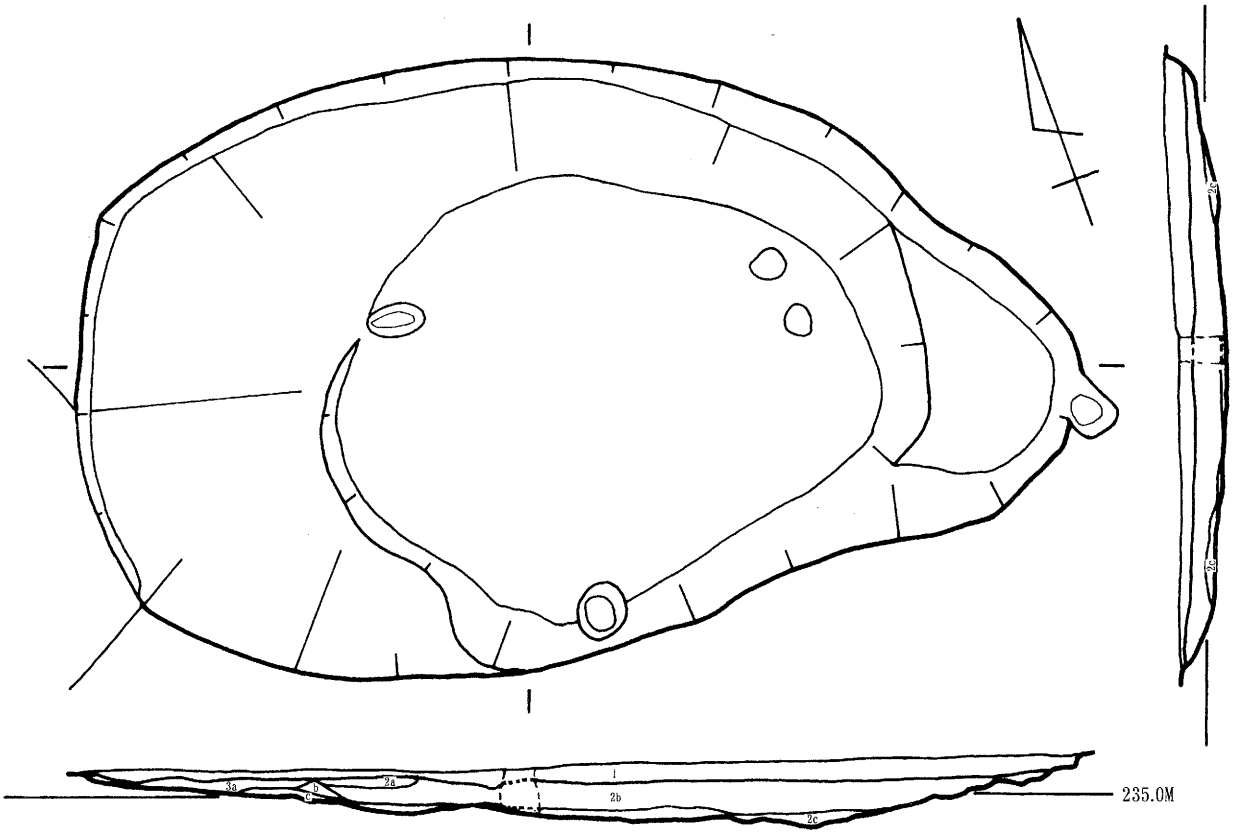
ＳＺ-01　01号溝の北端屈曲部の、近世の流れ込み痕であり、覆土には粗細砂を含む。

ＳＺ-02（第23図）　ＳＺ-01とほぼ同時期の、長径6.66ｍ・短径4.04ｍの不整楕円形を呈する土坑である。深さは28～42cmを測り、底面は長径3.6ｍ・短径2.8ｍの楕円形を呈する。出土遺物としては古代～中世の土師器や輸入陶磁器・近世国産陶磁器（69～72）などがあるが、機能は推定できない。

ＳＺ-03（第24図）　調査区の南東部で不明瞭な略隅丸方形のプランを検出した。壁面はオーバーハングし、人為的ではないことから、自然陥没坑と判断した。覆土から、近世前半の国産陶磁器２点（67、68）などが出土している。

4．小結

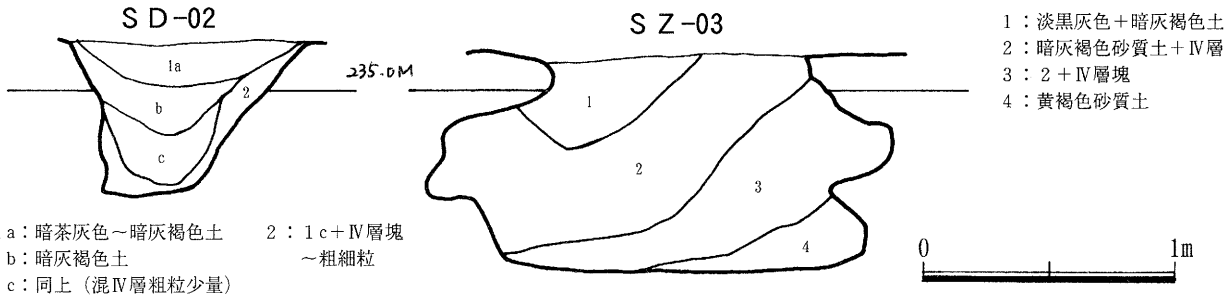
当地区では、中世前半を中心とする集落跡で、区画溝による地区割りもされていたようである。さらに掘立柱建物跡は３～４棟、柵状遺構は２～３例ありそうであるが、推定の域をでないので、復元は割愛している。円形土坑の殆どは幼児～子供の墓と推定され、この土壙墓群は主として13～14世紀に、溝で囲まれた敷地の北～西縁に営まれた様子が窺える。



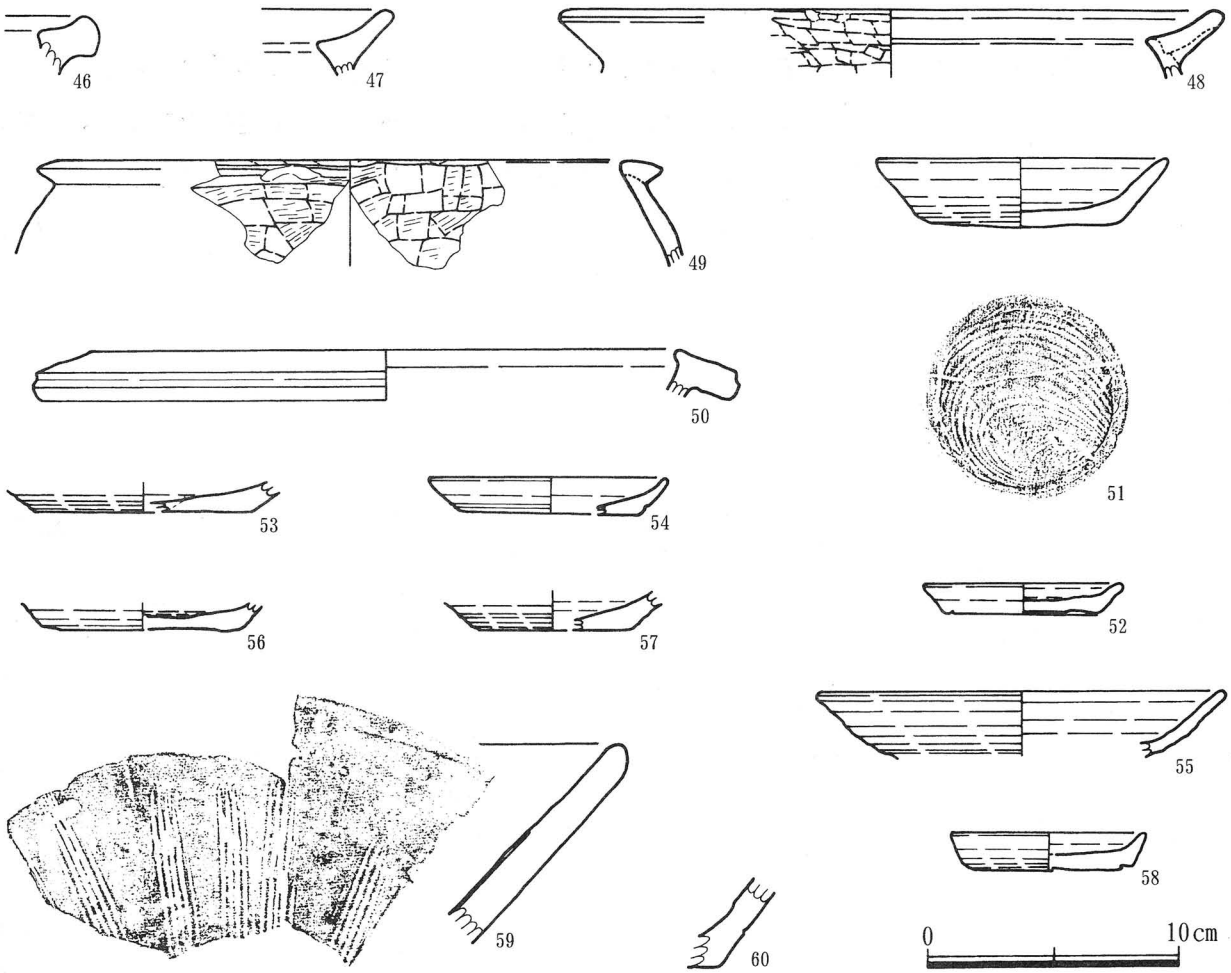
1：灰褐色～暗灰褐色土（粘質）
2a：Ⅳ層＋1
b：同上（混淡黒灰色土塊少量）
c：暗灰色砂質土＋Ⅳ層粗細粒
3a：Ⅳ層粗細粒（混暗灰色土）
b：灰色～暗灰色微砂質土
c：2cと同じ
d：茶褐色＋灰色粘質土

0　1　2m

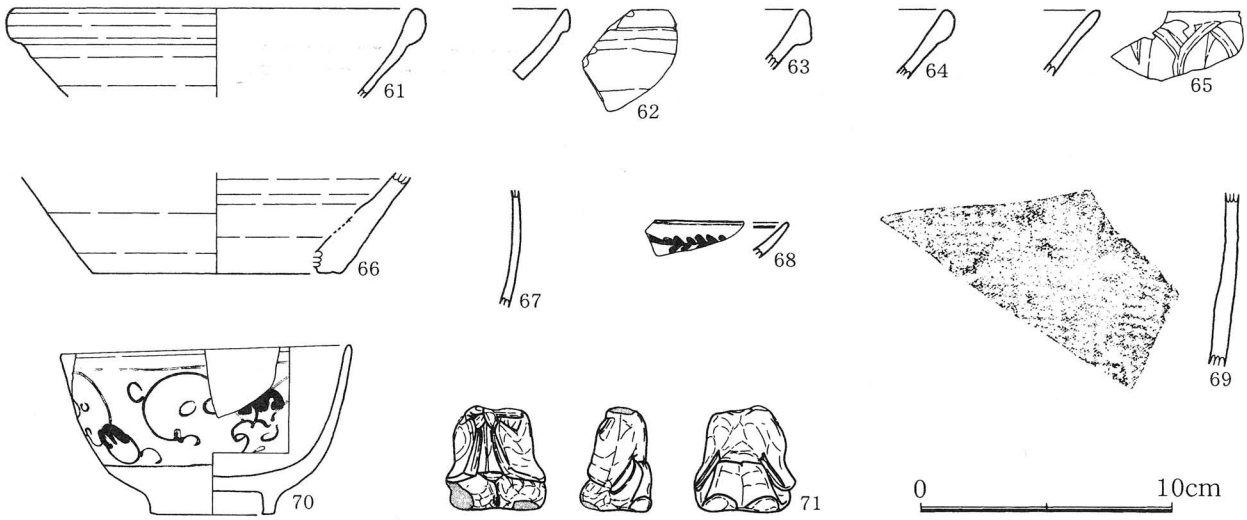
第23図　ＳＺ-02　遺構実測図



第24図　ＳＤ-02・ＳＺ-03　断面層序



第25図　Ⅳ区出土遺物実測図　**51**：SK-02　**52・53**：SK-09　**54**：SK-16　**55～57**：SK-19　**58**：SZ-03　**59・60**：SK-13



第26図　Ⅳ区出土　輸入陶磁器・近世国産陶磁器実測図　**62・67・68**：ＳＺ-03　**63**：ＳＤ-03　**64**：ＰＰ-130　**65**：ＳＫ-13　**66**：ＳＺ-01　**69～71**：ＳＺ-02

表７　Ⅳ区出土遺物観察表（１）　土器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調　整		胎　土	焼　成	色　調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第25図 46	Ⅲ層	弥生土器	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ	微粒石英多量 角閃石少量	良	茶灰～暗灰褐	灰褐～淡茶褐	
47	Ⅲ層	弥生土器	甕	—	—	—	ナデ	—	微砂・ 角閃石やや多い	良	淡茶褐～淡灰褐	淡灰黄～淡黄	内面：マメツ 48と同一個体か
48	ＳＺ-01	弥生土器	甕	265	—	—	工具ナデ	ナデ	微細砂・ 角閃石やや多い	良	淡黄褐～淡黄	淡黄～暗茶灰	
49	Ⅲ層	弥生土器	甕	249	—	—	工具ナデ	工具ナデ	石英粗細粒やや多い 角閃石少量	良	淡茶褐～茶褐 体部下半は黒斑	黄褐～淡灰褐	
50	ＳＫ-13	弥生土器	壷	233	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量 茶褐色粒やや多い	良	淡橙褐～淡茶灰	淡橙	
51	ＳＫ-02	土師質土器	Ⅲ	117	68	28	ナデ～工具ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡茶黄～淡褐	淡褐	糸切り
52	ＳＫ-09	土師質土器	Ⅲ	79	62	13	ナデ	ナデ	精良	あまい	淡褐	淡褐	糸切り
53	ＳＫ-09	土師質土器	Ⅲ	—	86	—	ナデ	ナデ	茶褐色粒少量	ややあまい	灰褐～暗灰褐	淡灰褐～淡褐	糸切り
54	ＳＫ-16	土師質土器	Ⅲ	96	74	15	—	—	赤褐色粒少量	ややあまい	淡灰褐～淡橙褐	淡褐～淡橙褐	両面：マメツ 糸切り
55	ＳＫ-19	土師質土器	Ⅲ	163	—	—	ナデ	—	赤褐色粒少量	ややあまい	淡橙～黄褐	淡橙～黄褐	内面：マメツ
56	ＳＫ-19	土師質土器	Ⅲ	—	80	—	—	—	赤褐色粒少量	良	橙褐～淡灰褐	淡褐	両面：ややマメツ 糸切り
57	ＳＫ-19	土師質土器	Ⅲ	—	64	—	—	—	精良	ややあまい	褐～淡黄褐	暗褐	両面：マメツ 糸切り
58	ＳＺ-03	土師質土器	Ⅲ	78	58	15	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙褐	淡橙～淡褐	糸切り
59	ＳＫ-13	備前焼系か	擂鉢	—	—	—	ハケ～粗ナデ	ナデ	淡黒褐色粒 やや多い	良	灰～淡灰	灰～淡灰	14ｃ
60	ＳＫ-13	常滑か	壺甕類	—	—	—	ナデ	ナデ	石英少量	良好	暗褐	淡青灰	12～14ｃ前

表８　Ⅳ区出土遺物観察表（２）　陶磁器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露　胎	胎土色	釉　調		産　地	年代・備考
				口径	底径	器高				外　面	内　面		
第26図 61	Ⅲ層	白磁	碗	165	—	—	—	—	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14ｃ前
62	ＳＺ-03	白磁	碗	—	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	中国	12～13ｃ
63	ＳＤ-03	白磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14ｃ前
64	ＰＰ-130	白磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14ｃ前
65	ＳＫ-13	青磁	碗	—	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰～淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14ｃ前
66	ＳＺ-01	褐釉陶器	瓶壷類	—	98	—	—	畳付き	淡灰～灰	暗緑褐	暗緑褐	中国	12～13ｃ
67	ＳＺ-03	褐釉陶器	袋物	—	—	—	タタキ	内面上半	灰～灰青	暗褐灰	黒褐	薩摩か	17ｃ初
68	ＳＺ-03	染付	Ⅲ	—	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前	17ｃ後～18ｃ初
69	ＳＺ-02	陶器	甕	—	—	—	格子目タタキ	—	外面：暗褐、内面：暗茶褐～暗紅茶	—	—	肥前	17ｃ中～18ｃ前
70	ＳＺ-02	染付	碗	115	50	68	砂目	畳付き	白	紺	紺、底：白色自然釉斑状	肥前	1610～40年代
71	ＳＺ-02	土製品	土人形	—	—	(42)	型造り	—	淡褐	—	—	関西か	横笛を吹く官女か 18～19ｃ

第７節　Ⅴ～Ⅵ区（第25図）

１．はじめに

便宜的にⅤ区とⅥ区に分けたが、遺構番号をⅣ区から継続したため、一括して記述する。

土層の堆積状況は、Ⅳ区と一見同じであるが、Ⅲ層に含まれる遺物の殆どは弥生時代後期～古墳時代前期の土器片である。中世の遺構面は、Ⅲ層上面である。Ⅵ区の南側からは、幾筋もの自然流路が砂礫層となって入り込んでいる。遺構面となるⅣ層も、上面～上層（Ⅳａ層、10～15cm）には相当量の遺物を含む。

２．調査方法

重機によって漸移層（Ⅲｃ層）もしくはⅣａ層上面まで剥ぎ、遺構検出を行ない、明瞭に検出できる古代～中世の溝状遺構や柱穴群・土坑および弥生～古墳時代の土坑の調査から開始した。Ⅴ区では、それと並行してⅢｃ層を掘り上げ、竪穴住居として予想される直径数ｍの淡黒灰色土が点在

する所は、十文字にトレンチを設けて遺構面と床面・壁を確認して、その範囲についてはⅣａ層を掘り下げて、プランを検出した。この段階では01・02・04・05～09号住居を確認し、追確認のトレンチ調査で10～14号住居を検出した。12号住居については、航空写真終了後再調査した結果、北～西側が大きく広がった。

Ⅵ区の北側約20ｍの範囲は、Ⅲ層（遺物包含層）の調査から入った。柱穴群を除く南側についてはⅣａ層を全面掘り下げた。この段階では15・17・18号住居の３基のみ検出したが、追確認で16・19号住居を検出した。

全ての遺構を調査した後、遺構覆土に類似する土壌が広がる部分についてはトレンチ掘りで有無を確認した。また、基本的層序や下層の年代確認のために深掘坑を５ヶ所設定し、掘り下げ途中で20・21号住居と09号溝を検出した。

３．古代末～中世の調査

掘立柱建物跡11棟を南東部と中央北側～西縁にかけて検出したほか、溝状遺構２条（ＳＤ-06・08）、土坑群などがある。

ＳＢ-02（第28図）　Ⅴ区の東寄り中程に位置した、梁行２間（4.57～4.60ｍ）・桁行２間（5.73～5.76ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径14～22㎝・深さ10～53㎝を測る。主軸方位は、Ｎ３°Ｅである。

ＳＢ-03（第29図）　02号建物の1.5ｍ南に位置した、梁行２間（4.87ｍ）・桁行３間（8.10～8.48ｍ）の南北方向の建物跡であり、当遺跡で最大の建物跡である。柱穴の規模は、直径26～32㎝・深さ42～76㎝を測る。主軸方位は、Ｎ８°Ｅである。

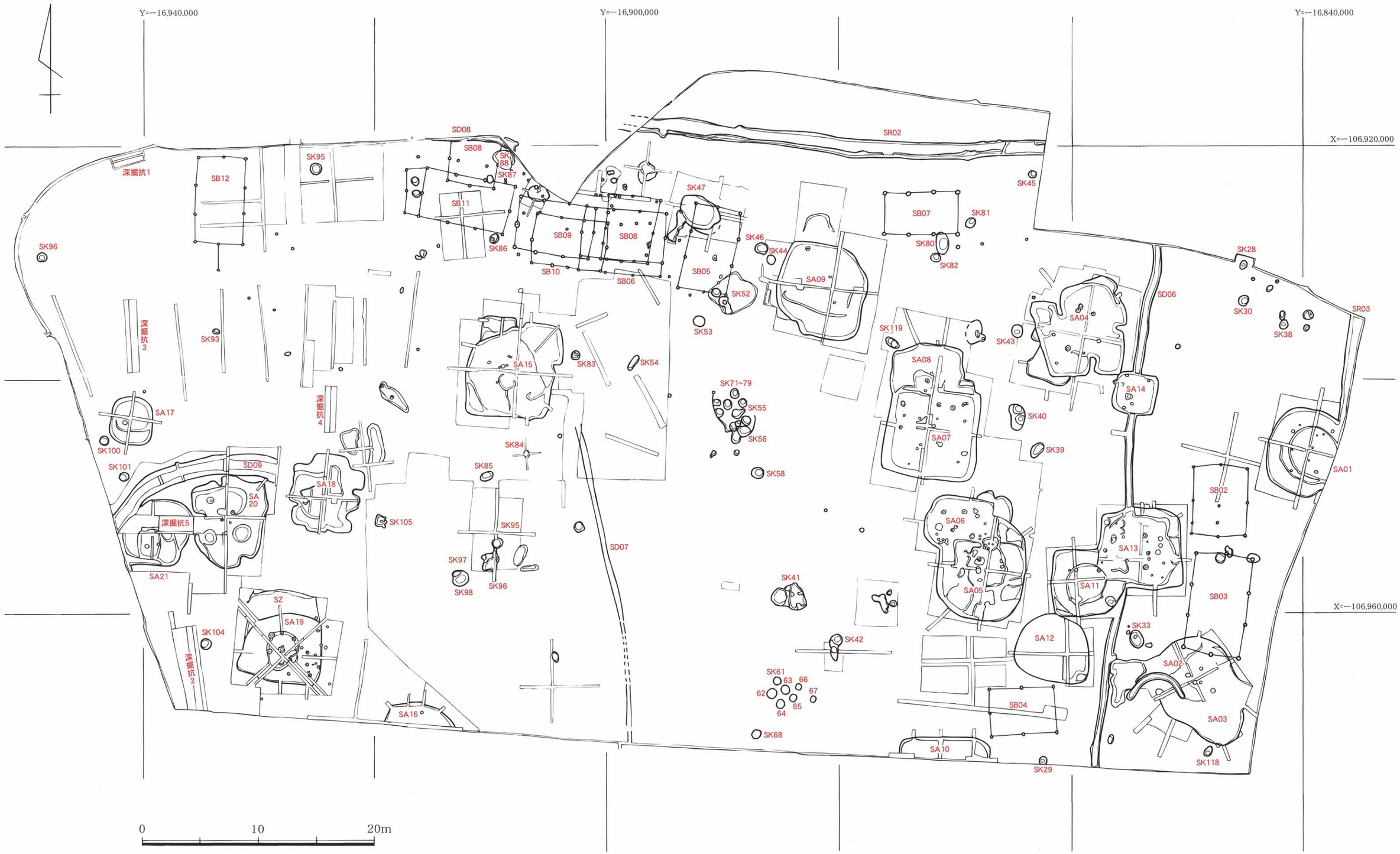
ＳＢ-04（第30図）　02号建物から12ｍほど西南西に離れた位置にある、梁行２間（3.96～4.07ｍ）・桁行２間（5.50～5.66ｍ）の東西方向の建物である。東梁中央の柱穴は、試掘調査時に削失したと思われる。柱穴の規模は、直径17～30㎝・深さ26～34㎝を測る。主軸方位はＮ85°Ｅである。

ＳＢ-05（第30図）　調査区の北側中央部に位置した、梁行２間（3.94～4.13ｍ）・桁行３間（7.11～7.41ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～31㎝・深さ17～50㎝を測る。主軸方位は、Ｎ12°Ｅである。

ＳＢ-06（第31図）　05号建物の西約２ｍ・08～10号建物と重複した、梁行２間（4.25～4.28ｍ）・桁行３間（6.88～7.12ｍ）の東西方向の建物で、南面に幅半間の廂を有する。柱穴の規模は、直径18～30㎝・深さ20～47㎝を測る。主軸方位は、Ｎ85°Ｗである。北東隅の柱穴から、白磁碗の破片（84）が出土している。

ＳＢ-08（第33図）　05号建物の西桁の５ｍ西で並行する、梁行２間（4.08～4.44ｍ）・桁行２間（5.50～5.54ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径16～21㎝・深さ10～42㎝を測る。主軸方位は、Ｎ８°Ｅである。

ＳＢ-09（第34図）　08号建物の１ｍ西に位置した、梁行２間（4.34～4.38ｍ）・桁行３間（6.44



第27図　Ⅴ・Ⅵ区　遺構分布図

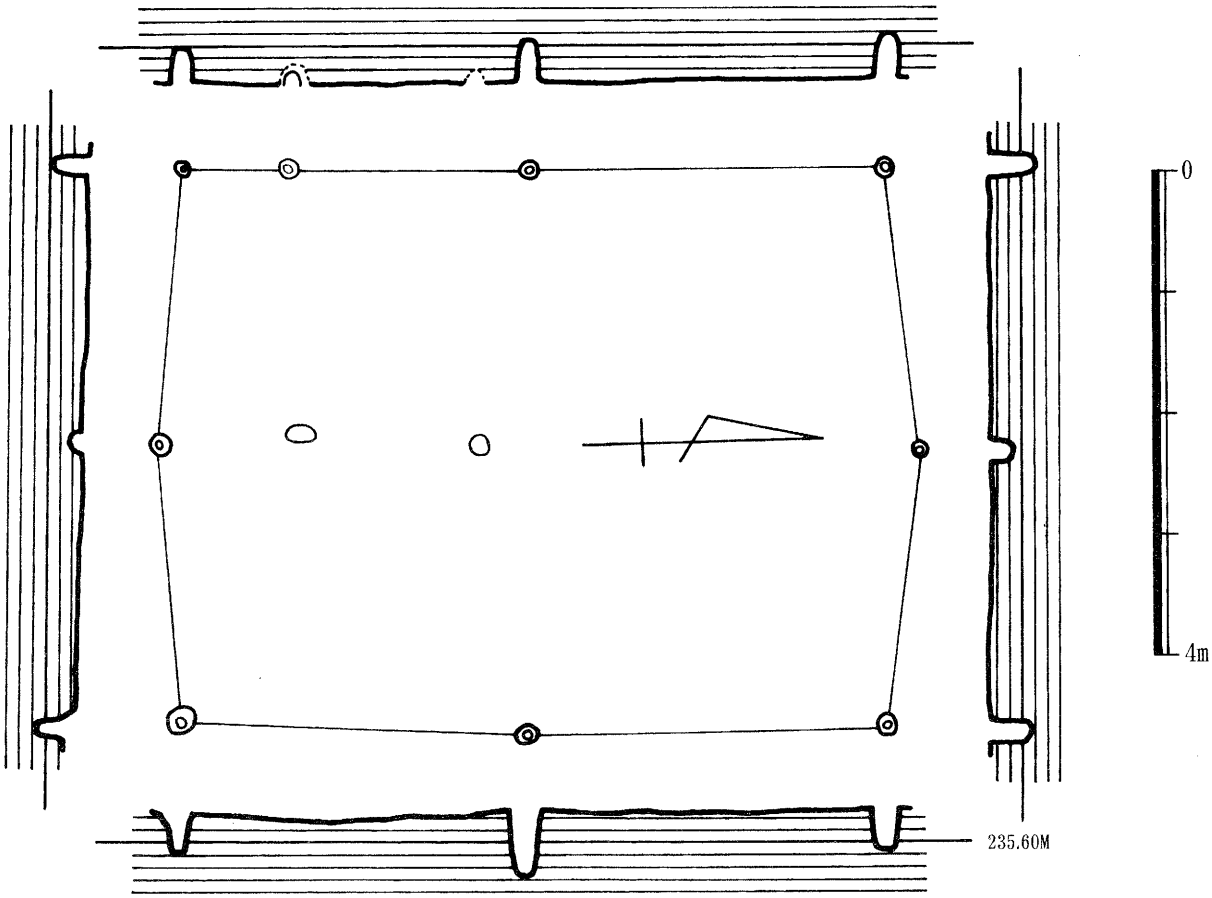
～6.48m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～64cm・深さ40～68cmを測る。主軸方位は、N81°Wである。北面桁行の東から２番目の柱穴から土師質土器皿（75）が、南西隅の柱穴から白磁碗の破片（88）が出土している。

ＳＢ-10（第34図）　09号建物の１ｍ強南東に位置した、梁行２間（4.20～4.27ｍ）・桁行３間（6.03～6.20ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径19～27cm・深さ18～41cmを測る。主軸方位は、N83°Wである。

ＳＢ-11（第35図）　09号建物の西１ｍに位置した、梁行２間（4.15～4.18ｍ）・桁行３間（7.30～7.72ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～29cm・深さ38～84cmを測る。主軸方位は、N78°Wである。西梁には、幅1.25～1.74ｍの廂が付くかもしれない。身舎の北西隅の柱穴から土師質土器皿（72）と白磁碗の破片（85・89）が出土している。

ＳＢ-12（第36図）　調査区の北西部に位置した、梁行２間（4.01～4.03ｍ）・桁行３間（7.24～7.38ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径15～22cm・深さ26～43cmを測る。主軸方位は、Ｎ２°Ｅである。南梁には、１間（2.23ｍ）南に独立棟持柱を有する可能性もある。

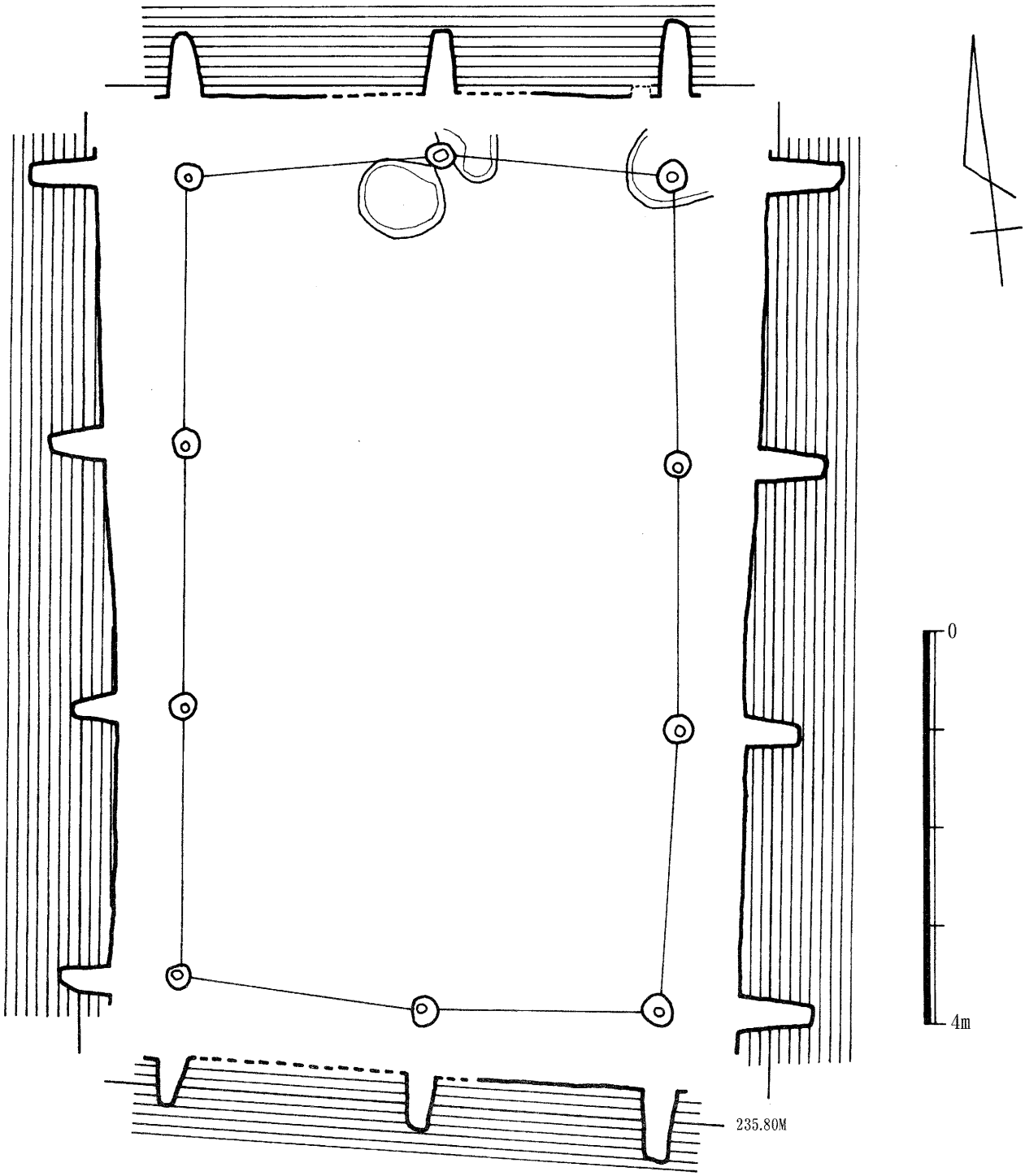
ＳＢ-13（第37図）　11号建物と重複した、梁行２間（4.04ｍ）・桁行２間（3.94ｍ）（推定３間）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径18～24cm・深さ32～65cmを測る。主軸方位は、Ｎ６°～11°Ｅである。東桁北端の柱穴は08号溝に上部を切られている。



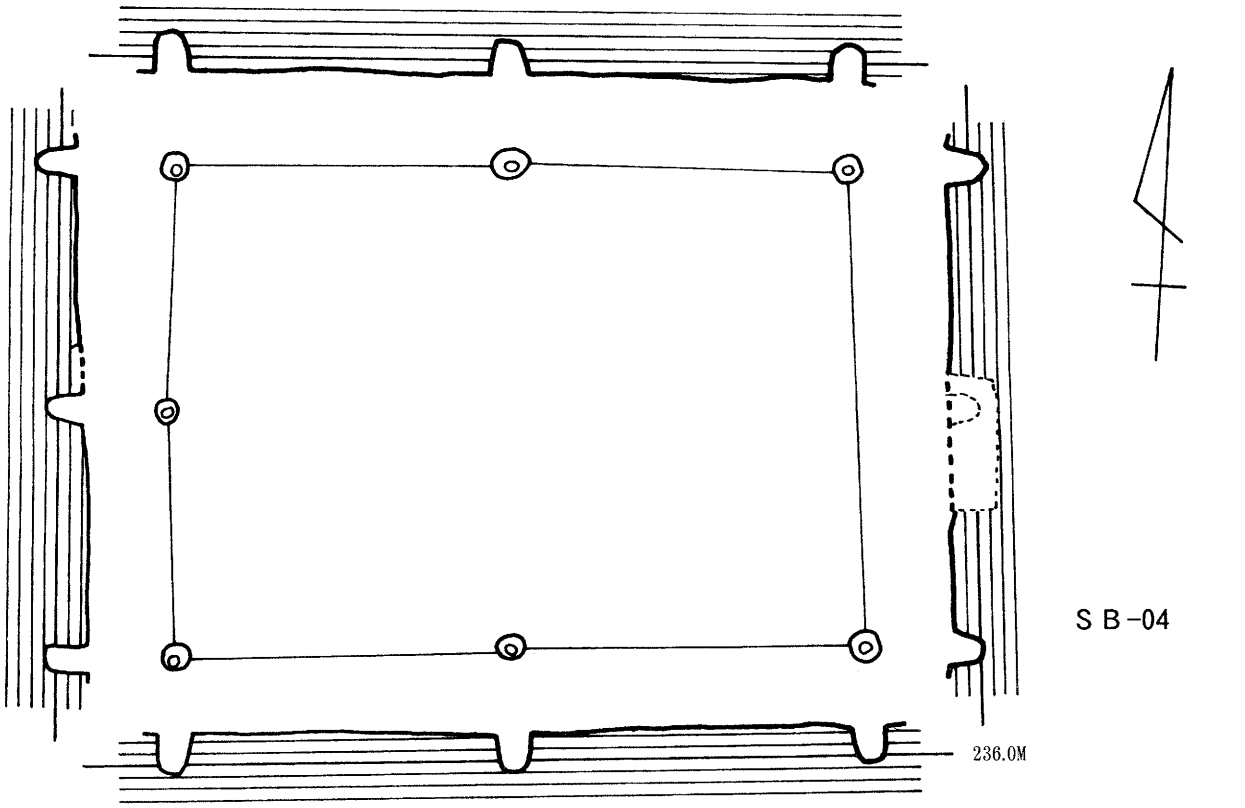
第28図　ＳＢ-02　遺構実測図

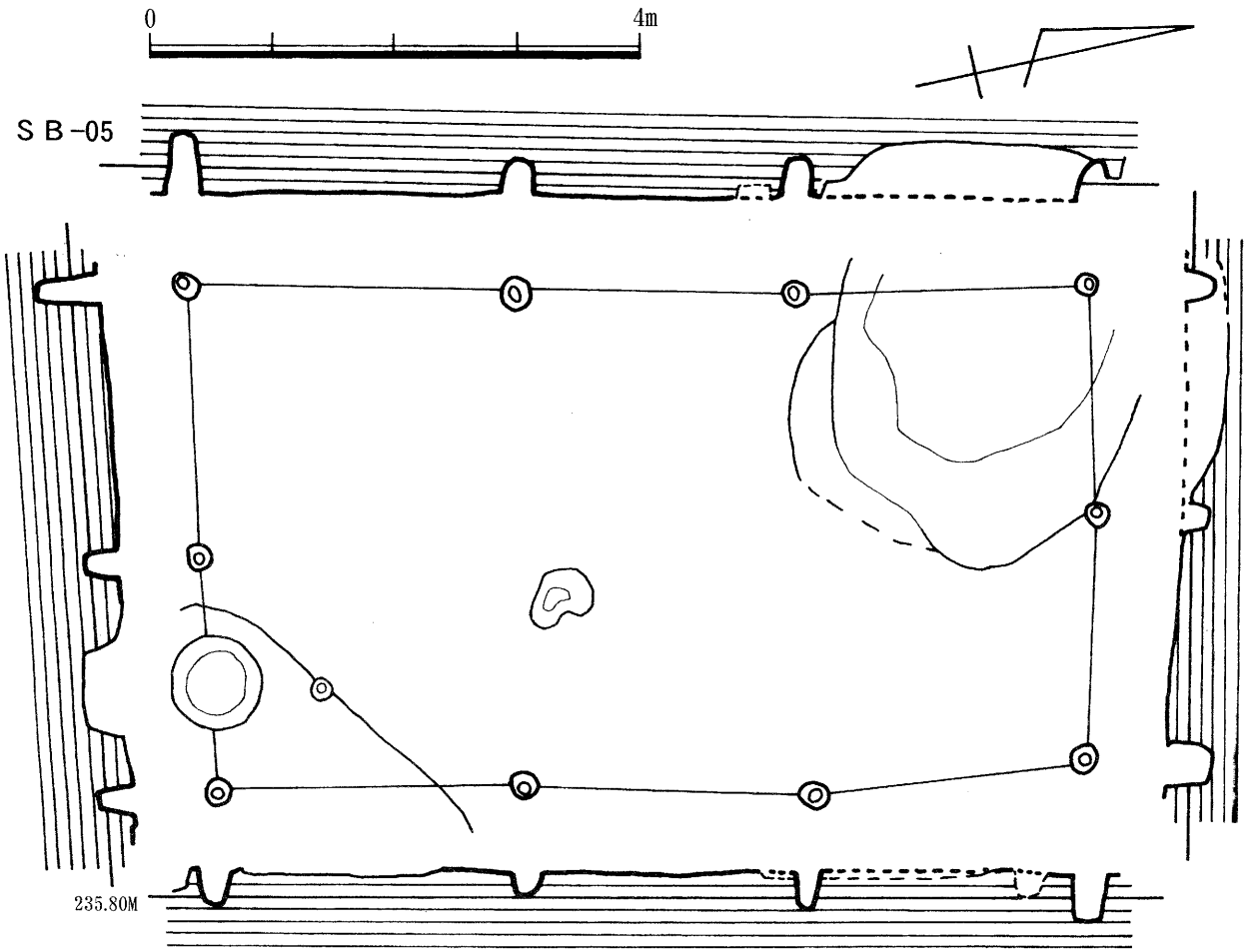
ＳＫ-61～67（第38図）　調査区の南縁中央部に位置した、直径56～96cmの円形を呈する土坑の一群で、深さは８～17cmである。副葬品的遺物は出土していないが、12～14世紀の小児～子供用土壙墓と推定している。

ＳＫ-55・56・73～79（第39図）　調査区のほぼ中央に位置した土坑群である。検出当初は、外縁の長径５ｍ・短径３ｍの不定形大型土坑（北東部の輪郭は不明瞭であった）として調査した（ＳＫ-55として）が、一段下げると、長径51～115cmの円～楕円形土坑を11基確認した。深さは18～28cm



第29図　ＳＢ-03　遺構実測図





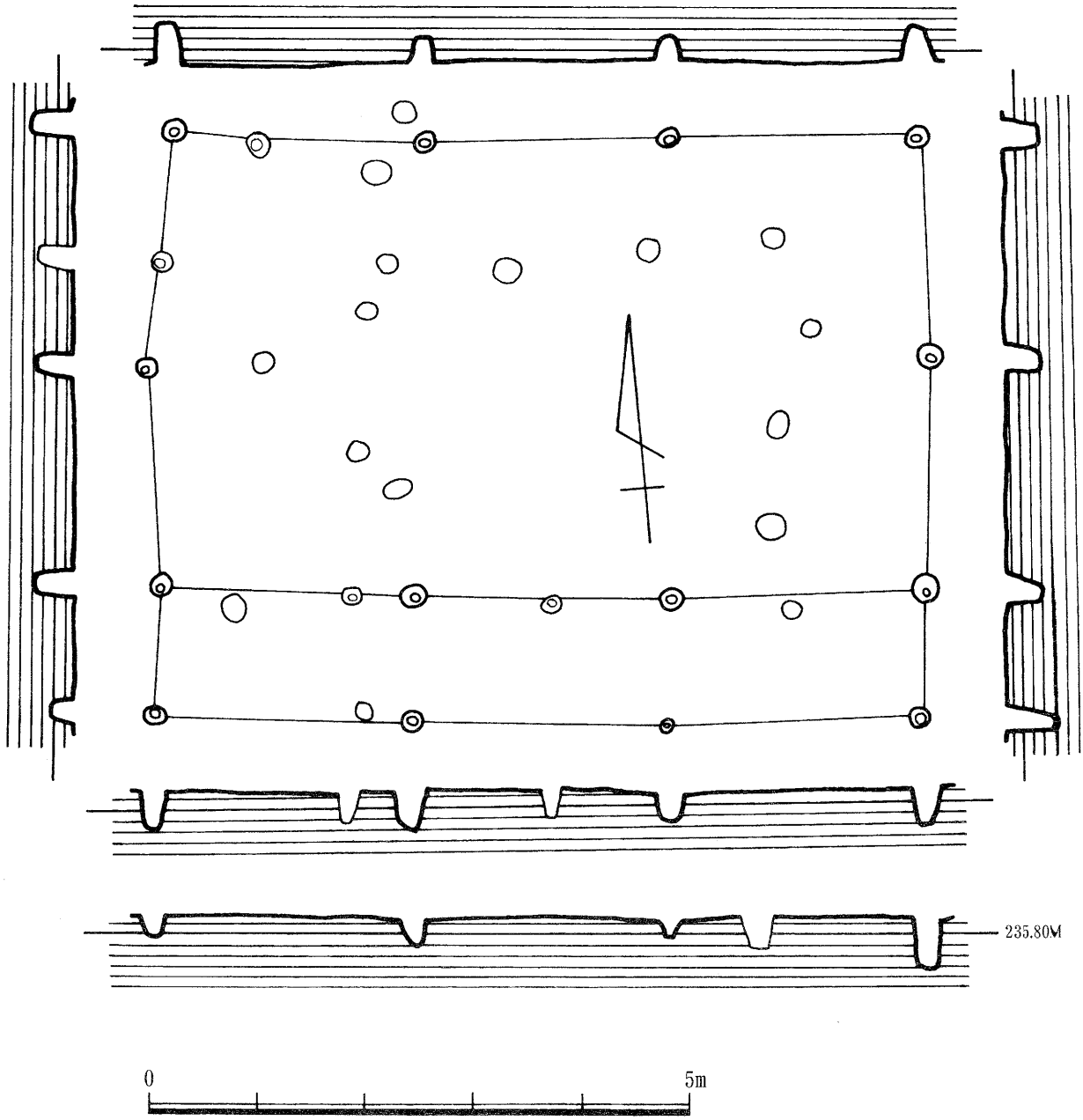
第30図　SB-04・05　遺構実測図

を測る。副葬品的遺物は出土していないが、小児～子供用土壙墓と考えている。

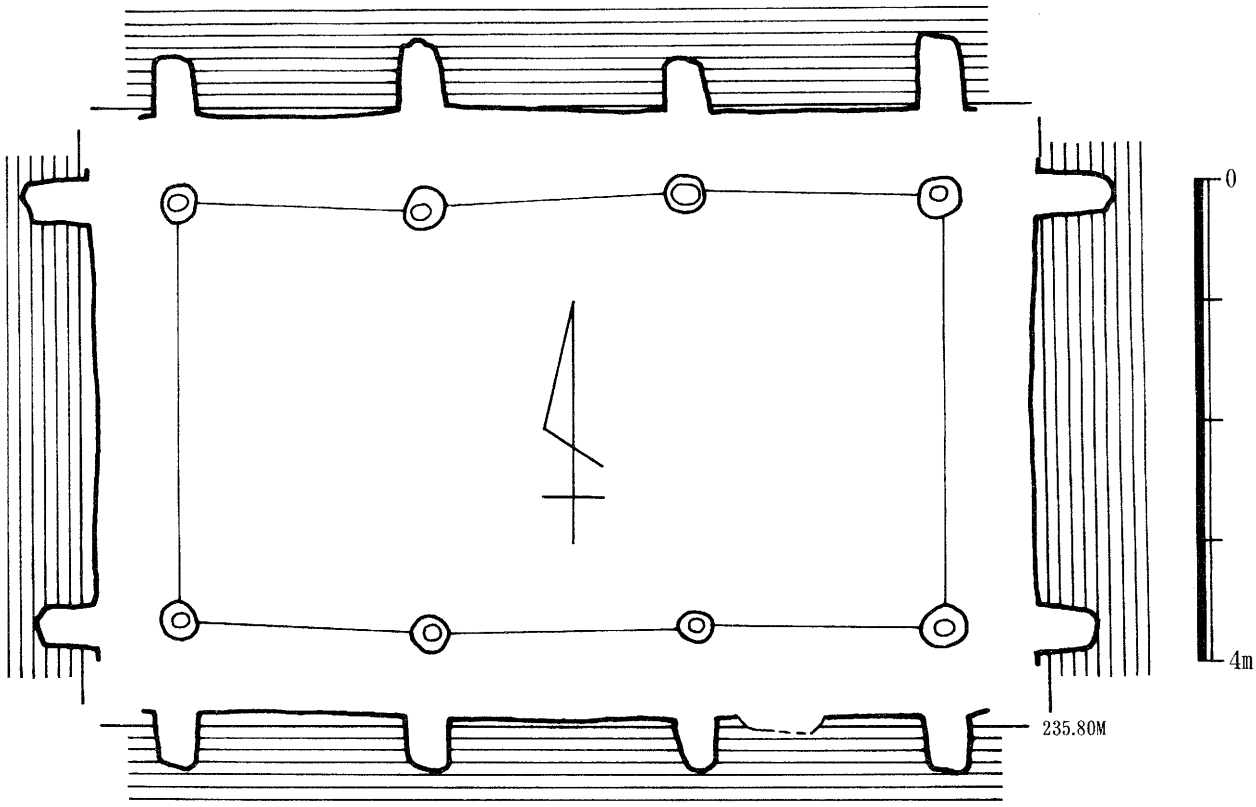
ＳＫ-100・101・114～116　単独で点在する、直径80㎝前後・深さ10～18㎝前後の土坑で、上記と同じ子供用土壙墓と推定される。副葬品等の遺物は無い。

ＳＤ-06　調査区東寄りの南北方向の溝状遺構で、幅は0.4～1.0ｍ、南端４ｍ程は深さ９㎝、幅は26～30㎝を測る。北壁断面観察では、Ⅲｂ層上面から切り込んでいる。出土遺物は少ないが、土師質土器皿（76）や白磁碗（91）が出土しており、12～13世紀代の区画溝と推定される。

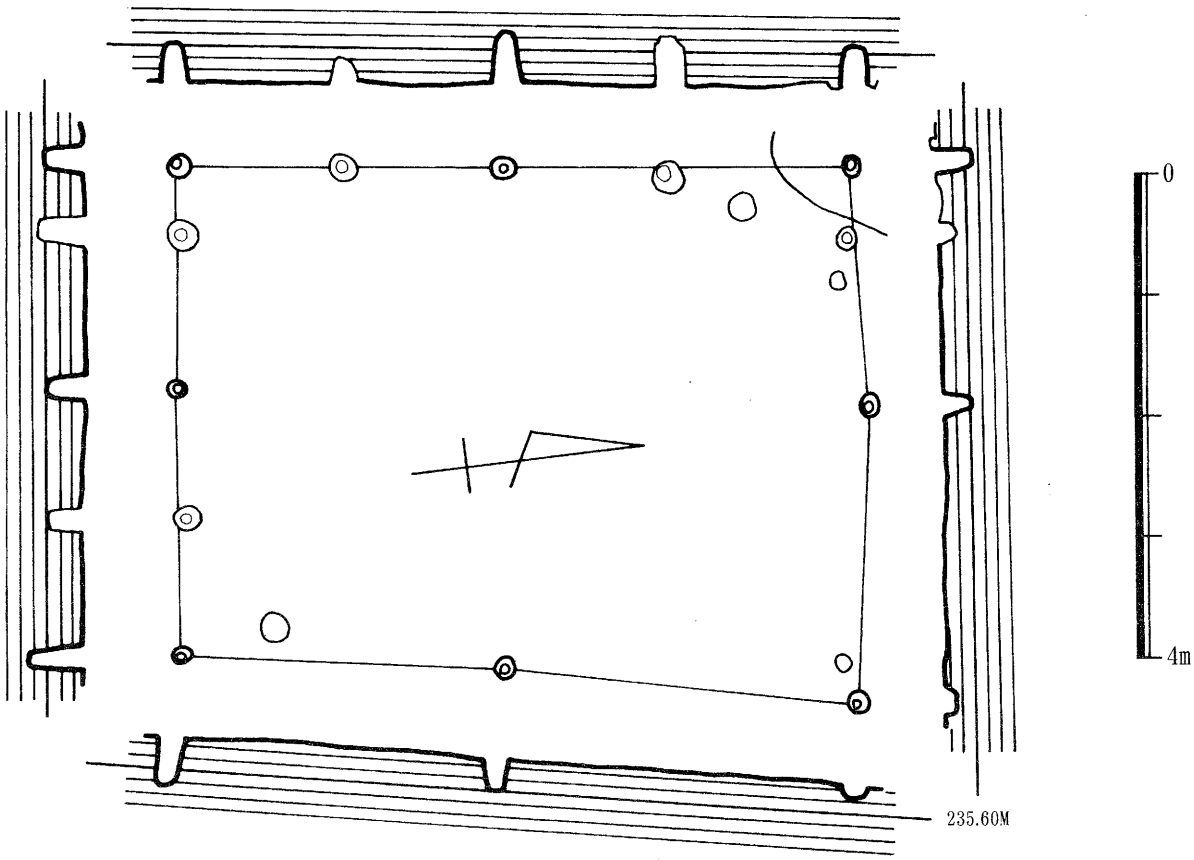
ＳＤ-08　13号建物と重複し、Ⅵ区北壁沿いに東西方向に位置する。東端部は調査区外で収束することが確認でき、幅が60～85㎝前後であることがわかった。深さは20㎝前後で、06号溝とほぼ直交する区画溝と思われる。



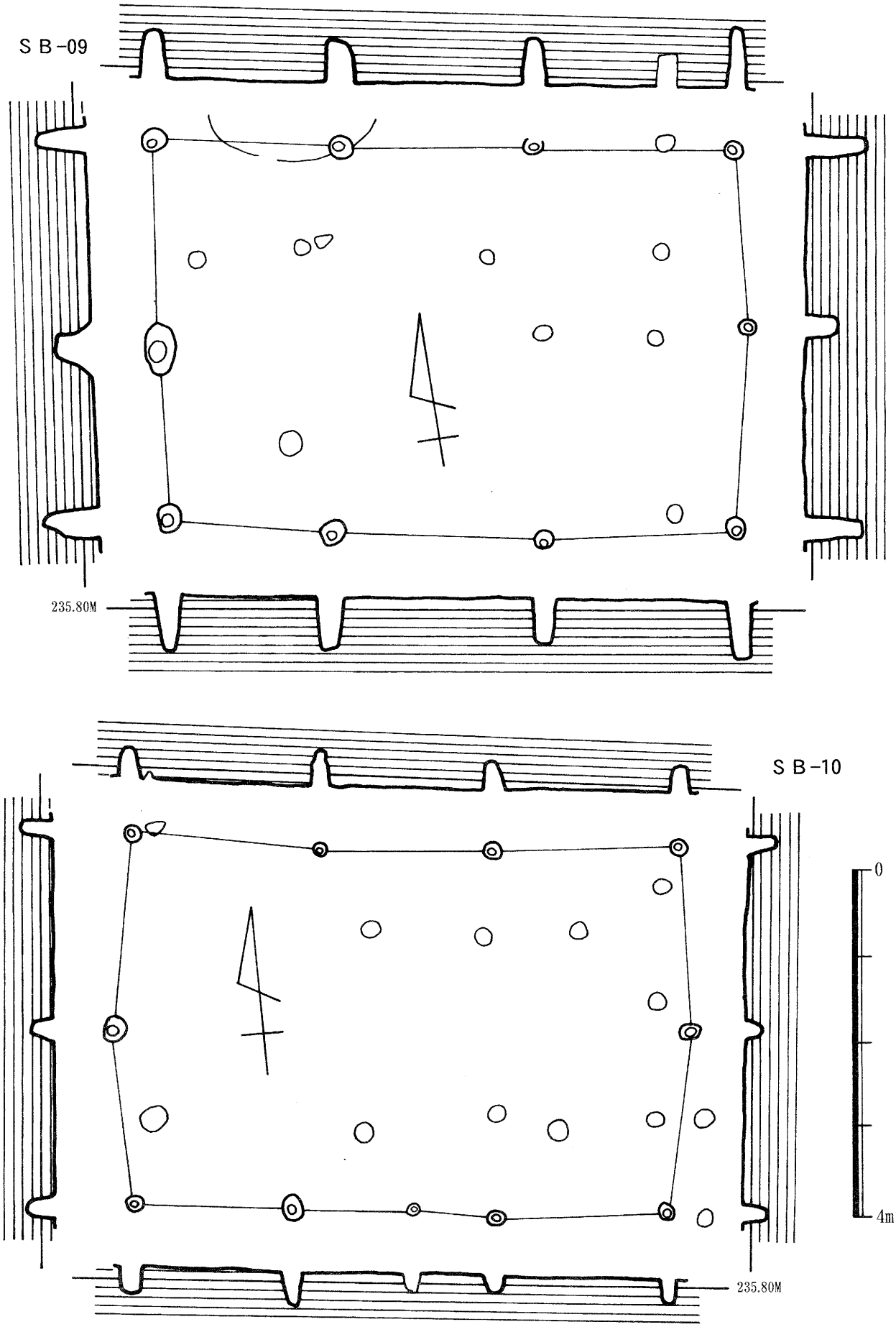
第31図　ＳＢ-06　遺構実測図



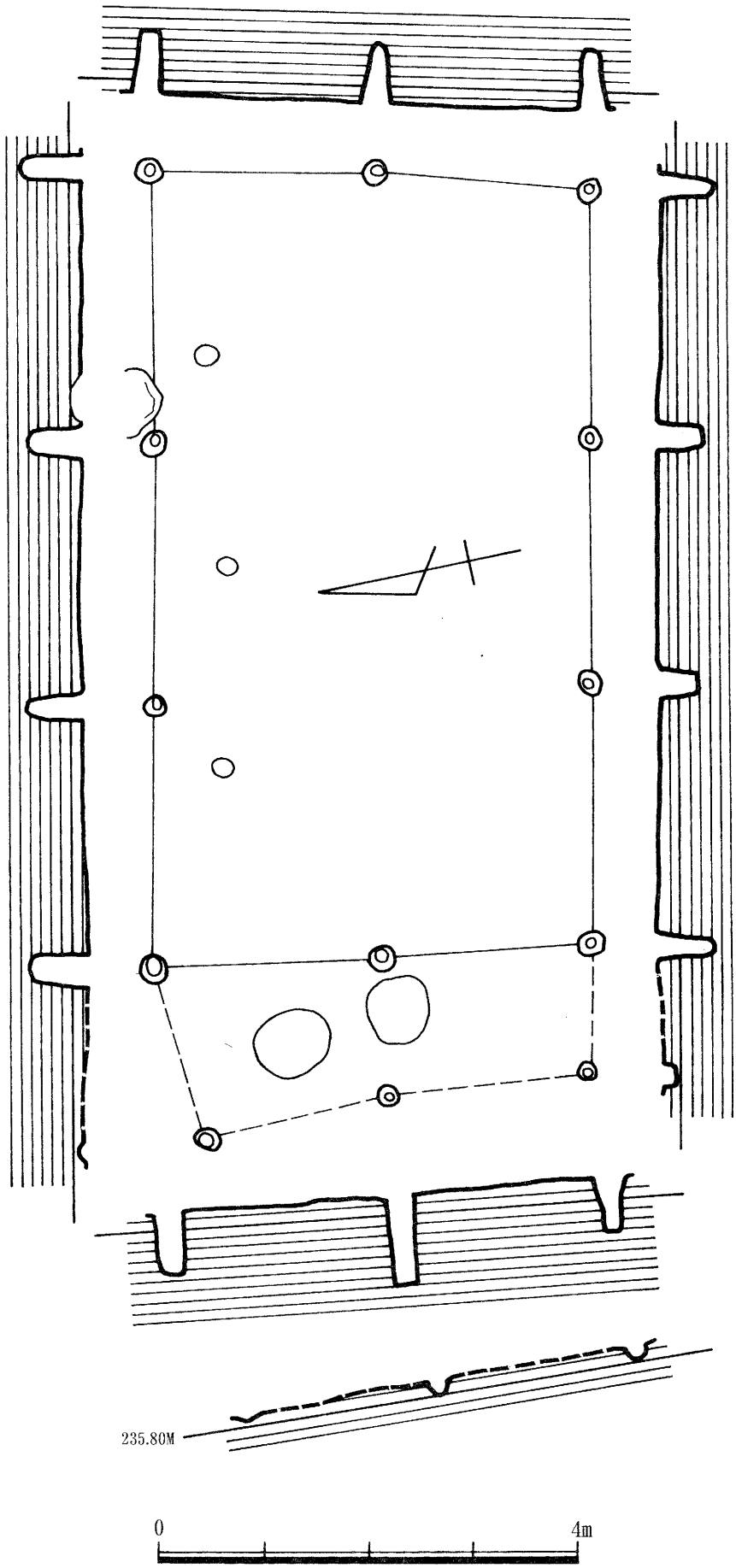
第32図　ＳＢ-07　遺構実測図



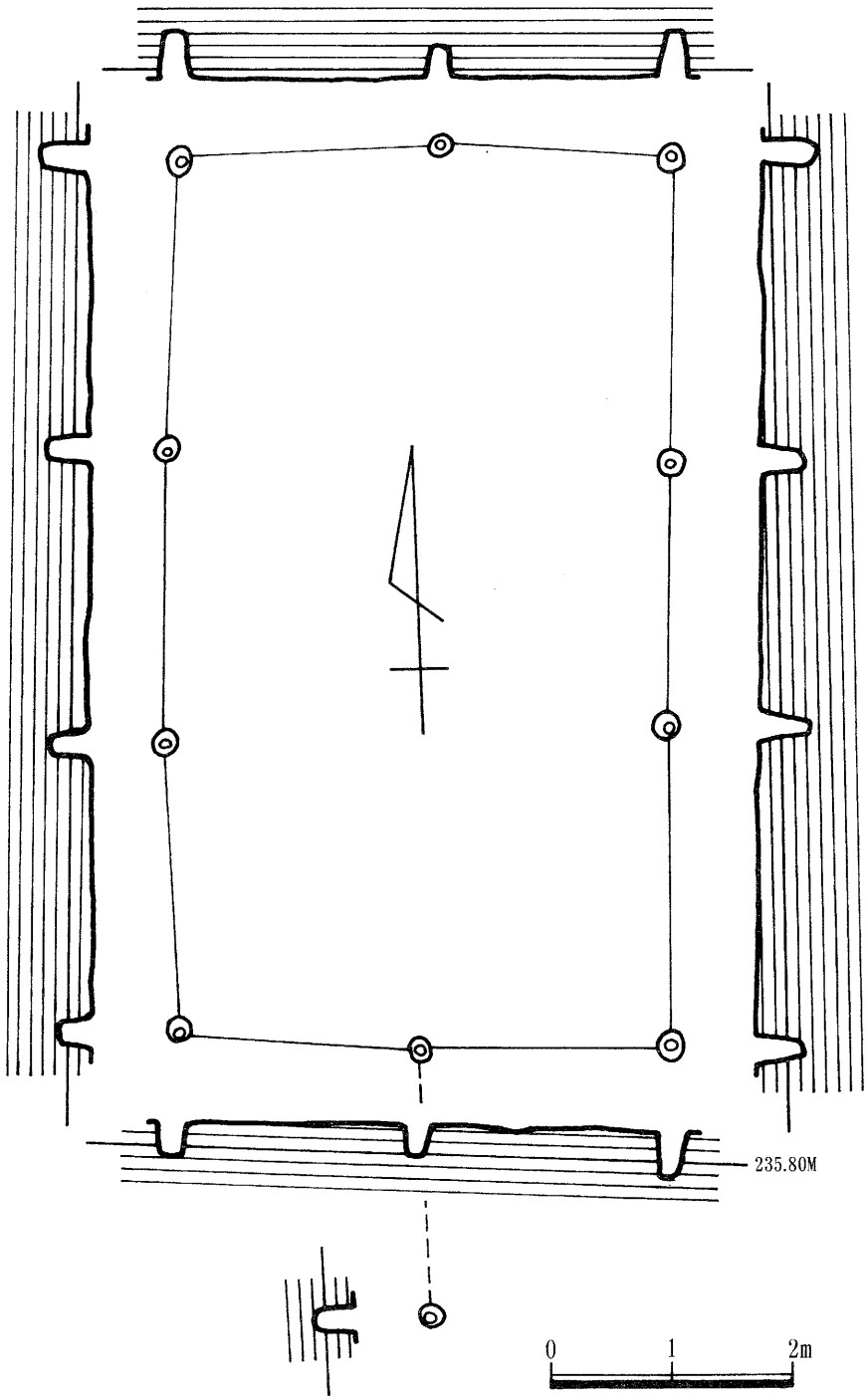
第33図　ＳＢ-08　遺構実測図



第34図　ＳＢ-09・10　遺構実測図



第35図　ＳＢ-11　遺構実測図

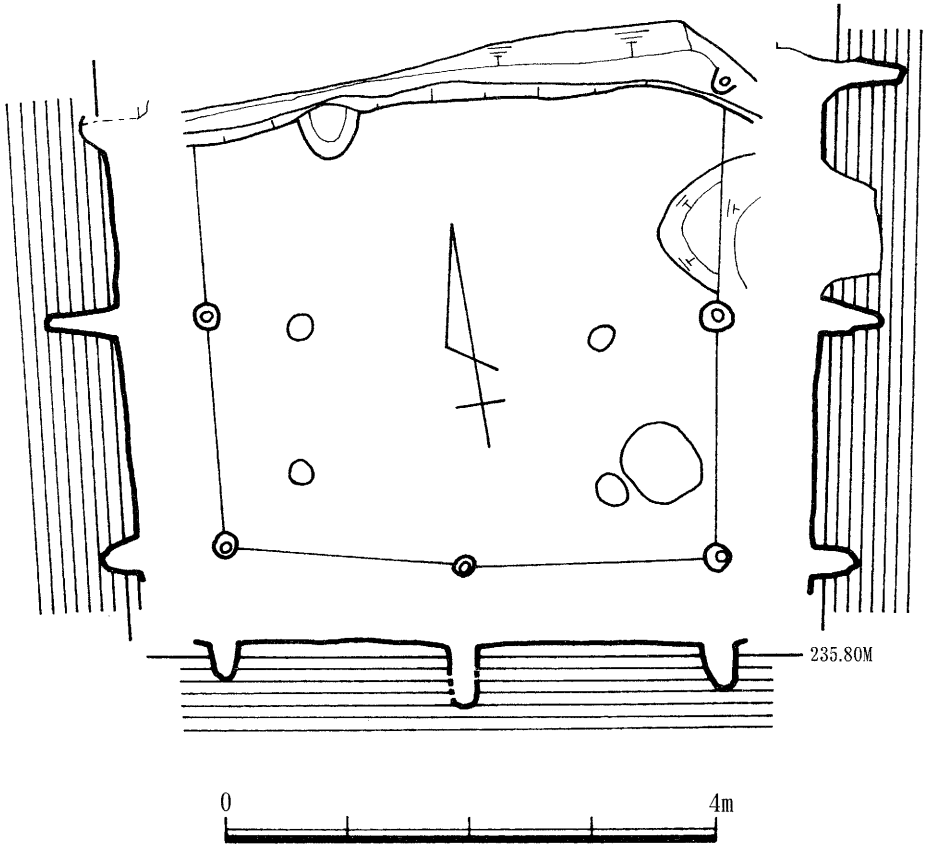


第36図　ＳＢ-12　遺構実測図

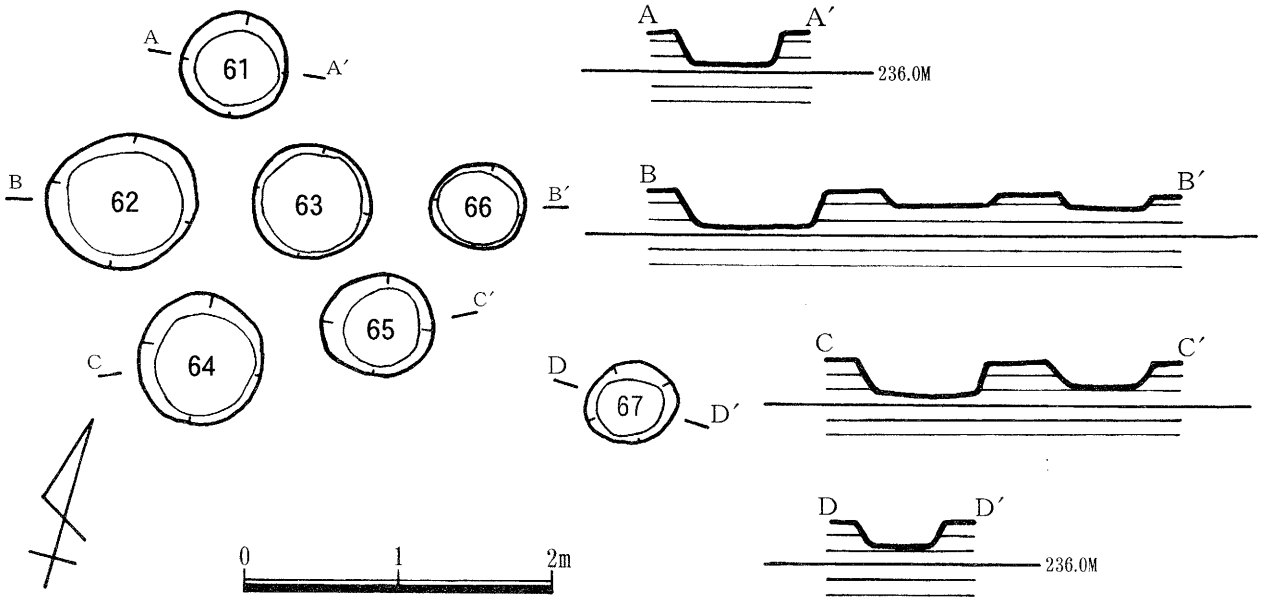
４．近世以降

掘立柱建物１棟のほか、土坑１基と溝状遺構１条・道路跡２条を検出した。覆土は淡灰色系である。

ＳＢ-07（第32図）　調査区の中央やや北東寄りに位置した、梁行１間（3.46～3.60ｍ）・桁行３間（6.23ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径26～36㎝・深さ42～62㎝を測る。主軸方位は、N89°Wである。南東端の柱穴から半間南にも同時期の柱穴があるが、07号建物に伴うかどうかは不明である。出土遺物は無い。



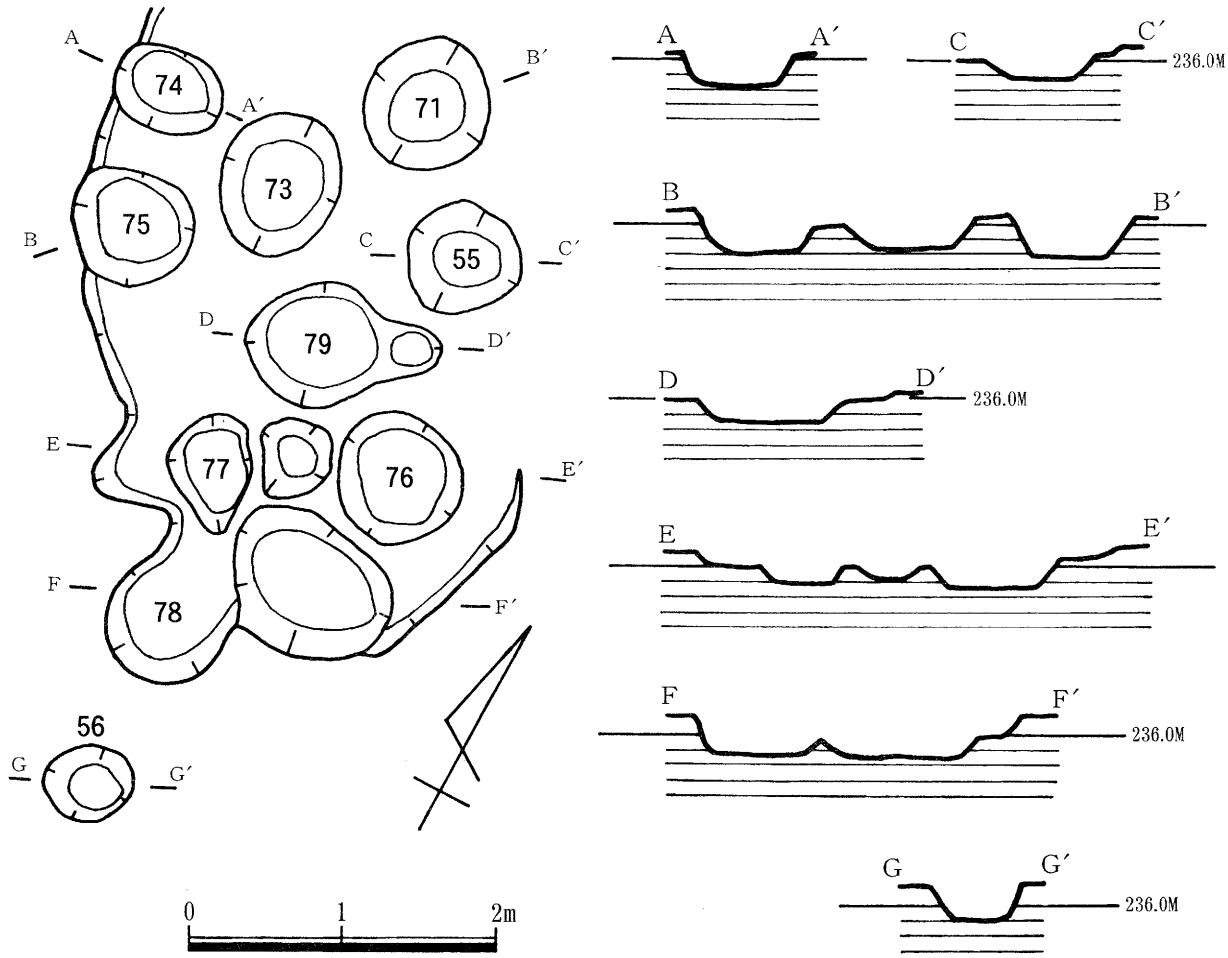
第37図　ＳＢ-13　遺構実測図



第38図　ＳＫ-61～67　遺構実測図

ＳＫ-68　調査区の南縁中央部に位置した、長径95cm・短径80cmの楕円形を呈する土坑で、深さは9～12cmである。出土遺物は無いが、形状から土壙墓と推定している。

ＳＤ-07　Ⅴ区とⅥ区の境、一筆境畦畔の直下に位置した、幅25～40cmの溝状遺構である。表土を

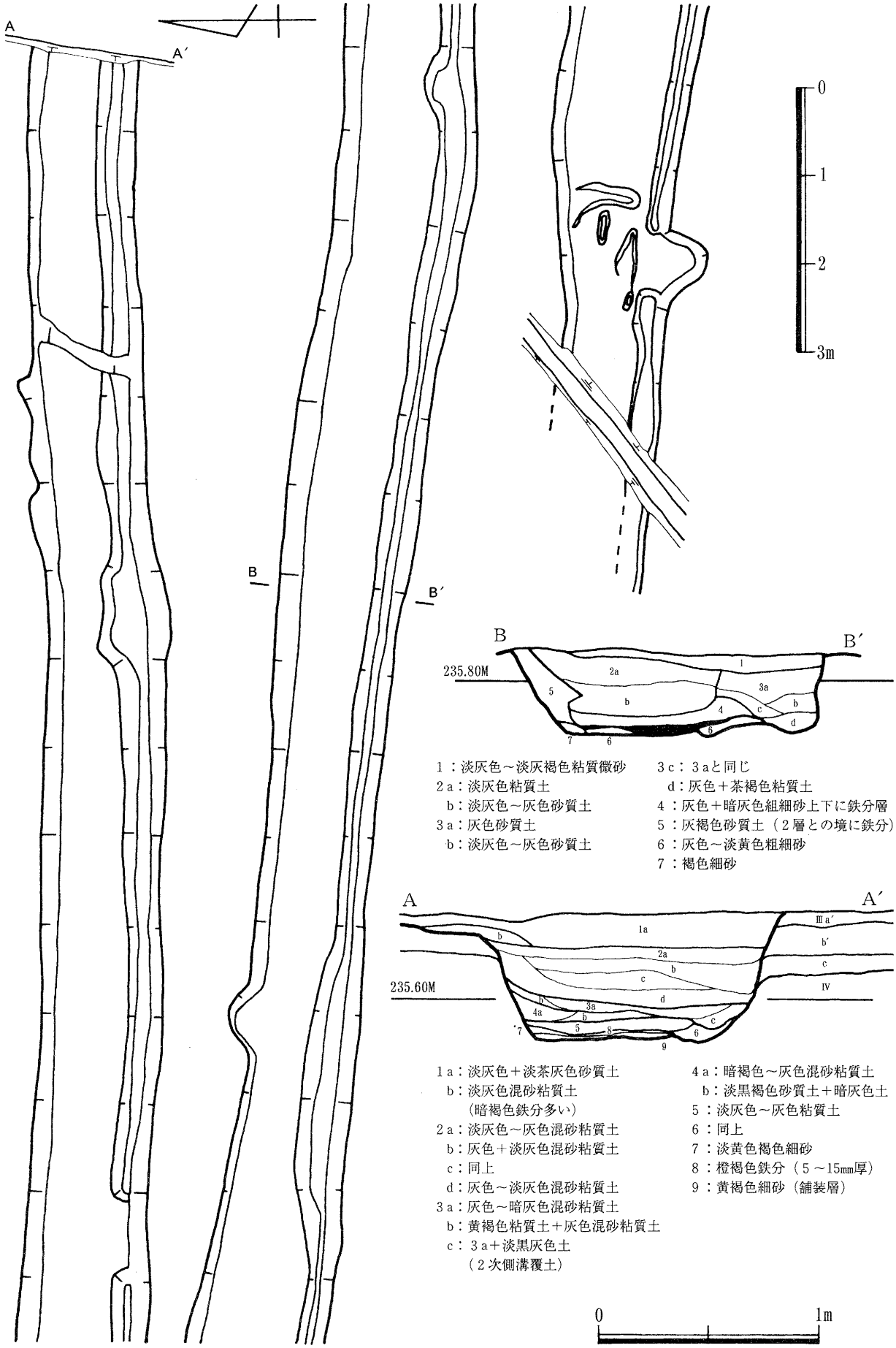


第39図　ＳＫ-55・56・71～79　遺構実測図

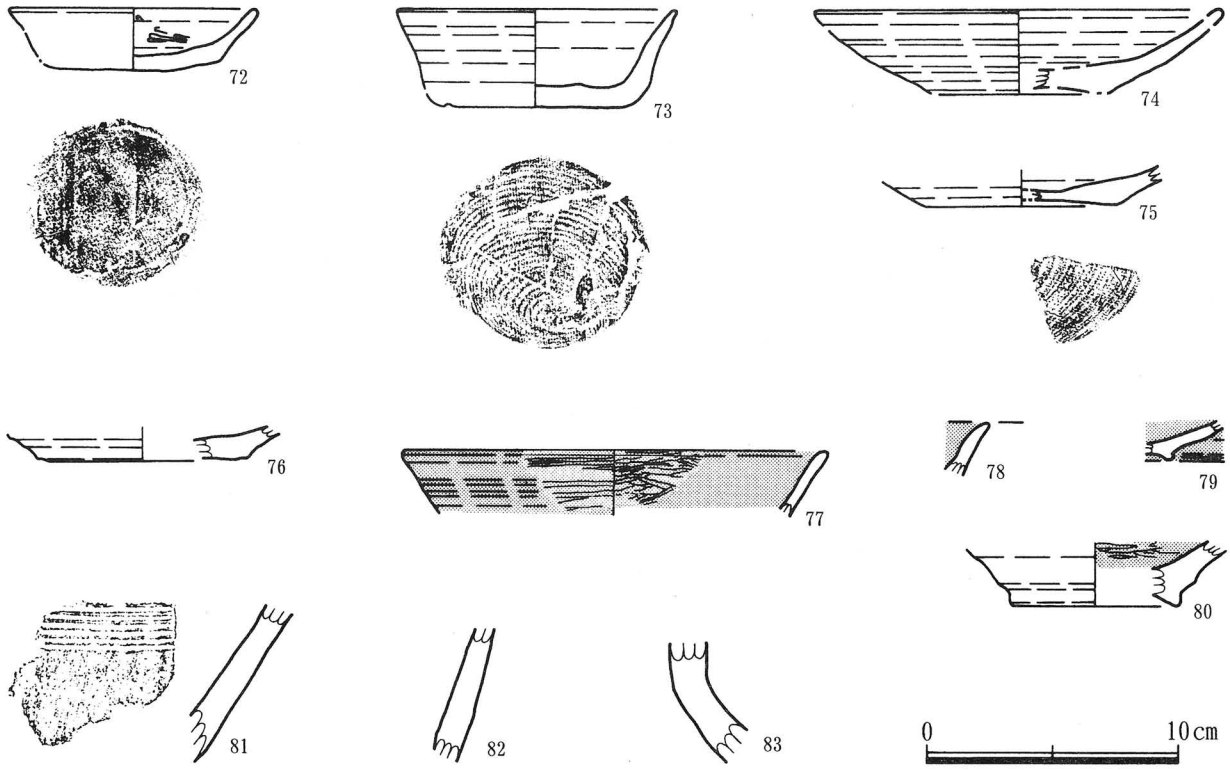
剥いだ段階ですでに明瞭に確認していたが、近世後半～近代の時期と判断して、大半を削平したことから、基底部の深さ５㎝程を調査したにすぎない。覆土の殆どは粗細砂で、寛永通宝３枚（101～103）が出土した。

ＳＲ-02（第40図）　Ｖ区の北縁寄りに、07号建物と並行して東西方向に位置した道路跡である。Ⅲａ層上面から幅1.2～1.55ｍ・深さ0.56ｍ掘り込まれ、底面南辺には側溝を付設する。道路面は幅0.4～1.06ｍと一定でなく、側溝も部分的に途切れる。道路面上面には５～15㎜の酸化鉄が沈積し、非常に硬く締まっていた。覆土は青灰色を帯び、16世紀後半～17世紀前半に埋没し始めたようである。東端の土層観察では、覆土第５・６層の上面が２次面であり、側溝を伴う。旧表土（４層）と３層が堆積して後、３層上面が３次面として使用される。以後は自然埋没である。

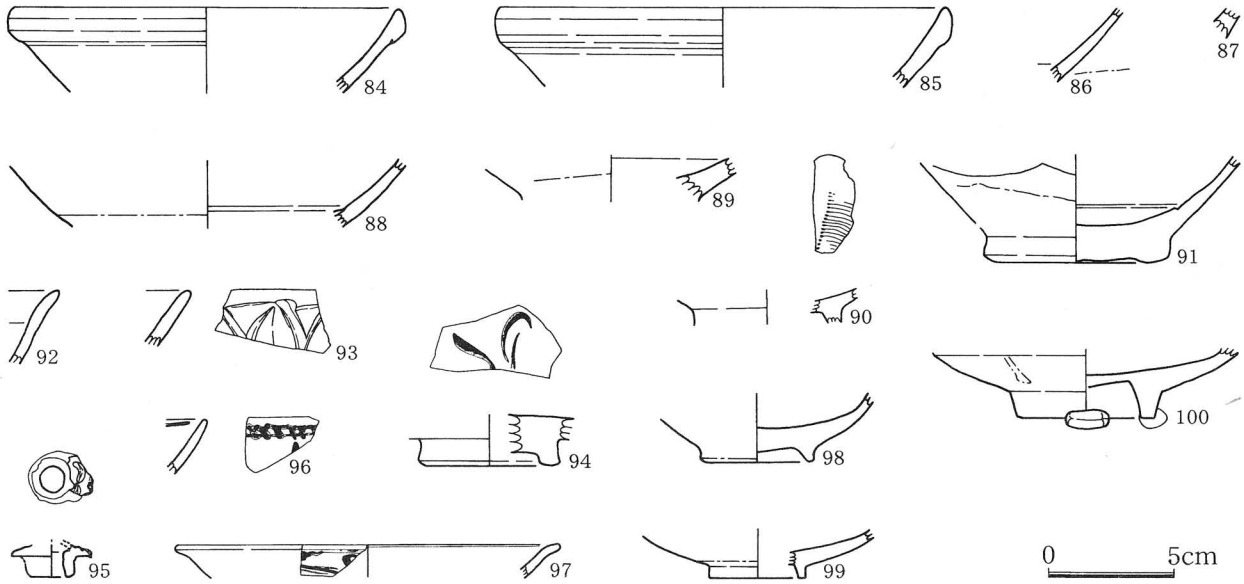
ＳＲ-03　Ｖ区の北東縁に位置した掘り込みで、幅は1.2ｍ以上、深さは80㎝である。底面は平らで僅かに硬くなっていることから、道路跡とした。覆土から近世前半の陶磁器（98～100）などが若干出土しているが、近世後半以降の遺構だと思われる。



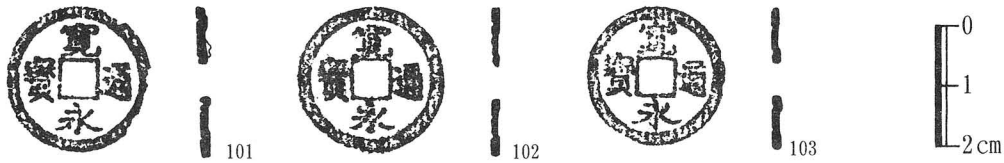
第40図　ＳＲ-02　遺構実測図



第41図　Ⅴ・Ⅵ区出土　土師器・土師質土器・黒色土器・中世国産陶器実測図
72：ＰＰ-410　**73**：ＰＰ-403　**74**：ＰＰ-405　**75**：ＰＰ-374　**76**：ＳＤ-06　**77**：ＳＫ-87　**82・83**：ＳＫ-88
他：Ⅱ～Ⅲ層



第42図　Ⅴ・Ⅵ区出土　輸入陶磁器・近世国産陶磁器　**84**：ＰＰ-352　**85・89**：ＰＰ-410　**88**：ＰＰ-378
91：ＳＤ-06　**92・95**：ＳＫ-88　**93**：ＳＲ-02
98～100：Ⅱ～ＳＲ-03　**他**：Ⅱ～Ⅲ層



第43図　ＳＤ-07　出土銭貨実測図

表9　Ⅴ・Ⅵ区出土遺物観察表（1）　土器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調　整		胎　土	焼　成	色　調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第41図 72	Ⅵ区ＰＰ-410	土師器	Ⅲ	99	68	25	ナデ	ミガキ	精良	ややあまい	淡灰～淡桃褐	淡桃褐～淡黄褐	内面：マメツ 糸切り
73	Ⅴ区ＰＰ-403	土師質土器	Ⅲ	112	79	39	工具ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	ややあまい	淡黄～淡桃橙	淡黄褐～淡橙	糸切り
74	Ⅴ区ＰＰ-405	土師質土器	Ⅲ	163	69	34	ナデ	—	赤褐色粒少量	ややあまい	淡褐～灰褐	淡黄～淡灰褐	内面：ややマメツ 糸切り
75	Ⅵ区ＰＰ-374	土師質土器	Ⅲ	—	76	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	暗茶褐～淡灰褐	暗茶褐～茶褐	灯明皿に転用か糸切り
76	Ⅴ区ＳＤ-06	土師質土器	Ⅲ	—	84	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡灰褐～淡黄	茶灰～暗茶褐	内底：墨痕 糸切り
77	Ⅵ区ＳＫ-87	黒色土器Ｂ類	埦	169	—	—	ミガキ	ミガキ	精良	良	暗灰褐～灰褐	黒褐～淡黒褐	
78	Ⅵ区Ⅱ～Ⅲ層	黒色土器Ａ類	不明	—	—	—	ミガキ	ミガキ	精良	良	淡黄白～淡褐	淡黒灰	
79	Ⅴ区Ⅲｃ層	黒色土器Ｂ類	埦	—	—	—	ミガキか	ミガキ	微砂少量	良	淡黒褐	淡黒褐	両面：マメツ
80	Ⅵ区Ⅱ～Ⅲ層	黒色土器Ａ類	埦	—	67	—	半ミガキ	ミガキ	良	良	淡橙白～淡黄灰	灰～暗灰	
81	Ⅴ区Ⅱ層	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂・小礫多量	良好	暗灰褐	暗茶褐	15～16ｃ
82	Ⅵ区ＳＫ-88	常滑か	壺甕類	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂多量	良好	暗灰褐～暗茶	暗灰褐～暗茶褐	13～14ｃ
83	Ⅵ区ＳＫ-88	常滑	壺甕類	—	—	—	ナデ	ナデ	微砂やや多い	良好	灰緑淡黄自然釉	暗茶褐～暗灰褐	12～13ｃ

表10　Ⅴ・Ⅵ区出土遺物観察表（2）　陶磁器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露　胎	胎土色	釉　調		産　地	年代・備考
				口径	底径	器高				外　面	内　面		
第42図 84	Ⅴ区ＰＰ-352	白磁	碗	153	—	—	—	—	淡黄白 全面細かい発砲	淡黄白 一部発砲	淡黄白	中国	12～14ｃ前
85	Ⅵ区ＰＰ-410	白磁	碗	178	—	—	—	—	乳白～淡黄白	乳白～淡黄白	乳白～淡黄白	中国	12～14ｃ前
86	Ⅵ区Ⅲｂｃ層	白磁	碗	—	—	—	—	外面下半	淡灰白～乳白	乳白～淡灰乳	乳白～淡灰乳	中国	12～14ｃ前
87	Ⅴ区ＰＰ-341	白磁	碗	—	—	—	—	外面	淡黄白	乳白	乳白	中国	12～14ｃ前
88	Ⅵ区ＰＰ-378	白磁	碗	—	—	—	—	外面下半	乳白～淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14ｃ前
89	Ⅵ区ＰＰ-410	白磁	碗	—	—	—	—	外面下半	乳白	乳白	乳白	中国	12～14ｃ前
90	Ⅴ区Ⅱ層	白磁	碗	—	—	—	櫛描き文	高台	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～13ｃ
91	Ⅴ区ＳＤ-06	白磁	碗	—	74	—	—	外面下半	淡黄白	乳白	乳白	中国	12～13ｃ
92	Ⅵ区ＳＫ-88	青磁	碗	—	—	—	沈線？	—	淡灰白	淡灰	淡灰	龍泉窯	12～13ｃ
93	Ⅴ区ＳＲ-02	青磁	碗	—	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰～灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14ｃ前
94	Ⅴ区Ⅲａ層	青磁	碗	—	56	—	劃花文	畳付き～外底	灰～淡黄褐	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	12～13ｃ
95	Ⅵ区ＳＫ-88	青白磁	袋物の蓋	—	18	—	—	外面下半	白	淡青白	淡青白	中国	12～14ｃ前
96	Ⅵ区Ⅱ～Ⅲ層	青花	Ⅲ	—	—	—	—	—	乳白	紺	紺	福建省	16ｃ後
97	Ⅴ区Ⅱ～Ⅲ層	青花	Ⅲ	152	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16ｃ前～中
98	Ⅴ区ＳＲ-03 Ⅱ～Ⅲｂ層	鉄釉陶器	碗	—	44	—	釉剥ぎ	内底	淡灰～灰	暗紫褐	暗紫褐	薩摩	18ｃ
99	Ⅴ区ＳＲ-03 Ⅱ～Ⅲｂ層	陶器	Ⅲ	—	39	—	—	高台	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	関西系	18ｃ
100	Ⅴ区ＳＲ-03Ⅱ層	鉄釉陶器	火入れか線香立て	—	55	—	胎土目	—	暗灰	暗茶褐	暗茶褐	肥前	17ｃ

5．弥生～古墳時代

砂礫を多量に含む自然流路を避けるように竪穴住居が環状に配置している。竪穴住居は不明瞭ながら21基を検出したほか、大小様々な土坑約70基、溝状遺構１条を検出した。

ＳＡ-01（第44図）　Ｖ区の北東縁に位置した、直径7.8ｍの円形を呈する住居である。南西側には２段のテラスが設けられ、上段は0.77～1.4ｍの幅が有り、10㎝低い下段は23～73㎝の幅がある。中央部はさらに10～15㎝下がって床面となる。その底面には厚さ５～10㎝の淡灰色粘質土が貼られ、上面を５～10㎜の橙褐色酸化鉄が覆っている。主柱穴は４個（南東部は調査区外）で、直径28～35㎝・深さ28～54㎝を測る。また、補助的な小pitが北側に４個、南東部に１個検出された。

出土遺物は遺構の中では最も多い（第45～52図）が、原位置を保つものは無く、弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物が主である。115の甕と小型の壷（144）は新しい様相を呈し、廃絶後の布留式期まで不要物廃棄坑として使用されたものと推定される。鉄器や石器は出土していないが、大型の楕円礫を砥石的に使用した台石が１点（第127図-720）ある。

ＳＡ-02（第53図）　調査区の南東隅に位置した、直径5.92～6.42ｍの楕円形を呈する竪穴住居と推定している。一段低い中央部・長径3.6ｍ・短径2.9ｍの範囲には厚さ５～10㎝の貼り床があり、その上面には泥化炭化物が広がっていた。主柱穴は不明であるが、直径26～43㎝・深さ12～23㎝の柱穴５基を検出した。内径1.85ｍ・幅52～60㎝・深さ20～35㎝の規模で弧状に曲がる溝状遺構は、西～南側では検出できなかった。住居の排水溝としては疑問が残り、別遺構の可能性が高い。

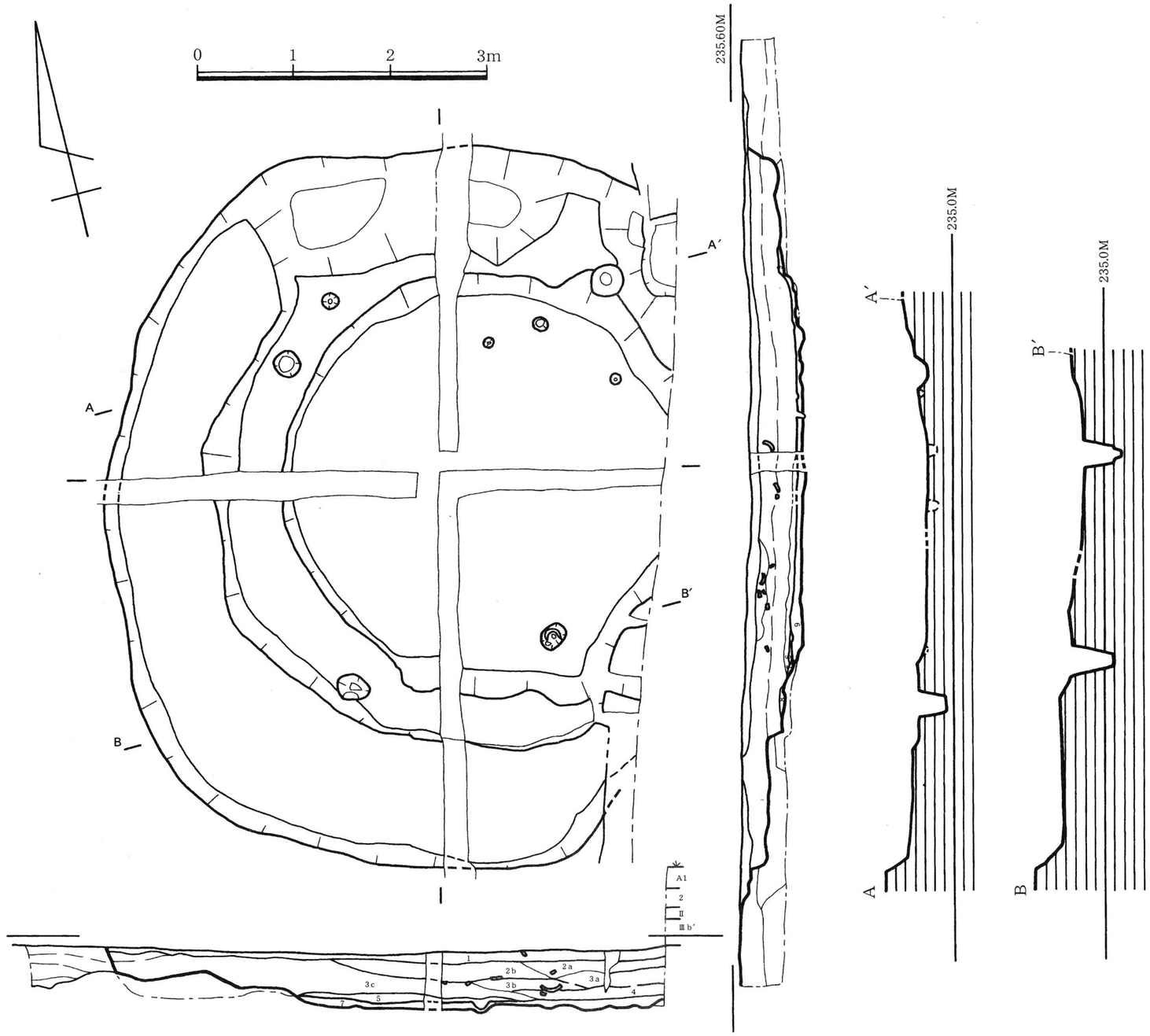
出土遺物としては、若干の壷・甕・鉢・高坏・坩等（第54・55図）のほか、小型の鉄鏃（圭頭鏃、第92図-460）や石匙未製品（第125図-691）・砥石（第126図-707）がある。

ＳＡ-03（第53図）　02号住居の南に重複し、竪穴住居状のプランにはなったが、貼り床や柱穴・炭化物は検出していない。このため、機能的には竪穴住居とは断定できない。

出土遺物は02号住居よりも多く、壷・甕・鉢・高坏のほか、小型の刀子状の鉄製品（第92図-462）が出土している。なお、207の鉢は唯一の完形復元品である。

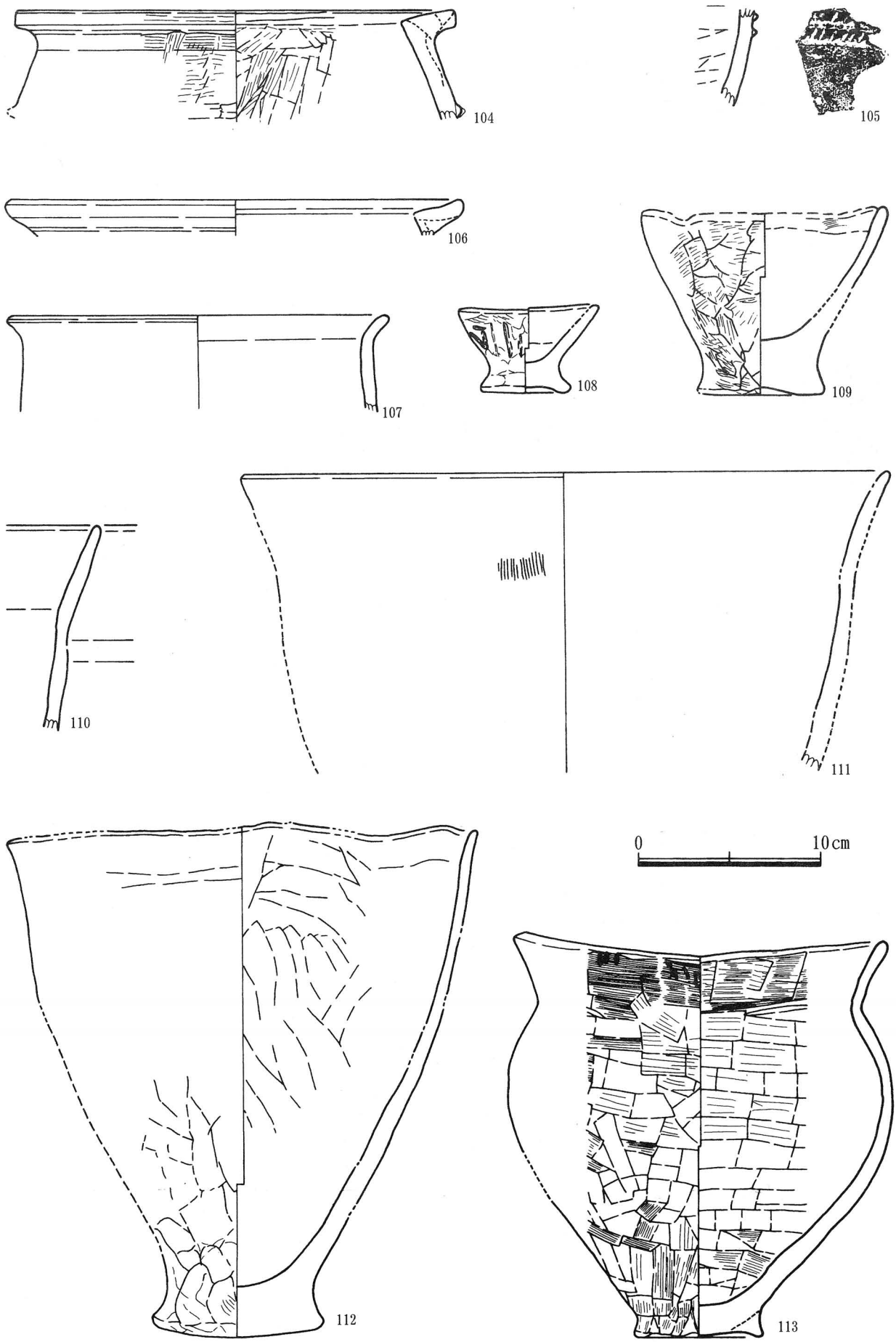
ＳＡ-04（第57図）　調査区の北東寄りに位置した、１辺６～８ｍの方形を基調とした間仕切り住居で、南西部には幅3.9ｍ・深さ10㎝の隅丸方形の張り出しがある。切り合いは確認できなかったので、別遺構では無く、構築当初のプランの可能性がある。中央部は略方形状に１段（10～20㎝）下がり、貼り床が施される。また、北～東側の１段高い面も異なる粘質土で貼り床が施される。主柱穴は４本で、2.6～2.9ｍ間隔で長方形に配置され、60～70㎝の深さがある。北側の中央部には、同規模の柱穴があり、棟持柱的機能が想定される。

出土遺物は少なく、完形品も無いが、一通りの器種が揃っている（第58～60図）。弥生時代終末を主体とし、242の高坏は化粧粘土が施され、胎土も精良であり、外来遺物と推定される。土器以外では、鉄鏃１本（458）と砥石（706）が出土している。南東部においては炭化材が若干出土している。



1：暗灰褐色＋灰褐色微砂質土
2a：淡茶褐色微砂質土（やや粘質）
　b：淡茶褐色微砂質土
3a：茶灰色～茶褐色微砂質土（やや粘質）
　b：淡茶褐色微砂質土（やや粘質）
　c：淡黄褐色＋淡茶褐色微砂質土（やや粘質）
4：3a＋淡灰白色粘質土
5：淡茶灰色＋暗灰褐色微砂質粘土
6：黒色炭泥
7：淡黄白色粘土＋6
8：黄褐色粘質土＋淡灰色粘質土（貼り床）
9：淡灰白粘質土（貼り床）、上下5～10㎜は橙褐色酸化鉄沈積

第44図　ＳＡ-01　遺構実測図



第45図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（１）

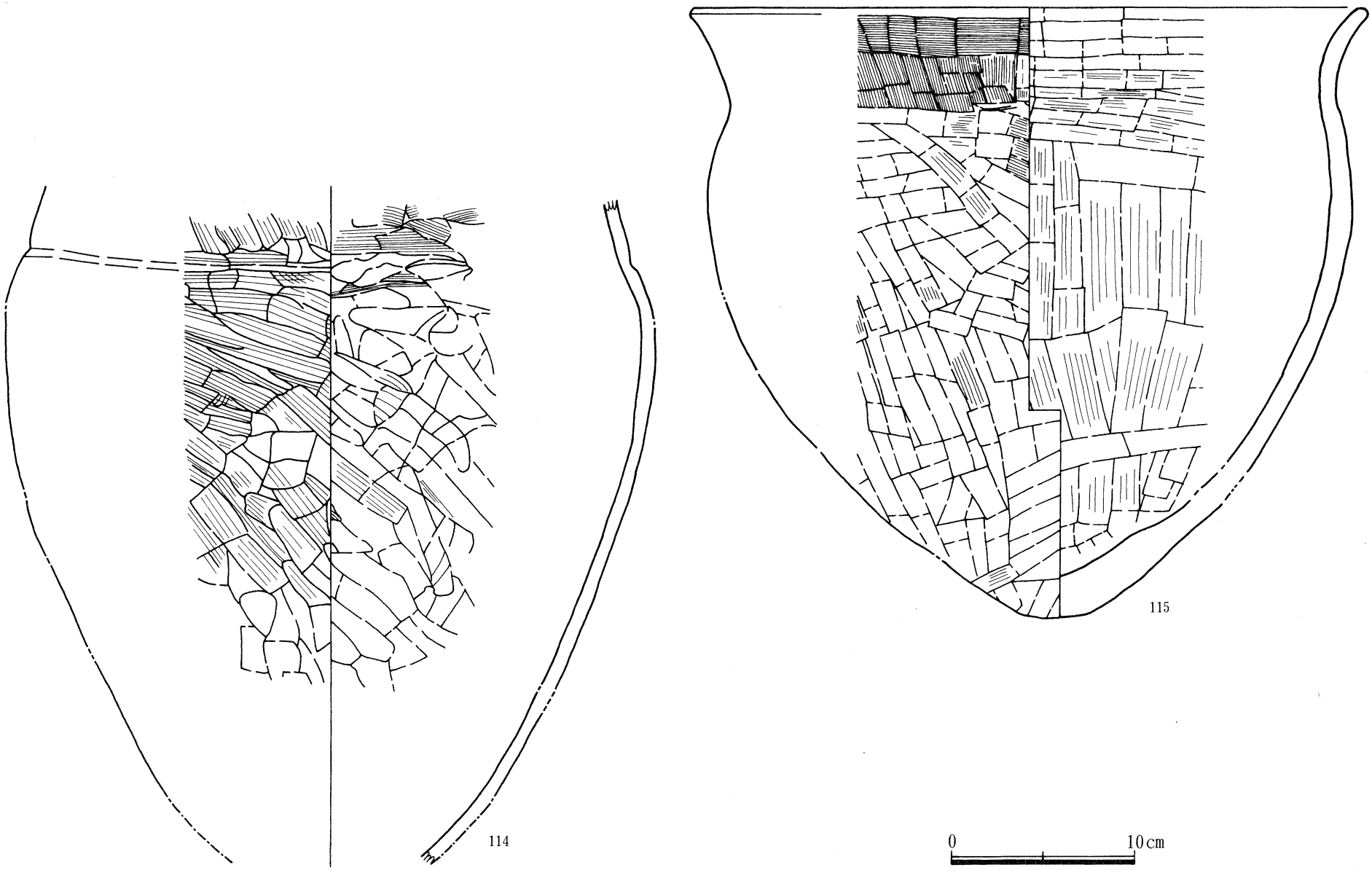


図46図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（２）

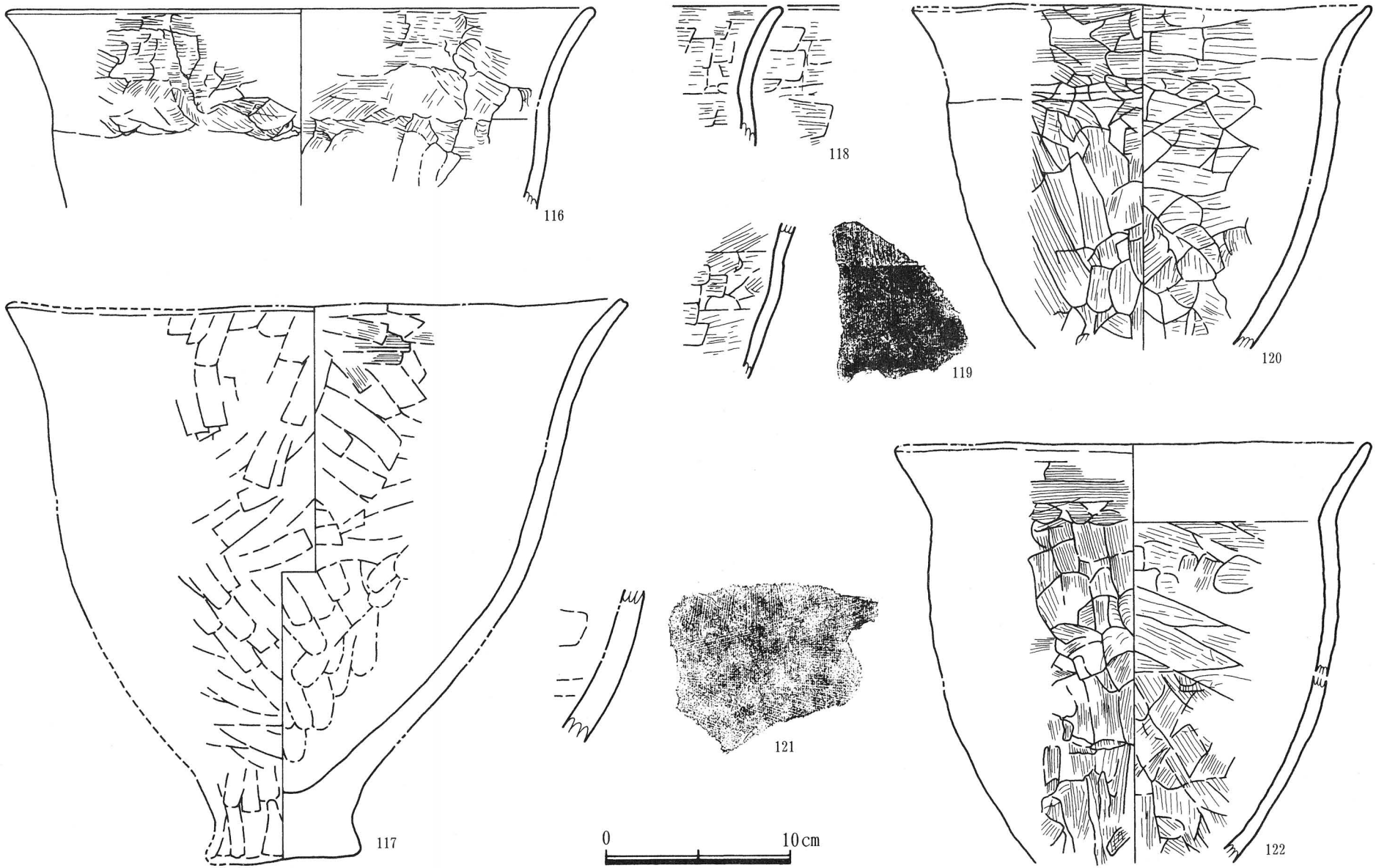
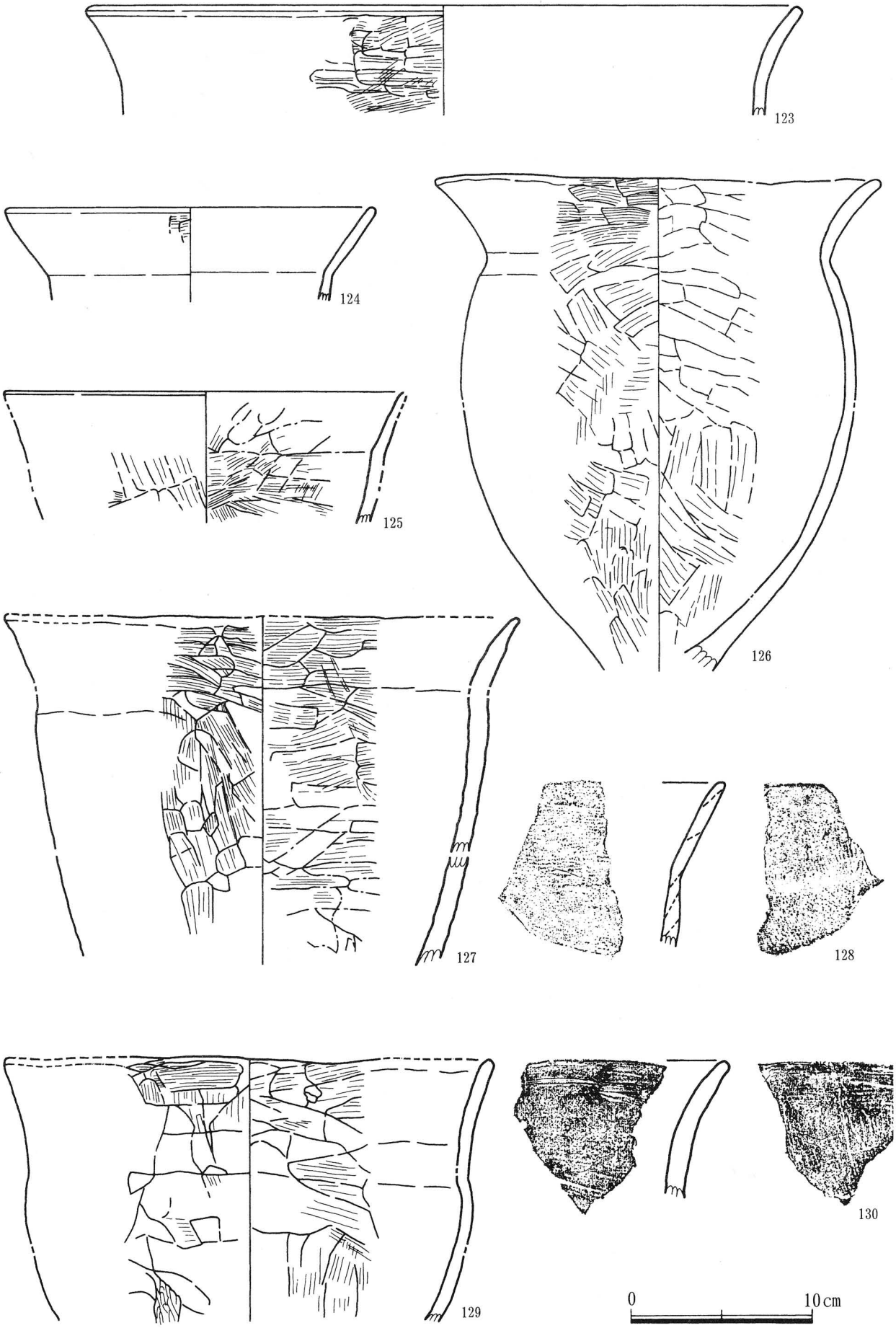
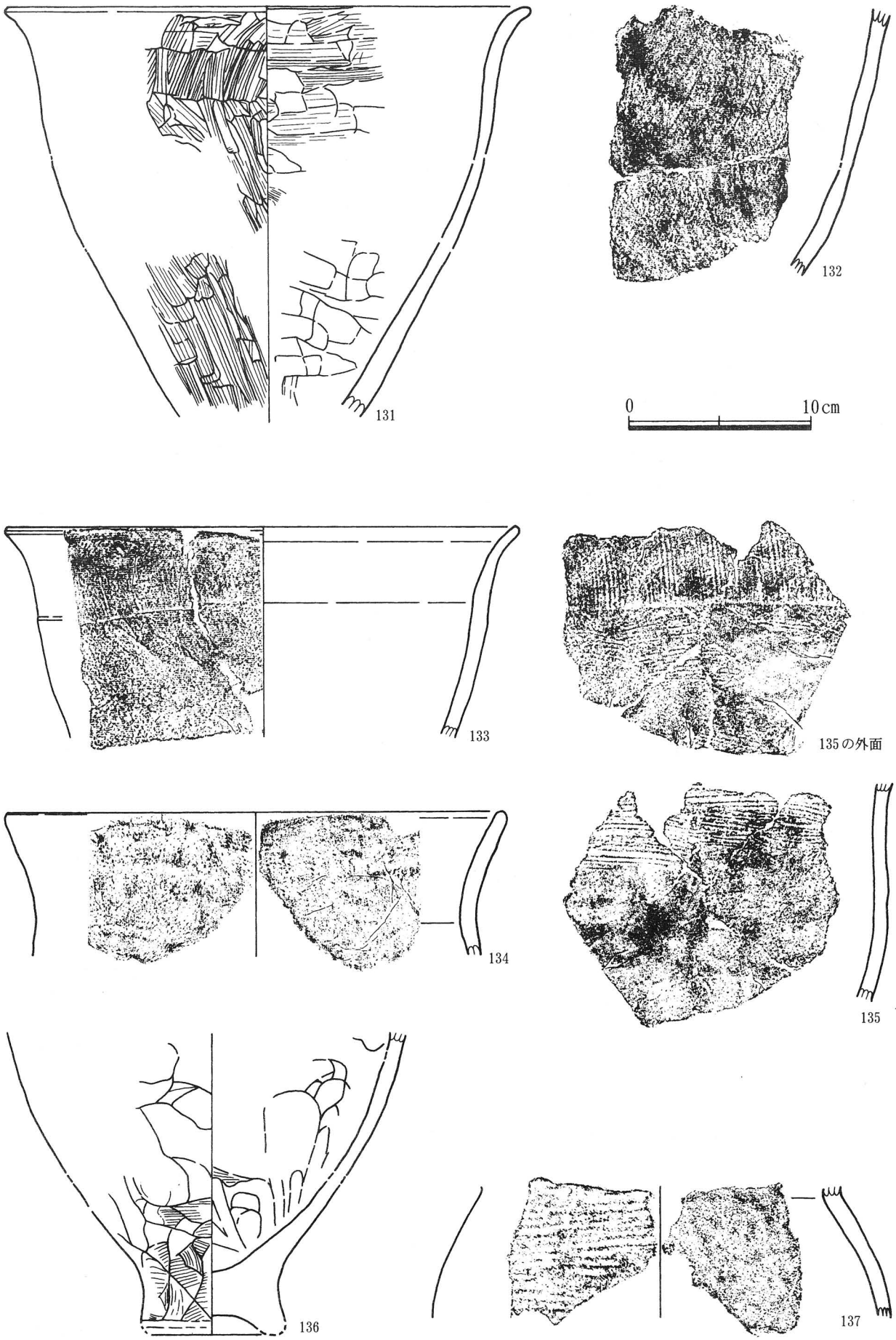


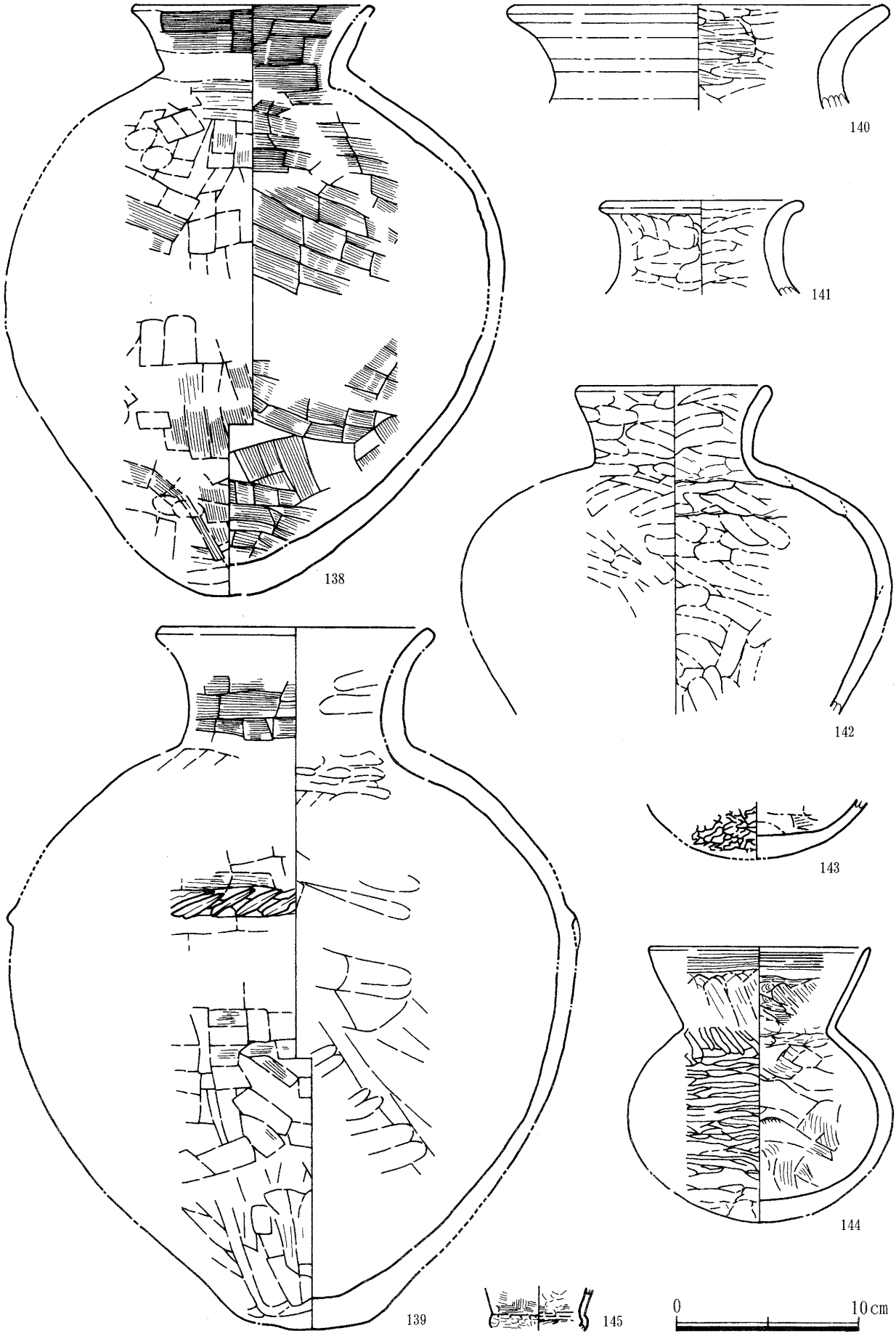
図47図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（３）



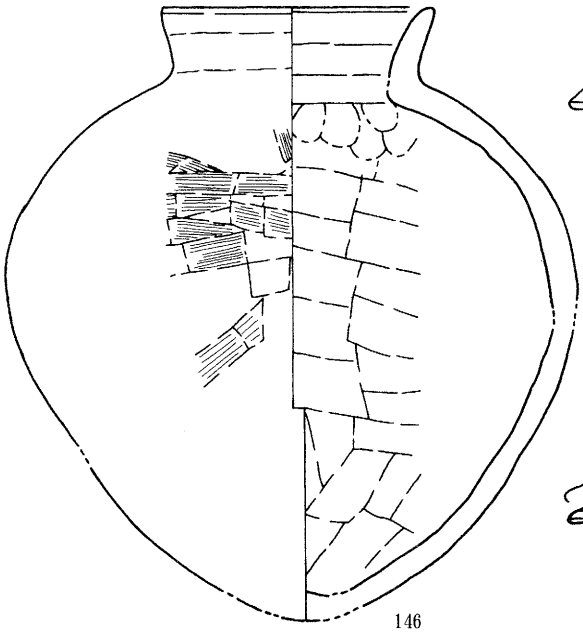
第48図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（４）

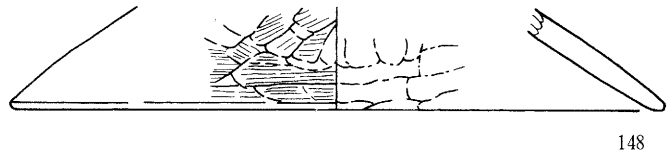


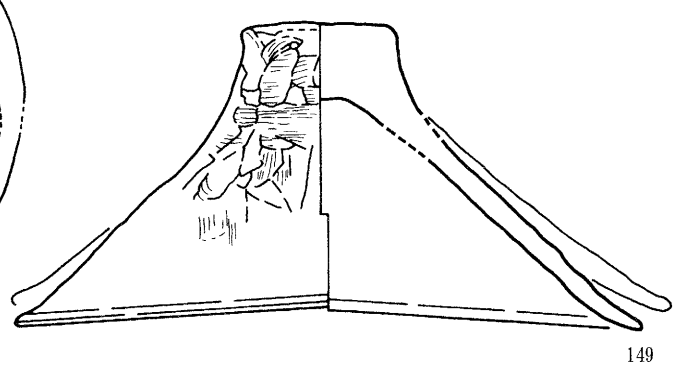
第49図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（５）

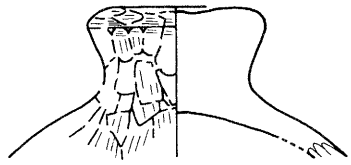


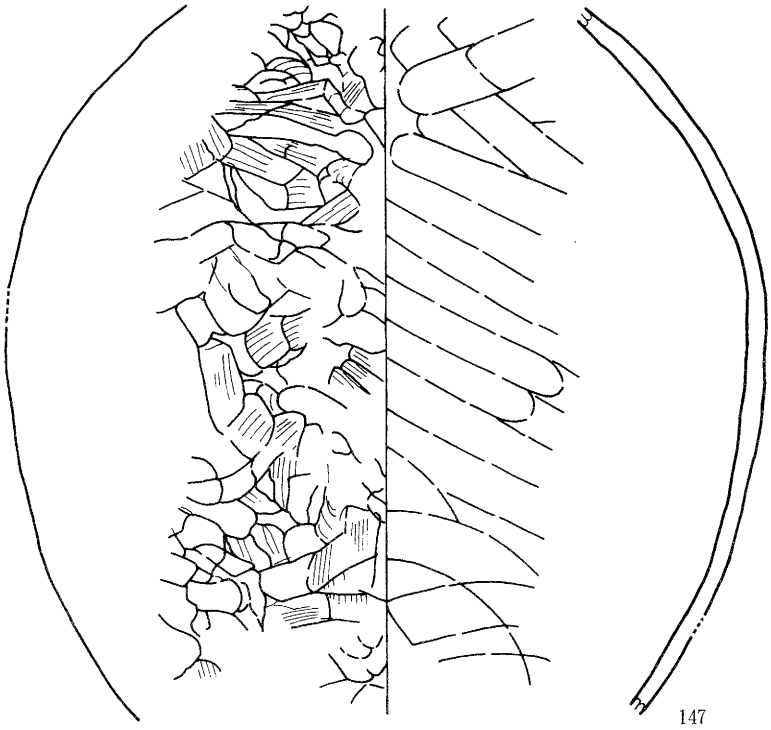
第50図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（６）

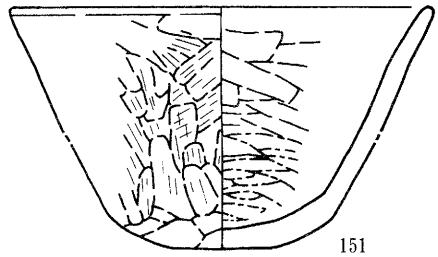


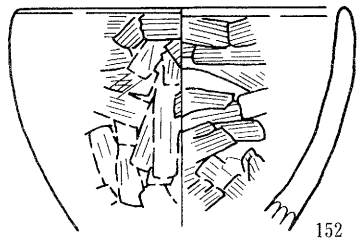


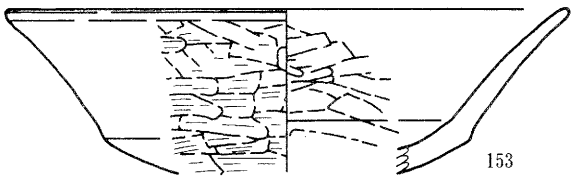


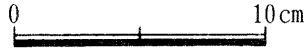




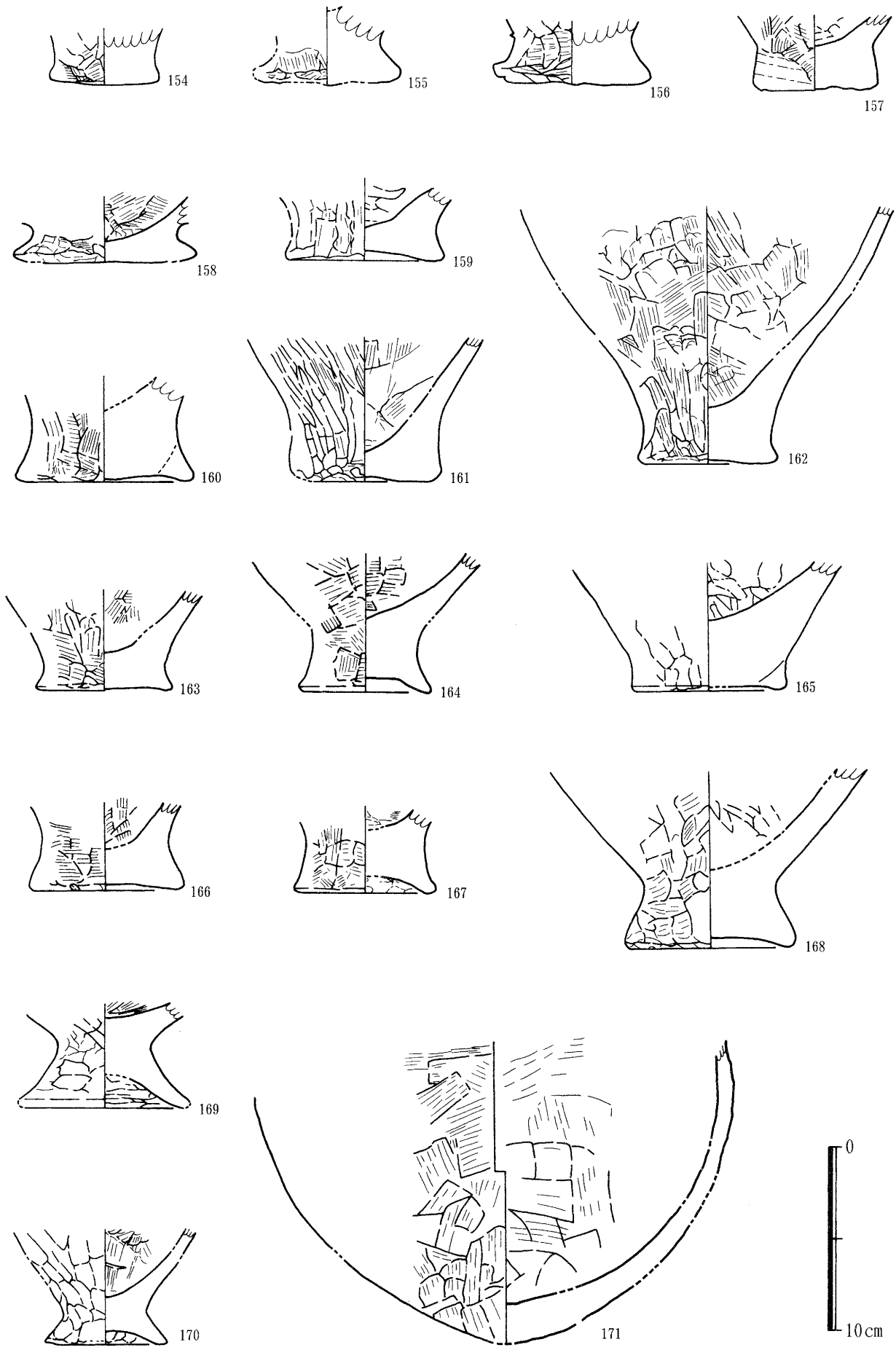




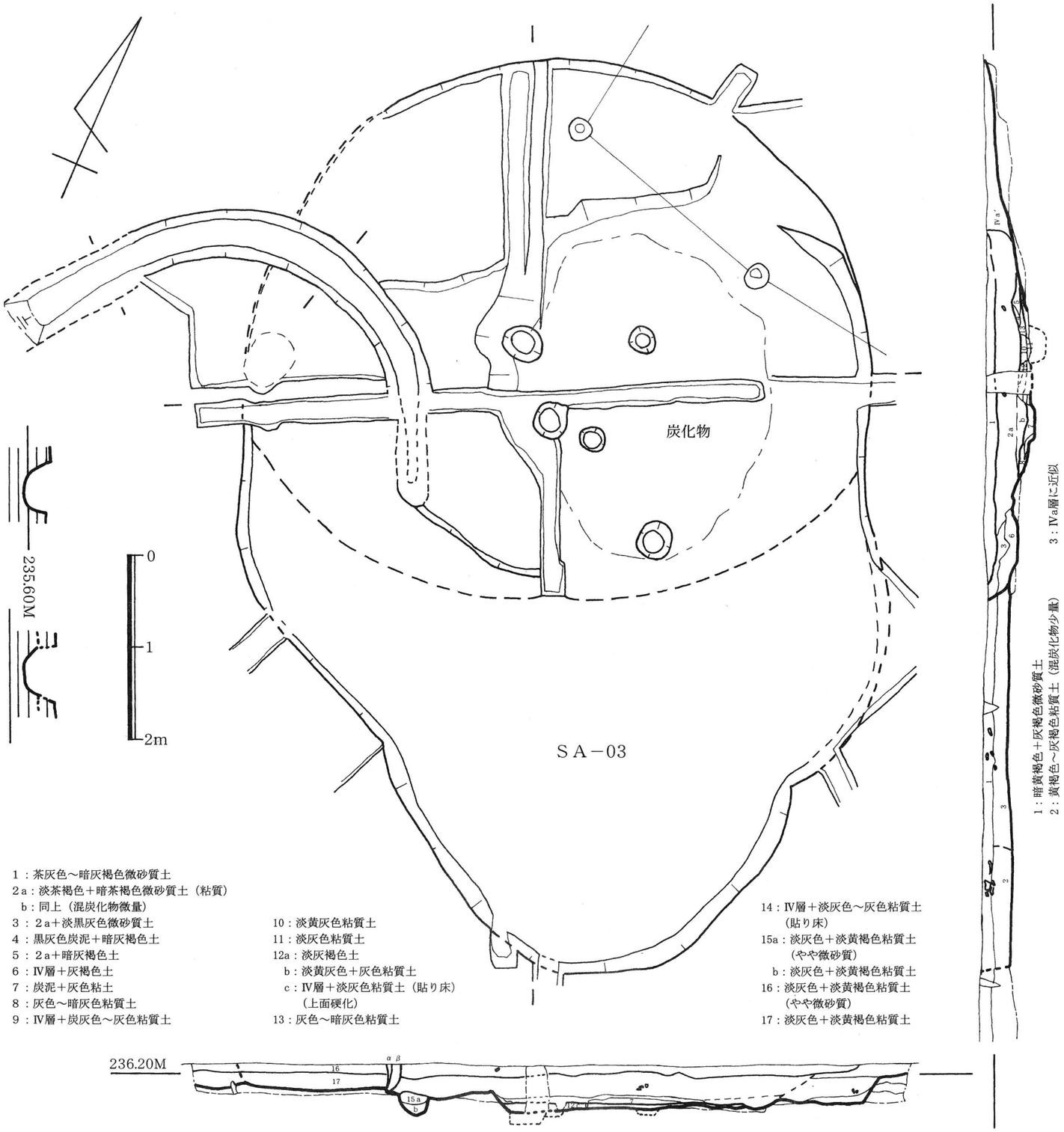




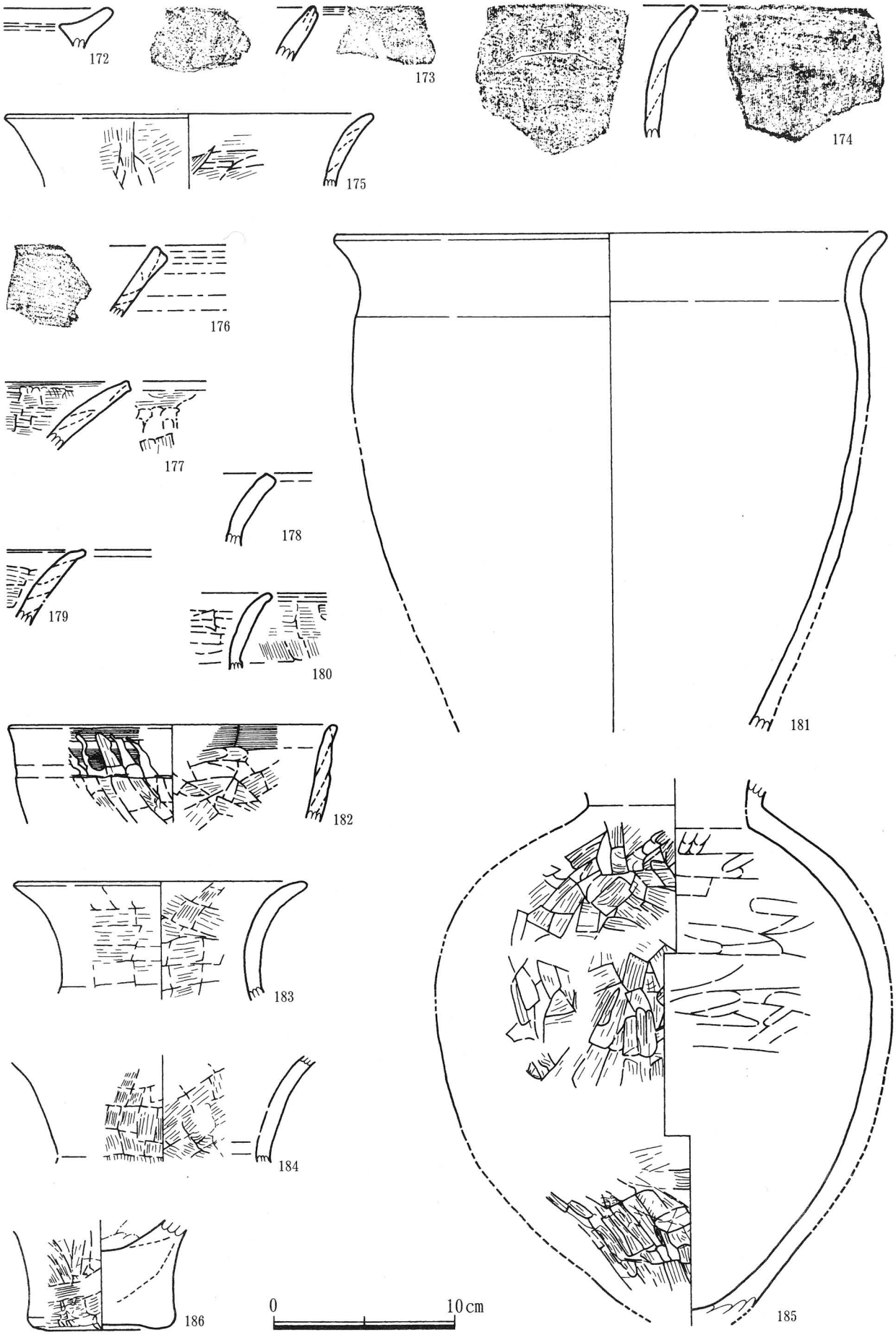
第51図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（７）



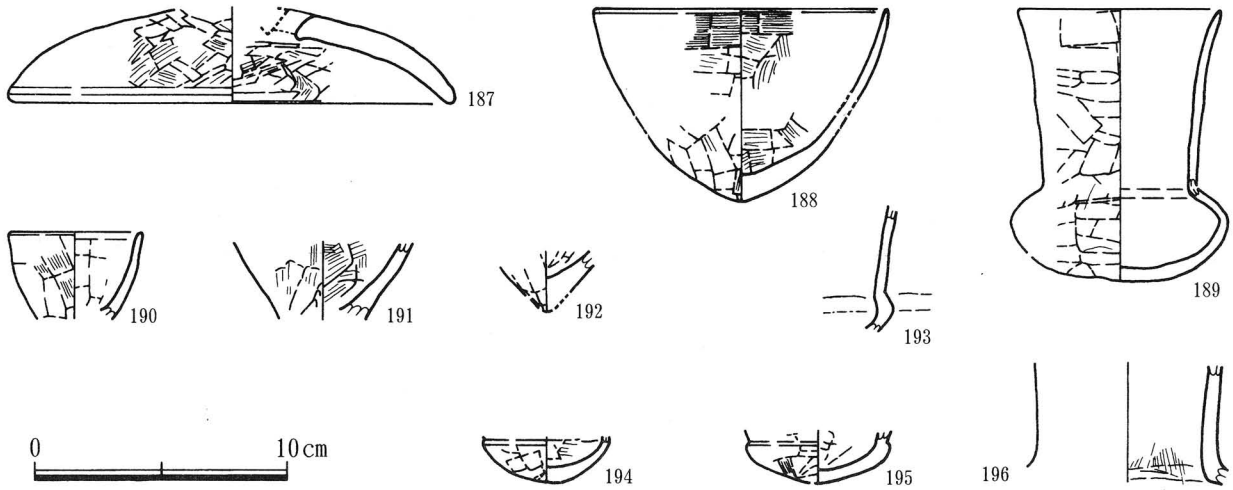
第52図　ＳＡ-01　出土遺物実測図（８）



第53図　ＳＡ-02・03　遺構実測図



第54図　ＳＡ-02　出土遺物実測図（１）



第55図　ＳＡ-02　出土遺物実測図（２）

表11　ＳＡ-01出土遺物観察表（１）

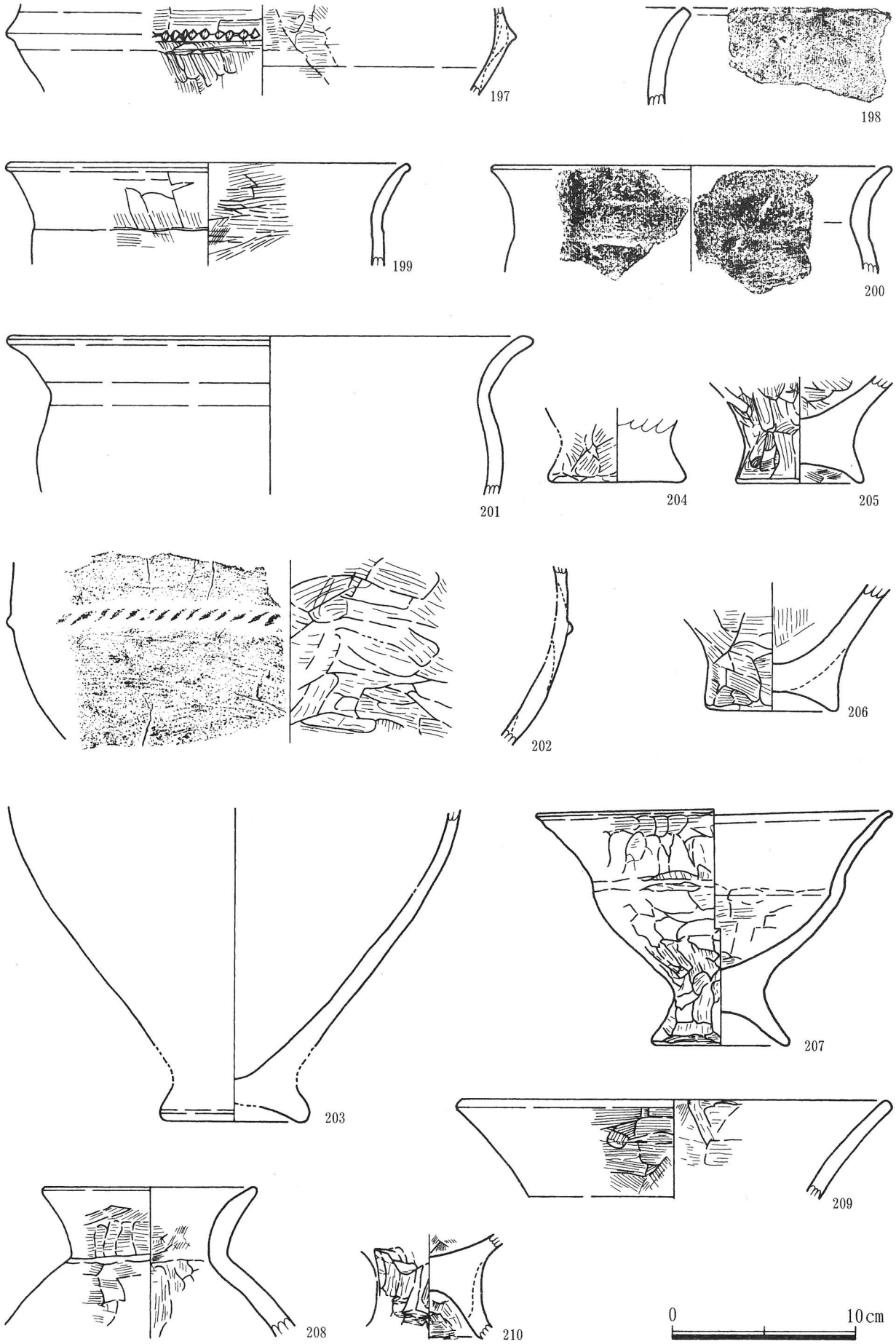
No	出土地	器種	法量(mm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	備考
第45図 104	ＳＡ-01	甕	240	—	—	ハケ～工具ナデ	半ミガキ	微細砂やや多い 角閃石少量	良	淡黒褐～暗茶褐	褐～淡褐	口：被熱
105	ＳＡ-01	壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂微量	良	淡黒灰	淡黄褐	
106	ＳＡ-01	甕	246	—	—	工具ナデ	ナデ	微細砂・角閃石少量	良	灰褐～淡灰黄	暗灰褐～淡黒灰	
107	ＳＡ-01上層	甕	205	—	—	—	—	粗細砂やや多い	ややあまい	暗緑灰～橙褐	橙褐～淡茶褐	両面：マメツ
108	ＳＡ-01上層	小型台付鉢	77	50	48	工具ナデ	—	粗細砂多量	ややあまい	橙褐～淡黄褐・黒斑	淡橙～淡黄	両面：マメツ
109	ＳＡ-01	小型鉢	133	68～70	104	ハケ・工具ナデ	—	微細砂・粗砂多量	ややあまい	淡橙黄～灰褐	橙褐～淡灰褐	両面：マメツ
110	ＳＡ-01	甕	—	—	—	ハケ	—	粗細砂多量	ややあまい	暗茶褐	橙黄～黄褐	両面：マメツ
111	ＳＡ-01上面	甕	352	—	—	ハケ	—	粗細砂多量	ややあまい	淡橙褐～淡褐	淡橙褐～淡黄白～暗茶褐	外面：かなりマメツ 内面：マメツ
112	ＳＡ-01上層	甕	258	94	282	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量 小礫やや多い	ややあまい	淡橙褐～淡黄褐	淡橙褐～淡褐	外面：マメツ 内面：ややマメツ
113	ＳＡ-01	甕	196	68×72	222	ハケ～工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡黄褐～暗茶褐	淡黄褐～茶褐・黒斑	底部：不整楕円形
第46図 114	ＳＡ-01	甕	—	—	—	ハケ～工具ナデ	強い工具ナデ～丁寧工具ナデ	微砂やや多い 粗細砂少量	良	淡灰褐～暗茶褐～桃褐・黒斑	灰褐～淡黄褐・黒斑	
115	ＳＡ-01	甕	330～370	—	334	工具ナデ～粗工具ナデ(半ケズリ)	工具ナデ～強い工具ナデ(半ケズリ)	粗細砂・小礫少量	良	淡褐～暗茶褐～淡橙褐	暗茶褐～淡黄褐	
第47図 116	ＳＡ-01	甕	313	—	—	粗ハケ・工具ナデ	工具ナデ	粗細石英やや多い	ややあまい	淡黄灰～灰褐	淡黄褐～灰褐	
117	ＳＡ-01	甕	333	84	309	工具ナデ	ナデ・工具ナデ	粗細砂・白色粒多量	ややあまい	淡黄～黄褐・橙褐	暗褐灰～淡灰褐～淡黄	両面：マメツ内面にオコゲ
118	ＳＡ-01	甕	—	—	—	ナデ～工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄・淡黒灰	淡黄褐	
119	ＳＡ-01	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量 赤褐色粒微量	良	淡褐～暗茶褐	褐～暗茶褐	
120	ＳＡ-01	甕	247	—	—	ハケ～粗工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡褐～淡褐灰	淡灰黄～淡褐～暗灰	
121	ＳＡ-01	壷	—	—	—	ハケ	工具ナデ	微細砂やや多い 角閃石少量	良	淡茶褐～淡黄褐	茶褐～暗赤褐	内面：マメツ
122	ＳＡ-01	甕	254	—	—	ハケ～ナデ～工具ナデ	工具ナデ～ナデ	粗細砂やや多い	良	淡褐～灰褐	橙褐～暗灰褐	内面：マメツ
第48図 123	ＳＡ-01	甕	388	—	—	工具ナデ	—	微細砂やや多い	ややあまい	淡橙褐～茶灰	淡褐	内面：マメツ
124	ＳＡ-01	甕	199	—	—	—	ナデ	粗細砂やや多い 小礫少量	ややあまい	橙褐～黄褐	暗緑灰～茶褐	外面：マメツ
125	ＳＡ-01	甕	219	—	—	ナデ～ハケ	ナデ～工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡灰黄	暗茶褐～暗灰	
126	ＳＡ-01	甕	247	—	—	ハケ～工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡茶褐～灰褐～淡黄褐	淡黄褐～淡茶灰	外面：マメツ
127	ＳＡ-01	甕	282	—	—	ハケ・粗工具ナデ	ハケ～工具ナデ～ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄灰～褐灰	淡黄灰～暗灰	
128	ＳＡ-01	甕	—	—	—	工具ナデ～ハケ	ハケ	微細砂やや多い	良	淡橙褐～茶褐	淡黄褐～淡褐	
129	ＳＡ-01	甕	265	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い 小礫少量	ややあまい	黄褐～淡黄褐	淡茶橙～黄褐	外面：マメツ
130	ＳＡ-01	甕	—	—	—	ナデ～工具ナデ	ハケ～粗工具ナデ	微細砂・粗砂少量	良	灰褐～茶灰	茶灰～淡茶褐	
第49図 131	ＳＡ-01	甕	283	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ～ナデ	微砂やや多い 細砂少量	良	淡茶褐～暗茶褐	淡褐灰～暗茶褐	
132	ＳＡ-01	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄褐～淡茶灰	淡茶橙～淡褐・黒斑	
133	ＳＡ-01	甕	278	—	—	ハケ～粗工具ナデ	ハケ	微砂やや多い 粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐	橙褐	内面：マメツ
134	ＳＡ-01	甕	270	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ～工具ナデ	粗細砂少量 小礫微量	ややあまい	淡橙褐～灰褐	橙褐～黄褐	
135	ＳＡ-01	甕	—	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量 小礫微量	良	淡茶褐～暗茶褐	淡褐～淡黄褐	
136	ＳＡ-01	甕	—	80	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・小礫やや多い	ややあまい	橙褐～淡黄白	橙褐～黄褐	外面：ややマメツ
137	ＳＡ-01	甕	—	—	—	タタキ	丁寧工具ナデ	微細砂・角閃石少量	良	茶褐～暗茶灰	橙褐～茶褐	
第50図 138	ＳＡ-01	壷	129	—	325	ナデ～ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡橙褐～暗茶褐・黒斑	淡黄～淡黄灰	口頸部：破損後に被熱、外面：マメツ

表12　ＳＡ-01出土遺物観察表（２）

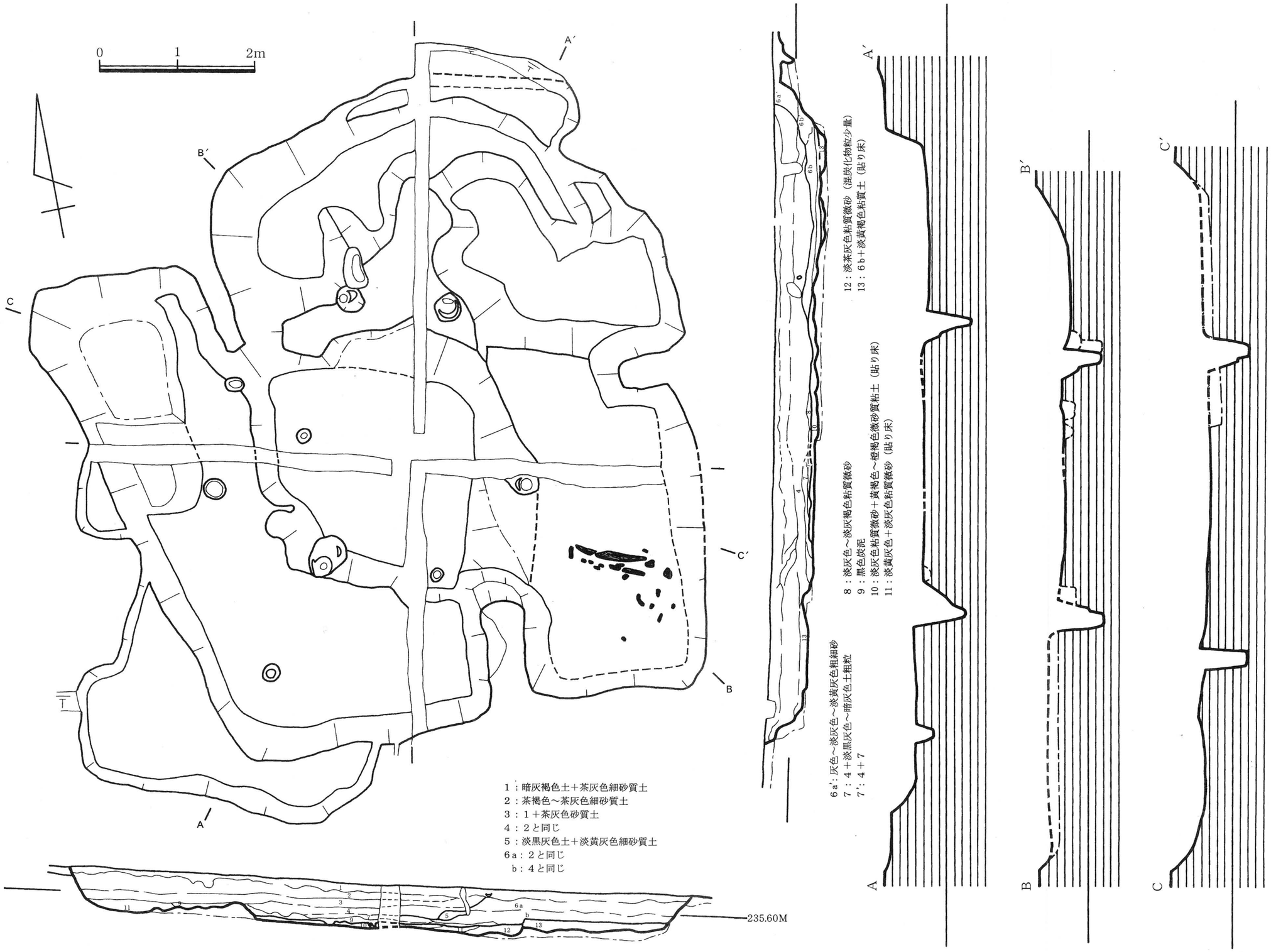
No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第50図 139	ＳＡ-01	壷	146	—	387	工具ナデ～ハケ	工具ナデ	細砂少量、白色粘土粒やや多い	ややあまい	淡黄灰～黄褐～橙褐	淡黄灰～淡褐～淡黄褐	外面：被熱かなりマメツ
140	ＳＡ-01	壷	200	—	—	ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い角閃石少量	良	淡橙茶	茶橙	
141	ＳＡ-01上層	壷	103	—	—	ナデ	ナデ～工具ナデ	微砂多量角閃石少量	ややあまい	淡灰～灰褐	橙褐	
142	ＳＡ-01	壷	100×104	—	—	工具ナデ	工具ナデ～ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡褐～淡黄～灰褐	淡黄褐～淡褐	外面：かなり剥落
143	ＳＡ-01	小型丸底壷	—	—	—	ミガキ	丁寧ナデ・工具ナデ	微細砂微量	ややあまい	灰褐～暗褐・黒斑	灰～淡灰黄	外面：マメツ
144	ＳＡ-01	小型丸底壷	119	—	151	ハケ～ナデ～ミガキ～粗ミガキ	ハケ	赤褐色粒やや多い	ややあまい	淡黄～桃褐	淡褐～淡桃褐	
145	ＳＡ-01	坩	—	—	—	ハケ～半ミガキ	工具ナデ・ナデ	良	ややあまい	淡褐～暗灰褐	褐～淡褐	
第51図 146	ＳＡ-01	壷	102	—	245	—	ナデ～工具ナデ	粗細砂多量小礫少量	ややあまい	桃橙～黄褐～淡茶褐	淡黄褐～橙褐	外面：かなりマメツ
147	ＳＡ-01	壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微・粗細砂少量白・赤褐色粒少量	あまい	淡黄褐～桃褐・黒斑	茶褐～淡橙褐	外面：マメツ
148	ＳＡ-01	蓋	—	260	—	粗工具ナデ～工具ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡茶褐～淡灰褐	淡黄白～淡灰褐・黒斑	
149	ＳＡ-01	蓋	249×262	58×66	121	工具ナデ	—	粗細砂多量	ややあまい	橙褐～淡褐・黒斑	暗茶褐～橙褐～褐	両面：マメツ
150	ＳＡ-01	蓋	—	71	—	工具ナデ	—	粗細砂多量小礫微量	ややあまい	淡橙茶～淡黄褐	茶褐～黄褐・黒斑	内面：マメツ
151	ＳＡ-01	小型鉢	164	—	96	粗工具ナデ	工具ナデ～ナデ	微砂多量粗細砂少量	良	淡褐～淡黄褐・黒斑	茶橙～淡黄白・黒斑	オコゲ内面：マメツ
152	ＳＡ-01	小型鉢	128	—	—	ハケ～粗工具ナデ	ハケ	粗細砂少量	良	淡褐～淡灰褐	淡橙褐～淡褐	
153	ＳＡ-01	高坏	222	—	—	丁寧工具ナデ	工具ナデ・半ミガキ～ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶褐～淡黄褐	橙褐～淡黄褐・黒斑	
第52図 154	ＳＡ-01	甕	—	58×62	—	工具ナデ	—	微細砂少量	ややあまい	淡黄灰～灰褐・黒斑	—	
155	ＳＡ-01	甕	—	81	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	黄褐～淡灰褐	暗灰	
156	ＳＡ-01	甕	—	70	—	工具ナデ	—	粗細粒・石英やや多い	良	淡黄～淡褐	—	内面：剥落
157	ＳＡ-01	甕	—	68	—	粗工具ナデ・ナデ	粗工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡灰白～淡橙褐	淡褐～淡橙	
158	ＳＡ-01	甕	—	100	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	橙黄～淡橙褐	淡黄褐～淡橙褐	底部：マメツ
159	ＳＡ-01	甕	—	87	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い粗砂少量	良好	淡茶褐～淡灰褐	暗灰～淡褐	
160	ＳＡ-01	甕	—	97	—	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄灰～淡黄褐	淡褐	
161	ＳＡ-01	甕	—	83	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い粗砂少量	ややあまい	褐～淡灰褐・黒斑	淡黒褐～淡灰褐	
162	ＳＡ-01	甕	—	77	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	茶灰～淡褐	暗灰～淡黒灰	
163	ＳＡ-01	甕	—	74	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細石英多量	良	暗灰褐	茶灰～淡茶褐	
164	ＳＡ-01	甕	—	72	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い茶褐色粒少量	ややあまい	淡灰褐～黄褐	暗茶褐～黄褐・黒斑	内面：マメツ
165	ＳＡ-01	甕	—	85	—	工具ナデ	ナデ～ミガキ	微細砂多量粗砂少量	良	淡灰褐～淡黄褐	暗灰～淡黒灰	外面：器面剥落
166	ＳＡ-01	甕	—	84	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い粗砂少量	良	淡褐～茶灰	暗灰～淡灰褐	
167	ＳＡ-01	甕	—	78	—	工具ナデ～ナデ	粗工具ナデ	粗細砂少量	良	淡灰黄～淡灰褐	淡黄	
168	ＳＡ-01	甕	—	94	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い小礫微量角閃石少量	良	淡黄褐～淡灰褐	灰～灰褐	内面：コゲ、剥落
169	ＳＡ-01	台付鉢	—	(93)	—	工具ナデ	半ミガキ	粗細砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡黄灰	淡灰褐～淡黄褐	
170	ＳＡ-01	台付鉢	—	66	—	粗工具ナデ	ナデ・工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡灰褐～灰	淡褐～灰褐・黒斑	
171	ＳＡ-01	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐～淡橙褐・黒斑	淡橙～淡黄褐	両面：ややマメツ

表13　ＳＡ-02出土遺物観察表（１）

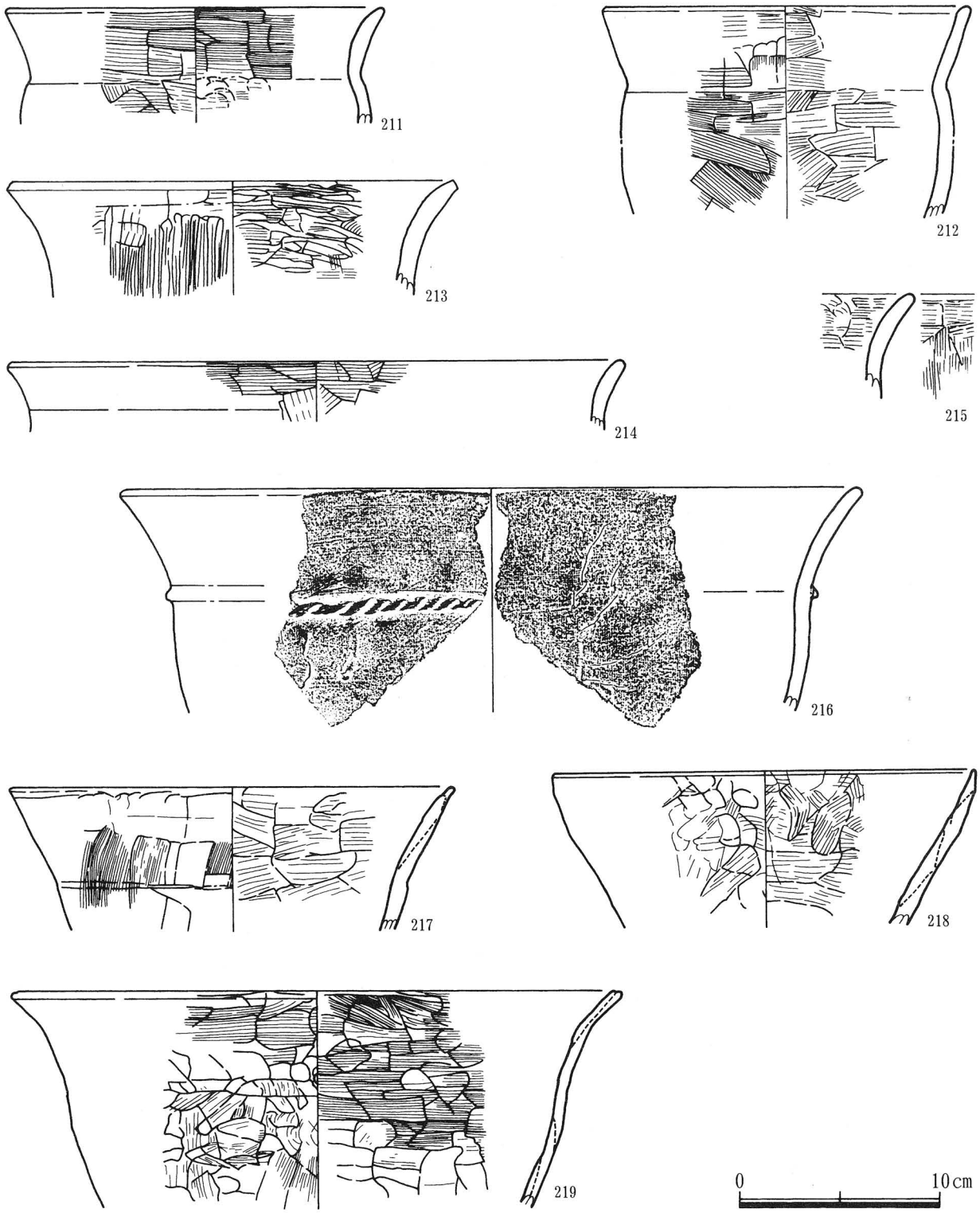
No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第54図 172	ＳＡ-02	甕	—	—	—	ナデ	—	微細砂少量	ややあまい	暗茶褐～淡黄褐	淡黄褐	内面：マメツ
173	ＳＡ-02	甕	—	—	—	ナデ・ハケ	ハケ	微細砂少量黒褐色粒少量	良	淡橙褐	淡茶褐～淡橙褐	
174	ＳＡ-02	甕	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	灰褐	淡灰褐～淡黄褐	
175	ＳＡ-02	甕	204	—	—	ハケ・工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	茶褐・黒斑	淡灰褐～淡黄白	内面：ややマメツ
176	ＳＡ-02	甕	—	—	—	ナデ	ハケ	微砂・茶褐色粒少量	良	暗茶褐～茶褐	淡黄白	外面：ややマメツ
177	ＳＡ-02	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡黒灰～淡灰褐	灰褐～淡黄褐	
178	ＳＡ-02	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	微砂やや多い細砂・角閃石少量	良	暗茶褐	茶褐	
179	ＳＡ-02	甕	—	—	—	ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡橙～橙	暗茶灰～茶褐	内面：ややマメツ
180	ＳＡ-02	甕	—	—	—	工具ナデ～ハケ	ナデ～丁寧工具ナデ	良	良	茶灰～淡黄褐	淡灰～淡黄褐	
181	ＳＡ-02	甕	305	—	—	—	—	粗細砂多量小礫少量	ややあまい	桃橙～淡黄褐	黄褐～橙褐	器面剥落
182	ＳＡ-02	甕	180	—	—	ハケ→ミガキ状	ハケ・工具ナデ	微細砂・赤褐色粒少量	良	淡橙茶～茶褐	淡橙～淡灰褐	
183	ＳＡ-02	壷	161	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂多量粗細砂微量	ややあまい	暗緑灰～橙褐	暗緑灰～暗灰	両面：ややマメツ
184	ＳＡ-02	壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い角閃石微量	良	淡茶橙～淡橙褐	茶橙～淡黄褐	両面：ややマメツ
185	ＳＡ-02	壷	—	—	—	ハケ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡褐～淡灰	淡褐～淡黄褐	左右非対称外面剥落



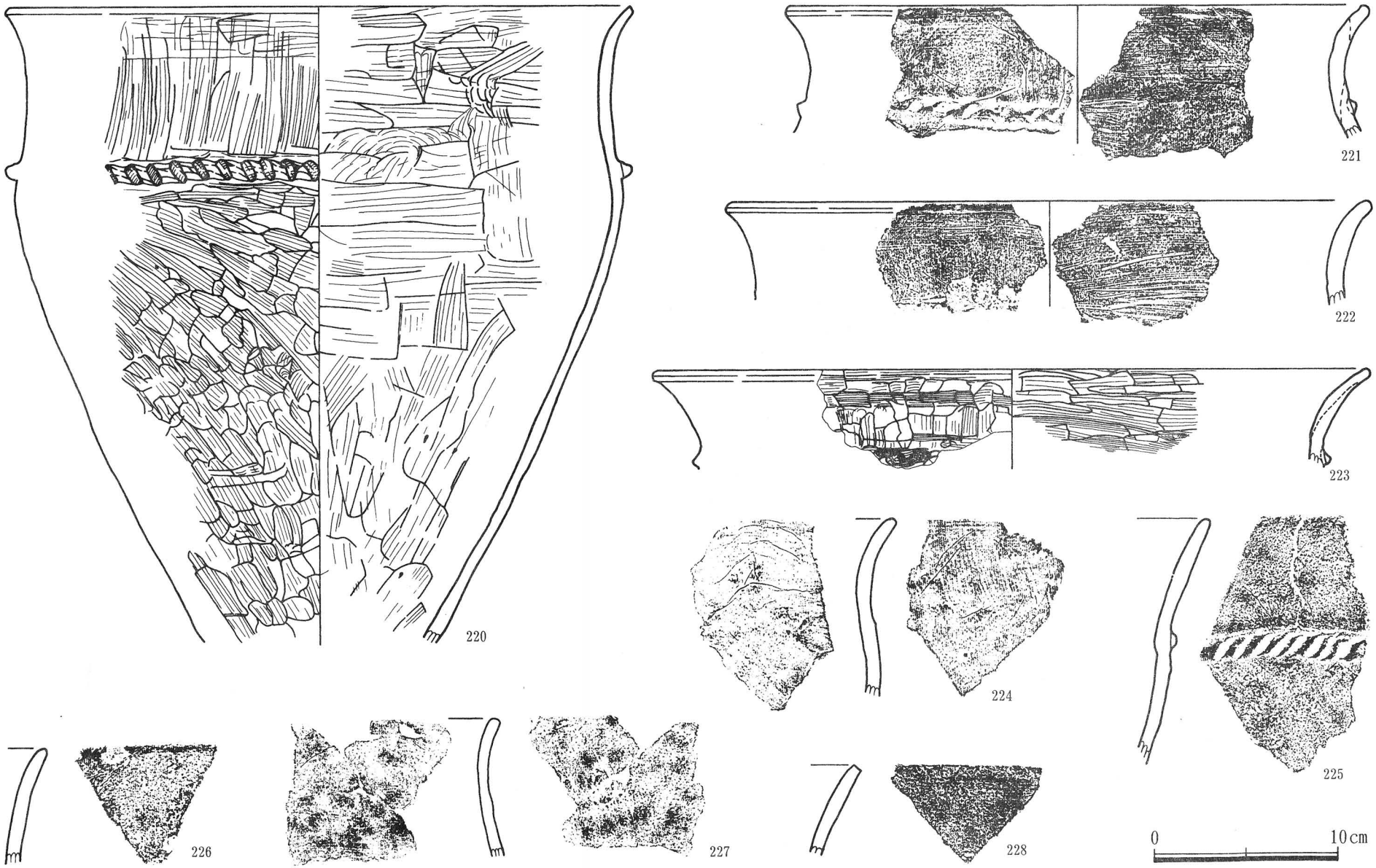
第56図　ＳＡ-03　出土遺物実測図



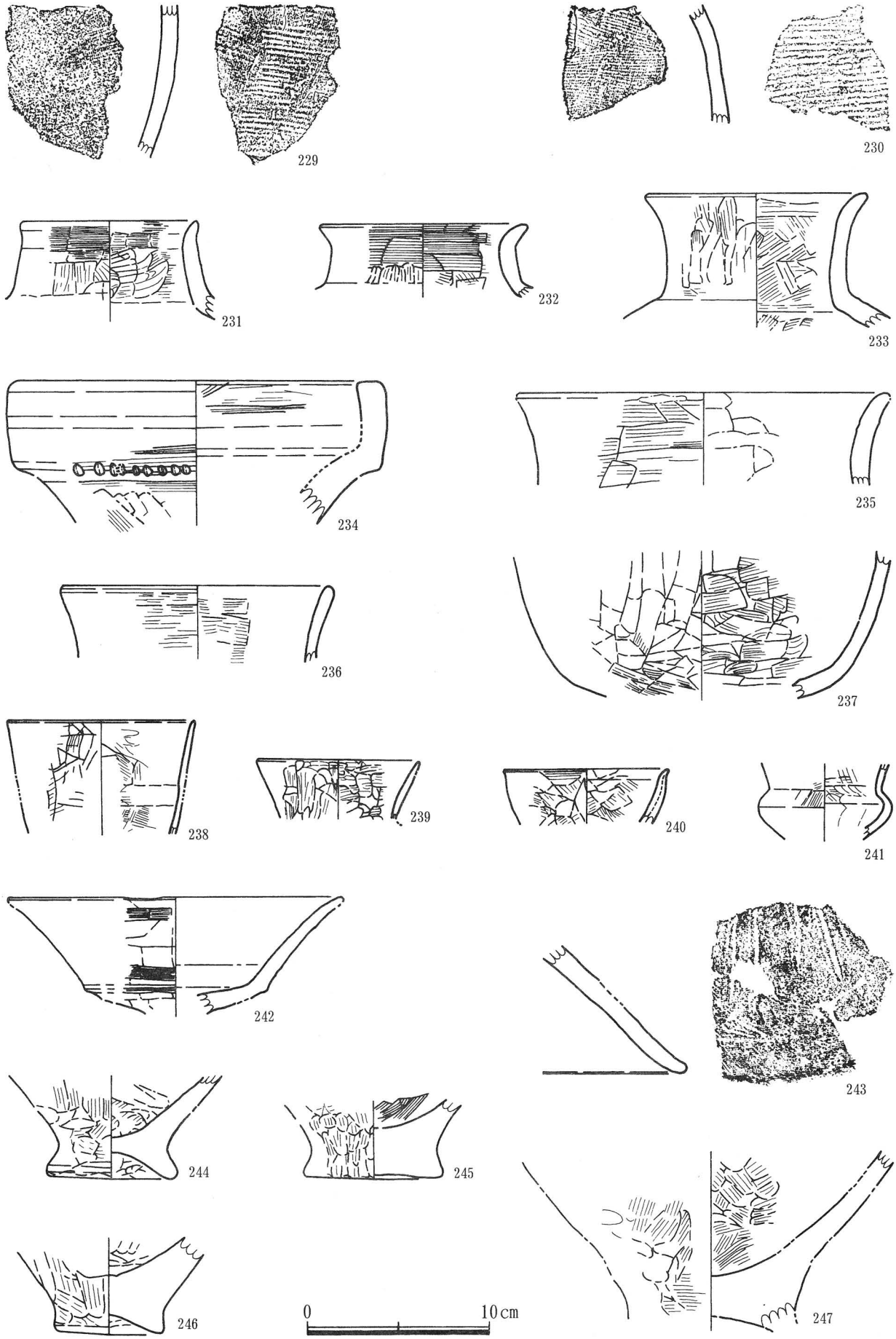
第57図　ＳＡ-04　遺構実測図



第58図　ＳＡ-04　出土遺物実測図



第59図　ＳＡ-04　出土遺物実測図（２）



第60図　ＳＡ-04　出土遺物実測図（３）

表14　ＳＡ-02出土遺物観察表（２）

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第54図 186	ＳＡ-02	甕	—	82	—	工具ナデ	ナデ	微細砂・茶褐色粒少量	良	淡黄～淡黄褐	暗褐灰～淡褐	
第55図 187	ＳＡ-02	高坏	—	177	—	丁寧工具ナデ	ナデ・工具ナデ	良	ややあまい	淡黄褐	淡褐・黒斑	焼成前穿孔あり
188	ＳＡ-02	小型鉢	118	—	77	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・角閃石少量	良	淡橙褐～淡黄褐・黒斑	淡褐～淡黄褐	
189	ＳＡ-02	小型丸底壺	81	—	109	—	ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡茶橙～桃褐・黒斑	淡黒灰	外面：マメツ
190	ＳＡ-02	小型鉢	53	—	—	粗工具ナデ	粗ナデ	粗細砂少量	良	淡橙白	淡黄褐	
191	ＳＡ-02	鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡灰褐	淡黒灰～暗灰	
192	ＳＡ-02	小型鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量粗砂微量	良	暗灰	暗灰～灰	
193	ＳＡ-02	小型丸底壺	—	—	—	—	—	微細砂やや多い茶褐色粒少量	ややあまい	黄褐～橙褐	淡黒灰～灰褐	両面：マメツ
194	ＳＡ-02	坩	—	—	—	半ミガキ	工具ナデ	良	ややあまい	淡黄褐・黒斑	暗灰褐～淡黒灰	
195	ＳＡ-02	坩	—	—	—	半ミガキ～工具ナデ	ナデ	良	良	暗茶褐・黒斑	暗茶褐～暗灰褐	
196	ＳＡ-02・03	小型丸底壺	—	—	—	丁寧ハケ	丁寧ナデ	良	ややあまい	淡褐	淡黄～淡灰黄	

表15　ＳＡ-03出土遺物観察表

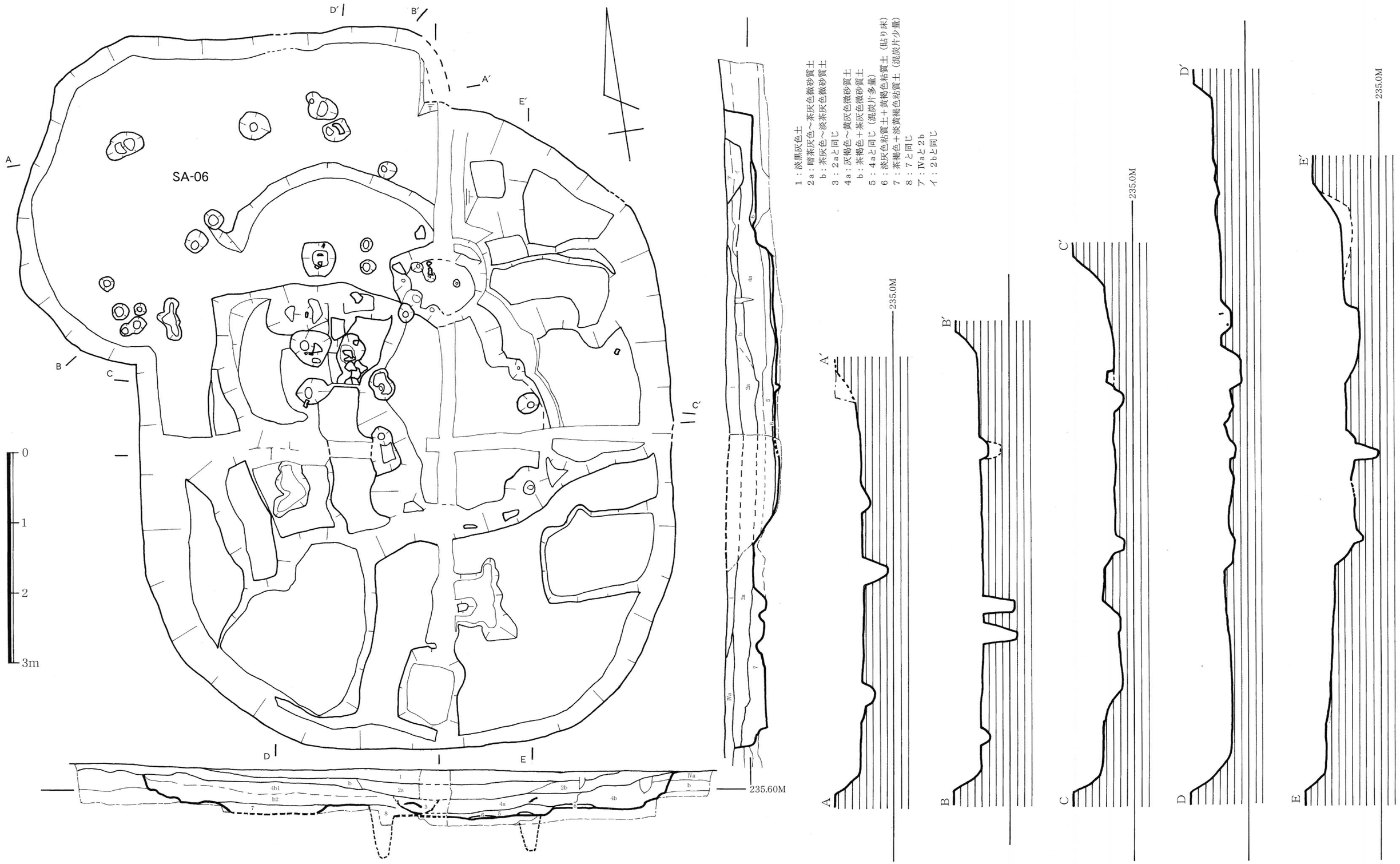
No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第56図 197	ＳＡ-03	壺	—	—	—	ナデ・ハケ	工具ナデ→ナデ	良	良	淡橙黄～淡黄灰	淡橙褐	
198	ＳＡ-03	甕	—	—	—	ナデ～工具ナデ	工具ナデ	微砂やや多い粗細砂・茶褐色粒少量	良	暗茶褐～茶橙	淡茶褐～橙褐	
199	ＳＡ-03	甕	221	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ（半ミガキ）	微細砂少量	良	淡灰褐～暗茶褐	淡黄褐	
200	ＳＡ-03	甕	220	—	—	ハケ～粗工具ナデ	ナデ	微砂少量	良	淡灰褐～暗褐	淡茶褐～褐灰	
201	ＳＡ-03	甕	288	—	—	—	—	微砂多量粗細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐～橙褐	黄褐～暗緑灰	両面：マメツ
202	ＳＡ-03	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ	微細砂少量	良	茶灰～淡褐	淡褐～褐	
203	ＳＡ-03	甕	—	82	—	—	—	微細砂多量粗砂少量	ややあまい	橙褐～黄褐	淡橙褐～淡黄灰	両面：マメツ
204	ＳＡ-03	甕	—	75	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	淡黄灰～淡黒灰	暗灰	
205	ＳＡ-03	甕	—	69	—	工具ナデ・ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡橙～淡灰黄	淡褐～淡灰褐	
206	ＳＡ-03	甕	—	73	—	—	ハケ	微細砂多量粗砂少量	あまい	淡灰黄～橙褐～暗茶褐	茶橙～暗緑灰	両面：マメツ
207	ＳＡ-03	台付鉢	—	71	—	工具ナデ半ミガキ	半ミガキ	粗細砂やや多い小礫微量	良	褐～淡黄褐	褐～淡褐・黒斑	内面：マメツ
208	ＳＡ-03	壺	117	—	—	工具ナデ	工具ナデ～粗工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	黄褐～淡黄褐	淡黄褐	
209	ＳＡ-03	高坏	238	—	—	ハケ	工具ナデ～半ミガキ	微細砂少量粗砂微量	良	茶橙	茶橙～暗茶褐	
210	ＳＡ-03	高坏	—	—	—	粗工具ナデ	半ミガキ	粗細砂やや多い赤褐色粒少量	良	褐～暗褐	淡黒灰	

ＳＡ-05（第61図）　調査区の中央南東寄りに位置した、南北9.04ｍ・東西7.51ｍの楕円形を呈する竪穴住居である。北西部は06号住居を切っている。中央部は１段（20～30㎝）下がり、貼り床が施される。主柱穴は、2.1ｍの間隔で52～75㎝の深さを測る柱穴２本である。他の柱穴は浅い。

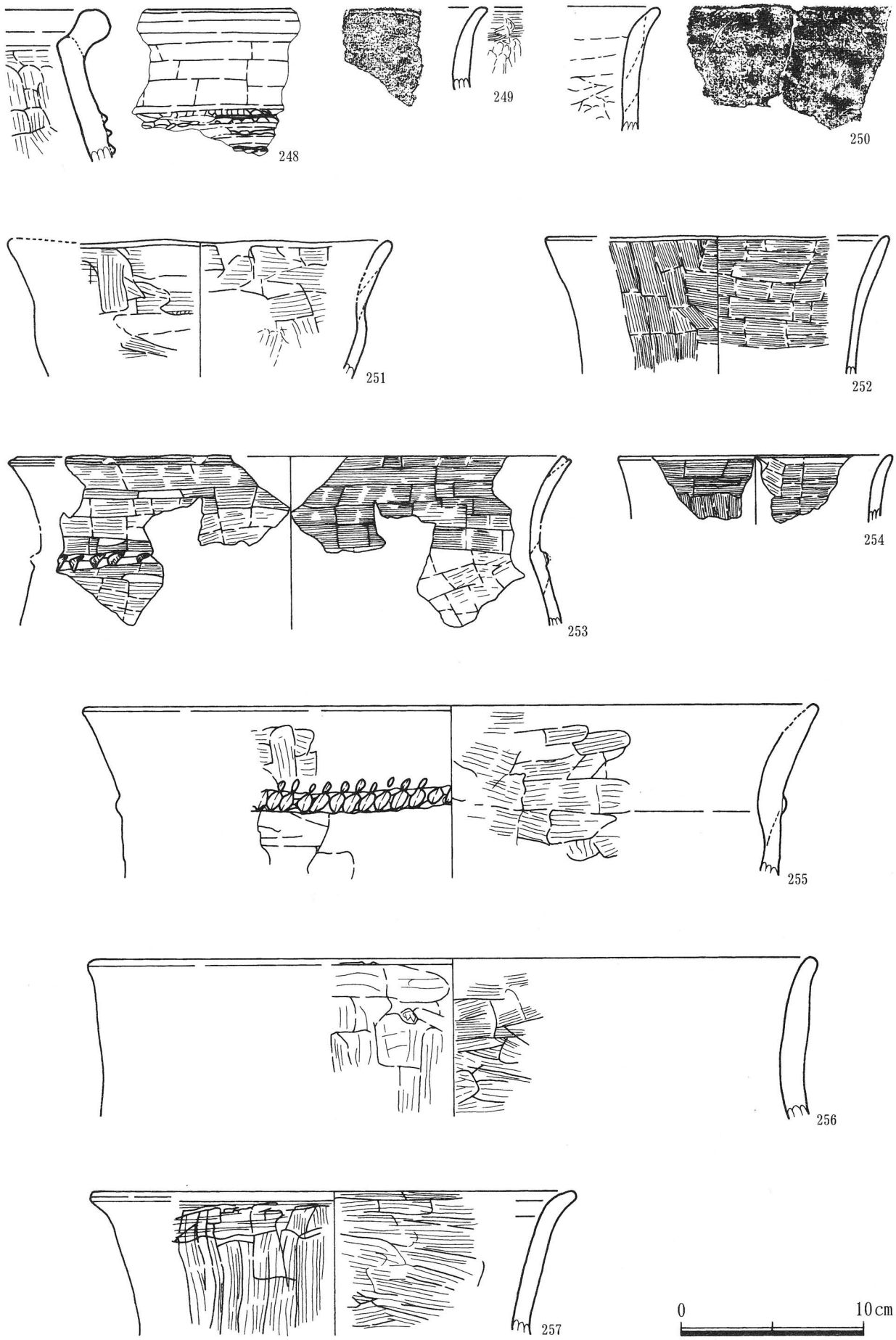
出土遺物はやや多く出土した（第62～64図）が、完形品は258の甕１点である。弥生時代後期～終末の遺物が多いが、276・277の丸底からみると、布留式期として考えられる。土器以外では台石１点（721）が出土している。

ＳＡ-06（第61図）　遺構検出時においては、長径3.2～3.4ｍ・短径4.6ｍの楕円形に近い竪穴住居の様であったが、南東部の半円形の一段低い部分の底面には、泥化炭化物が広がっており、原型を円形として想定すると、05号住居の大部分に重複していたことになる。主柱穴は不明であるが、直径20～30㎝・深さ38～48㎝の小pitが散在する。

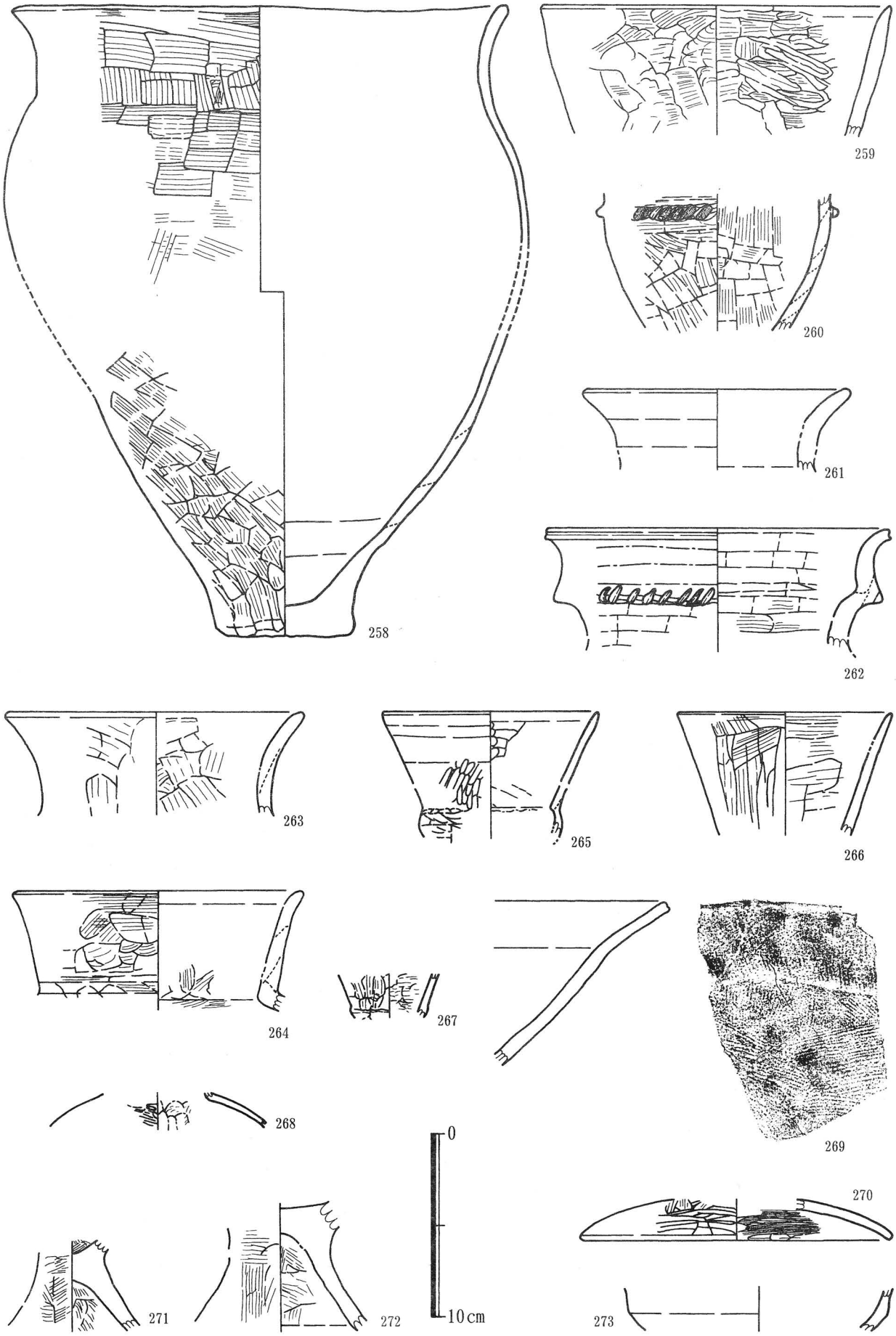
出土遺物は少なく（第65図）、289の弥生土器は混入で、290の小型壺が年代を示すものであり、弥生時代後期後半頃と思われる。



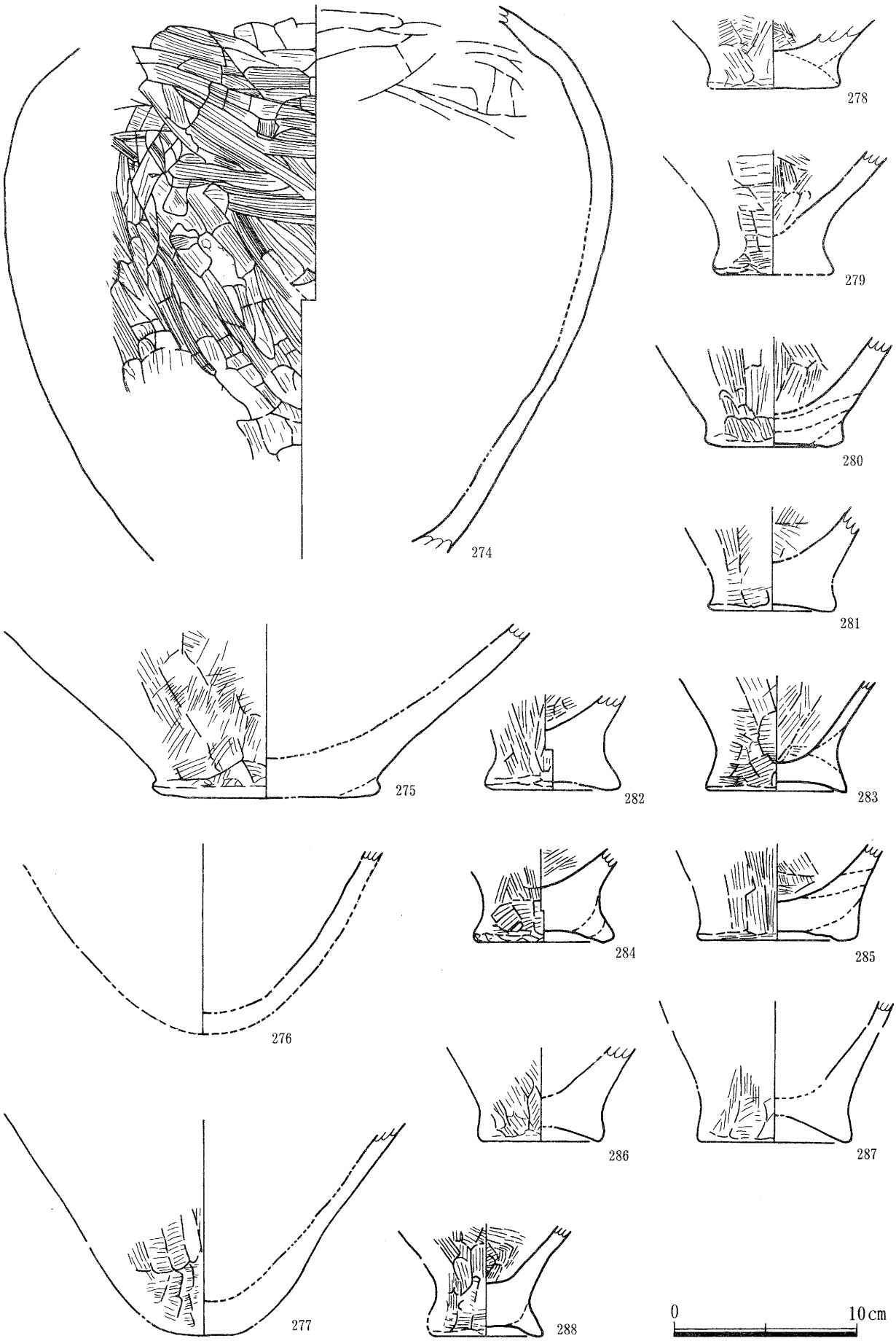
第61図　ＳＡ-05・06　遺構実測図



第62図　ＳＡ-05　出土遺物実測図（１）



第63図　ＳＡ-05　出土遺物実測図（２）



第64図　ＳＡ-05　出土遺物実測図（３）

表16　ＳＡ-04出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第58図 211	ＳＡ-04	甕	190	—	—	ハケ・ヨコハケ	ヨコハケ	微細砂少量	良	淡黄褐	淡黄褐～淡灰・黒斑	
212	ＳＡ-04	甕	184	—	—	ヨコハケ→ナナメハケ	ヨコハケ→ナデ	粗細砂やや多い	良	淡褐～暗灰褐	淡橙褐～淡灰褐	
213	ＳＡ-04	甕	226	—	—	タテハケ→粗ナデ	ヨコハケ	微細砂少量 粗砂微量	良好	暗茶褐～暗褐	淡茶褐～暗灰褐	内面：コゲ
214	ＳＡ-04	甕	310	—	—	ヨコハケ→タテハケ	ヨコハケ	粗細砂少量	良好	茶褐～暗褐	暗灰褐～暗褐	
215	ＳＡ-04	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ	微砂少量	良	淡灰褐	褐～淡灰褐	
216	ＳＡ-04	甕	372	—	—	ヨコハケ・粗工具ナデ	ヨコハケ	粗細砂少量	良	橙褐～淡灰褐	淡茶褐～暗茶褐	
217	ＳＡ-04	甕	223	—	—	ハケ	ハケ・工具ナデ	粗細砂・微砂やや多い	ややあまい	淡茶褐～淡黄・黒斑	淡黄褐～橙褐・黒斑	
218	ＳＡ-04	鉢	212	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂多量	良	淡黄～淡灰褐	淡黄褐～淡橙黄	
219	ＳＡ-04	甕	305	—	—	ハケ～工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量 小礫微量	良	褐灰	茶灰～暗灰褐	
第59図 220	ＳＡ-04	甕	342	—	—	ヨコ・タテハケ→ナナメハケ→タテ粗工具ナデ	ヨコハケ→ケズリ状	微細砂やや多い 粗砂・小礫少量	良	淡黄褐～茶灰	淡褐～黄褐	
221	ＳＡ-04	甕	320	—	—	ナデ	ハケ～工具ナデ	粗砂少量 微細砂やや多い	良	褐灰～暗茶灰	淡茶褐～淡灰褐	
222	ＳＡ-04	甕	355	—	—	ヨコハケ・タテ・ヨコ工具ナデ	ハケ	微細砂やや多い	良	茶灰～褐灰	淡黄茶～淡黄褐	
223	ＳＡ-04	甕	392	—	—	ハケ	ハケ	微細砂やや多い	良	褐～淡茶褐	茶灰～淡褐	
224	ＳＡ-04	甕	—	—	—	ヨコ・タテハケ～粗工具ナデ	ヨコハケ・ナナメハケ	微細砂・小礫少量	良好	茶橙～黒褐	暗褐灰～茶褐	
225	ＳＡ-04	甕	—	—	—	ナデ・粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	茶褐～暗茶褐	淡黄褐～淡灰黄	
226	ＳＡ-04	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ	微細砂少量	良	暗茶灰	淡黄褐～淡褐	
227	ＳＡ-04	甕	—	—	—	ヨコハケ・ヨコ→タテ工具ナデ	ヨコハケ	微細砂やや多い 小礫少量	良	淡黒灰～暗灰褐	淡黒灰～暗褐灰	
228	ＳＡ-04	甕	—	—	—	ヨコハケ	工具ナデ～ナデ	細砂少量	良	暗茶褐～暗褐	褐～灰褐	
第60図 229	ＳＡ-04	甕	—	—	—	タタキ→少しハケ	—	微細砂少量	良好	淡黄褐～褐灰	暗灰褐～淡黒灰	内面：マメツ
230	ＳＡ-04	甕	—	—	—	タタキ	ナナメハケ ヨコハケ	微細砂・角閃石少量、小礫微量	良好	黒褐	褐～淡橙褐	
231	ＳＡ-04	壷	98	—	—	ナデ・工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・赤褐色粒少量	良	橙褐	茶橙～淡橙褐	
232	ＳＡ-04	壷	115	—	—	ナデ・ヨコハケ	ナデ・ヨコハケ～ナナメ工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡橙褐～暗灰褐	淡橙褐～灰褐	
233	ＳＡ-04	壷	122	—	—	工具タテナデ	工具ナデ	粗細砂・茶褐色粒少量	良	橙褐～淡黄褐	暗灰～淡黄褐	外面：マメツ
234	ＳＡ-04	壷	206	—	—	ハケ・ナデ	工具ナデ	微細砂微量	良	淡褐～淡橙褐	淡褐～淡橙褐	
235	ＳＡ-04	壷	204	—	—	ハケ	ナデ～工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄～淡黄灰	淡黄灰～灰褐	
236	ＳＡ-04	壷	150	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂・角閃石少量	良	淡灰黄	淡橙黄～淡黄白	
237	ＳＡ-04	壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・小礫少量	良	淡灰褐～淡茶褐	淡褐～淡黄褐	
238	ＳＡ-04	小型丸底壷	103	—	—	ミガキ	半ミガキ～ナデ～丁寧工具ナデ	良	ややあまい	淡黄灰・黒斑	淡黄灰～淡黄褐	外面：マメツ
239	ＳＡ-04	小型丸底壷	90	—	—	工具ナデ・ナデ	工具ナデ	微砂微量	ややあまい	灰褐～暗灰褐	灰褐～暗灰褐	
240	ＳＡ-04	小型丸底壷	91	—	—	工具ナデ	ナデ～工具ナデ	微細砂少量	良	淡褐	淡橙褐～淡黄・黒斑	
241	ＳＡ-04	坩	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	桃橙～橙黄	褐～淡灰黄	
242	ＳＡ-04	高坏	183	—	—	ハケ～工具ナデ	工具ナデ・ナデ	微砂少量	ややあまい	淡褐～淡黄褐	橙褐・黒斑	内面：マメツ
243	ＳＡ-04	蓋	—	—	—	タテハケ→ヨコハケ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡橙～淡黄・黒斑	淡灰～淡黒灰	口縁部：マメツ
244	ＳＡ-04	甕	—	72	—	粗工具ナデ	ナデ～粗工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡橙褐～淡灰黄	淡黄白～淡橙褐	
245	ＳＡ-04	甕	—	77	—	粗工具ナデ	ヨコハケ	粗細砂やや多い	良	淡黄褐～淡灰黄	淡灰黄～淡黄褐	
246	ＳＡ-04	甕	—	61	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂やや多い	良	橙褐～灰褐	灰褐～茶灰	
247	ＳＡ-04	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ・ハケ	粗細砂やや多い	ややあまい	暗緑灰～黄褐	淡黄褐～灰褐	外面：かなり剥落

表17　ＳＡ-05出土遺物観察表（１）

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第62図 248	ＳＡ-05	甕	—	—	—	半ミガキ	工具ナデ	微細砂多量 角閃石少量	良	黒灰～暗茶褐	暗茶褐～茶	
249	ＳＡ-05	甕	—	—	—	ハケ→工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡黒褐～暗茶褐	暗茶褐	
250	ＳＡ-05	甕	—	—	—	ハケ～工具ナデ	ナデ・工具ナデ	微細砂・粗砂少量	良	淡茶褐～暗茶褐	灰褐～淡灰褐	
251	ＳＡ-05	甕	212	—	—	ハケ・工具ナデ	工具ナデ・ナデか	微細砂やや多い 赤褐色粒少量	ややあまい	淡橙～茶灰	淡茶橙～淡黄	
252	ＳＡ-05	甕	190	—	—	—	—	粗細砂多量	ややあまい	茶黄～橙褐	茶褐～暗緑灰	両面：マメツ
253	ＳＡ-05	甕	309	—	—	ヨコハケ	ハケ・工具ナデ	微細砂多量 粗砂少量	良	灰褐～淡黄褐	淡黄褐～暗茶灰～黄褐・黒斑	
254	ＳＡ-05	甕	151	—	—	ナデ→タテ工具ナデ	ナデ～工具ナデ	細砂少量	良	暗灰褐～淡褐	淡黒灰～暗緑灰	
255	ＳＡ-05	甕	403	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	橙黄～淡黄褐	橙黄～黄褐	両面：マメツ
256	ＳＡ-05	甕	400	—	—	工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂多量 小礫少量	ややあまい	黄褐～暗灰	橙黄～淡黄灰	外面：マメツ
257	ＳＡ-05	甕	268	—	—	ヨコハケ→タテハケ	ハケ	微細砂・粗砂少量	良好	茶橙	淡黄褐～橙褐	
第63図 258	ＳＡ-05	甕	279	76	347	ハケ～工具ナデ	工具ナデ	微細砂多量 小礫微量	ややあまい	橙褐～淡黄～茶褐	暗緑灰～淡黒褐	縁部かなり歪み

表18　ＳＡ-05出土遺物観察表（２）

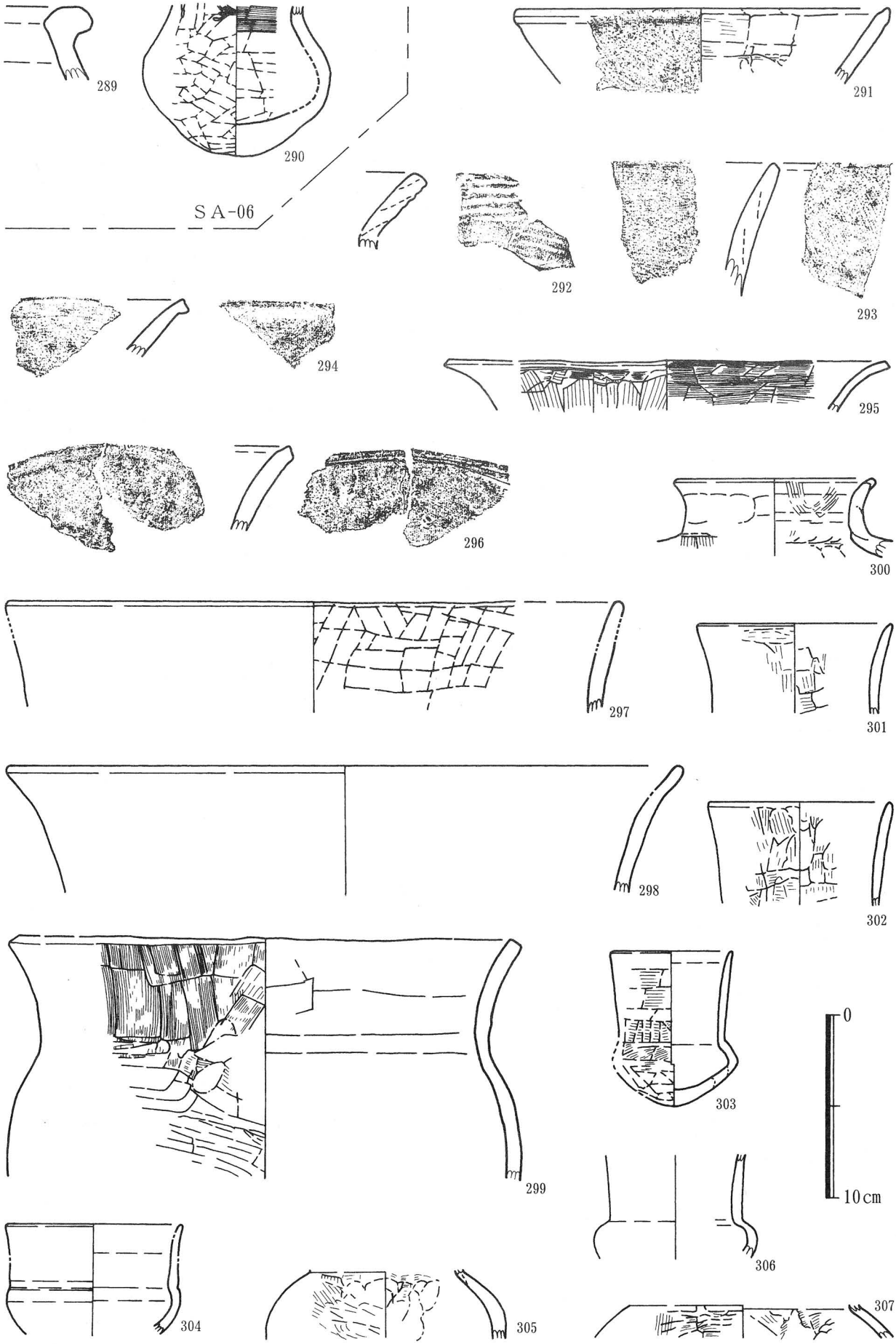
No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第63図 259	ＳＡ-05	甕	192	—	—	粗工具ナデ・ナデ	粗工具ナデ	微細砂少量	良	淡黄～暗茶褐	淡黄灰～淡黒褐	
260	ＳＡ-05	甕	—	—	—	ハケ～工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡褐～暗茶褐	暗茶灰	
261	ＳＡ-05	壷	147	—	—	—	—	微細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐～茶褐	淡黄褐～茶橙	両面：マメツ
262	ＳＡ-05	壷	191	—	—	ナデ～工具ナデ	ナデ～工具ナデ	粗細砂多量	良	黄褐	黄褐～淡橙白	
263	ＳＡ-05	壷	164	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い 赤褐色粒少量	ややあまい	暗緑灰～橙褐	灰褐～淡黄褐・黒斑	外面：マメツ
264	ＳＡ-05	壷	158	—	—	ナデ～工具ナデ	—	粗細砂やや多い	ややあまい	桃褐～桃橙	桃褐～淡黄褐	内面：剥落
265	ＳＡ-05	小型丸底壷	119	—	—	ミガキ	ハケ～ミガキ～工具ナデ	赤褐色粒少量	ややあまい	淡灰褐～淡茶灰	淡橙褐～淡褐、口：暗茶褐～淡黒褐	
266	ＳＡ-05	小型丸底壷	118	—	—	タテ半ミガキ	工具ナデ～ナデ	微砂少量	ややあまい	淡褐～淡橙褐	淡黄白～灰	
267	ＳＡ-05	坩	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	良	良	淡黄褐・黒斑	淡黄白・黒斑	
268	ＳＡ-05	小型丸底壷	—	—	—	ミガキ	工具ナデ～ナデ	良	あまい	淡灰白～褐灰	淡褐～淡灰褐	外面：マメツ
269	ＳＡ-05	浅鉢	340~400	—	—	ハケ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	茶褐～淡黄褐・黒斑	淡橙黄～黄褐・黒斑	
270	ＳＡ-05	高坏	172	—	—	ミガキ～半ミガキ	ハケ～ナデ	微砂微量	ややあまい	淡褐～淡橙褐	淡褐～黄褐	
271	ＳＡ-05	高坏	—	—	—	工具ナデ・ナデ	工具ナデ	微砂やや多い 粗細砂・角閃石少量	良	茶～茶褐	淡茶褐	
272	ＳＡ-05	高坏	—	—	—	工具ナデ	半ミガキ・工具ナデ	微細砂微量	ややあまい	淡黄白～淡褐	淡褐	外面：マメツ
273	ＳＡ-05	高坏か	—	—	—	ハケ	—	微細砂微量 白色粘土粒少量	ややあまい	淡橙黄	黄褐	内面：マメツ
第64図 274	ＳＡ-05	壷	—	—	—	ハケ～粗ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い 茶褐色粒・白色粒・小礫少量	ややあまい	淡褐～淡黄灰～桃橙・黒斑	淡橙～淡黄	内面：かなり剥落 かなりイビツ
275	ＳＡ-05	壷	—	125	—	工具ナデ	—	微細砂・角閃石微量、小礫少量	ややあまい	暗茶褐～淡茶褐	淡橙黄	内面：剥落
276	ＳＡ-05	壷	—	—	—	—	—	微細砂やや多い	ややあまい	淡橙褐～淡灰褐	淡黄白～淡橙白	外面：かなり剥落 内面：マメツ
277	ＳＡ-05	壷	—	33	—	工具ナデ	—	粗細砂やや多い	ややあまい	淡橙黄～茶褐	淡黄白	両面：マメツ 内面：剥落
278	ＳＡ-05	甕	—	73	—	ハケ	ハケ	微細砂・赤褐色粒少量	良	橙褐～暗茶褐	暗茶褐～茶褐	
279	ＳＡ-05	甕	—	66	—	工具ナデ	工具ナデ・ナデ	微細砂微量	ややあまい	淡褐～茶灰	淡黒褐～淡灰黄	
280	ＳＡ-05	甕	—	75	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い 小礫微量	ややあまい	茶褐～暗茶褐	茶灰～茶褐	内面：オコゲ
281	ＳＡ-05	甕	—	70	—	工具ナデ	工具ナデ	細砂やや多い	良	淡黄～淡褐	淡灰	外面：ややマメツ
282	ＳＡ-05	甕	—	73	—	工具ナデ～粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄～淡橙黄～暗灰	橙褐～淡黄褐	
283	ＳＡ-05	甕	—	77	—	工具ナデ	ナデか	粗細砂やや多い	ややあまい	橙褐～淡褐	暗灰～淡黒灰	
284	ＳＡ-05	甕	—	70～76	—	工具ナデ	—	細砂多量	良	淡灰～淡橙黄	淡灰～暗灰	内面：マメツ
285	ＳＡ-05	甕	—	87	—	工具ナデ～粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	桃褐～褐灰	淡茶灰～淡黄褐	
286	ＳＡ-05	甕	—	69	—	工具ナデ	—	粗細砂微量	良	淡橙褐～淡黄褐	茶灰	
287	ＳＡ-05	甕	—	85	—	—	—	粗細砂やや多い	あまい	黄褐	暗灰褐～淡黒灰	両面：マメツ
288	ＳＡ-05	甕	—	63	—	ハケ	工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	桃褐～茶褐	淡褐～淡橙	外面：マメツ 内面：オコゲ

表19　ＳＡ-06出土遺物観察表

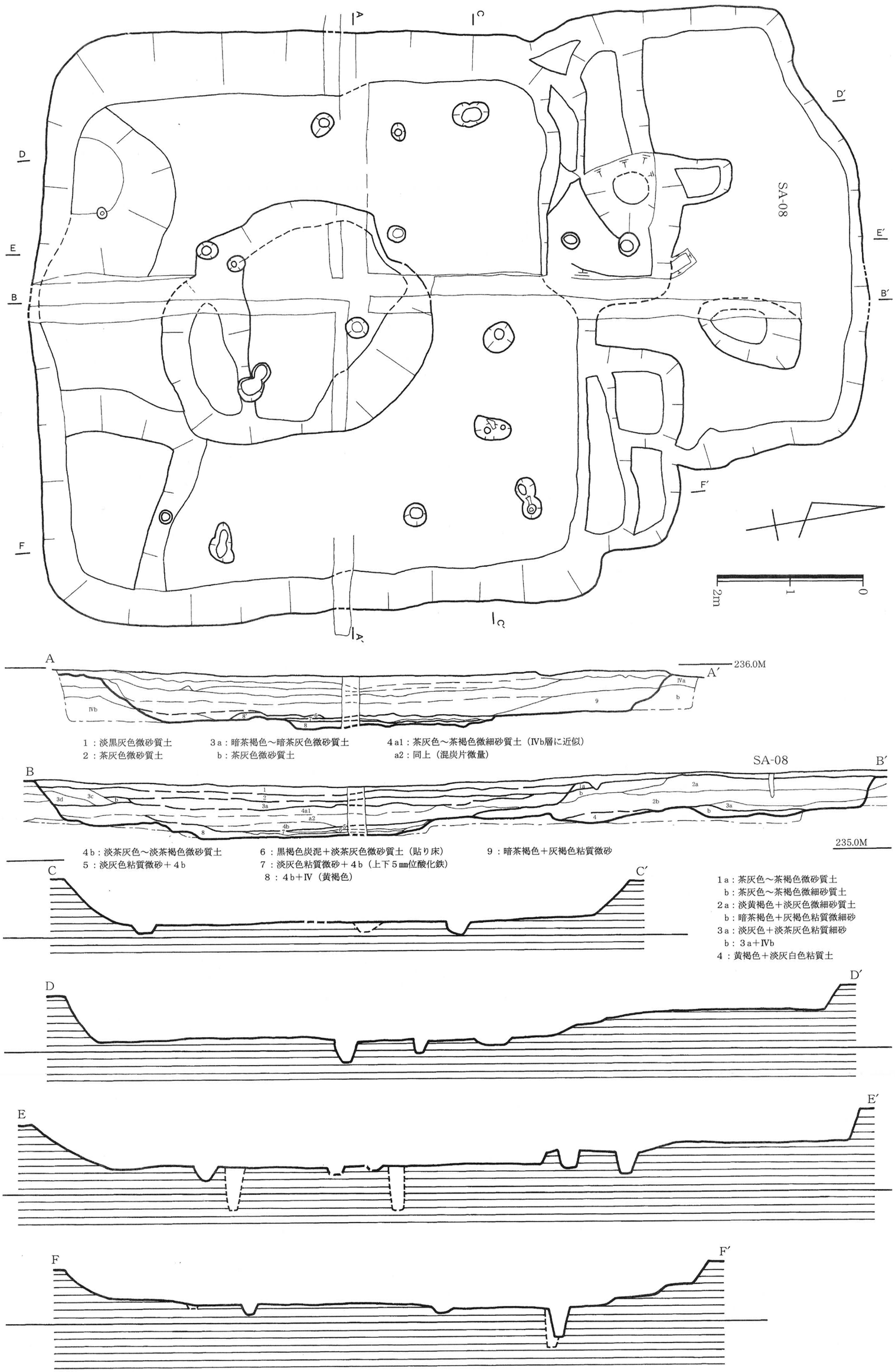
No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第65図 289	ＳＡ-06	甕	—	—	—	半ミガキ～ナデ	ミガキ～半ミガキ	細砂・角閃石少量	良好	淡褐	紅桃～桃褐	
290	ＳＡ-06	小型丸底壷	—	—	—	半ミガキ～工具ナデ～粗工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	良	淡橙褐～褐・黒斑	淡橙褐～淡褐	

ＳＡ-07（第66図）　調査区の中央やや東寄り、06号住居の1.2ｍ北に位置し08号住居を切る、１辺7.8～8.1ｍの隅丸方形のプランである。１段（10cm内外）低い中央部の長軸は3.6ｍ・短軸は3.2ｍを測り、底面には厚さ５cm前後の貼り床を施し、その上面には泥化炭化物が広がっている。主柱穴は不明瞭であるが中央寄りの直径20～31cm・深さ57～65cmの小pitが最も深い。他は深さ20cm前後のものが多く、補助的pitと思われる。南東部には、深さ５～14cmの土坑状掘り込みがある。

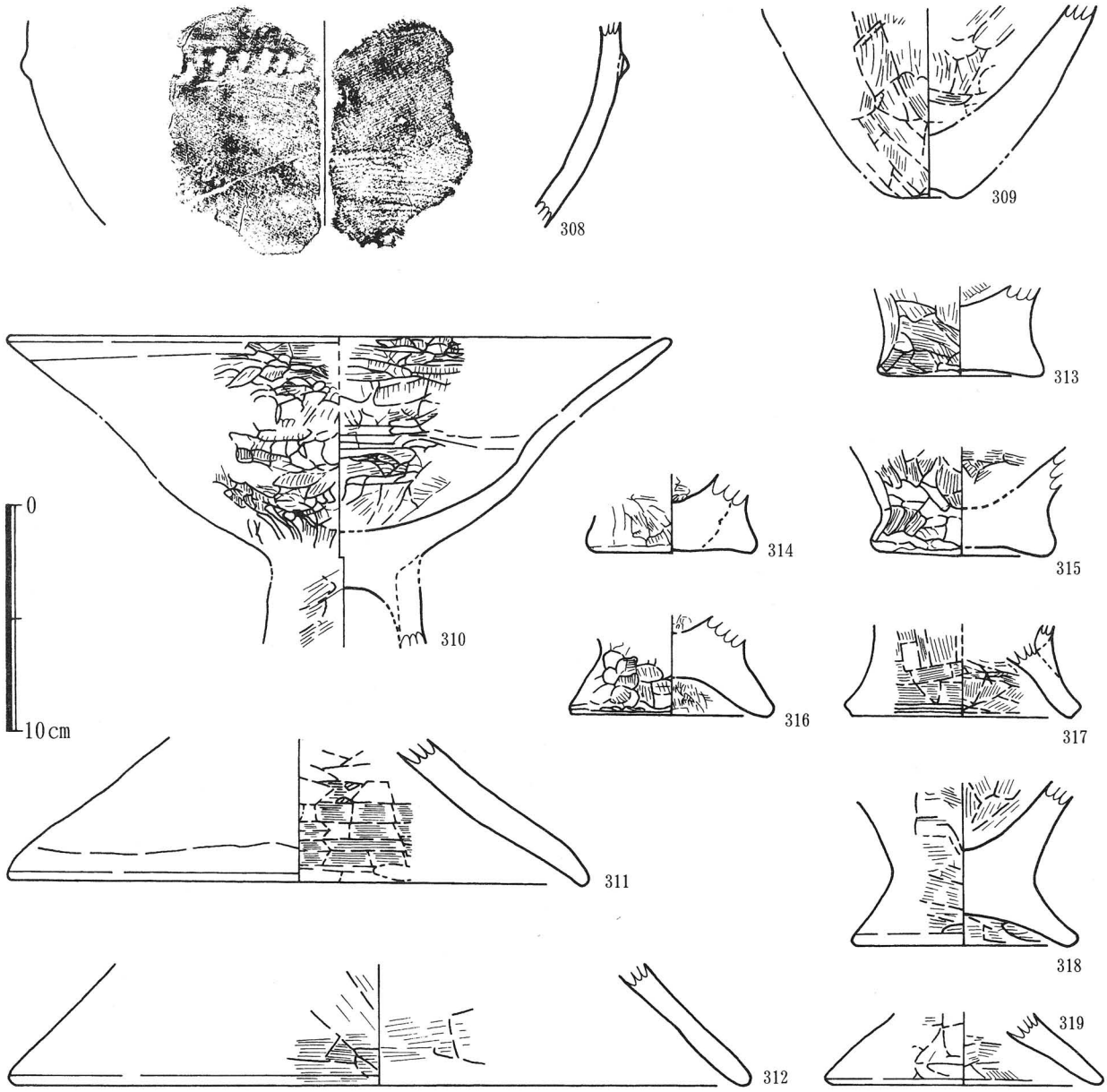
出土遺物は一様の器種がある（第65・67図）が、完形品は303の坩のみである。全般的に弥生時代後期後半頃か。甕295の外面には赤色顔料が付着しているが、用途不明である。土器以外では、鉄鏃１本（459）のほか、石包丁（694）、磨製石鏃（686）、砥石（710）が各１点出土している。



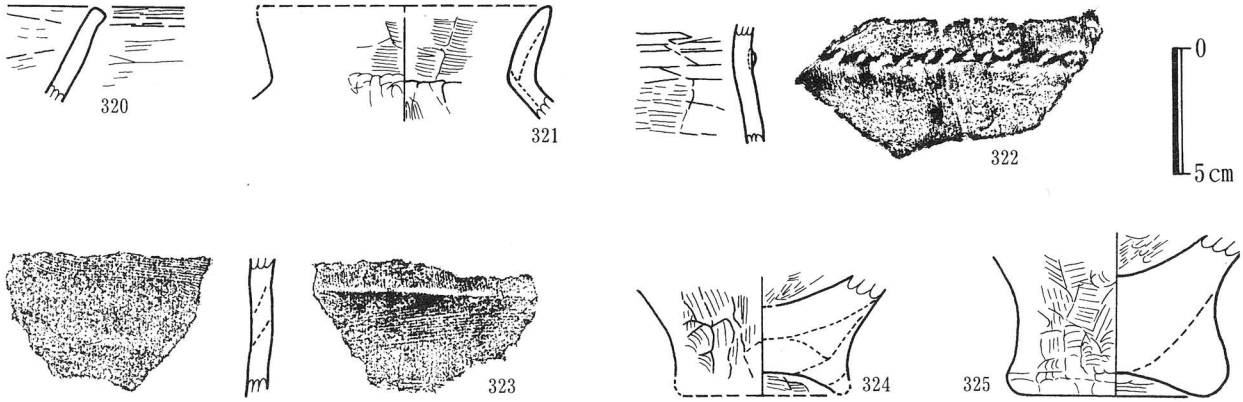
第65図　ＳＡ-06　出土遺物実測図，ＳＡ-07　出土遺物実測図（１）



第66図　ＳＡ-07・08　遺構実測図



第67図　ＳＡ-07　出土遺物実測図（２）



第68図　ＳＡ-08　出土遺物実測図

表20　ＳＡ-07出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第65図 291	ＳＡ-07	鉢	205	—	—	ナデ～粗ハケ	工具ナデ	細砂少量	良好	茶褐・黒斑	淡黒灰	
292	ＳＡ-07	甕	—	—	—	工具ナデ・タタキ・ナデ	ナデ	微細砂少量 角閃石微量	良	淡褐～暗灰褐	茶褐～暗茶褐	破損後被熱
293	ＳＡ-07	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	細砂多量	良	淡茶褐～淡黄褐	淡黄褐～淡灰褐	
294	ＳＡ-07	甕	—	—	—	ナデ～工具ナデ	工具ナデ	細砂少量	良	灰褐～淡黒灰	暗褐灰～暗褐	
295	ＳＡ-07	甕	244	—	—	ナデ・ハケ	ハケ	微砂少量	ややあまい	暗茶褐～淡茶褐	淡黒灰～茶褐	外面一部：赤紫色顔料
296	ＳＡ-07	甕	—	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微砂少量	良好	暗茶褐～暗褐	暗茶灰～暗褐	
297	ＳＡ-07	甕	337	—	—	—	工具ナデ	茶褐色粒少量 粗細砂やや多い	ややあまい	淡褐～淡茶褐	橙褐～淡黄・暗灰	外面：マメツ
298	ＳＡ-07	甕	370	—	—	—	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡茶褐～淡橙黄	淡橙黄	両面：マメツ
299	ＳＡ-07	甕	280	—	—	ハケ～工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量 角閃石やや多い	あまい	淡灰褐～灰褐	淡灰～淡黄灰	両面：マメツ
300	ＳＡ-07	壷	110	—	—	ナデ～ハケ	ナデ	良	ややあまい	淡黄灰	淡黄褐	
301	ＳＡ-07	小型丸底壷	107	—	—	—	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶灰～淡橙黄	暗灰褐～淡茶褐	外面：マメツ
302	ＳＡ-07	小型丸底壷	101	—	—	工具ナデ～半ミガキ	工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡橙黄～淡黄褐	暗緑灰～暗灰褐	
303	ＳＡ-07	坩	68	—	85	半ミガキ～丁寧工具ナデ	丁寧ナデ～ハケ	良	あまい	淡褐～淡黄褐	淡黄～淡黄灰	
304	ＳＡ-07	坩	95	—	—	ミガキ	—	白色粘土粒・微細砂・茶褐色粒少量	あまい	淡黄褐～淡桃褐	淡黄～橙褐	両面：マメツ
305	ＳＡ-07	小型丸底壷	—	—	—	工具ナデ～丁寧ナデ	ナデ	微細砂・角閃石微量	良	淡黄褐～灰・黒斑	暗灰～暗灰褐	
306	ＳＡ-07	坩	—	—	—	—	工具ナデ～ナデ	微細砂少量	ややあまい	橙褐～黄褐	淡桃褐	外面：マメツ
307	ＳＡ-07	壷	—	—	—	丁寧工具ナデ	丁寧ナデ	微砂微量	良	暗褐～暗茶褐	淡褐～褐	
第67図 308	ＳＡ-07	甕	—	—	—	ハケ	ハケ～ナデ	微細砂少量	良	茶橙～暗茶褐	明茶～茶橙	
309	ＳＡ-07	壷	—	30	—	工具ナデ～半ミガキ	工具ナデ	微砂・茶褐色粒少量	良	淡桃橙～淡黄灰	淡茶灰～淡黄	
310	ＳＡ-07	高坏	295	—	—	工具ナデ～ナデ～半ミガキ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡褐～橙褐	茶橙～淡黄褐・黒斑	
311	ＳＡ-07	蓋	257	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂多量 粗細砂少量	ややあまい	橙褐～灰褐	淡黄灰～暗茶灰	外面：マメツ
312	ＳＡ-07	蓋	329	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微砂多量 茶褐色粒少量	ややあまい	淡黄褐～淡褐	桃褐～黄褐	内面：マメツ
313	ＳＡ-07	甕	—	74	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡黄灰～暗灰	淡灰褐	
314	ＳＡ-07	甕	—	76	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡茶褐～暗茶褐	暗灰褐	内面：オコゲ少量
315	ＳＡ-07	甕	—	81	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡灰～淡褐	淡黄灰～淡黄	
316	ＳＡ-07	台付鉢	—	90	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡灰～灰	淡灰～灰	
317	ＳＡ-07	台付鉢	—	103	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量 角閃石微量	良	淡黄褐～橙褐	橙褐～淡茶褐	
318	ＳＡ-07	甕	—	100	—	ハケ・工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	黄褐～淡黄褐	淡黒灰	内面：オコゲ
319	ＳＡ-07	台付鉢	—	124	—	工具ナデ	工具ナデ～ナデ	粗細砂・小礫少量	良	淡黄褐～淡褐	淡黄褐	

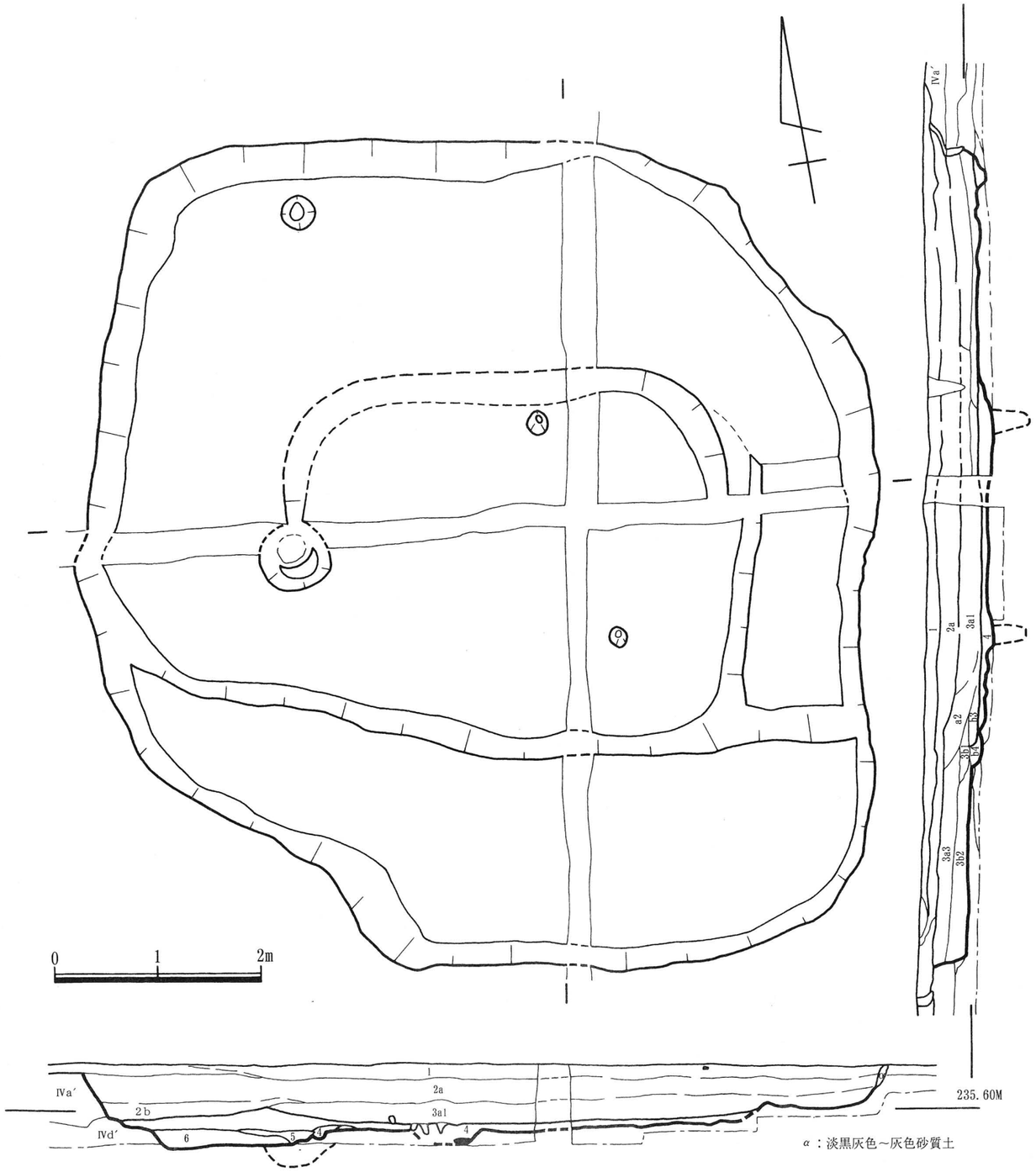
ＳＡ-08（第66図）　南北断面により07号に切られたことは明らかであるが、旧状は推定困難である。南側中央部は１段（10cm）下がり、貼り床が施されている。柱穴は２基検出し、北側の柱穴が主柱穴の１つとなる可能性が高い。

出土遺物は少なく、若干の壷甕類が出土している（第68図）。土器以外では鉄鏃もしくは刀子と思われるもの（461）と使用痕のある剥片（700）が出土している。

表21　ＳＡ-08出土遺物観察表

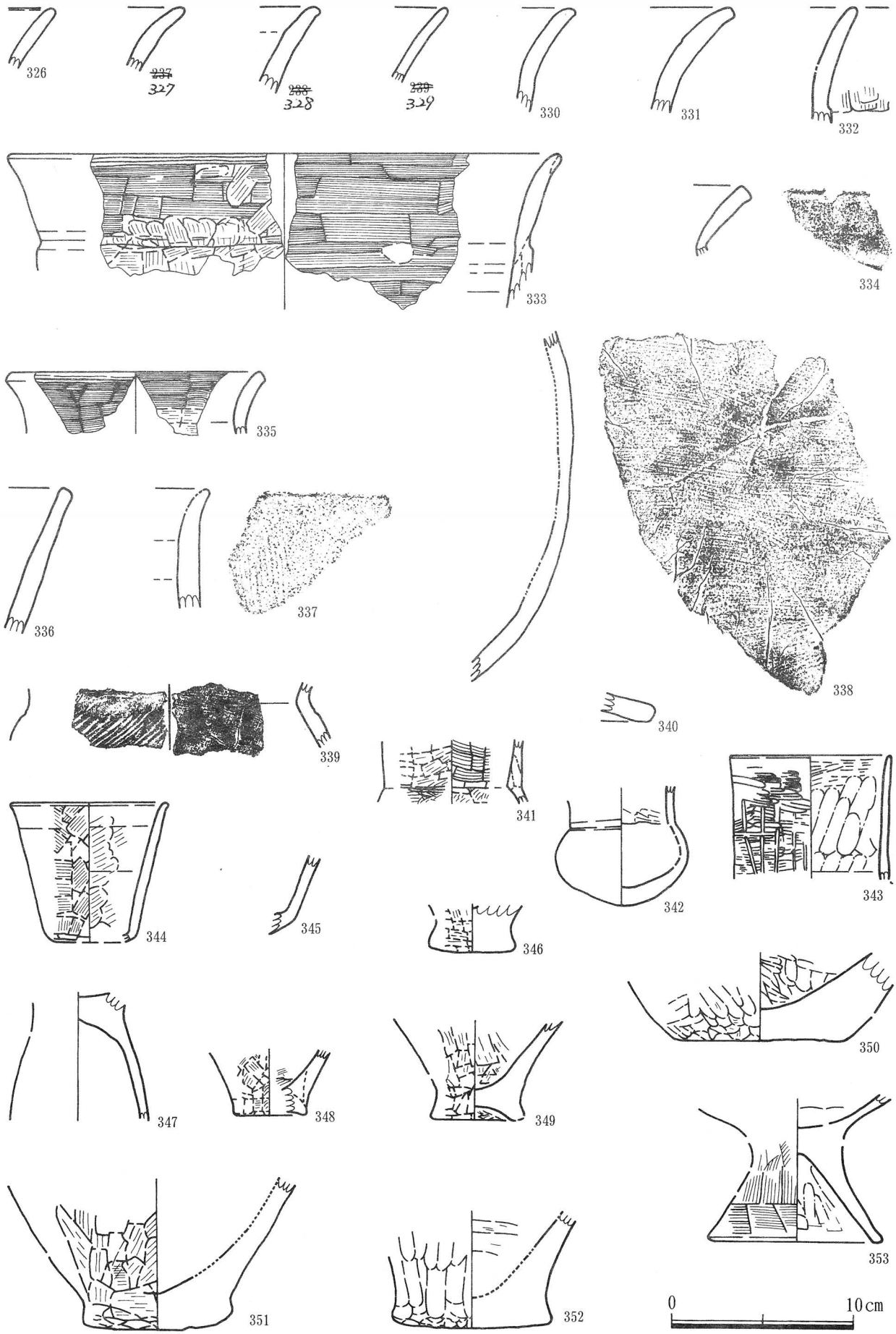
No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第68図 320	ＳＡ-08	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	細砂やや多い	ややあまい	淡橙	橙～淡黄	
321	ＳＡ-08	壷	(116)	—	—	工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	良	暗褐灰～茶橙	淡橙茶	
322	ＳＡ-08	壷	—	—	—	—	工具ナデ	微細砂やや多い	良	茶橙～茶褐	褐～淡茶黄	外面：マメツ
323	ＳＡ-08	甕	—	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	良	黒灰	茶褐～暗茶褐	
324	ＳＡ-08	甕	—	(70)	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡灰褐～淡黄褐	灰褐～淡黒灰	
325	ＳＡ-08	甕	—	87	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡橙～淡黄褐	灰褐～淡黄灰	

ＳＡ-09（第69図）　中央やや北東寄りに位置した、１辺7.6～８ｍの略隅丸方形状を呈する。北～

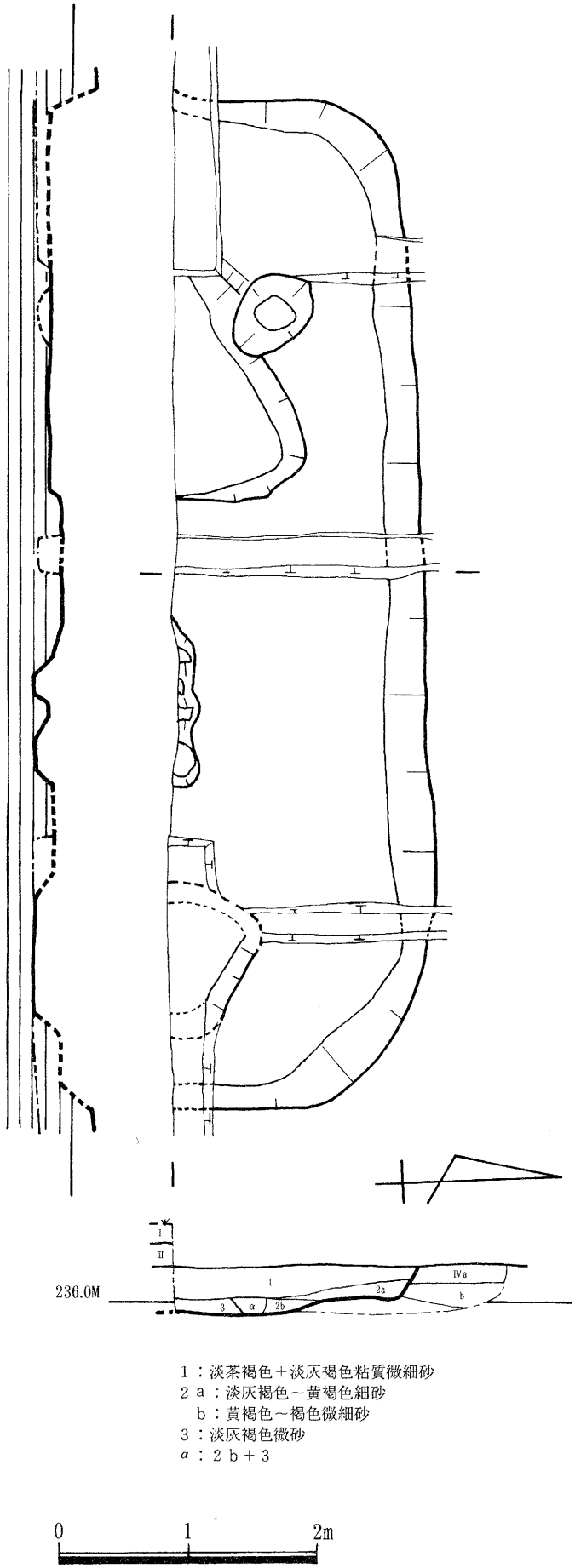


Ⅳa’：淡黄褐色粗細砂
1：淡黒灰色～暗灰褐色土
2：灰褐色～淡茶黄色砂質土
3a1：灰褐色～淡茶褐色砂質土
3a2：淡灰褐色～灰褐色砂質土
a3：淡灰褐色＋淡黄褐色砂質土
3b1：3a2と同じ
b2：3a3＋淡茶褐色砂質土
b3：3a2＋3b1
3b4：3b3＋粗細砂
4：淡灰白色粘質土＋淡茶褐色細砂（貼り床）
5：黒灰色炭泥＋細砂
6：淡灰色＋淡黄褐色粘質土

第69図　ＳＡ-09　遺構実測図



第70図　ＳＡ-09　出土遺物実測図



第71図　ＳＡ-10　遺構実測図

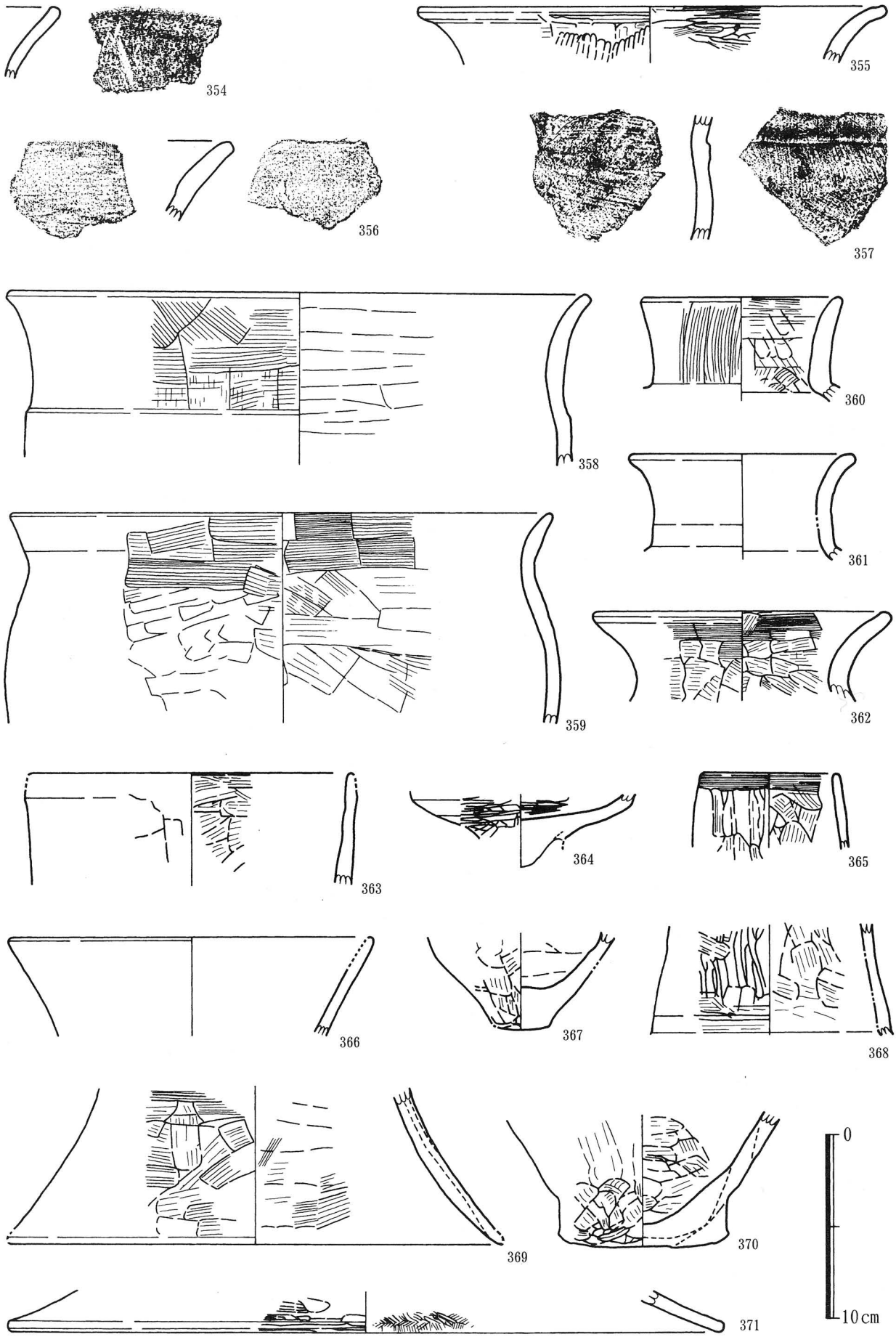
東側の肩部には厚さ４～６㎝の淡灰色粘質土があり、壁面の板材痕である可能性が高い。中央部は１段（10～20㎝）下がり、直径15～18㎝・深さ32㎝の小pitと直径19～22㎝・深さ36㎝の小pit２基が主柱穴と思われる。第４層は２次面の貼り床で、５～20㎝の厚さがある。

出土遺物は小破片が多く（第70図）、弥生時代終末頃の時期としてとらえている。土器以外では、台石が１点（718）出土している。

ＳＡ-10（第71図）　調査区南縁やや東寄りに位置した、東西7.8ｍの隅丸方形と推定されるプランの竪穴住居である。貼り床は認められなかったが、土坑状・pit状掘り込みがある。

出土遺物は全て破片で、壷・甕・高坏・蓋等がある（第72図）。土器以外では、器面調整具と推定される礫器１点（698）がある。

ＳＡ-11（第73図）　05号住居の2.2ｍ東に位置した竪穴住居で、北東部は13号住居に切られる。検出当初は隅丸方形と思ったが、北西部と南西部の底面（円形部分は若干硬化している）の状況から少なくとも初期の形態は円形で、直径5.8～6.2ｍの住居であったと思われる。西の肩部には厚さ３㎝の淡灰色土層があり、壁板の痕跡と推定される。底面は、幅1.1～1.4ｍのベッド状遺構となり、内側は１段（15～20㎝）落ち、厚さ５㎝前後のていねいな貼り床が施されている。周縁４ヶ所に主柱穴があり、うち３基は１ｍ前後の深さがある。



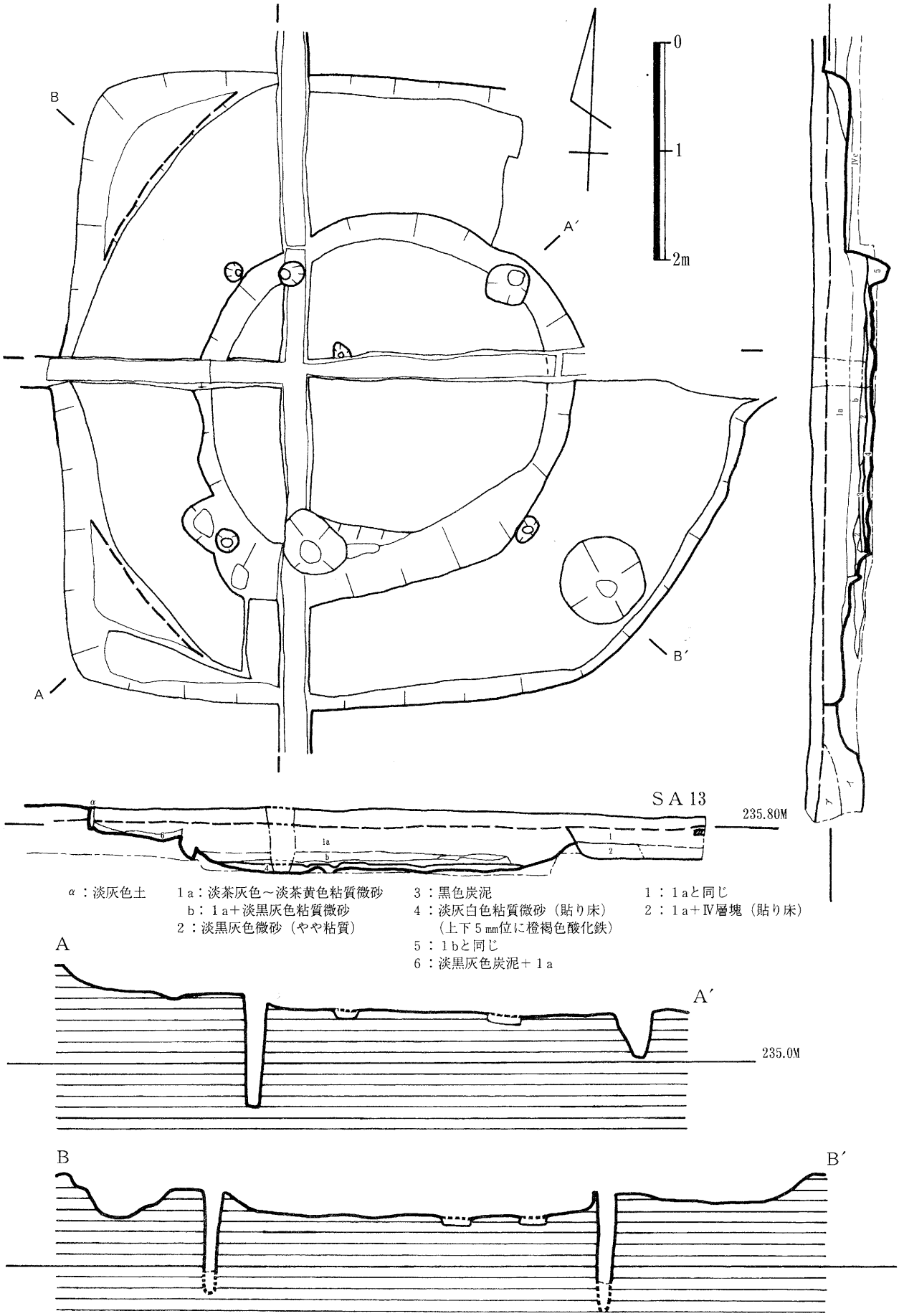
第72図　ＳＡ-10　出土遺物実測図

表22　ＳＡ-09出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第70図 326	ＳＡ-09	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶橙～暗茶灰	黄褐	
327	ＳＡ-09	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂少量	良	淡灰褐～淡茶灰	淡褐灰～淡褐	
328	ＳＡ-09	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡褐	暗灰～淡茶灰	
329	ＳＡ-09	高坏	—	—	—	—	工具ナデ	微細砂少量	あまい	淡褐	黄褐～暗茶褐	外面：マメツ
330	ＳＡ-09	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡茶黄～淡黄褐	淡黄褐～淡橙黄	
331	ＳＡ-09	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	灰褐～暗灰褐	橙褐～黄褐	
332	ＳＡ-09	甕	—	—	—	ハケ	、ハケ	粗細砂やや多い	良	暗褐～暗褐灰	淡橙～黄褐	
333	ＳＡ-09	甕	305	—	—	ハケ～工具ナデ	ハケ	細砂多量	良	黄褐～灰褐	淡褐～淡黄～淡灰	
334	ＳＡ-09	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	暗茶灰	褐～黄褐	
335	ＳＡ-09	壷	142	—	—	ハケ	ハケ・工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡橙褐～橙	橙黄～淡褐	
336	ＳＡ-09	鉢か	—	—	—	ハケ	工具ナデ	細砂やや多い	ややあまい	桃褐～淡黄褐～茶灰	暗茶褐	外面：マメツ 内面：オコゲ
337	ＳＡ-09	甕	—	—	—	粗ハケ	板ナデ	粗細砂やや多い	良	暗灰・淡橙褐～暗褐	暗灰・淡茶褐～淡黄褐	
338	ＳＡ-09	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂・茶褐色粒少量	良	暗茶褐～淡黄褐	淡褐	内面：かなり剥落
339	ＳＡ-09	甕	—	—	—	ナデ～タタキ	細かいハケ	粗細砂微量角閃石少量	良	暗茶褐～暗茶灰	淡褐～褐灰	
340	ＳＡ-09	蓋	—	—	—	丁寧工具ナデ	ミガキ	微細砂微量	良好	淡茶褐～黄褐	暗茶褐～淡黒褐	
341	ＳＡ-09	坩	—	—	—	工具ナデ～ミガキ	ハケ～工具ナデ	微細砂微量	良	暗褐	暗紅茶	
342	ＳＡ-09	坩	—	—	—	ミガキ	半ミガキ～粗工具ナデ	赤褐色粒少量	ややあまい	淡橙黄～淡黄白・黒斑	淡橙褐	外面：マメツ
343	ＳＡ-09	小型丸底壷	89	—	—	ミガキ	工具ナデ～ナデ	微細砂微量	良好	暗茶褐～暗褐	暗茶褐～淡灰褐	
344	ＳＡ-09	坩	86	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐～茶橙～暗灰褐	橙黄～淡褐	内面：マメツ
345	ＳＡ-09	坩か	—	—	—	工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微砂少量	良	淡橙～淡褐	淡橙褐～淡褐	
346	ＳＡ-09	甕	—	43	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄褐～灰褐	淡黄	
347	ＳＡ-09	高坏	—	—	—	半ミガキ	—	微細砂少量	ややあまい	淡褐～橙黄	橙～橙褐	両面：マメツ
348	ＳＡ-09	甕	—	40	—	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	黒斑・橙黄	橙褐	
349	ＳＡ-09	甕	—	45	—	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	橙褐～茶灰	淡橙褐	
350	ＳＡ-09	壷	—	92	—	工具ナデ	工具ナデ～半ミガキ	粗細砂多量、茶褐色粒・角閃石微量	良	茶褐～淡黄褐	灰褐～淡黒褐	
351	ＳＡ-09	壷	—	76～78	—	工具ナデ	—	粗細砂多量角閃石やや多い	ややあまい	橙褐～淡黄褐	淡褐	内面：器面かなり剥落
352	ＳＡ-09	甕	—	84	—	工具ナデ	—	粗細砂やや多い小礫・角閃石微量	良	淡黄灰～淡黄褐	淡褐	内面：器面かなり剥落
353	ＳＡ-09	高坏	—	96	—	ハケ	ミガキ・工具ナデ	微細砂微量	良	淡褐～淡灰褐	淡褐～淡灰褐	内面：マメツ

表23　ＳＡ-10出土遺物観察表

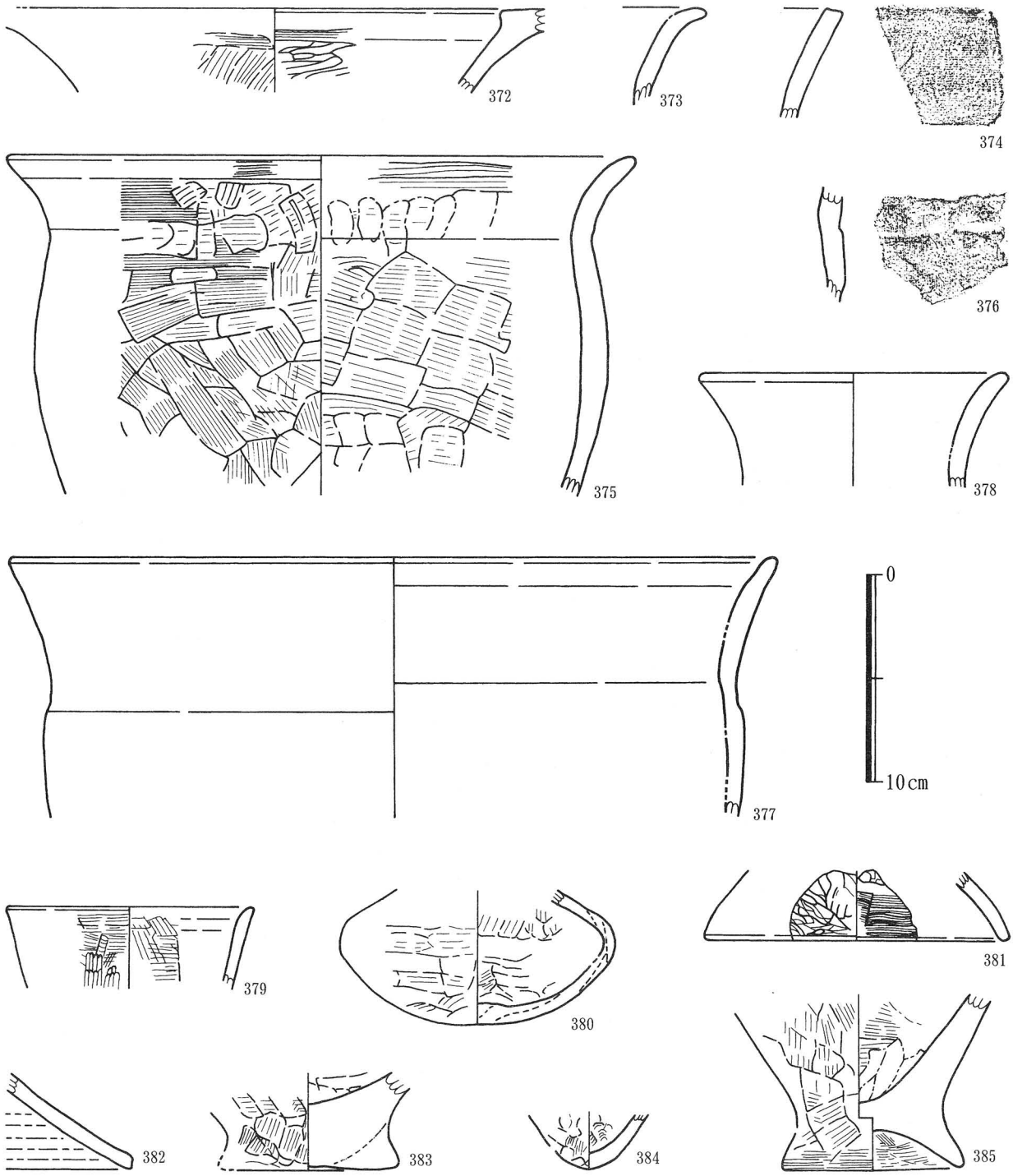
No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第72図 354	ＳＡ-10	甕	—	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄～淡灰黄	淡橙黄～暗灰	
355	ＳＡ-10	甕	258	—	—	工具ナデ	ハケ	微砂少量	良	暗茶褐	淡茶褐～淡灰褐	
356	ＳＡ-10	甕	—	—	—	ナデ	ハケ	微砂少量	良	淡茶灰～淡橙	淡灰黄～黄褐	
357	ＳＡ-10	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	細砂やや多い	良好	暗茶褐～暗灰褐	暗灰褐～灰褐	
358	ＳＡ-10	甕	320	—	—	ハケ～粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	橙褐～淡黄褐	淡黄褐～淡灰白	内面：マメツ
359	ＳＡ-10	甕	296	—	—	ハケ～工具ナデ	ハケ～粗工具ナデ	微細砂少量	良	淡橙褐～淡茶褐	淡橙褐～褐	
360	ＳＡ-10	壷	110	—	—	ハケ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	良	暗橙褐～暗茶褐	暗茶	
361	ＳＡ-10	壷	123	—	—	—	—	粗細砂やや多い白色粘土粒多量赤褐色粒少量	ややあまい	淡橙黄	淡黄～橙褐	両面：マメツ
362	ＳＡ-10	壷	164	—	—	ハケ～粗ハケ	ハケ～工具ナデ	微細粒少量	良	淡黄灰～淡黄褐	淡橙黄～淡灰	
363	ＳＡ-10	鉢	175	—	—	工具ナデ	強いハケ～工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡橙褐～淡黄	淡灰褐～淡橙	外面：マメツ
364	ＳＡ-10	高坏	—	—	—	粗ミガキ	丁寧ミガキ	細砂微量	良	淡黄褐	淡黒灰～淡黄灰	内面：ややマメツ
365	ＳＡ-10	長頸壷	72	—	—	ヨコハケ～丁寧工具ナデ	ハケ～丁寧工具ナデ	良	良	黄褐～淡褐	淡褐	
366	ＳＡ-10	高坏	198	—	—	—	—	粗細砂少量白色粘土粒微量	あまい	黄褐	黄褐～淡灰褐	両面：マメツ
367	ＳＡ-10	甕	—	300	—	工具ナデ(半ケズリ)	工具ナデ	微細砂・白色粘土粒少量	ややあまい	橙黄～淡黄褐	淡黄	外面：ややマメツ
368	ＳＡ-10	長頸壷	—	—	—	タテ半ミガキ～ヨコ工具ナデ	丁寧工具ナデ	良	良	淡褐～淡黄褐	淡橙	
369	ＳＡ-10	高坏か	—	273	—	工具ナデ	—	微細砂多量	ややあまい	淡灰黄～淡黄褐	暗緑灰～橙黄	両面：マメツ
370	ＳＡ-10	甕	—	93	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	橙～淡黄	淡灰褐～暗灰	外面：マメツ
371	ＳＡ-10	蓋か	—	388	—	工具ナデ	ミガキ	微細砂少量	良	暗茶褐～茶褐	紅茶～暗灰褐	内面：マメツ



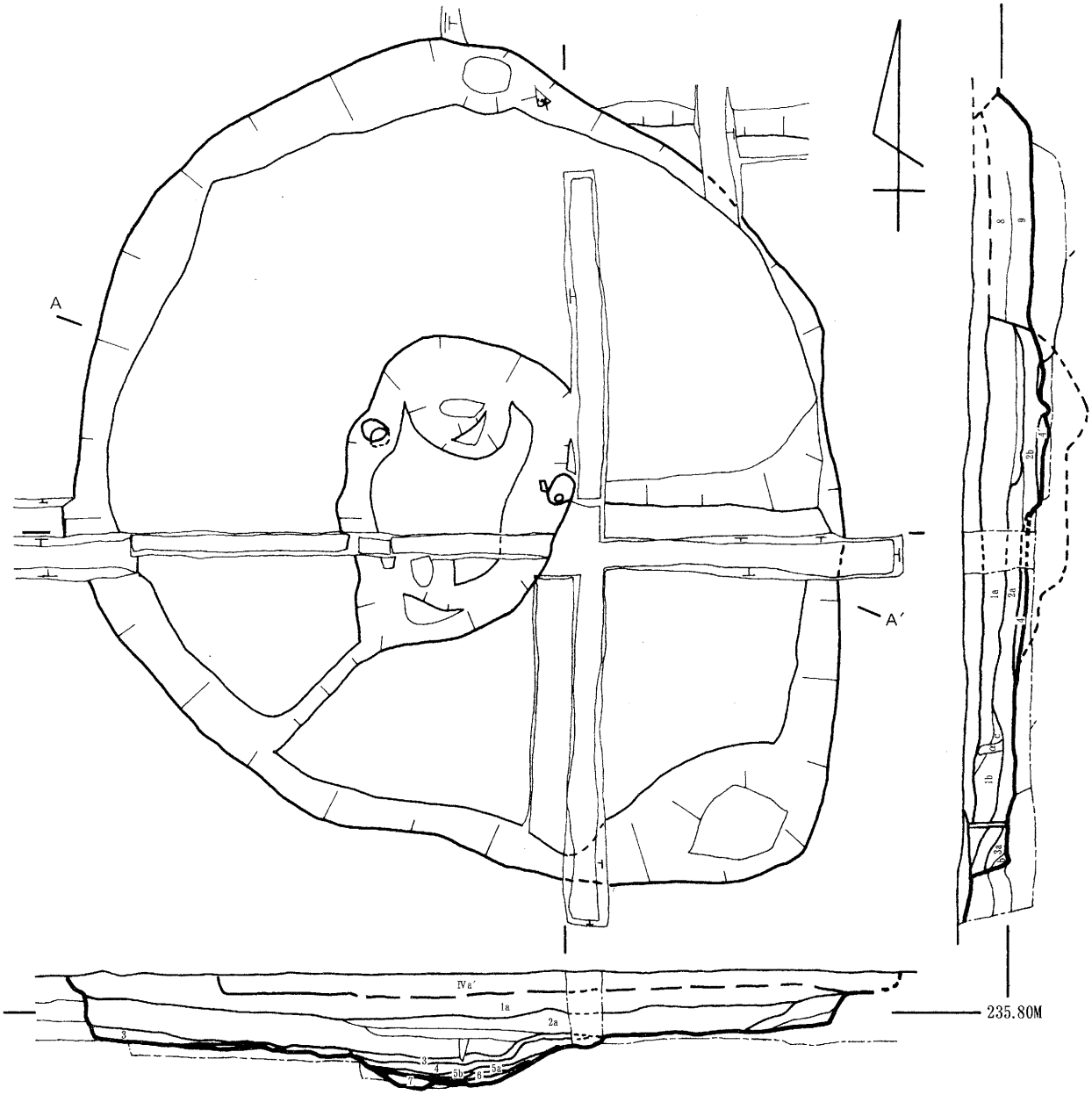
第73図　ＳＡ-11　遺構実測図

出土遺物は少なく（第74図）、全て破片である。372の弥生土器は混入であり、380・381等から弥生時代終末頃の遺構と推定される。土器以外では、磨製石鏃１点（685）と台石（722）が出土している。

ＳＡ-12（第75図）　11号住居の南西部に隣接した、直径5.7～６ｍの円形基調のプランである。当初は直径４ｍ弱のものとして検出し、２段目の穴は深かったために別遺構と推定した。航空写真終了後、さらにサブトレンチを入れたところ、北と西で確実な壁を認定した。このため、南北方向のトレンチは中心よりも東寄りにズレている。中央土坑は、貼り床（第７層）上面・２次面（第５層



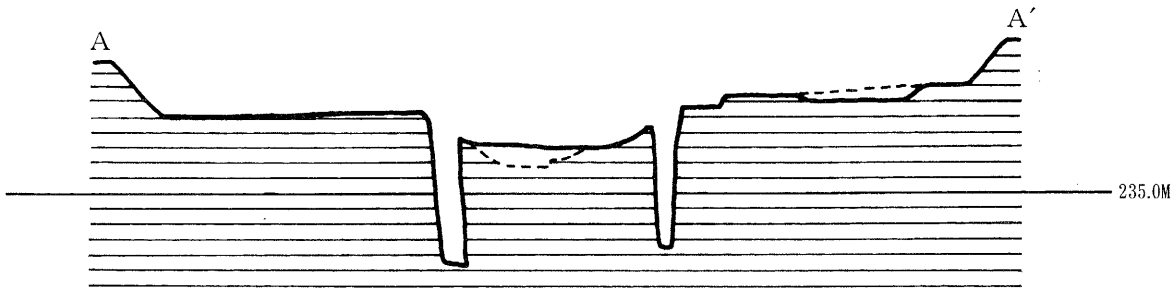
第74図　ＳＡ-11　出土遺物実測図



1a：淡茶灰色＋淡黄灰色粘質微砂
b：灰褐色＋淡黄灰色粘質微砂
c：淡黒灰色炭泥＋1a
2a：淡茶灰色＋淡黄褐色粘質微砂
b：淡茶灰色粘質微砂

3a：2a＋淡灰色細砂
b：淡灰色細砂＋2a
4 ：淡灰色粘質土（混微細砂）
（上下に3㎜位の酸化鉄）
5a：淡灰白色粘質土＋淡茶褐色微砂（2次面）
b：同上

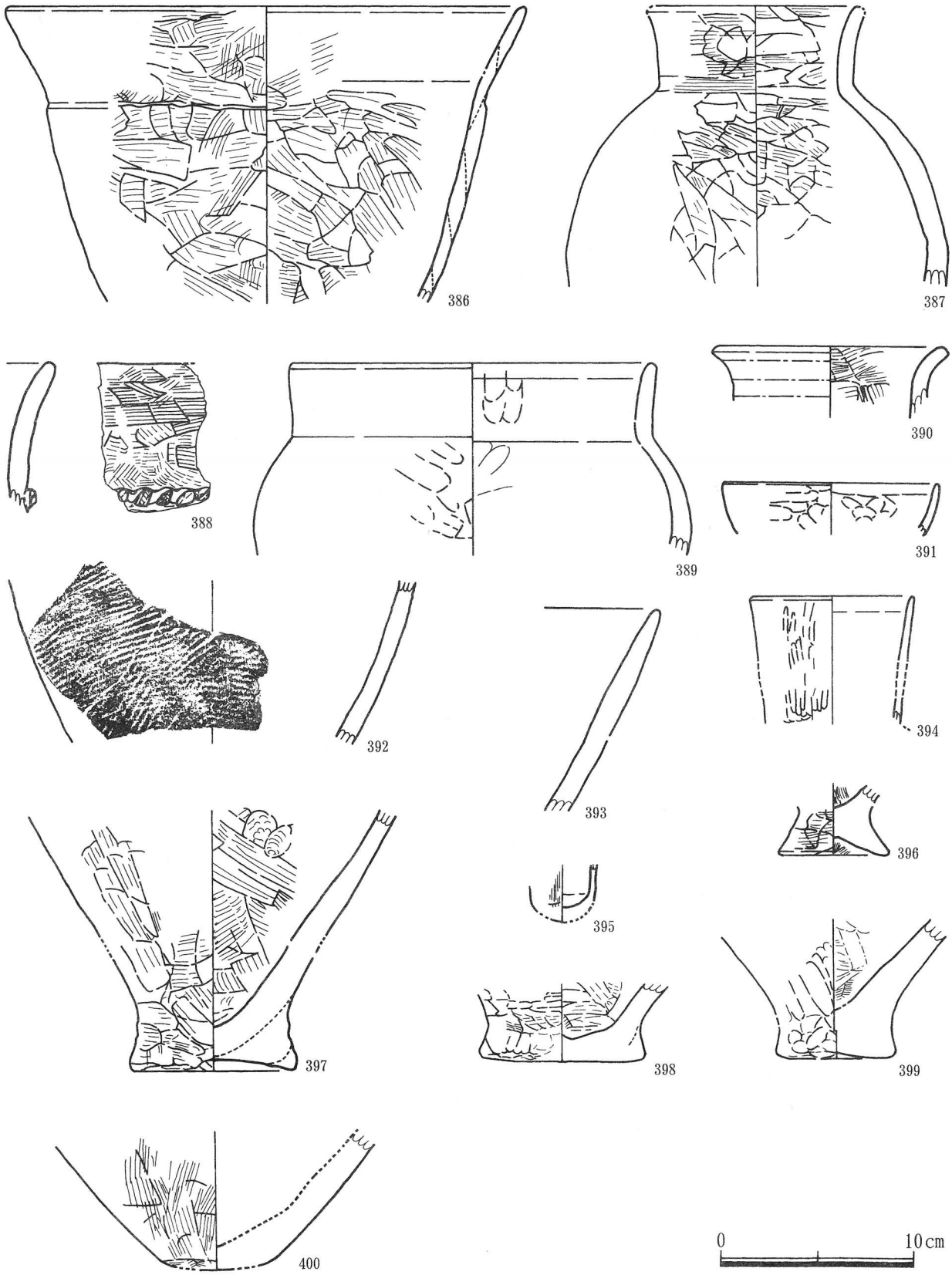
6 ：淡黒灰色～暗灰色炭泥
7 ：淡灰白色粘質土（貼り床）
（上下に3㎜位の酸化鉄）
8 ：淡茶灰色～灰褐色粘質微砂
9 ：茶灰色粘質微砂



0 1 2 3m

第75図　ＳＡ-12　遺構実測図

上面）・３次面（第４層上面）を炉に使用しており、数次の使用を見越して深く掘削されたと推定される。２段目の肩部の、深さ94cmと１ｍの小柱穴２基が主柱穴である。南肩から北へ36cmの所で厚さ２cmの淡灰白色粘質土があり、壁板の痕跡と推定される。



第76図　ＳＡ-12　出土遺物実測図

表24　ＳＡ-11出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第74図 372	ＳＡ-11	壷	—	—	—	丁寧工具ナデ	ミガキ	微細砂多量 角閃石少量	良	暗褐灰～暗茶褐	橙黄～淡茶灰	
373	ＳＡ-11	甕	—	—	—	—	工具ナデ～ハケ	微砂多量、小礫・茶褐色粒少量	あまい	淡黒褐～暗灰褐	淡灰～淡黄	外面：マメツ
374	ＳＡ-11	甕か	—	—	—	ミガキか	半ミガキ	微砂・角閃石少量	ややあまい	淡黄灰～灰褐	淡黄灰～淡黄褐	両面：マメツ
375	ＳＡ-11	甕	299	—	—	ハケ～粗工具ナデ	ヨコハケ～工具ナデ	微細石英多量 角閃石・小礫・茶褐色粒微量	良	淡黒褐～暗茶褐	黒褐～暗茶	被熱
376	ＳＡ-11	甕	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂・赤褐色粒やや多い	良	淡桃褐～暗茶褐	淡桃褐～灰褐	
377	ＳＡ-11	甕	369	—	—	—	—	微細砂・白色粘土粒少量	ややあまい	橙褐～茶灰	橙褐～淡黄褐	両面：マメツ 内面：オコゲ
378	ＳＡ-11	壷	145	—	—	—	—	粗細砂多量、赤褐色粒やや多い	ややあまい	橙褐～橙	淡橙黄～黄褐	両面：マメツ
379	ＳＡ-11	小型丸底壷	117	—	—	半ミガキ(ヨコハケ)	工具ナデ～ナデ	微砂少量 角閃石微量	良	暗茶褐～褐	暗茶褐～淡橙茶	
380	ＳＡ-11	小型丸底壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂・粗砂少量	あまい	黄褐～淡茶褐・黒斑	淡橙茶～茶褐	外面：マメツ
381	ＳＡ-11	高坏	—	144	—	ミガキ	ハケ	微細砂微量	良	茶～茶褐	茶～茶褐	
382	ＳＡ-11	蓋か	—	—	—	丁寧ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶褐～暗茶褐	暗灰褐～灰褐	
383	ＳＡ-11	甕	—	82	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	良	淡桃黄～淡黄灰	暗灰褐～淡黒灰	内面：オコゲ微量
384	ＳＡ-11	坩	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	橙黄～黄褐・黒斑	淡茶褐～淡灰	外面：マメツ
385	ＳＡ-11	甕	—	85	—	工具ナデ	工具ナデ～ナデ(一部)	粗細砂多量	良	淡橙茶～暗黄褐	暗茶褐～暗灰褐	内面：オコゲ少量

表25　ＳＡ-12出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第76図 386	ＳＡ-12	甕	265	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	淡橙茶・黒斑	淡褐	
387	ＳＡ-12	壷	104	—	—	ハケ～工具ナデ	丁寧工具ナデ～粗工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡橙褐～淡灰褐	淡褐～淡黄褐	
388	ＳＡ-12	甕	—	—	—	ヨコハケ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄灰～褐灰	灰褐～暗橙褐	
389	ＳＡ-12	甕	185	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂多量、粗細・角閃石少量	ややあまい	黄褐～茶灰	淡黄～淡橙	外面：マメツ
390	ＳＡ-12	壷	114	—	—	工具ナデ～ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまい	淡茶褐	茶褐～暗茶褐	
391	ＳＡ-12	小型丸底壷	109	—	—	工具ナデ	ナデ	微細砂・小礫微量	良	暗茶褐～淡黒褐	暗褐～暗茶	
392	ＳＡ-12	甕	—	—	—	タタキ	—	微細砂やや多い 角閃石少量	良	茶褐～淡黄褐	暗灰褐～淡灰	内面：マメツ
393	ＳＡ-12	鉢	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い 角閃石少量	ややあまい	淡茶灰～淡黄褐	暗茶褐～淡橙黄・黒斑	
394	ＳＡ-12	小型丸底壷	82	—	—	半ミガキ	ハケ	良	ややあまい	淡橙～淡褐	淡褐・灰褐～淡灰	両面：マメツ
395	ＳＡ-12	手捏ね坩	—	—	—	工具ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙～淡黄灰	淡黒灰	外面：マメツ 赤色顔料微量
396	ＳＡ-12	台付鉢	—	53	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	橙褐～暗灰	淡灰白～灰	
397	ＳＡ-12	甕	—	84	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量 小礫微量	ややあまい	淡褐～淡橙茶	暗茶褐～褐	外面：マメツ
398	ＳＡ-12	甕	—	86	—	ナデ	ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐～淡橙褐	淡灰褐～淡褐	内面：オコゲ少量
399	ＳＡ-12	甕	—	62	—	工具ナデ	ナデ～工具ナデ	粗砂・小礫やや多い	良	淡灰白～暗灰褐	茶灰～淡灰白	
400	ＳＡ-12	壷	—	—	—	ハケ	—	粗細砂やや多い 角閃石微量	良	暗灰褐～淡橙黄	淡灰褐～淡橙褐	外面：マメツ 内面：剥落

出土遺物は少なく（第76図）、全て破片である。弥生時代終末頃の遺構と推定される。土器以外では、磨製石鏃未製品（689）と砥石（709）が出土している。

ＳＡ-13（第77図）　11号住居の北東部を切る、１辺５～7.1ｍの不整隅丸長方形を呈する。遺構面はⅣｃ層上面で、中央部の１段低い底面と貼り床（第４層）上面には泥化炭化物層がある。住居内がかなり埋没してから多くの土坑に撹乱されているようで、床面は凹凸が激しい。主柱穴は、深さ40～70cmの小pit４基と思われる。

出土遺物は少なく（第78図）、401～405の弥生土器は混入であり、他も全て破片である。土器以外では、磨製石鏃未製品（688・690）と砥石（708）・台石（719）が出土している。時期比定は困難であるが弥生時代後期後半頃か。

ＳＡ-14（第79図）　04号の南東隅に隣接する位置で、06号溝清掃時に微妙な土質の違いに気付き検出した、１辺3.6～3.8ｍの隅丸方形を呈する竪穴住居である。貼り床および初期の炉跡は無いが、

表26　ＳＡ-13出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第78図 401	ＳＡ-13	壷	—	—	—	工具ナデ	ハケ	微砂・角閃石微量	良好	淡褐	淡褐	
402	ＳＡ-13	壷	—	—	—	ナデ	丁寧工具ナデ	微砂・黒色粒微量	良好	淡褐	淡黄灰	外面：丹塗り（暗紅褐～茶褐）
403	ＳＡ-13	壷	278	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良好	淡黄灰～淡橙褐	淡灰白・黒斑	
404	ＳＡ-13	壷	—	—	—	ミガキ～ハケ	丁寧工具ナデ	良	良好	淡黄～淡褐	淡黄灰～淡褐	
405	ＳＡ-13	甕	251	—	—	—	ナデ	微砂やや多い角閃石少量	ややあまい	茶褐～暗緑褐	暗緑灰～橙褐	両面：マメツ
406	ＳＡ-13	高坏	—	—	—	ハケ～工具ナデ	ミガキ～ナデ	微細砂少量	良	暗褐～茶橙	茶褐～暗茶褐	
407	ＳＡ-13	甕	—	—	—	粗工具ナデ	—	粗細砂多量	ややあまい	黄褐～淡褐	灰～暗灰	内面：マメツ
408	ＳＡ-13	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ	微細砂やや多い角閃石微量	ややあまい	茶褐～暗茶褐	暗茶褐・淡褐～淡灰褐	内面：少しマメツ
409	ＳＡ-13	壷	114	—	—	工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂・赤褐色粒少量	良	橙黄	暗橙褐	
410	ＳＡ-13	甕	152	—	—	ハケ～粗工具ナデ	粗工具ナデ	微細砂・赤褐色粒少量	良	淡茶褐・黒斑	淡黄灰～灰	
411	ＳＡ-13	甕	—	—	—	ヨコハケ～タテハケ	ヨコハケ	微細砂少量	ややあまい	暗灰褐	茶灰～淡橙茶	
412	ＳＡ-13	壷	113	—	—	半ミガキ	半ミガキ～丁寧工具ナデ	良	ややあまい	淡灰黄	淡灰黄～淡橙褐	
413	ＳＡ-13	甕	207	—	—	—	—	粗細砂・茶褐色粒少量	ややあまい	茶褐～暗茶褐	橙黄～橙褐	両面：マメツ
414	ＳＡ-13	壷	—	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ～ナデ～工具ナデ	粗細砂少量角閃石微量	良好	茶～淡茶褐・黒斑	淡橙茶	
415	ＳＡ-13	坩	—	—	—	工具ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡灰白～淡橙褐	淡黄褐	
416	ＳＡ-13	坩	—	—	—	ハケ	ナデ	微細砂・白色粘土粒微量	あまい	黄褐	淡褐	
417	ＳＡ-13	小型丸底壷	—	—	—	半ミガキ～工具ナデ	丁寧工具ナデ～ナデ～工具ナデ	微砂やや多い粗細砂・白色・茶褐色粒少量	ややあまい	黄褐～橙褐	暗灰褐～淡橙褐	内面：ややマメツ
418	ＳＡ-13	坩	69	—	—	ヨコハケ～工具ナデ	—	茶褐色粒少量	ややあまい	淡橙黄・黒斑	淡黄灰～暗灰	内面：マメツ
419	ＳＡ-13	高坏	—	—	—	工具ナデ	半ミガキ・工具ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐～黄褐	灰～淡黒灰	内面：マメツ
420	ＳＡ-13	不明	—	255	—	ヨコハケ	ヨコハケ	粗細砂多量	良好	褐～茶褐	淡褐～茶褐	
421	ＳＡ-13	甕	—	91	—	粗工具ナデ	—	微細砂少量	良	淡黄灰～暗灰	淡灰～暗灰	内面：マメツ
422	ＳＡ-13	甕	59	—	—	工具ナデ	ハケ	微細砂少量赤褐色粒微量	良	暗褐～灰褐	淡褐	

５ｂ・ｃ・７層上面を２次面とした泥化炭化物を検出した。主柱穴と言えるものは無いが、浅い小pit５基を確認した。

出土遺物は少ないが（第80・81図）、壷１点（423）と甕１点（424）がほぼ完形に復元できた。427の高坏の外面には化粧粘土が施され、搬入品と考えられる。当遺構は、弥生時代終末頃と推定される。

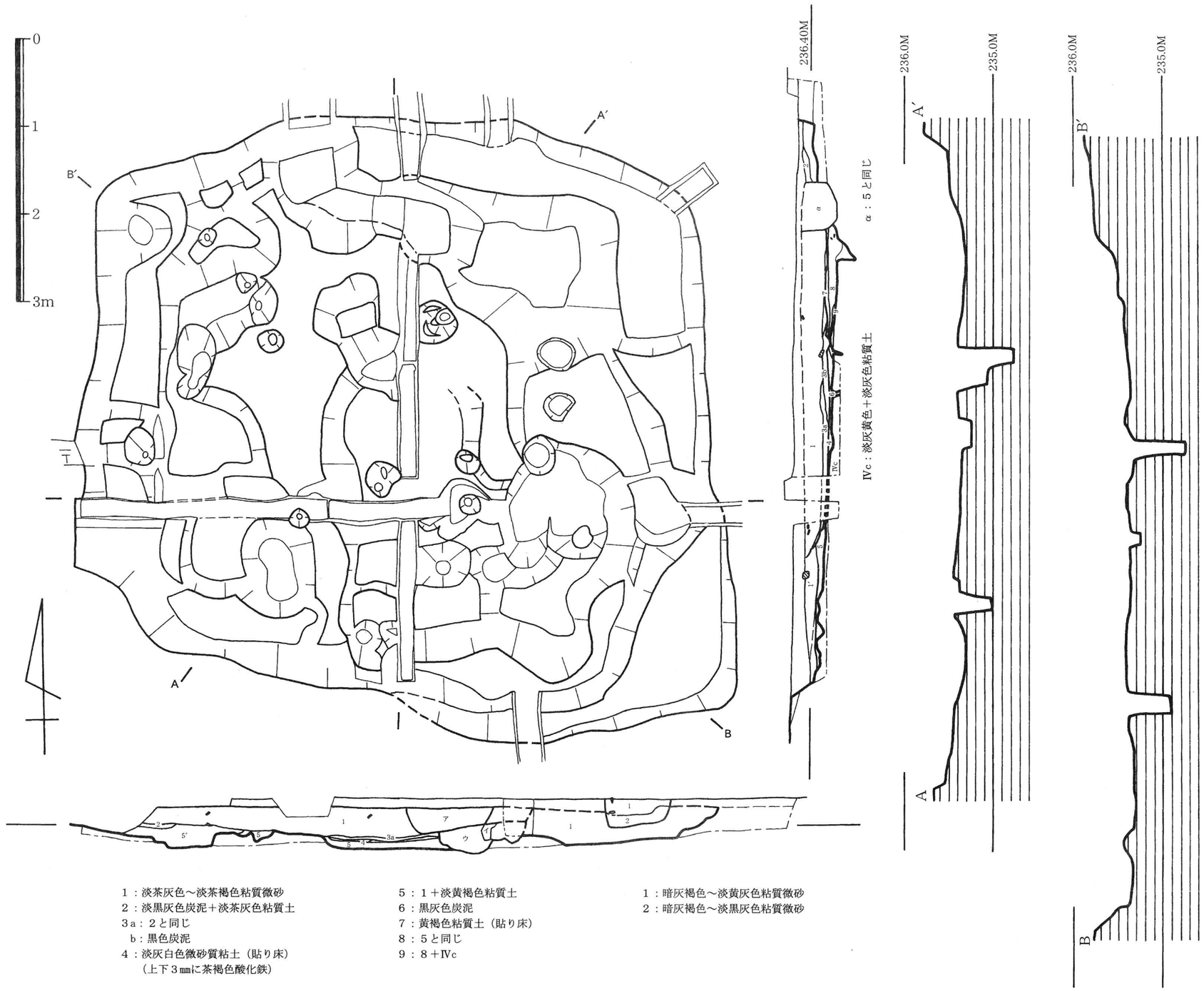
ＳＡ-15（第82図）　調査区の中央やや西寄りに位置した、１辺7.1～8.6ｍの方形を基調とする間仕切り住居である。２段目は、長さ6.6ｍ・幅5.9ｍの隅丸長方形を呈し、中央には長径1.8ｍ・短径1.4ｍの楕円形を呈する土坑がある。その底面には泥化炭化物が広がっていた。主柱穴は深さ64～85㎝の小pit４基で、中央やや北寄りに位置する。中央土坑周辺の底面には、厚さ１～２㎝の貼り床が施されている。

出土遺物は少なく（第88図-435～437）、時期比定は困難である。

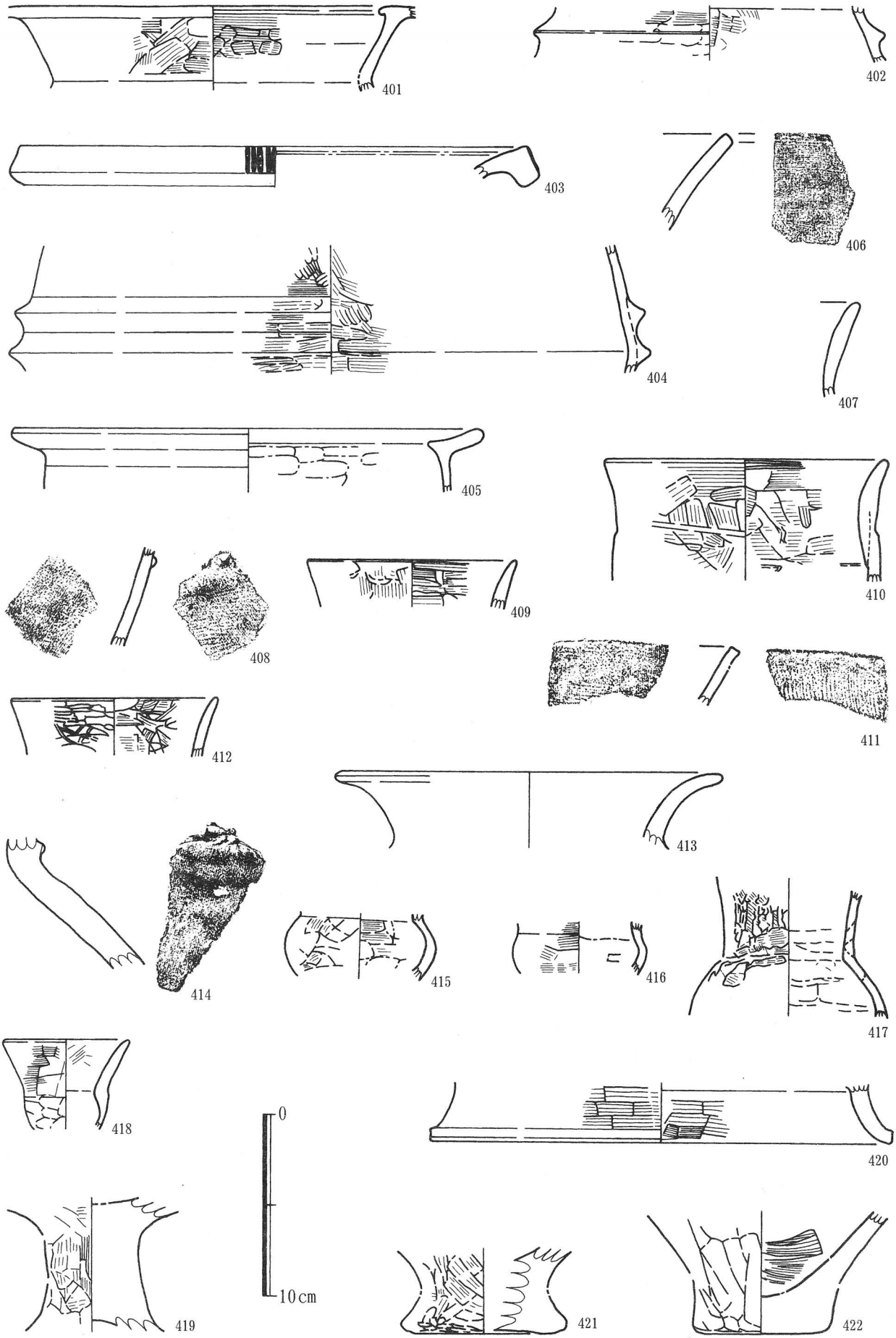
ＳＡ-16（第83図）　調査区南縁東寄りで南壁沿いに深掘坑を設定して掘り下げた時に検出した、直径6.3～6.4ｍと推定される略円形の竪穴住居である。中央部は貼り床（第７層）上面のほか２面（２次面・３次面）の泥化炭化物層が認められた。柱穴は未確認である。

出土遺物は少なく、図化できたのも２点（438・439）のみである。土器以外では、砥石が２点（705・711）出土している。

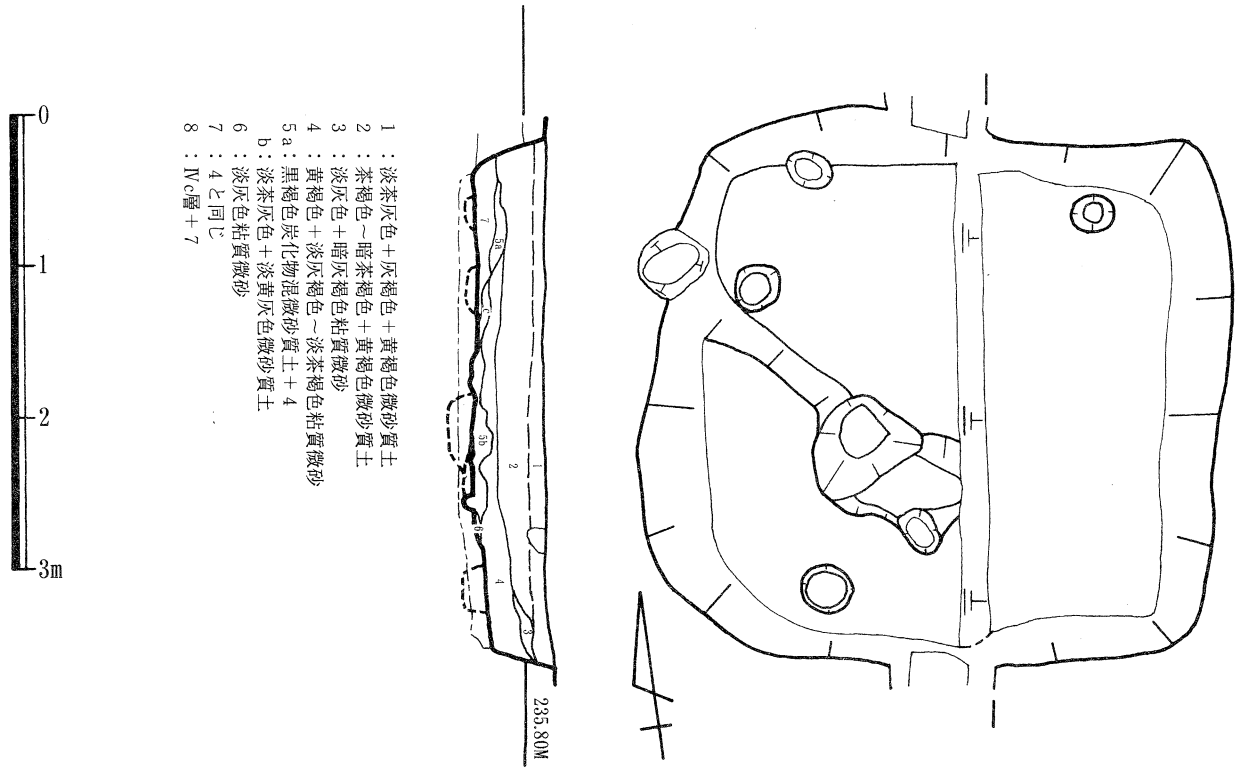
ＳＡ-17（第84図）　調査区の西端中央部に位置した、長径4.14ｍ・短径3.6ｍ程の楕円形住居である。西～南にかけては、幅30～90㎝のベッド状遺構があり、中心部は貼り床（第５・６層）が施さ



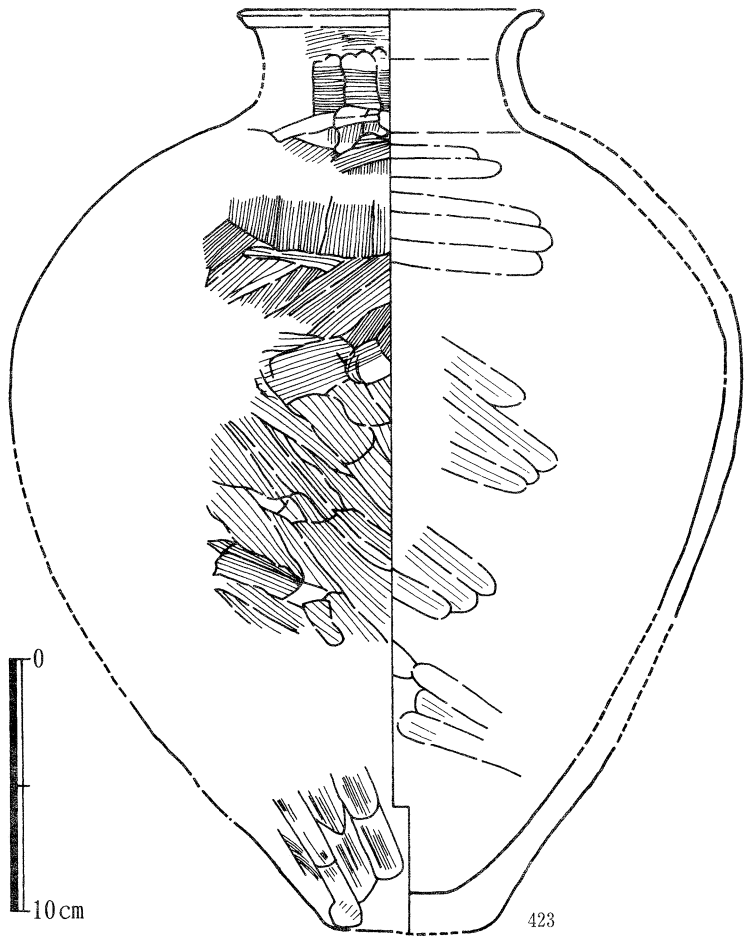
第77図　ＳＡ-13　遺構実測図



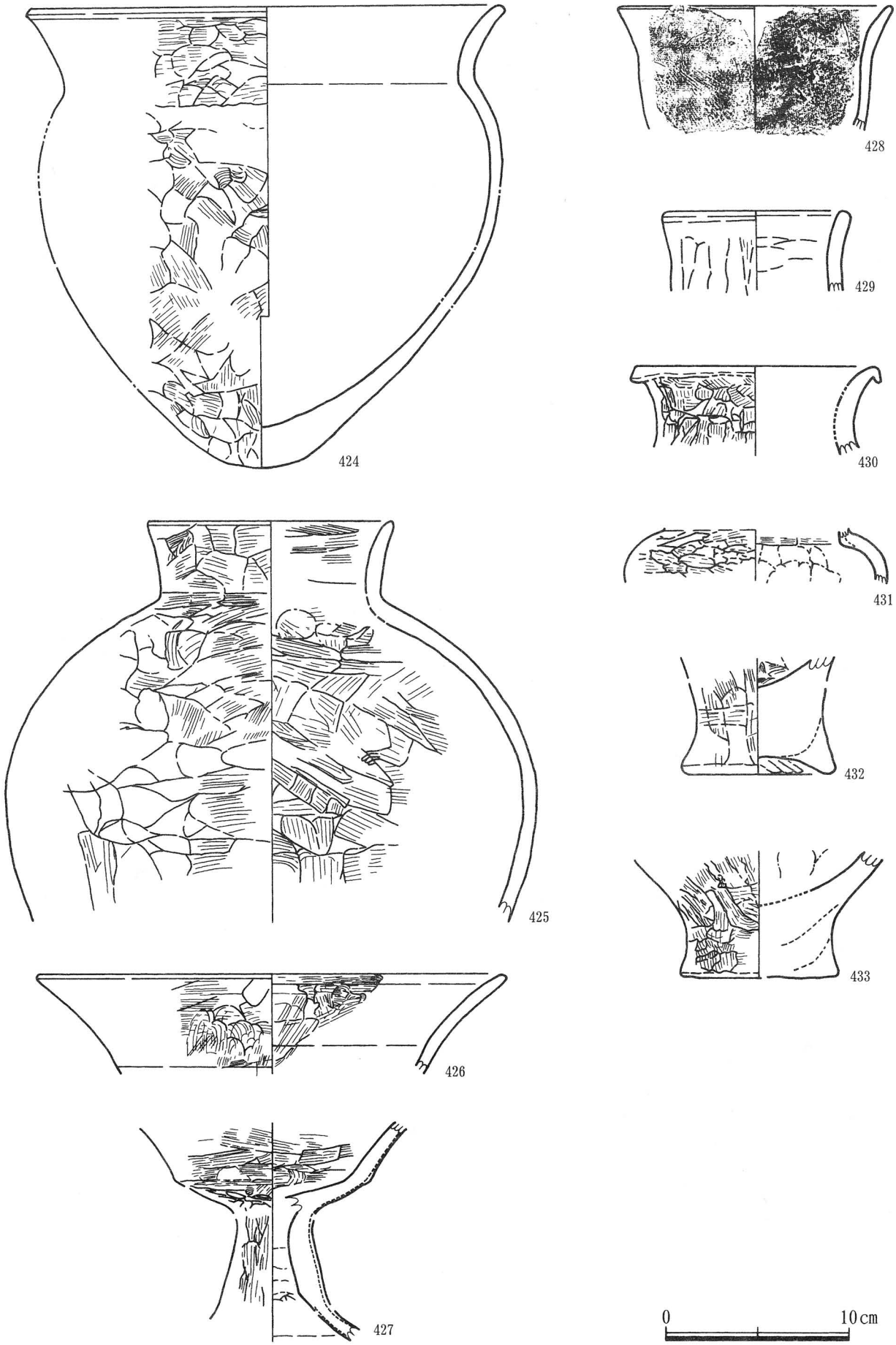
第78図　ＳＡ-13　出土遺物実測図



第79図　ＳＡ-14　遺構実測図



第80図　ＳＡ-14　出土遺物実測図（１）



第81図　ＳＡ-14　出土遺物実測図（２）

表27　ＳＡ-14出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第80図 423	ＳＡ-14	壷	123	63	369	ハケ～粗工具ナデ	ナデ～工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡橙褐	淡黄褐～淡褐	
第81図 424	ＳＡ-14	甕	257～265	—	253	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	橙褐～淡黄褐	淡黄褐～暗茶灰	両面：マメツ
425	ＳＡ-14	壷	135	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄灰～淡黄褐・黒斑	淡黄灰～淡黄褐・黒斑	
426	ＳＡ-14	高坏	257	—	—	半ミガキ～ハケ	半ミガキ	粗細砂・茶褐色粒微量	ややあまい	茶灰～淡黄灰	灰～淡灰・黒斑	
427	ＳＡ-14	高坏	—	—	—	ハケ～ミガキ～半ミガキ	ハケ～工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡褐～淡茶橙	暗灰～淡黒灰	坏内面以外は1～3mmの化粧粘土
428	ＳＡ-14	甕	149	—	—	ナデ～ハケ	ハケ～工具ナデ	粗細砂・赤褐色粒少量	良	淡黄褐～淡黄灰・黒斑	淡橙～淡橙黄	
429	ＳＡ-14	壷	102	—	—	ナデ～タテ工具ナデ	ナデ～工具ナデ	粗細砂やや多い小礫微量	ややあまい	淡橙～淡黄褐・黒斑	橙褐～淡黄	内面：ややマメツ
430	ＳＡ-14	壷	136	—	—	半ミガキ～工具ナデ	—	粗細砂少量	良	淡灰褐～淡褐	茶橙～淡黄褐	
431	ＳＡ-14	壷	—	—	—	半ミガキ	工具ナデ～ナデ	粗細砂少量、小礫・角閃石微量	良	淡褐～淡黄褐	淡褐～淡黄褐	
432	ＳＡ-14	甕	—	85	—	工具ナデ	工具ナデ～ナデ	粗細砂少量	良	淡桃黄～灰褐・黒斑	淡褐～淡黄褐	
433	ＳＡ-14	甕	—	87	—	工具ナデ	ナデ	粗細砂微量	良	淡黄褐～淡茶灰・黒斑	淡黄褐～暗灰	
434	ＳＡ-14	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	角閃石微量	良	淡茶灰～暗褐	灰褐～淡橙褐	

れる。泥化炭化物（第４層）の上下には厚さ５㎜前後の酸化鉄が集積しており、上下が床面として機能したと推定される。

出土遺物は少なく、図化できたのは２点（440・441）のみである。

ＳＡ-18（第85図）　調査区の南西寄りに位置した、１辺5.2～6.8ｍの方形を基調とする間仕切り住居として検出した。南西寄りには深さ５～10㎝の土坑があり、西壁面にのみ貼り床が施されている。

出土遺物は少なく、442の壷形土器片のみ図化できた。

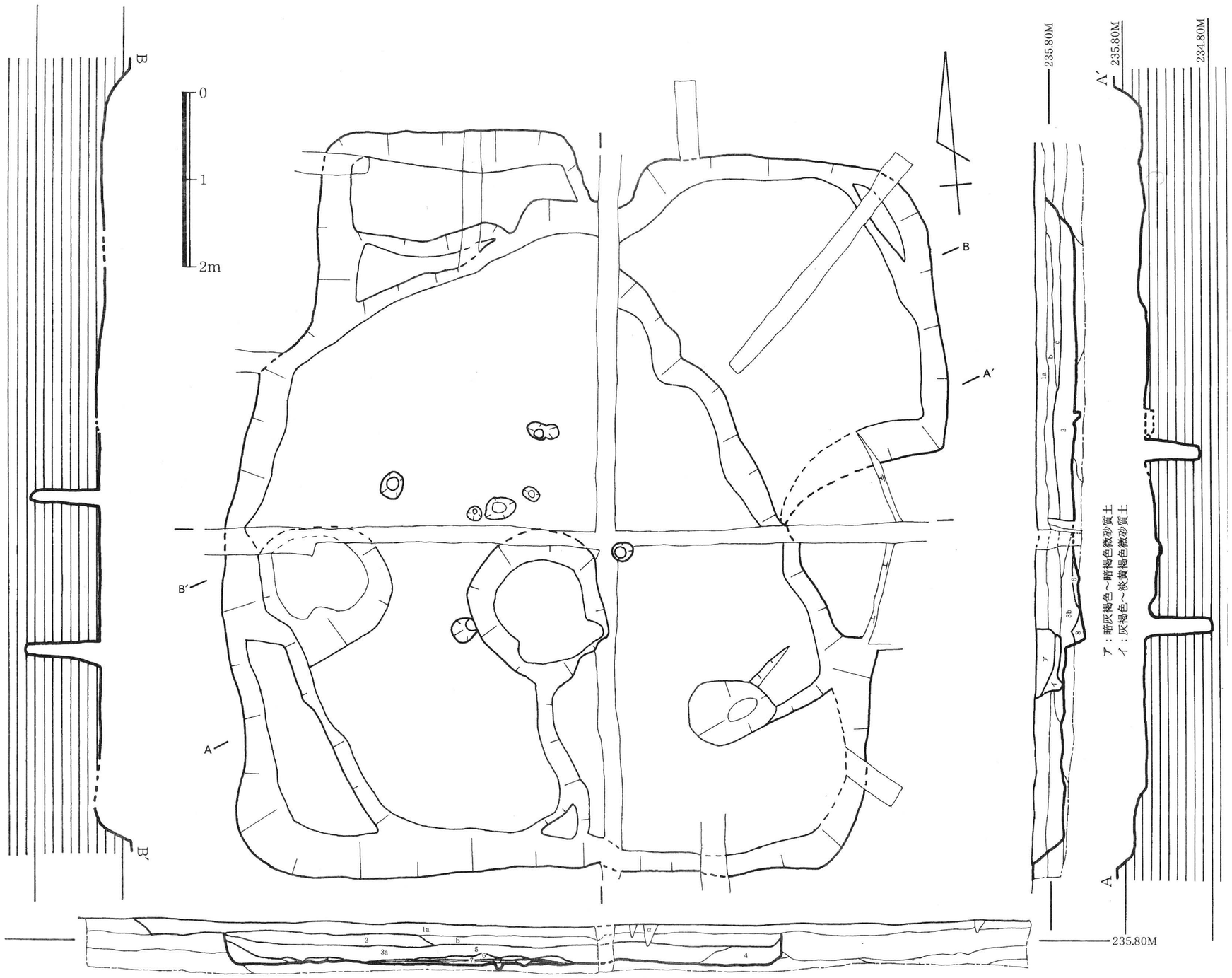
ＳＡ-19（第86図）　調査区の西南部に位置する。当初は、直径1.5ｍ程の土坑として検出して掘り下げた結果、泥化炭化物と貼り床を確認した。そこで急遽サブトレンチを設定し、竪穴住居としてのプランを検出した。本来は直径６ｍ程の円形プランであったかもしれないが、東半分は隅丸方形を確認して調査した。中央部は直径3.14～3.5ｍの不整円形に掘り下げられ、法面で深さ44～90㎝の主柱穴４基を確認した。

出土遺物は少なく、２点（第89図-443・444）のみ図化できた。土器以外では、器面調整具と推定される石器１点（699）が出土した。

ＳＡ-20（第87図）　18号住居の２ｍ西に位置する。当初は、沖積層の堆積状況の把握のために遺構が無いと思われた範囲に深掘坑を設定して掘り下げた結果、２ヶ所（20・21号住居）の炉跡を確認した。そこでサブトレンチを設定し、検出面まで周辺を掘り下げて遺構検出をした結果、長径８ｍ・短径６ｍの不整楕円形の間仕切り住居と推定した。ベッド状遺構は極めて不整形で、中央土坑は北西部に片寄り、底面と２・３次面上面には泥化炭化物が堆積している。主柱穴は明瞭でなく、南西部には土坑を伴う。

出土遺物は少なく（第89図）小破片である。

ＳＡ-21（第90図）　20号住居の西に隣接した、１辺5.7～６ｍの隅丸方形状を呈する竪穴住居で、中央南寄りに長さ3.2ｍ・幅2.1ｍの隅丸長方形の土坑を有する。底面北半部には厚さ１～２㎝の貼り床の上に泥化炭化物が認められた。主柱穴は不明である。他の住居の構築（土坑は中央に構築するという規則的なこと）状況から観ると、南側は掘り足らなかった可能性もある。



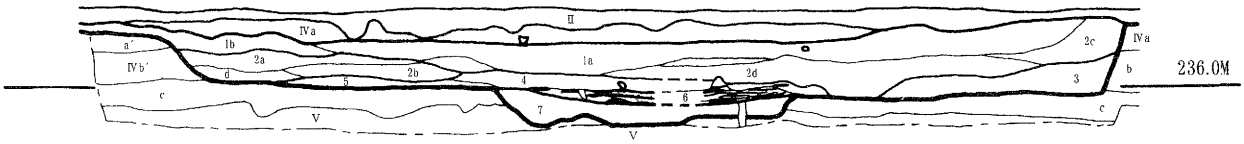
1a：灰褐色＋黄褐色～橙褐色砂質土
b：淡黄灰色～橙褐色＋灰褐色砂質土
2：淡灰褐色～黄褐色砂質土

3a：淡茶灰色～淡黄褐色砂質土
b：淡褐色＋淡灰色微砂
4：3＋淡黒灰色微砂質土
5：灰褐色～暗灰褐色粘質微砂

6：黒色炭泥
7：淡灰白色＋黄褐色粘土（貼り床）
（上面に3～5㎜の酸化鉄）

8：淡灰色～暗褐色粗細砂
α：暗灰色微砂質土

第82図　ＳＡ-15　遺構実測図

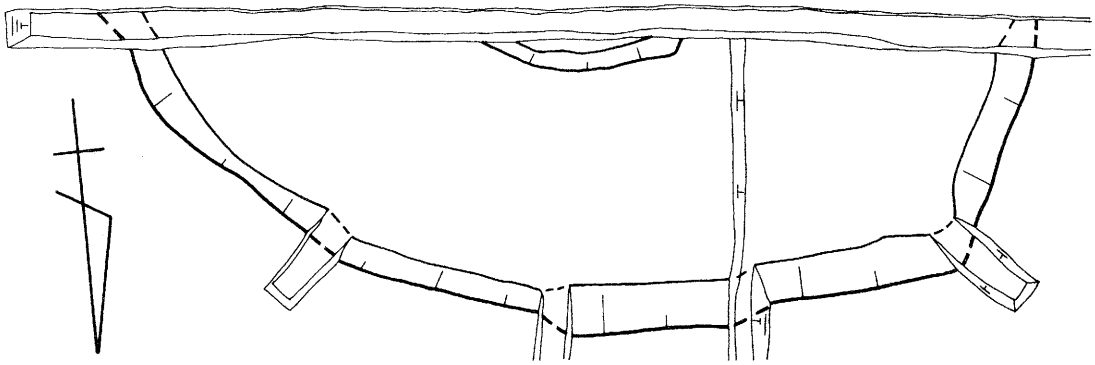


Ⅳa'：淡黄褐色微細砂
Ⅴ　：暗灰色粘質微砂

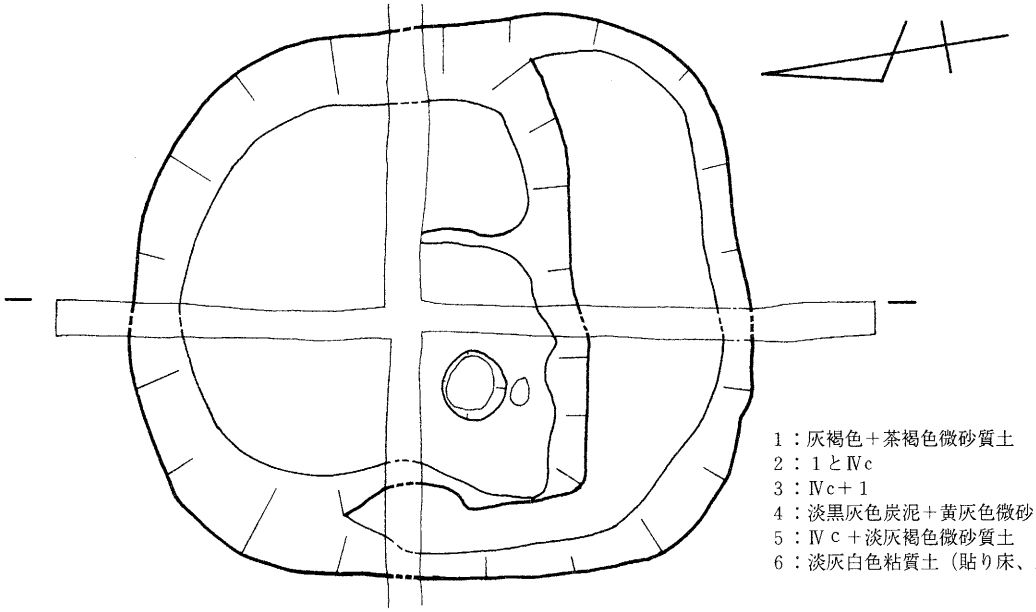
1a：暗茶灰色～灰褐色微砂質土
b：1aと同じ
2a：淡黄色～淡黄灰色微砂質土
b：2a＋茶灰色微砂質土
c：1a＋淡黄褐色微砂質土
d：淡黄褐色～淡茶褐色粘質微砂

3：2bと同じ
4：暗灰褐色＋淡茶褐色微砂質土
5：3と同じ
6：暗灰色～淡黒灰色炭泥と淡黄白色＋黄褐色粘質土（貼り床）の互層
7：淡灰褐色＋淡黄褐色粘質微砂

0　1　2m

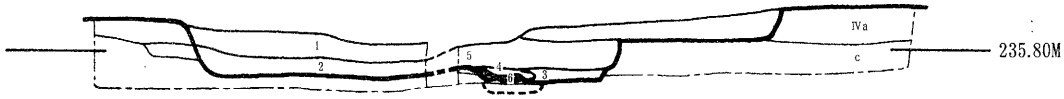


第83図　ＳＡ-16　遺構実測図

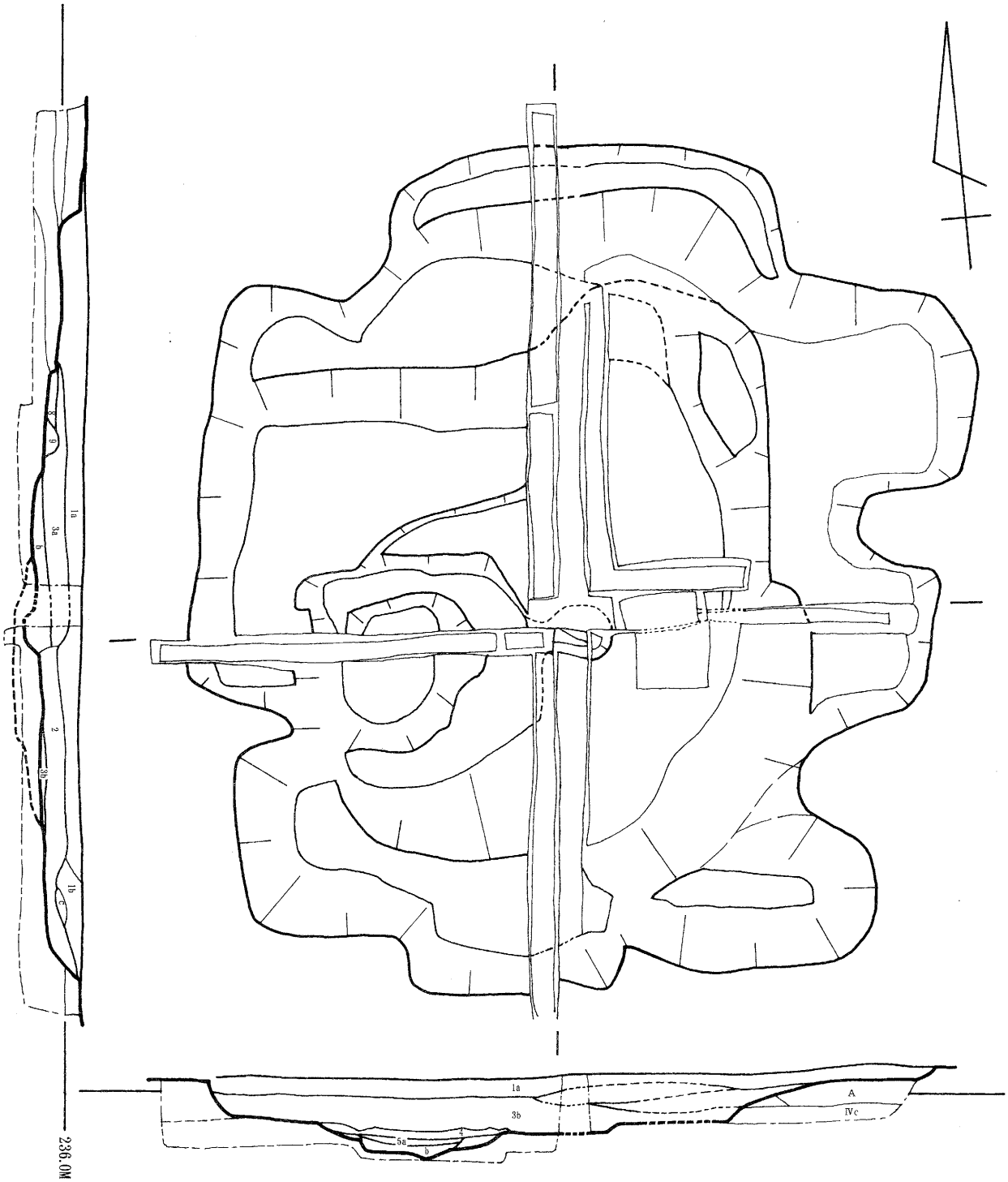


0
1
2m

1：灰褐色＋茶褐色微砂質土
2：1とⅣc
3：Ⅳc＋1
4：淡黒灰色炭泥＋黄灰色微砂
5：Ⅳc＋淡灰褐色微砂質土
6：淡灰白色粘質土（貼り床、上下5㎜に酸化鉄）



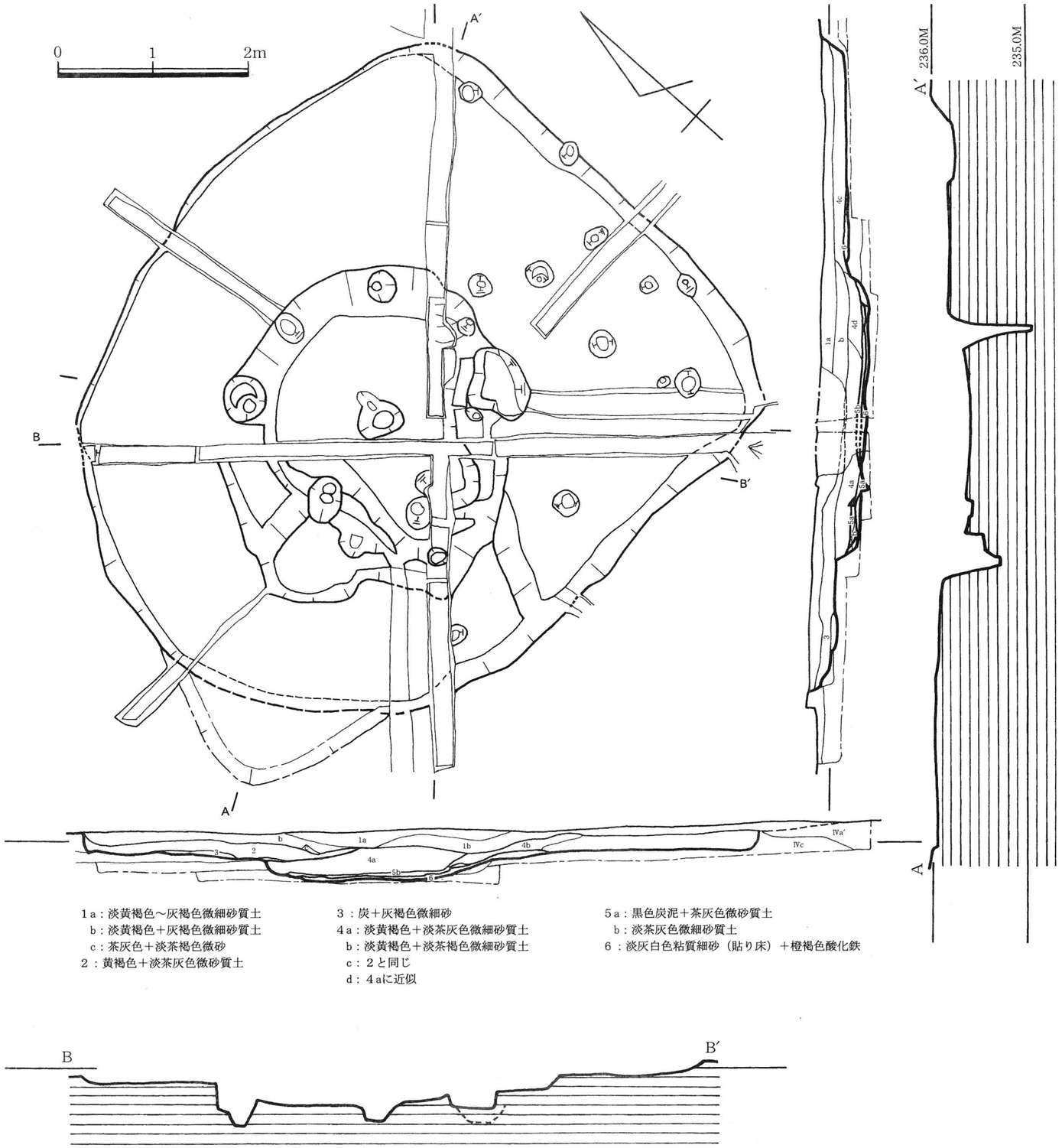
第84図　ＳＡ-17　遺構実測図



1a：灰褐色～黄褐色微細砂質土
　b：灰褐色＋黄褐色微細砂質土
　c：淡黒灰色炭泥＋淡黄褐色微細砂
2　：暗茶褐色～灰褐色粗細砂質土
3a：淡黄褐色＋淡茶褐色微細砂質土
　b：淡黄灰色＋黄褐色微細砂質土
4　：淡黄褐色微細砂質土＋黒灰色炭泥
5a：同上
　b：同上
6　：淡灰白色粘土＋黄褐色微砂質土（貼り床）
7　：淡灰色粘質土＋淡黄褐色微砂質土
8　：1aと同じ
9　：1cと同じ

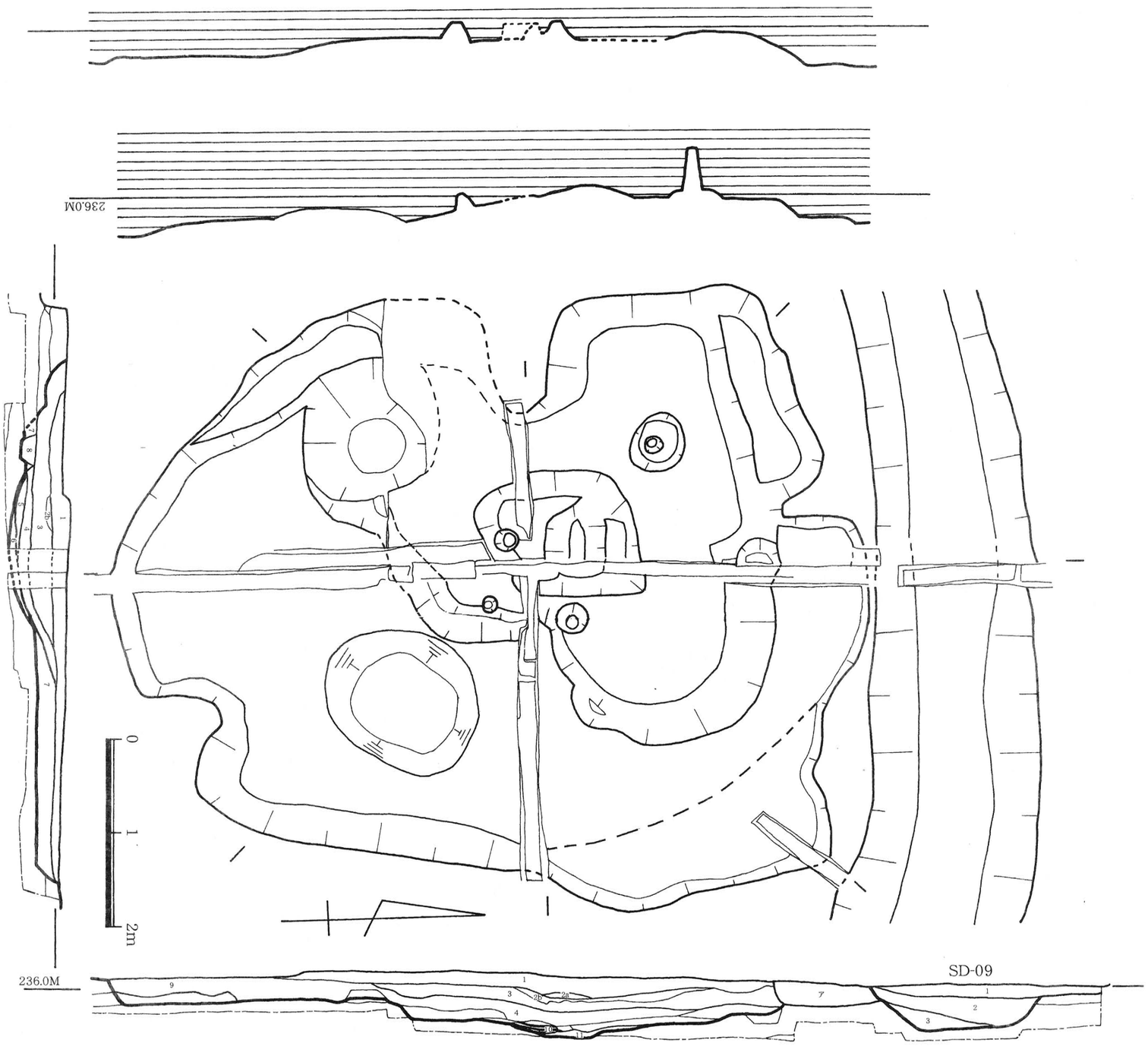
0　1　2　3m

第85図　ＳＡ-18　遺構実測図



1a：淡黄褐色～灰褐色微細砂質土
　b：淡黄褐色＋灰褐色微細砂質土
　c：茶灰色＋淡茶褐色微砂
2：黄褐色＋淡茶灰色微砂質土
3：炭＋灰褐色微細砂
4a：淡黄褐色＋淡茶灰色微細砂質土
　b：淡黄褐色＋淡茶褐色微細砂質土
　c：2と同じ
　d：4aに近似
5a：黒色炭泥＋茶灰色微砂質土
　b：淡茶灰色微細砂質土
6：淡灰白色粘質細砂（貼り床）＋橙褐色酸化鉄

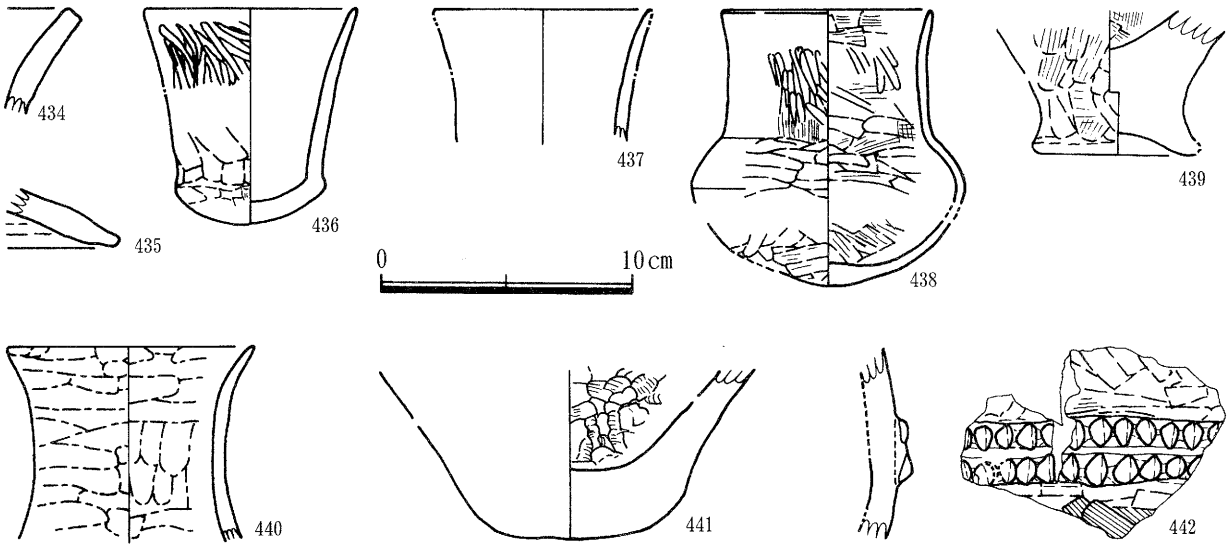
第86図　ＳＡ-19　遺構実測図



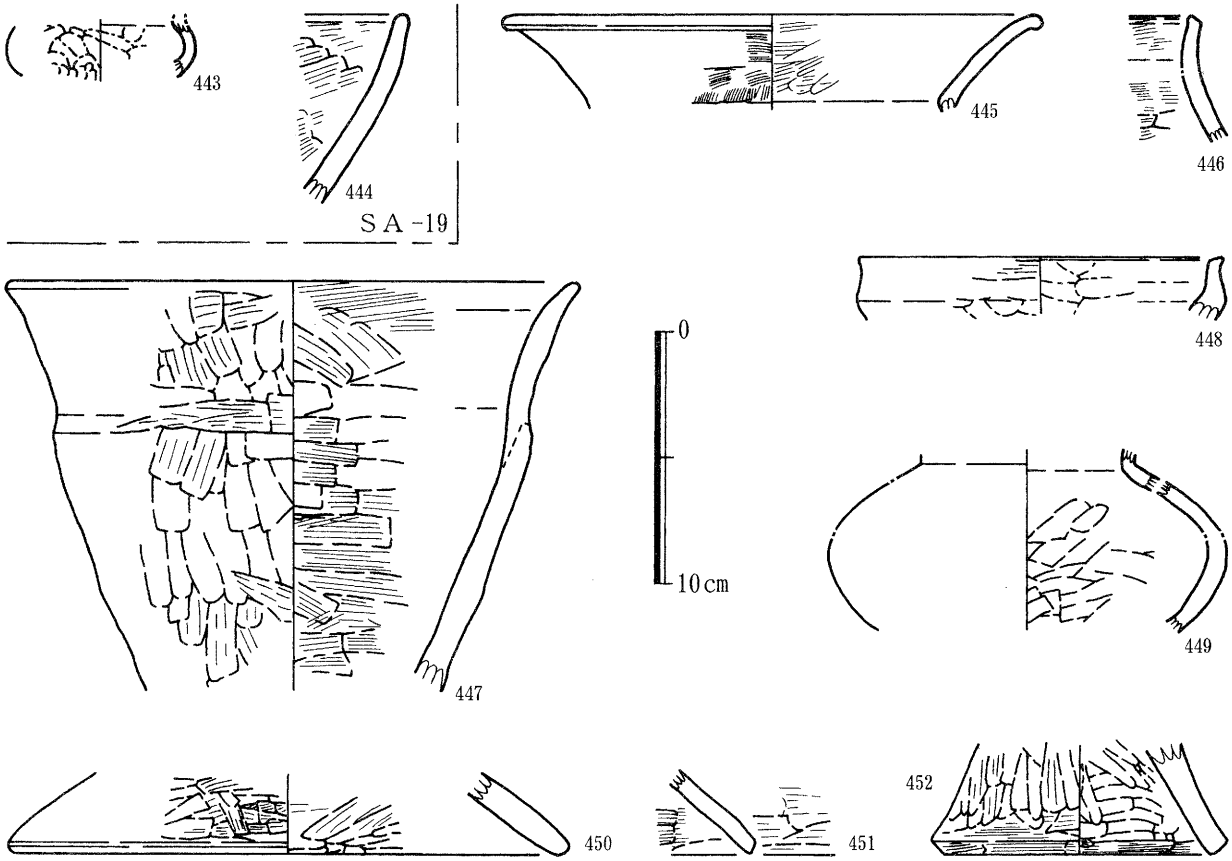
1：淡黄褐色＋淡灰褐色微細砂質土
2a：淡黄灰色＋淡黄褐色微砂質土
b：淡灰褐色＋暗灰褐色粘質微細砂
3：茶褐色＋淡黄褐色微細砂質土（やや粘質）
4：淡茶灰色＋茶褐色微細砂
5：淡茶褐色～暗灰色微砂質土＋淡黒灰色炭泥
6：淡灰白色微砂質粘土（貼り床）（下に５㎜の酸化鉄）
7：淡茶褐色砂質土
8：淡黄灰色粘質微細砂
9：淡灰色～暗灰色粗細砂＋Ⅳｃ
10：６と炭泥の互層
11：黒褐色炭泥（下面に貼り床）

1：Ⅳaと同じ
2：暗茶褐色～茶褐色微砂質土
3：２と同じ（混炭片少量）
ア：灰褐色＋淡黄褐色微細砂質土

第87図　ＳＡ-20　遺構実測図



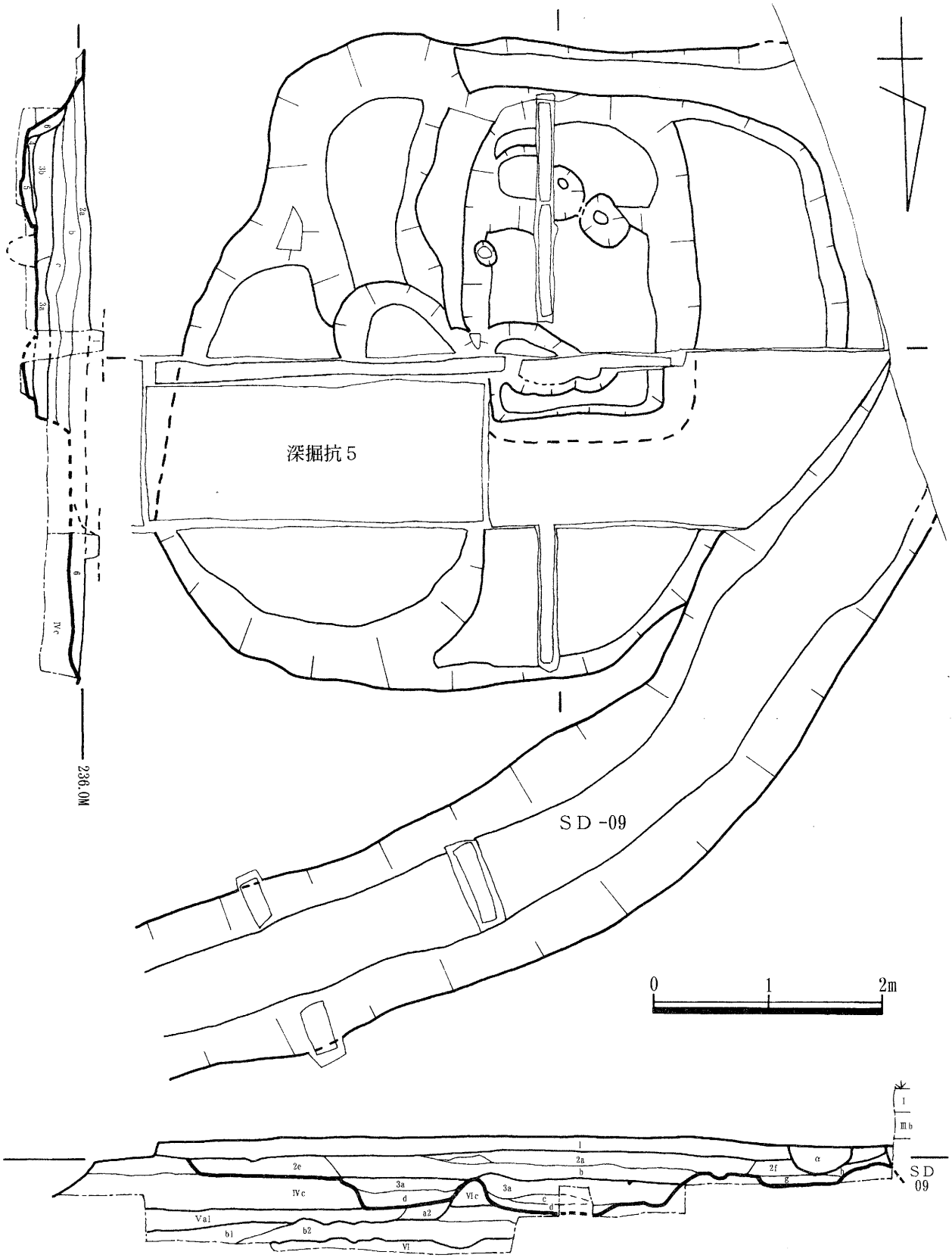
第88図　ＳＡ-15～18　出土遺物実測図　**434～437**：SA-15　**438～439**：SA-16　**440～441**：SA-17　**442**：SA-18



第89図　ＳＡ-19・20　出土遺物実測図

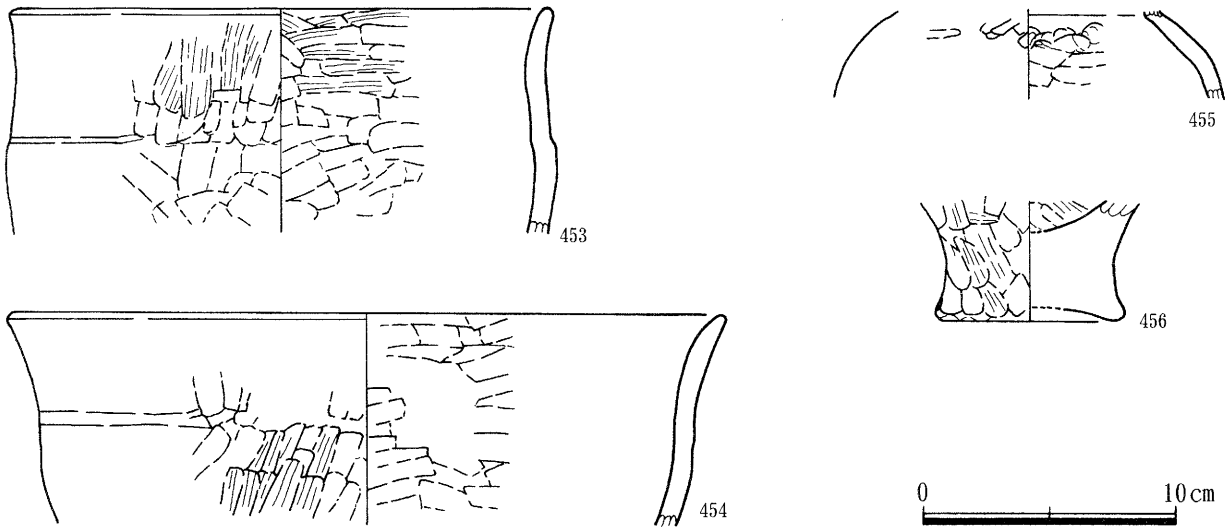
表28　ＳＡ-15・16出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第88図 435	ＳＡ-15	蓋	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	良	淡橙褐～暗茶褐	暗茶褐～暗灰	
436	ＳＡ-15	坩	83	55～60	85	ミガキ～工具ナデ	—	微細砂少量	ややあまい	茶褐～淡橙褐・黒斑	橙茶～暗灰褐	両面：マメツ
437	ＳＡ-15	小型丸底壺	87	—	—	—	—	粗砂微量	あまい	淡橙褐～淡黄灰	橙褐～淡橙褐	両面：マメツ 傾きは不明確
438	ＳＡ-16	小型丸底壺	80	—	109	ナデ～ミガキ～工具ナデ	工具ナデ～半ミガキ～粗工具ナデ	微砂微量	ややあまい	淡橙褐～淡黄	淡褐～淡黄	外面：マメツ
439	ＳＡ-16	甕	—	64×68	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い 小礫少量	良	黄褐～淡桃橙	暗灰褐	



1　：黄褐色＋淡灰褐色微細砂質土
2ａ：淡茶灰色＋黄褐色微細砂質土
　ｂ：２ａと同じ、微砂質土
　ｃ：同上、微細砂質土
　ｄ：灰褐色微砂質土＋２ａ
2ｅ：茶灰色～淡黄褐色微砂質土
　ｆ：淡黄褐色＋淡黄灰色粗砂質土
　ｇ：暗茶灰色～黄褐色粘質微砂＋暗灰色粗細砂
3ａ：茶灰色＋淡茶褐色微細砂質土
　ｂ：淡茶褐色＋淡黄褐色微砂質土
5：灰褐色＋淡黄褐色微砂質土
6：Ⅳｃ＋淡灰褐色微砂質土

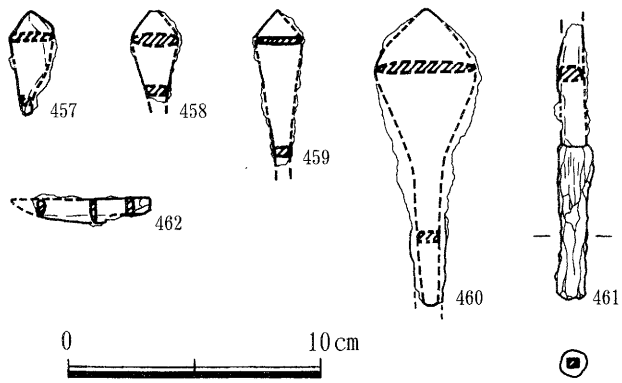
第90図　ＳＡ-21　遺構実測図



第91図　ＳＡ-21　出土遺物実測図

表29　ＳＡ-17～21出土遺物観察表

No	出土地	器種	法量(mm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	備考
第89図 440	ＳＡ-17	長頸壷	98	—	—	ナデ~半ミガキ	ハケ～ナデ	良	ややあまい	淡褐～橙褐	淡褐	
441	ＳＡ-17	壷	—	72	—	—	工具ナデ	粗細砂やや多い 赤褐色粒少量	ややあまい	黄褐～茶褐～淡黄灰	褐灰～淡褐	
442	ＳＡ-18	壷	—	—	—	—	丁寧工具ナデ	粗細砂少量	良	淡褐・黒斑	淡黒褐	外面：剥落
第89図 443	ＳＡ-19	坩	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	茶灰・黒斑	淡灰褐	
444	ＳＡ-19	鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂多量	ややあまい	淡茶褐～橙黄	暗茶灰～淡橙茶・黒斑	両面：マメツ
445	ＳＡ-20	甕	216	—	—	丁寧ハケ	丁寧ハケ	粗細砂微量	あまい	茶褐～暗茶褐	茶橙～暗茶褐	両面：ややマメツ
446	ＳＡ-20	甕	—	—	—	ハケ～工具ナデ	ハケ～粗工具ナデ	微砂やや多い 粗砂少量	良	茶褐～暗茶褐	茶褐～淡橙褐	
447	ＳＡ-20	甕	227	—	—	粗工具ナデ	ハケ	粗細砂やや多い	ややあまい	黄褐～暗黄褐・黒斑	黄褐～淡黄・淡褐	内面：マメツ
448	ＳＡ-20	壷	138	—	—	工具ナデ	ナデ	微細砂・角閃石少量	良	淡橙黄	淡褐～暗灰	
449	ＳＡ-20	壷	—	—	—	—	丁寧工具ナデ	良	あまい	淡橙茶～淡黄褐	淡褐～淡灰褐	両面：マメツ
450	ＳＡ-20	蓋か	—	223	—	粗工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂少量	良	淡褐～灰褐	褐～暗灰	
451	ＳＡ-20	蓋	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	灰～暗灰褐	淡灰～暗茶褐	
452	ＳＡ-20	甕	—	116	—	工具ナデ～ハケ	粗工具ナデ～ハケ	角閃石・小礫少量	良好	茶褐～淡茶褐	淡橙褐～淡茶褐	
第91図 453	ＳＡ-21	甕	217	—	—	工具ナデ	工具ナデ	細砂多量 粗砂微量	ややあまい	橙桃～暗茶褐	暗茶褐～淡黒褐	外面：ややマメツ
454	ＳＡ-21	甕	277	—	—	工具ナデ	工具ナデ	細砂多量	ややあまい	灰～淡橙	—	外面：マメツ
455	ＳＡ-21	壷	—	—	—	半ミガキ	工具ナデ～丁寧工具ナデ	良	あまい	淡黄灰～橙	淡黄褐	外面：マメツ
456	ＳＡ-21	甕	—	75	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	褐～淡黄褐～暗灰褐	淡褐	



第92図　調査区出土鉄器実測図

表30　調査区出土鉄器観察表

No	出土地	器種	法量(mm) 長さ	幅	厚さ
第92図 457	Ⅴ区Ⅲｂ'層	鉄鏃	41	17	3
458	SA-04	鉄鏃	36	19	5
459	SA-07	鉄鏃	62	19	2
460	SA-02	鉄鏃	118	39	4
461	SA-08	刀子か	109	14	5
462	SA-03	刀子か	42	10	2

出土遺物は少なく（第91図）、小破片である。

ＳＤ-09（第90図）　21号住居調査時に検出した、内径9.3ｍ・幅1.37～1.89ｍ・深さ33～45㎝の弧状の溝状遺構である。西側の覆土は深掘坑４のⅣｄ層と同質であるが、東側20号住居の北～東部になるとⅣ層との区別が困難になり、18号住居内では検出できない（収束するかもしれない）。覆土には砂礫層を含まず、人為的遺構としてとらえている。

土坑は大小様々であるが、すべてⅣａ層上面で検出した。機能的には殆どが不用物廃棄坑と思われ、54号土坑のみはその形態から土壙墓であろうと推定している。以下、明瞭な不要物廃棄土坑から述べる。

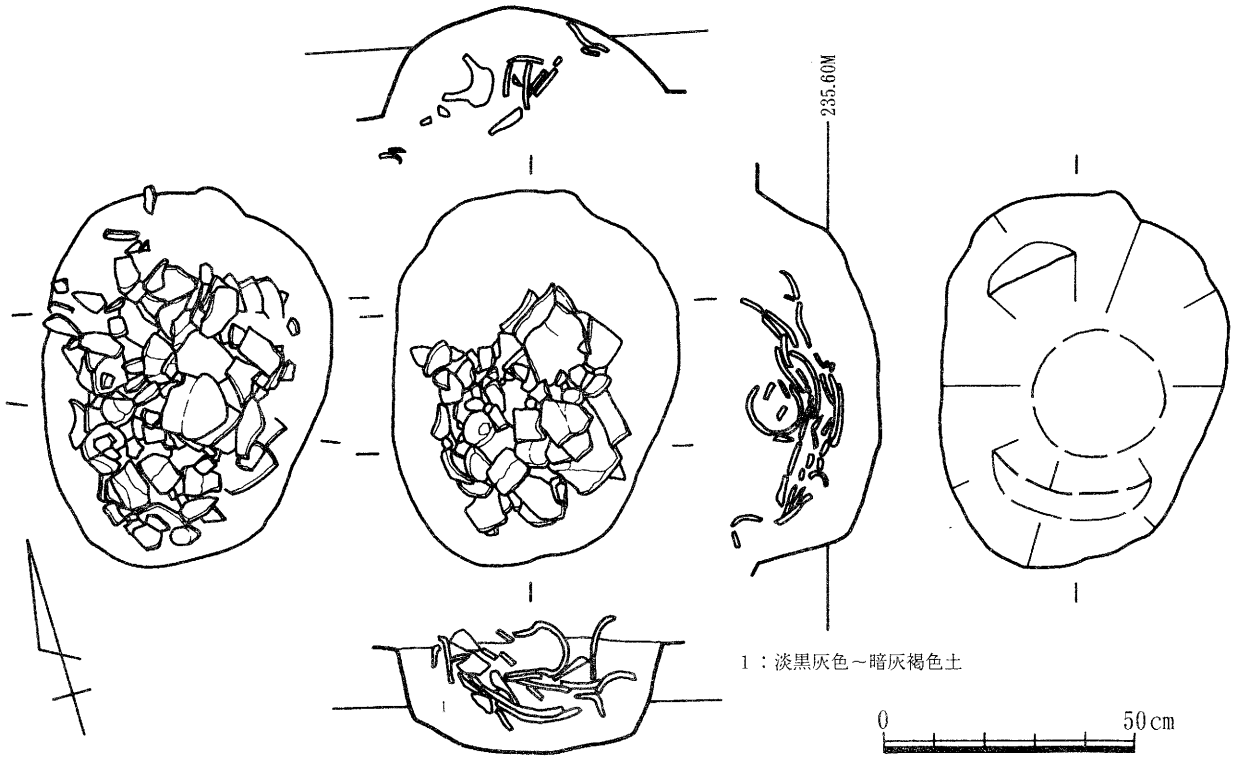
ＳＫ-28（第93図）　調査区の北東縁に位置した、長径76㎝・短径54㎝の楕円形を呈する小型の土坑で、最深部は24㎝を測る。覆土は単純１層で、中位～上位にかけて土器片が密に集積している。

出土遺物は甕の破片が多い（第94・95図）が、完形品は壷形土器１点（472）のみである。464の甕の胴部には、タタキ痕が部分的に残っている。弥生時代後期後半～終末にかけての土坑である。

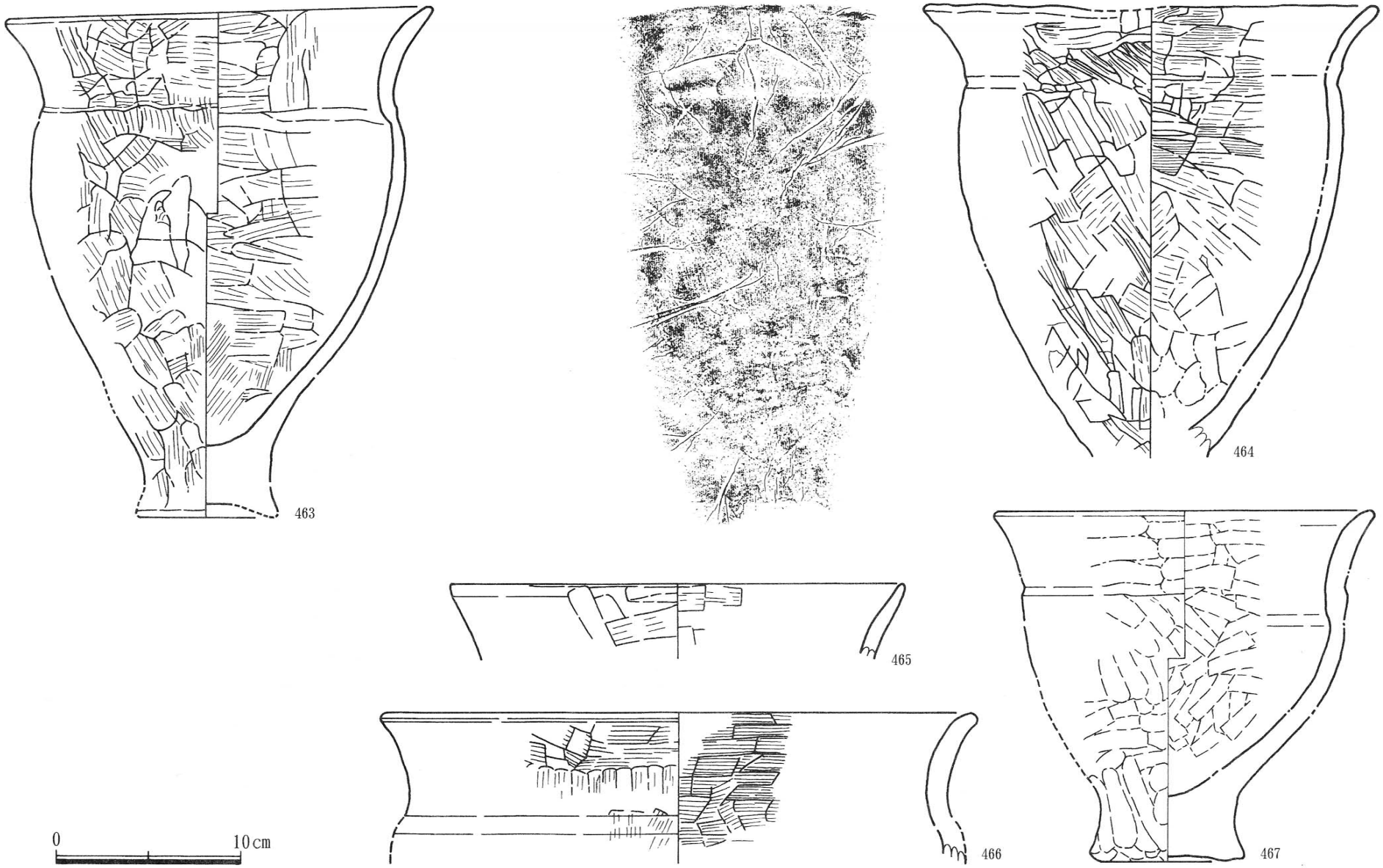
ＳＫ-29（第96図）　調査区の南東縁、10号住居の東４ｍに位置した、長径73㎝・短径66㎝の楕円形を呈する小型土坑である。深さは36㎝を測り、遺物の殆どは上層に集積している。

出土遺物は全て破片で（第97図）、甕が多い。

ＳＫ-39（第98図）　07号住居の東4.5ｍ、06・05・11・13・14・04号住居で囲んだ中央付近に位置した、長径145㎝・短径79㎝の不整楕円形を呈する中型土坑である。深さは、34～40㎝を測る。出土遺物は１・３～４層に集中し（第99～102図）、完形の甕２点（494・495）を含む甕が主体である。



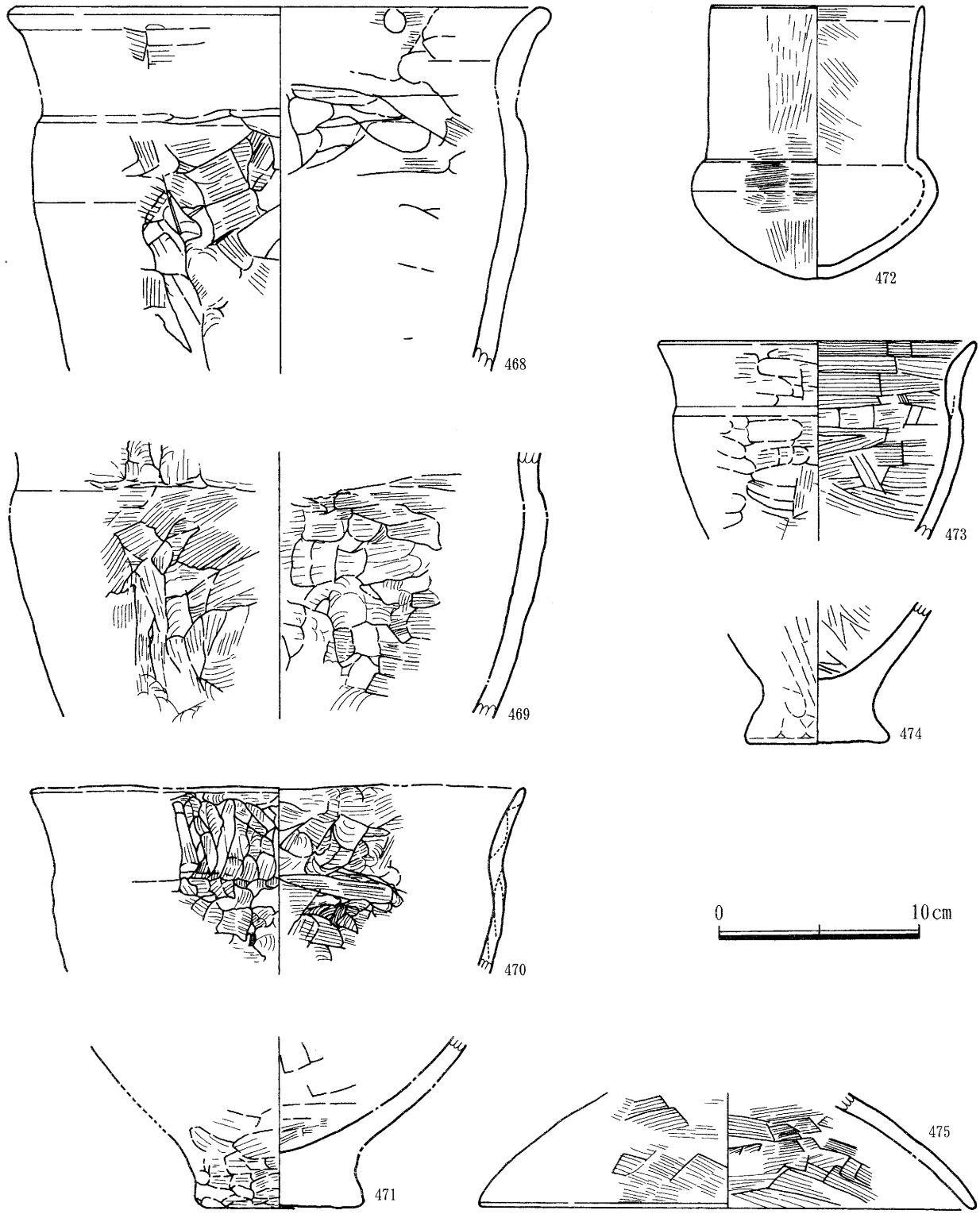
第93図　ＳＫ-28　遺構実測図



第94図　ＳＫ-28　出土遺物実測図（１）

表31　ＳＫ-28出土遺物観察表（１）

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第94図 463	ＳＫ-28 中～下層	甕	228~236	77	274	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂やや多い 粗砂少量	良	淡黄褐～桃褐	黄褐～橙褐	やや変形
464	ＳＫ-28 上～下層	甕	247	—	—	ナデ～粗ハケ～タタキ→工具ナデ	工具ナデ～丁寧工具ナデ・ナデ	粗細砂やや多い	良好	淡橙褐～淡灰黄・黒斑	茶褐～暗茶褐	
465	ＳＫ-28上層	甕	246	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡茶褐～灰褐	褐～暗褐灰	内面：マメツ
466	ＳＫ-28 上～下層	甕	325	—	—	—	ヨコハケ	粗細砂多量	ややあまい	橙～橙黄	淡褐～淡橙褐	
467	ＳＫ-28 上～下層	甕	208	83	189	ナデ～工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡黄褐～淡灰褐・黒斑	淡黄褐～淡黄灰	やや変形



第95図　ＳＫ-28　出土遺物実測図（２）

表32　ＳＫ-28出土遺物観察表（２）

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第~~94~~95図 468	ＳＫ-28 中～下層	甕	273	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂多量	ややあまい	橙褐～淡黄褐	橙褐～淡褐	
第~~95~~96図 469	ＳＫ-28中層	甕	—	—	—	—	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡橙褐～淡黄褐	橙褐～淡黄褐	
470	ＳＫ-28上層	甕	250	—	—	工具ナデ	ハケ	微細砂やや多い	良	淡茶褐～暗灰褐	淡黄褐～淡茶褐	
471	ＳＫ-28下層	甕	—	—	74～78	工具ナデ	工具ナデ～丁寧工具ナデ	細砂やや多い	良	黄褐～淡桃灰	黄褐～灰～淡灰褐	

特徴的なこととして、小型の鉢が７点（505～511）出土している。

ＳＫ-41（第103図）　05号住居から西へ９ｍの位置にある、直径1.44ｍ前後の略円形土坑と長径2.32ｍ・短径1.5ｍ前後の略楕円形土坑が重複した遺構である。出土遺物の殆どは略楕円形土坑の上面～上層に集中しており、甕が主体である（第104図）。

ＳＫ-47（第105図）　調査区の中央北寄り、09号住居の北西６ｍに位置した、長径3.74ｍ・短径2.62ｍの大型楕円形土坑で、最深部は44cmを測る。機能を特徴付ける要素は無く、遺物は北東部に集中するが、中央部中層において脚台部を欠く高坏１点が出土した。

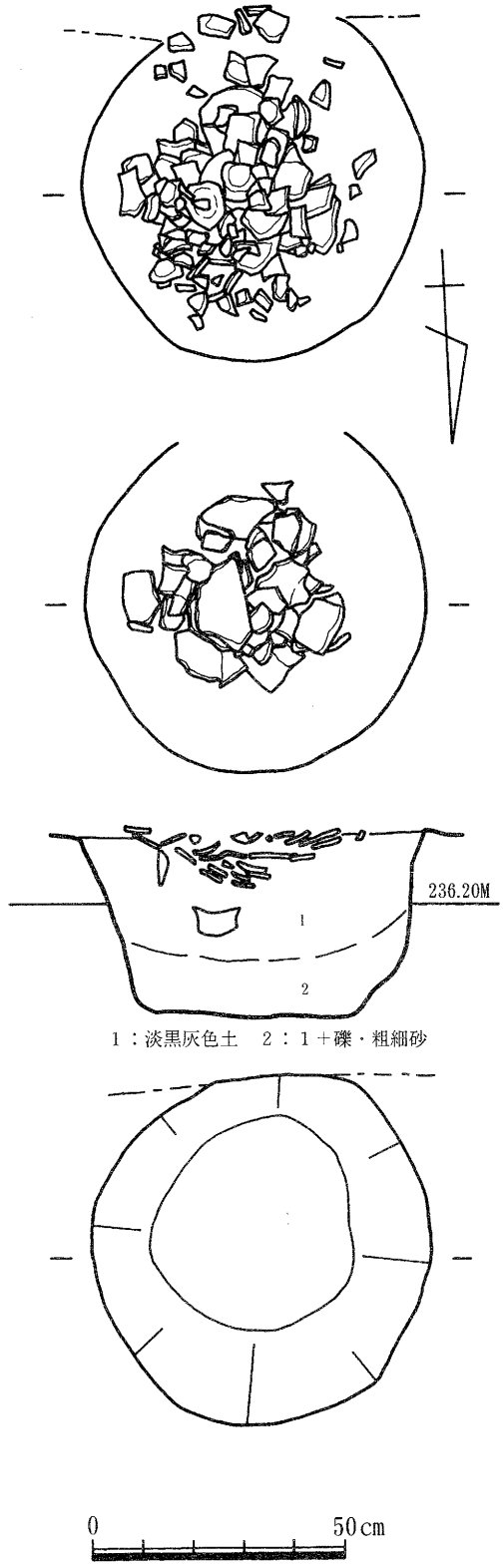
出土遺物は小破片が多く、高坏（574）以外は殆ど図化できない。高坏の器壁は薄く、搬入品と推定される。

ＳＫ-80（第106図）　09号住居の北東6.5ｍに位置した、長径1.88ｍ・短径1.16ｍの楕円形を呈する中型土坑である。最深部は40cmを測り、遺物は中央寄りの中～上位に集積している。

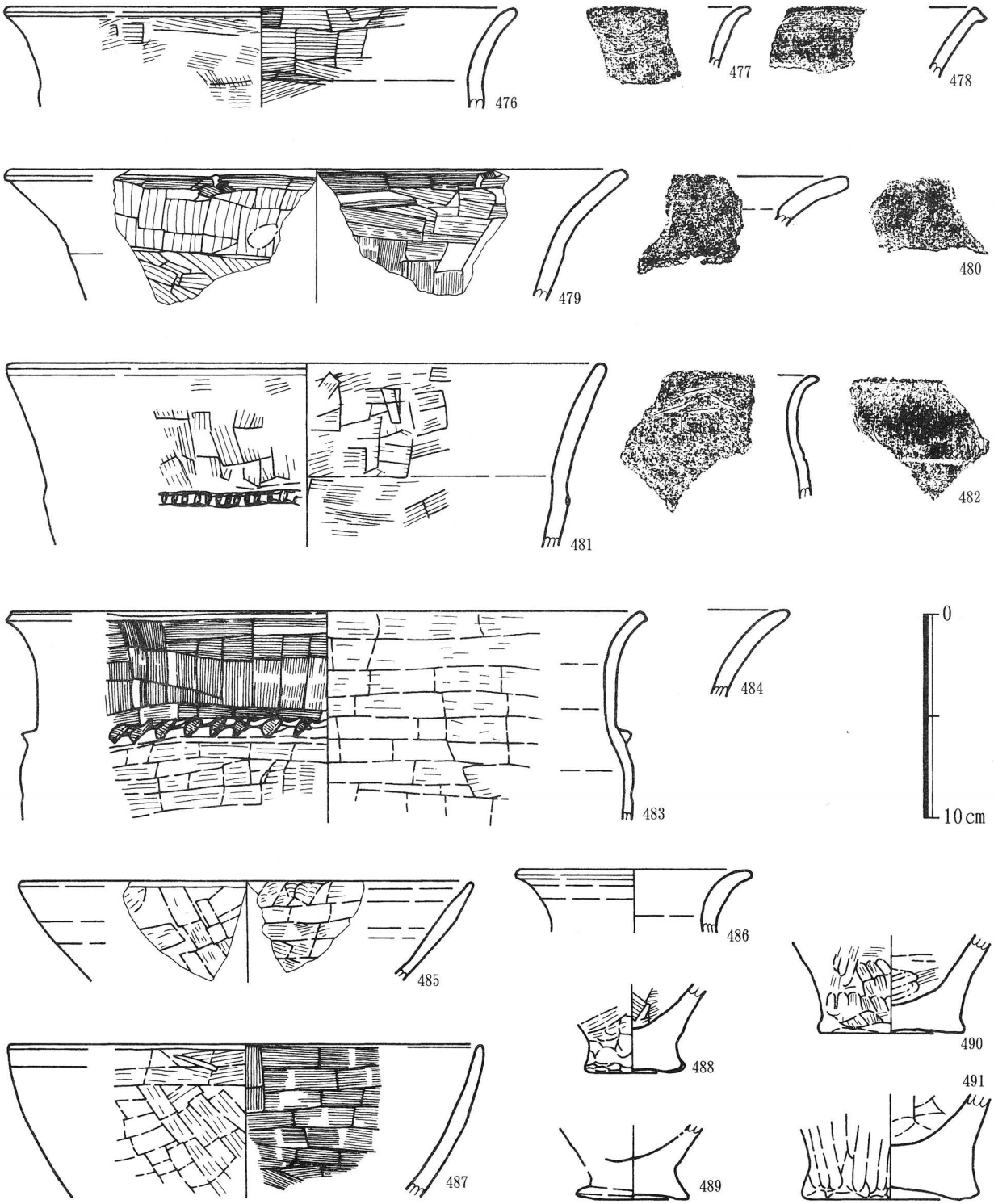
出土遺物は多いが（第107～109図）、完形品は壷２点（543・544）のみである。弥生時代後期の遺物が主体である。

以下、出土遺物が少ない土坑を列記する。

ＳＫ-33（第110図）　02号住居の北西２ｍに位置した、長径1.60ｍ・短径1.10ｍの楕円形を呈した中型土坑である。底面は段掘りで最深部は40cmを測る。上面において甕１点（554）が出土し、Ⅲ～Ⅳａ層から出土した３片と接合した。



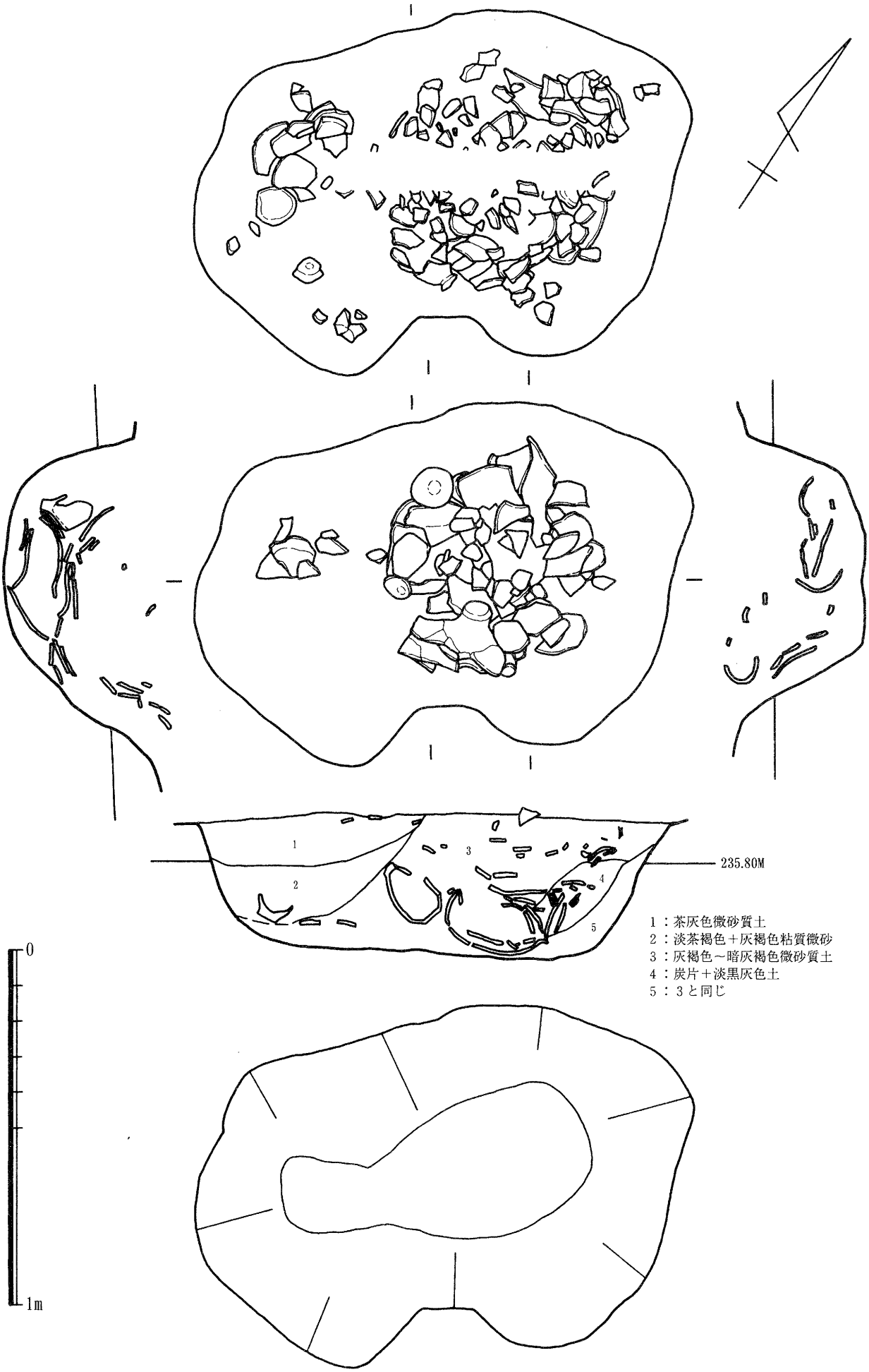
第96図　ＳＫ-29　遺構実測図



第97図　ＳＫ-29　出土遺物実測図

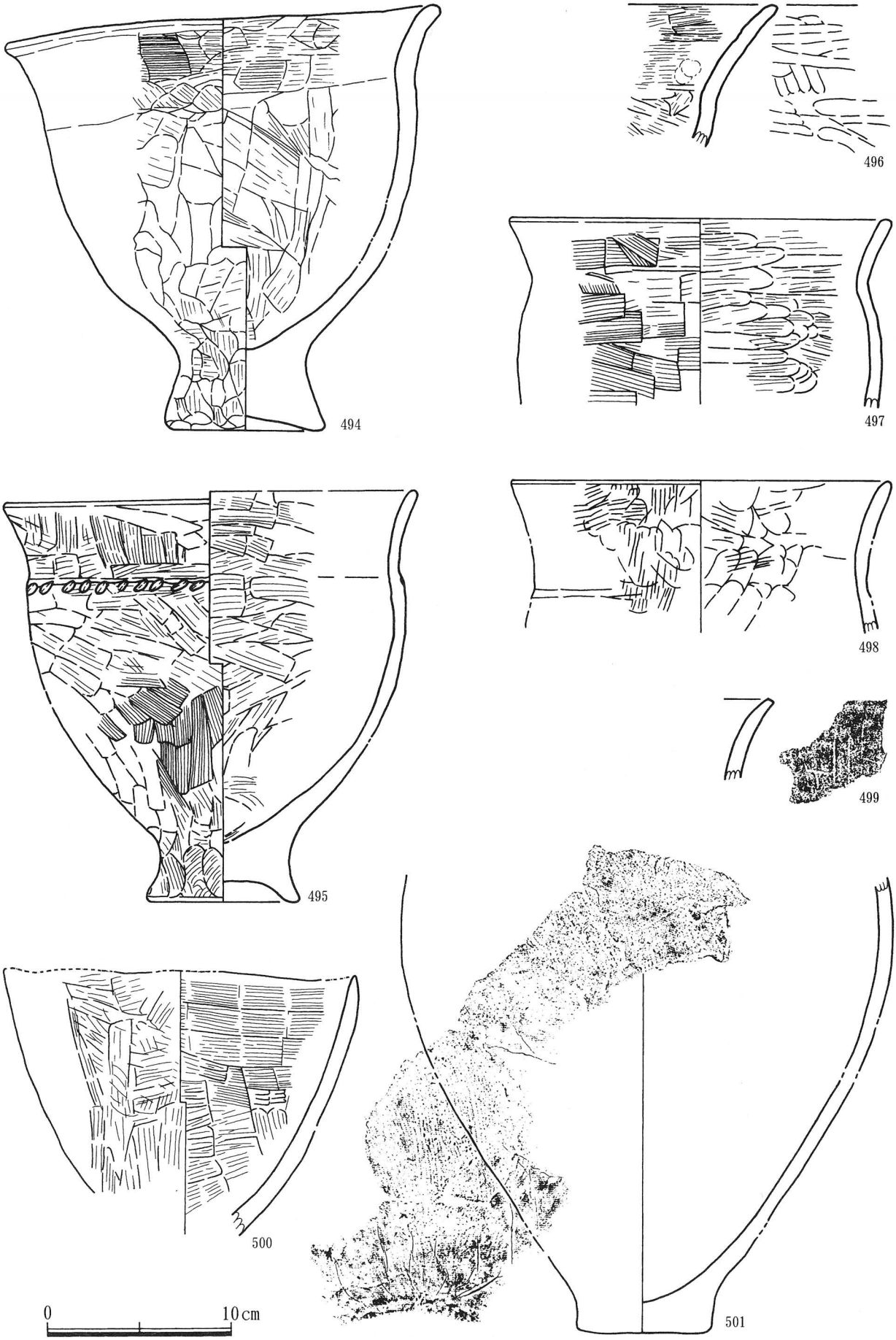
表33　ＳＫ-28出土遺物観察表（３）

No	出土地	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
			口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第95図 472	ＳＫ-28上層	坩	108	—	137	ヨコハケ～タテハケ	ナナメハケ	微細砂・茶褐色粒やや多い 白色粘土粒少量	ややあまい	淡黄褐～橙褐・黒斑	淡橙褐～暗灰褐	
473	ＳＫ-28中～下層	甕	157	—	—	粗工具ナデ	ハケ	細砂やや多い	ややあまい	黄褐～橙桃	淡黄褐～褐	外面：ややマメツ
474	ＳＫ-28上層	甕	—	73	—	工具ナデ	ハケ	細砂多量	良	橙黄～淡黄～灰	淡橙黄～淡灰褐	外面：マメツ
475	ＳＫ-28下層	蓋	249	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	ややあまい	橙褐～淡黄褐	淡黄褐～淡黄灰	外面：マメツ

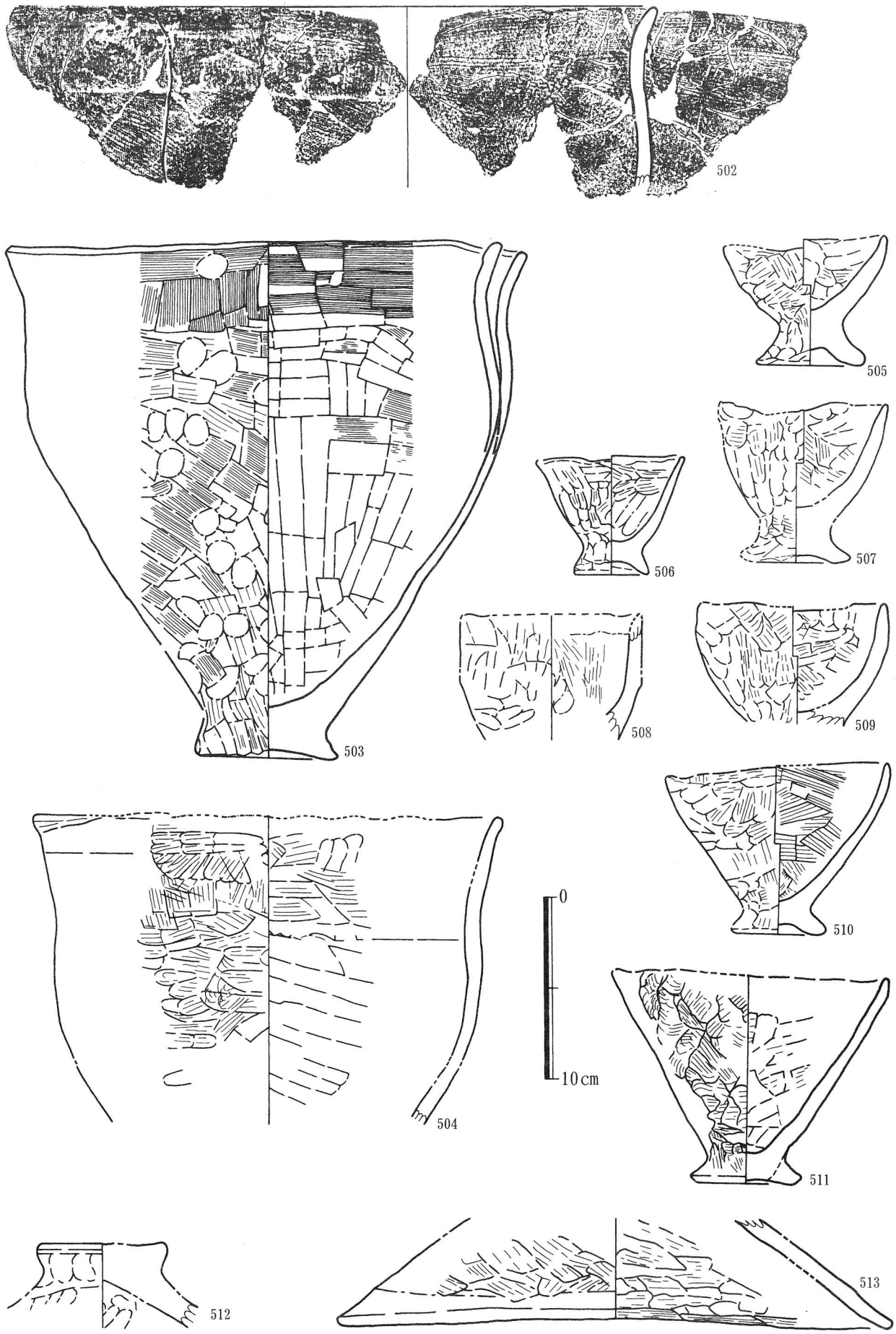


第98図　ＳＫ-39　遺構実測図

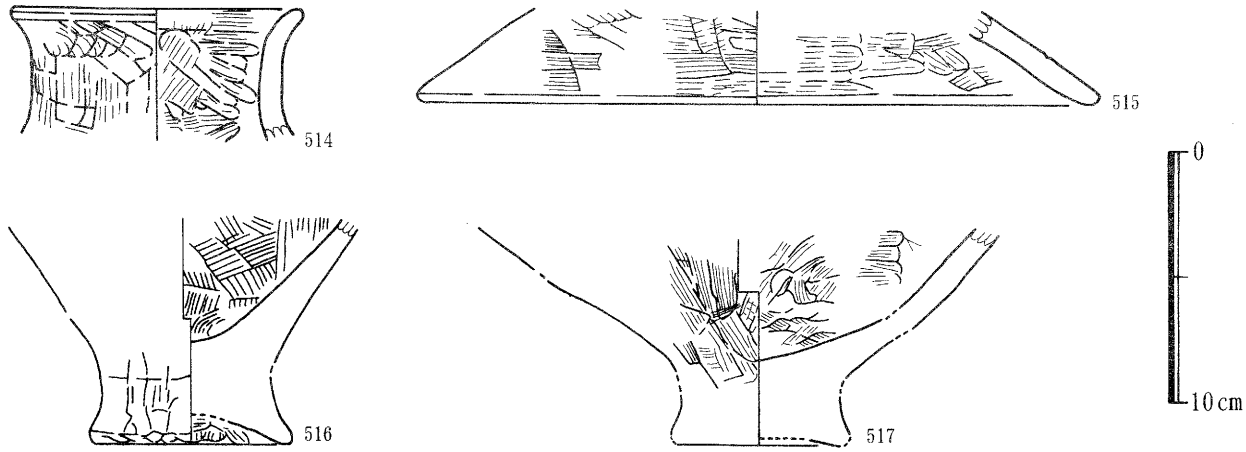
第99図　ＳＫ-39　出土遺物実測図（１）



第100図　ＳＫ-39　出土遺物実測図（２）



第101図　ＳＫ-39　出土遺物実測図（３）



第102図　ＳＫ-39　出土遺物実測図（４）

表34　ＳＫ-29出土遺物観察表

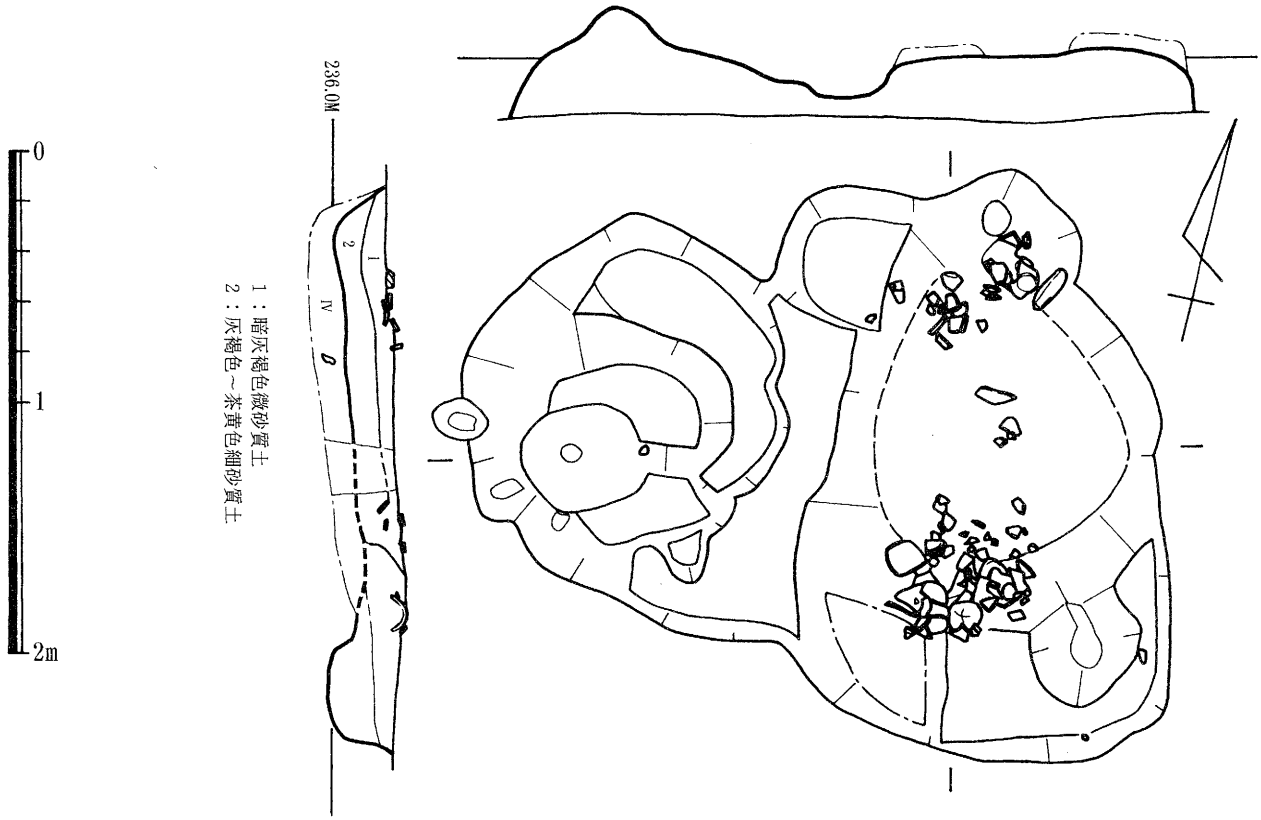
No	出土地	器種	法量(mm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	備考
第97図 476	ＳＫ-29上層	甕	249	—	—	—	ヨコハケ	粗細砂少量	あまい	茶灰～淡橙褐	黄褐～淡褐	外面：マメツ
477	ＳＫ-29上層	甕	—	—	—	ヨコハケ	ヨコハケ	微細砂少量 粗砂微量	良	淡茶褐～褐灰	淡茶褐～灰褐	606と同型
478	ＳＫ-29上層	甕	—	—	—	ナデ	ヨコハケ	微細砂少量	ややあまい	茶褐～褐	茶褐～暗褐	
479	ＳＫ-29上層	甕	300	—	—	ヨコハケ～タテハケ	ヨコハケ	微細砂少量	良	黒斑・淡褐～淡橙褐	黒斑・淡褐～淡橙褐	
480	ＳＫ-29上層	甕	—	—	—	ナデ	ヨコハケ	微細砂少量	良	淡橙黄～茶灰	淡茶黄～淡褐	
481	ＳＫ-29中層	甕	290	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂多量	ややあまい	淡褐～茶褐	淡褐～淡黒灰	両面：マメツ
482	ＳＫ-29中層	甕	—	—	—	ヨコハケ	ハケ	微細砂少量	良	淡灰褐～淡橙褐	茶灰～暗茶褐	606と同一か 内面：オコゲ少量
483	ＳＫ-29中層	甕	309	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	良	淡黄褐～淡灰褐・黒斑	褐灰～淡褐	
484	ＳＫ-29上層	甕	—	—	—	ヨコハケ～タテ工具ナデ	ヨコ工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	茶褐	暗茶褐～灰褐	
485	ＳＫ-29上層	粗製浅鉢	220	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡灰褐～灰	淡灰褐～暗灰	
486	ＳＫ-29中層	壷	114	—	—	ヨコハケ	粗工具ナデ	細砂少量	良	淡褐～淡灰褐	淡褐～淡灰	
487	ＳＫ-29中層	鉢	232	—	—	工具ナデ	ヨコハケ・工具ナデ	粗細砂微量	良	淡褐～淡橙黄	淡灰褐～淡黄	
488	ＳＫ-29上層	甕	—	47～50	—	工具ナデ	ハケ	粗細石英多量	ややあまい	橙黄～淡黄	淡褐～淡灰	外面：マメツ
489	ＳＫ-29上層	甕	—	50×56	—	工具ナデ	—	粗細砂多量	ややあまい	黄褐～淡褐	茶橙～淡黄褐	両面：マメツ
490	ＳＫ-29上層	甕	—	72	—	粗工具ナデ	工具ナデ	細砂多量	ややあまい	茶灰～暗茶褐	暗灰～灰褐	外底：淡黄白～白色付着物
491	ＳＫ-29下層	甕	—	89	—	工具ナデ	工具ナデ	細砂少量	良	暗桃褐～茶灰	淡灰褐～褐灰	

表35　ＳＫ-39出土遺物観察表（１）

No	出土地	器種	法量(mm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	備考
第99図 492	ＳＫ-39	甕	320×352	88	369	ハケ～工具ナデ～粗ハケ	工具ナデ	微細砂やや多い 粗砂少量	良好	淡茶褐～茶橙～暗褐～暗褐灰	淡黄～暗茶褐～淡橙褐	
493	ＳＫ-39	甕	405	—	—	ナデ～ハケ～粗ハケ	工具ナデ～ナデ	微砂やや多い 粗細砂・小礫少量	良	淡灰黄～暗茶灰～橙褐	淡黄灰～暗茶褐～桃褐・黒斑	
第100図 494	ＳＫ-39	甕	234～240	86	234	工具ナデ	ハケ～強い工具ナデ	粗細砂やや多い	良	黄褐～淡灰黄	黄褐～淡黄	外面：ややマメツ
495	ＳＫ-39	甕	220×222	84	225	工具ナデ～ハケ	工具ナデ	微砂やや多い 粗細砂少量	ややあまい	淡橙～淡黄	淡橙～淡黄	一部破損後に被熱 両面：ややマメツ
496	ＳＫ-39	甕	—	—	—	工具ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良	淡黄～淡黄灰	淡黄灰・黒斑	
497	ＳＫ-39	甕	203	—	—	ハケ	丁寧工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡茶褐～橙褐	橙黄～淡灰褐	
498	ＳＫ-39	甕	204	—	—	ハケ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	黄褐・灰	橙～淡黄	両面：マメツ
499	ＳＫ-39	甕	—	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微砂少量	良	淡茶褐	淡褐～淡灰褐	
500	ＳＫ-39	甕	181×193	—	—	工具ナデ	ハケ・工具ナデ	粗細砂やや多い 小礫少量	ややあまい	淡黄褐～淡橙褐	淡黄～淡褐	外面：ややマメツ
501	ＳＫ-39	甕	—	74	—	工具ナデ～粗ハケ	工具ナデ～粗工具ナデ	粗細砂やや多い 小礫少量	良	茶橙～暗茶褐	暗茶灰・橙褐	
第101図 502	ＳＫ-39	甕	273	—	—	ハケ	ハケ	微細砂少量、小礫・赤褐色粒少量	良好	暗茶褐～茶褐	暗茶褐～褐	
503	ＳＫ-39	甕	254×283	75×79	286	ナデ～タテハケ～工具ナデ	ハケ～工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐～暗茶褐・桃橙・黒斑	淡橙茶～淡黄褐	
504	ＳＫ-39	甕	255	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・小礫やや多い	ややあまい	淡灰褐～橙褐	黄褐～淡橙褐	内面：ややマメツ
505	ＳＫ-39	小型台付鉢	88	59	73	粗工具ナデ	粗工具ナデ～ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡橙白・黒斑	淡橙白・黒斑	
506	ＳＫ-39	小型台付鉢	80	41	66	工具ナデ	工具ナデ～ナデ	微細砂(中位)	良	淡橙褐～淡黄灰	淡橙褐～淡黄白・黒斑	
507	ＳＫ-39	小型台付鉢	92	61	89	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡灰黄～暗灰	淡褐～灰褐	

表36　ＳＫ-39出土遺物観察表（２）

No	出土地	器種	法量(mm) 口径	法量(mm) 底径	法量(mm) 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第101図 508	ＳＫ-39	小型台付鉢	—	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄灰～淡黒灰	淡黄灰～暗灰	509と同型
509	ＳＫ-39	小型台付鉢	101	—	—	粗工具ナデ	粗工具ナデ～工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡黄褐・灰～暗灰	淡灰褐～暗灰	
510	ＳＫ-39	小型台付鉢	122	52	96	粗工具ナデ	ハケ	微細砂やや多い 粗砂少量	ややあまい	淡褐～橙黄	淡黄褐～淡桃橙	外面：マメツ
511	ＳＫ-39	小型鉢	145×156	62	117	ナデ～粗工具ナデ	粗工具ナデ	細砂やや多い 粗砂微量	良	淡黄灰～淡黄褐	淡黄～灰褐	
512	ＳＫ-39	蓋	—	72	—	工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い 粗砂少量	ややあまい	暗桃～橙～淡黄	淡桃灰～淡黄褐	外面：マメツ
513	ＳＫ-39	蓋	300	—	—	工具ナデ～ナデ	工具ナデ～ハケ	微砂やや多い 粗細砂少量	ややあまい	淡黄褐～淡褐	淡灰褐～暗茶褐・淡黄～橙桃	内面：オコゲ 両面：マメツ
第102図 514	ＳＫ-39	壷	111	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡褐	黄褐～淡褐・黒斑	
515	ＳＫ-39	蓋	261	—	—	工具ナデ～ハケ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	淡橙黄～淡黄灰・黒斑	橙褐～淡灰褐・黒斑	
516	ＳＫ-39	甕	—	80	—	工具ナデ	粗ハケ	微細砂やや多い	良	淡灰褐	暗灰～淡黄褐	外面：マメツ
517	ＳＫ-39	甕	—	70	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂・小礫少量	良	淡黄褐～灰褐	淡橙褐～淡灰褐・黒斑	



第103図　ＳＫ-41　遺構実測図

ＳＫ-40（第110図）　04号住居から南西に３ｍ・07号住居から東へ３ｍに位置した、２～３基の土坑が重複したようなプランである。長軸2.27ｍ・短軸１～1.18ｍ・深さ５㎝前後の１段目掘削の後、長径102㎝・短径92㎝・深さ40㎝の楕円形の穴と、直径83㎝・深さ40㎝の不整円形の穴が６㎝離れて掘り込まれている。出土遺物は少量で（第112図）、甕のほか、台付鉢が１点出土している。

ＳＫ-42（第110図）　05号住居の南西９ｍに位置した、長径1.25ｍ・短径0.95ｍの楕円形を呈する土坑で、北寄りに直径93㎝の不整円形土坑が２段目に掘り込まれ、深さは42㎝を測る。出土遺物は少量で（第113図-562～564）、南端には、直径55㎝前後・深さ20㎝の別の土坑がある。